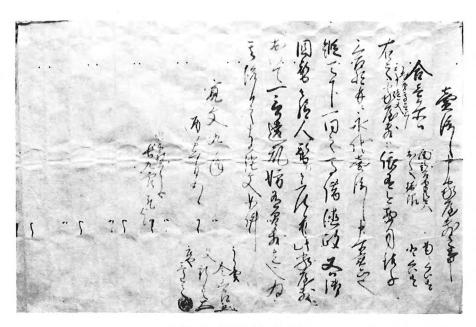




上品寺村検地帳

文禄4年(上品寺)



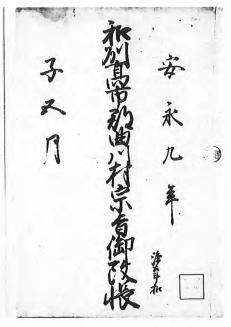
売渡申家屋敷之事

寛文9年(葛本)



申年御成箇勘定目録

宝永2年(醍醐)



曲川村宗旨御改帳

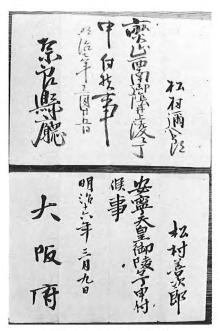
安永9年(曲川)



長寿人へ御下賜金請印帳 明治2年(常門)



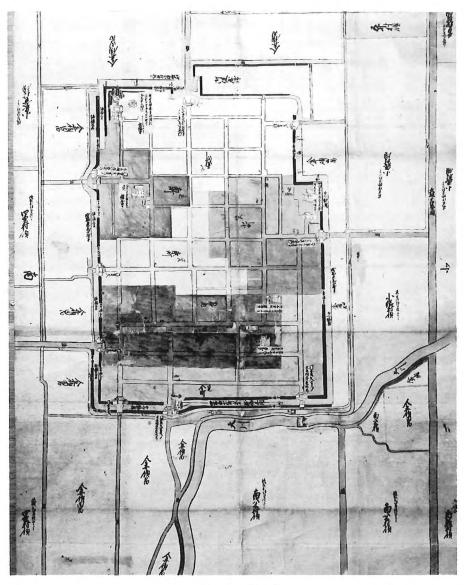
御 仕 置 五 人 組 帳 弘化4年(萩本)



御 陵 々 丁 申 付 状 明治 7·16年 (吉田)



土山宿へ助郷一件入用帳 慶応元年(醍醐)



今 井 町 古 図

江戸前期(今井)

宝曆三年一二月宝曆三年一一月	貞享四年一一月	九五年	天文五年一二月	(天正年間)	寛正六年	総 地 区		目
宝曆箱訴一件御吟味次第書豎十市郡村々御箱訴訟控豎十市郡村々御箱訴訟控	入用賃銀割付書	祭礼幷十二大会料所三十市郷内若宮	十市郎者主 十市庄内若宮祭礼等会料覚==0	春日若宮祭礼料所庄々之事三0	语 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			次
(江戸初期写) 文明四年五月 長禄四年一二月	八木 地区	明治一三年八月	明治四年八月	慶応元年閏五月	天保一四年八月	天保八年八月	明和三年四月	宝曆一三年六月~一
寺田氏血脈続誌公阿茶五郎屋敷寄進状公大捉三郎畠地売券公		深田溜池八ケ村規定書二 決算並人員集金賞八 醍醐組村々	区分並戸長副控帳只御管内村々	納御用金取調帳組合村ョリ	雑木立林仕訳書	六ケ年取米高書付六神保氏知行所	飛鳥川筋水論済証文空高殿村と下郷九ケ村	九ケ村水論一件書壹高殿村と下郷一四年五月

総

天明三年三月	天明二年三月	天明元年一一月宝厝ナ年一〇月		宝曆九年六月	寛延二年三月	延享年間	(欠年) 五月	寬保二年六月	元文五年三月	(正徳・享保頃)	貞享四年八月	(江戸初期)四月	寬文九年一二月	(正徳頃)
変事対処方取替一札一八木村	北八木村年貢皆済状	北八木村免札之事六	500字背川代長を又立炮合薬賦銀請取覚		北八木村年貢皆済目録	寺尾勤録、南八木村明細卆	金台寺伯順他行延期願杂 真异二迈异一本如		四一二人基系,女系真	北八木村明細書写	通行被露回状覚	起返銀寄托褒美通達書	金三郎家屋敷売渡状	寺田氏大系図
安政三年三月	安政二年九月	安政二年四月	(天保頃)	天保一四年九月	天保一三年八月	天保一三年六月	文政二年一〇月	文化元年七月	第四四年 閏三月	置女四年司三月	寛政三年一一月	寛政二年一二月	寛政二年一二月	天明七年三月
北八木村八十歳御改帳 三三入縺ニ付規正一札 三三	人取置方	高反別書上ゲ写 三安政二年田畑	芝村藩札基銀借用覚 三	芝村藩借用銀返済請合一札… 三0	年貢不納人召出願状 二九	諸色値下ゲ御請書 ヨ	引下ケ取締方書上帳写 10米穀下直ニ付諸色直段	御入峯行程覚··············· [0元 醍醐寺三宝院様	御定免願書上ケ帳 10穴	· 一方。	早員昜卸定免卸私頭········ 10k 北八木村御成箇割附······· 10k	下郷差支之儀引請一札 10%南八木村溜池	三郷立合墓所ニ付取替証文… 10至	北八木村五人組帳 10三

二年二二二年二月	慶応元年一二月	文久二年一一月	万延二年二月	万延元年一一月	万延元年一〇月	安政六年一一月	安政六年一〇月	安政六年八月	安政六年七月	安政五年六月	安政四年三月	安政四年三月安政三年一一月
武陵守戸役申付状一堀添普請御請書一	神武竣仮守戸申付状 [5]蝦夷地産物仕入金備用書 [元	の対験	通月見戸一礼	植村侯御中飯諸入用願帳 一壹	種痘相済証券一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	頼入候ニ付村方一統請書… 三兼帯庄屋	長沢国産会所取扱願状 三	水難ニ綿作柄傷ミ御見分願… 三	通井掘堀取替一札] 三0内膳村、北八木村	道中中飯諸入用書上一完植村侯参府	八木村宗門寄	北八木村五人組帳 一芸庄太郎へ苗字扶持差免状 一芸
明治六年三月	\mp i	明治五年三月明治六年二月	明治五年五月	明治五年三月	明治五年一二月	明治四年一〇月	明治四年一〇月	明治四年九月	明治四年三月	明治三年一〇月	明治二年一一月	慶応四年五月
陵 一 区 廃 村 限 限	帳	・第十一甲年小入	十ケ年間貢米書上帳 一忢明治四年以前	世人身分引請証文一	総計書上帳一語第十区・第十一区	両八木村牛馬取調帳 一乭	戸数口数書上帳一三第十区・第十一区	北八木村竈数書上ケ帳一只	木	御月賄出金請高名前帳 一器両八木村	御助成米頂戴書上帳一旦凶作二付	不融通ニ付御願書 四

一 — 月 月
寛永六年一一5天正一一年四1
(今井)
井 地 区
明治一五年四月
明治四年七月
(欠年)
享保九年~慶応:
安政五年正月
(小房)
安政六年七月
嘉永七年正月
天明七年三月
明和七年一〇月

出水ほりニ付相定申一札写組手領つくだ井手へ	度	本 ラ	(江戸中期) (江戸中期カ) (江戸中期カ) 天明八年六月 享和元年五月 天保七年一二月 (江戸後期) 天保一〇年一二月
負 録 日	夏 (配) () () () () () () () () (今井町中定書寺家昔臺印形展 1115 今井六町内家数人数覚 三六 外共六町内家数人数党 三六 会并六町内家数人数党 三六	明和元平六月 寛延二年六月 宝暦一三年 宝暦一三年
月 小綱村五人組 御殿様御賄金	鴨 公 地 区 … 京和三年 文政八年 大保一四年九月	今井栒役所御定法書写 110.7 一个井村高辻 110.7 一个井町未年御年買可納割付… 110.7 一校井代官様宛今井町窺書 110.7 一校井代官様宛今井町窺書 110.7 一村御役所御定法書写 110.7	寬永一八年二月 寬文五年七月 延宝七年一一月 元禄一六年三月

一	変更無之請合書	5 1 1	云	寺尾勤録、高殿村明細	延享年間
一	大和国大会図 銀子本信心循原	天呆气丰	증	殿庄雑掌愁状	暦応三年七月
一	-1]	文政三年二月		学 寺)	法
一	合村百姓余業品書	四年	芸	翻村小入用	文久元年一二月
一	古金銀取調覚書	一三年	三岩	庄屋へ村証文引継目	元治元年八月
一	合村卯歳諸入用	天保三年三月	1141	作柄御嘆願	安政五年九月
一型	合村高寿帳	意果三年八月	- -	重皮手に二十	
一	合村御成簡	享保五年一一月		期寸乀川印文	ī. E
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一		(出合)	圭	秤御改員数	嘉永五年四月
一		久山地	04II	御年貢銀請取翻村愛宕講	天保八年九月
月 対方倹約申定帳 三元 明治四年九月 別所村竈数覚 月 愛宕講中へ田地売却状 三元 明治四年九月 別所村竈数覚 御仕置五人組帳 三元 〔飛驒〕 比太庄検田帳 縄手両村水論済証文 三元 〔飛驒〕 財治四年九月 比太庄検田帳 本売元年一〇月 比太庄検田帳 上飛驒〕 上飛躍」	开壓卡箱	年	兲	田中、木殿両村へ由殿、醍醐両村ヨリ	天保四年九月
一	i i i	1. 飛騨 1	芸	約申定	文政一○年一一月
月 御仕置五人組帳 云月 受宕講中へ田地売却状 云〇 明治四年九月 別所村竈数覚 月 御仕置五人組帳 云〇 明治四年九月 別所村竈数覚	太庄検田		芸	縄手両村水論済証醐村と南八木・	文政八年一〇月
二月 愛宕講中へ田地売却状 1六0 明治四年九月 法華寺村竈数月 村番夜警務め規定一札 1克 明治四年九月 別所村竈数覚 観謝村年貢皆済目録 1克 明治四年九月 高殿村竈数覚		〔飛驒〕	丟	仕置五人組帳	文化一〇年二月
月 村番夜警務め規定一札 1弄 明治四年九月 別所村竈数覚醍醐村年貢皆済目録 1弄 明治四年九月 高殿村竈数覚	華	九	둜	中へ田地売却	寛政一〇年一二月
醍醐村年貢皆済目録 二弄 明治四年九月 高殿村竈数覚	所村竈	治四年九	ڃ	番夜警務め規定一	明和八年一一月
	殿村竈数覚	四年九	ڃ	醐村年貢皆済目	明和八年三月

七			
下八釣村年貢銀皆済目録	文政三年四月	出垣内村御取箇掛札 三〇卆	(欠年) 戌
下八釣村寅年免定之事	文政元年一一月	出垣内村小前高反別名寄帳… 三0%	安政五年正月
下八釣村村明細帳	文化一〇年六月	春日社造営料受取覚 IO至	天保一五年二月
村方風儀取締請合一札	天明七年五月	春日社造営料受取覚 三〇五	天保一匹年一一月
弥八郎不埓詫入一札長兵衛、	天明七年三月	垣内村御年貢皆済目録	天保六年三月
下八釣村村明細帳	延享元年四月	溜池懸水ニ付取替一札 三〇三 出垣 戸木 - 膽夫朴	文政产年七月
百貫川水送り約定の事写	元禄一五年八月	おうりません	こ女でミラ
	(下八釣)	季一	文化四年七月
御厨子山妙法寺記	(欠年)	出垣内村免定事 =100	寛政一一年一一月
池尻村田畑名寄帳和州十市郡	安政三年正月		〔出垣内〕
池尻村勘定帳	嘉永四年	稽古相撲ニ付願奉申上状 三00	元治元年八月
修覆銀二付取替一札	- - - - - - - - - - - - - - /	早損ニ付御上納延期願 二六	文久二年一二月
也 計裁計	文致一二丰六月	申年木綿作反別幷位付覚 三艺	万延元年八月
喜い村 ない おいま 南山村 枝郷と 吉備村、	享保九年七月	出合村余業取調書上帳 三元	安政四年一月
	〔池尻〕	巳年木綿反別及位付覚 三共	弘化二年九月
膳夫村百姓作間稼商內者覚…	慶応三年九月	諸勧人取締定書達 元六	嘉永四年
西山草山取戻一件申渡	安永九年九月	諸秤改員数帳 二垚	嘉永元年四月
	(膳夫)	御糺二付書上帳 三 三 三 三 二 三 三 三 二 三 三 三 三 三 三 三 三	天保一四年正月

明治四年一一月明治三年一〇月明治三年一〇月	明治二年一二月	慶長七年八月 寛永九年二月 文改二年正月 文政二年正月 文政五年一一月	(木之本) 東海二年 東海二年 東海二年
戒外村拾箇年平均取調帳 三空元地頭支配不帰依願上書 三空戒外村年貢仮免定 三三村方古様御尋ニ付返答書上… 三元	南浦村可納租税之事 三汽道造二付取替一札 三宅南浦村、膳夫村	南浦池水 南浦池拡張同心ニ付覚書 三元 南浦村小物成割付覚 三元 南浦村控帳 三元 南浦村控帳 三元 大庄屋出府費支出方定 三元	木之本村段取帳 三云木之本村文禄御檢地帳 三云
昭和一五年以降 (欠年) (江戸後期) 延享年間	畝傍地区	明治一二年三月明治一二年三月京永一三年八月文化七年一二月	明治五年八月明治五年八月
宮講中雑費日記 三代伏見家家来通行手形覚 三六小泉堂春日社取調書上帳 三六小泉堂春日社取調書上帳 三六十泉堂春日社取調書上帳。… 三六十泉堂春日社取調書上帳。	型 拼 田	博奕禁止規定書 壹二 村名香久山村復旧御願 壹二 興善寺跡復旧御願 壹二 井手水出入済状之事 壹三 南山村年貢納銀之事 壹三	戒外村年貢皆済状

慶応二年一一月	慶応三年正月	文化三年一〇月	享和三年七月	· 延享 g / 才 <u> </u>	延享頃	(四分)	文政元年七月	(江戸後期カ)	文化九年一二月	延宝七年八月	(山本)
田中村和田郷分地方免定 亳室	太鼓楼等仕法帳 三四畝火御坊信光寺	並春日仮殿木掛銀坊村大川掛り	御坊村国役大川掛帳請取帳… 丟室	寺尾勤録、木殿村明細 烹留	寺尾勤録、四分村明細 吴三		溜池水出し御届状	山本村御引物覚 吴二	山本村申年御物成目録 吴一	山本村小物成場検地帳 烹()	
明治八年一〇月	年 年	- 年 年		弘化四年三月	天保五年六月	延享年間	(田中)	明治元年一一月	延享年間	元禄六年六月	(和田)
条件二付取替証 三空和田郷耕地合併田中村御免御用捨米認帳 三二	事	中烟烟	ノ事	田中村宗門改帳	村殿驒	尾勤録		田中村和田郷免定	寺尾勤録、和田村明細 三〇	領內一円可相守条々書上 岩岩	

(欠年)	明治六年一二月	明治五年四月	明治二年一一月	安政五年四月	嘉永七年六月	嘉永三年四月	天保一三年三月	天保一〇年一二月	罗假二年七月	寛政二年一一月	宝暦一一年一一月	延享年間	寛永一九年三月	文禄四年八月	石川		明治九年八月	
石川村本明寺由来記	石川村租税上納割賦帳 罕三	石川村高反別仕訳帳 510	石川村可納租税之事 閏10	蚁帳借用証文	石川溜池ニ付十ケ村規定書… 四日	潤徳家財附立帳 閂三御年貢不納ニ付	彦治郎往来手形 四三	石川村亥小入用帳 四次	石川久米両村取替証文 2000 メブルニャ	石川村免定之事 808	村免定之事	村明細	石川池床高並露高覚之帳 芫	:			出入斉コ取替証券 元記用水冷水交合ニ付	
(南妙法寺)	弘化三年一一月	弘化三年三月	弘化三年三月	弘化三年三月	天保一四年九月	寛政六年閏一一月	宝曆五年八月	正徳三年一一月	文禄四年九月	〔見瀬〕	明治三年一一月	明治二年一一月	明治元年一一月	元治元年八月	文久二年一一月	延享頃	〔大軽〕	
	村方難渋者御容赦米覚 呂	見瀬村長寿人改帳	見瀬村宗門改人数寄帳 閏0	見瀬村五人組帳	見瀬村土砂留証文 買	見瀬村寅年免定	奉公人他領ョリ引戻調一札… 呂語	見瀬村免定之事	見瀬村文禄検地帳 罕言		大軽村租税賦役之事 豎三	大軽村可納租税之事 豎	質素倹約風儀取締御請書 閏0	難渋人へ御救い御願書 空云	大軽村免状之事	寺尾勤録、大軽村明細 空富		10

寛文一三年六月 - 高取川筋	文禄四年八月 鳥屋村檢地帳	〔鳥屋〕 第田溜池裁员書	七年八月 畝火村小物成	〔畝傍〕 (天保)弘化庠) 人米本事状書上賞	〇年六月 久米寺秘宝天満へ出開	元年三月 久米寺由来写	享保六年五月 久米寺式法条目写	本 : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	明治一三年一一月 村名まぎれ易く改称御	進歩へ記事目舎や青後役兼帯庄屋へ諸帳	天保一五年一一月 妙法寺村免定之事	明和九年一〇月 旧新講中悶着下済証文	明和八年九月 宮講座所決メニ付一札	延享年間 寺尾動録、妙法寺村明細
札写… 哭笑 天保七年二月		文化七年八月		明和七年九月	帳覚::		豎三 宝曆九年七月]	願 豎一 宝曆八年三	党 四九		- 三年八	西四中	細
迷惑ニ付歎キ御願書 宍二見瀬村野井戸掘	上納金先納一札之事 咒!	新墓所ニ付争論一札 呂兄善導寺と	一同詫差入一札 罕名溜池ニ不法仕	腐朽ニ付、立会一札之事… 罕や池尻村用水はり留杭	鳥屋村上納覚控 罕記	申説御下知書之写 罕三御救米ニ付	砂井手ニ付一札之事 罕言	見瀬村庄屋宛一札控 智二を男手に作	シキミニナ 支配村々組替仰付控 智]	物成地面変更口上書 四部二計	即度女子前皇陵二付御達状	帝陵小牧成上糾賞	异克尔邓克 二羽尾 屋村小物成場検地 帳	ŧ

(江戸後期)七月	嘉永五年二月 天保一五年五月	文化九年四月(西池尻)	明治三〇年二月明治三年八月	慶応三年 (江戸後期)	安政四年五月	嘉永三年二月
屋根替割付廻章	営ミ新規定取替書······ 翌01池尻村八幡宮 村々産業風俗相改書····· 翌7	旗本神保氏銀子預り状 咒!	村方諸帳簿及諸道具目録帳… 咒骂出稼之間田畑処置方一札 咒	渡世妨の修行者取締覚書 咒!鳥屋村小物成銀上納受取覚… 咒!鳥屋村小物成銀上納受取覚… 咒!	差上申別紙規定証文之事… 咒? 鳥屋池ニ付 差上申規定証文之事 哭!	為取替規定書之事
新沢地区	慶応三年三月慶応三年三月	文久元年 万延元年一二月	延宝七年八月 〔吉田〕	明治一〇年一〇月	明治二年一二月明治二年一二月	
	吉田村宗旨人別御改帳 三六吉田村名寄帳 三三吉田村名寄帳 三三二個隊修理二付	村小物成上納請取書村御物成御目録	吉田村小物成場検地帳 至0吉田村山役覚 三0	花園山売渡証文写 50元旗本神保氏 5九旗本神保氏 5九旗本神保氏	明治六年租税免定之事 吾只明治二年可納租税之事 吾中中西氏へ山陵守戸申付状 吾只	. 中月 戸一

延享年間 元文五年一二月	宝永七年八月	(観音寺)	明治二年七月慶応四年三月	嘉永六年一二月	(江戸後期)	尹假一三年二月	天保九年七月	天保八年正月	天保七年一二月	天保五年一二月	(延享年間)	(北越智)
寺尾勤録、観音寺村明細 壹三観音寺村御免定写 壹三	相定申一札之事控 至! 柱屋御本ニ 村中相究申一札之宴控 至()		越村同様の御引方御歎願書… 三元北越知村割附目録 至七	北越知村御成箇免定	瞽女座頭等取締触書 吾云浪人旅僧修験	鉄砲拝借証文 吾回 兵兽里済ミニイ	号状予売ノニナ 不法虚無僧取締通達書 三回	座頭官制紊リニ付取締覚 三三	北越知村御成箇免定	北越知御成箇免定	寺尾勤録、北越智村明細 吾二	
弘化四年二月 安政七年三月 工月	文化一四年九月	文化五年二月	芝明五年六月 第保二年一一月	元文四年一一月	享保一八年三月	享保一八年一月	享保一六年一〇月	享保一六年一月	享保元年一一月	宝曆元年一一月	天和二年一一月	万治元年一二月
萩本村宗門改帳寄帳 翌0萩本村明細書上ケ帳 翌2常門村御成箇免定 翌2	病気ニ付御願奉申上候 吾や隔年庄屋	常門村宗門改帳寄帳写 吾望	常門‧萩本出入訴状返答扣… 丟0常門村御成箇免定 丟0	常門村年貢可納割付之事 丟	御免定双方庄屋方割赋状 至	飢人多数二付	常門村拾ケ年御免定写 雲	皮為下矣二寸言上至三疱瘡麻疹御薬	常門村免定之事	常門村免定之事	常門村免定之事	常門村免定之事

J	l	
۰	-	

天正九年一月 川西	天正九年一月 川西		(欠年) 常明	(欠年) 歳々	明治一二年七月常門、	明治一二年四月常門、	明治五年二月 区内戸	明治五年二月 四拾七1		明治五年二月 酒造	明治三年六月 常門村	明治三年三月 常門村	明治二年九月 長寿ニ	明治二年四月 公地		慶応三年八月 稲木綿	文久二年二月 常門
[郷祠布施米覚 吾詔	1六家由緒記		常明村支配者変遷覚 至()	歳々御免定之写	、 萩本村合村御願写 丟	合併反別明細表	[戸籍取調書上帳]	区戸籍	上請書ノ事	改メニ付	村水車御調ニ付書上帳… 丟	村御掟五人組帳 臺	こ付御下金請印帳	地社寺御調書上帳 丟完	対え女へ女 指三 佐御男 グ 御原 三国	作共作共	常門村倹約申定連印帳 臺一
延宝八年二月	寛文一〇年二月	寛文三年八月	(東坎坂)	で見り、	金橋地区	明治六年一二月	明治三年	文久二年三月	安政四年三月	安政二年一二月	欠年巳四月	子年丑三月	天保八年一二月	天保七年九月	天保三年一二月	文政一三年四月	元禄九年六月
たま女請状之事	永代預ケニ付相定証文 宍宍箸喰村領内	当村田地ニ付取替書 兲至箸喰村領內				川西村租税免定之事	宗門改帳	川西村年貢皆済目録	川西村宗門惣と帳 天	川西村年貢可納割附之事 兲〇	辰年御取箇縣札	子年御取箇懸札	川西村御成箇兔定	家主引請証文 吾	川西村御成箇免状	川西村年貢銀皆済目録 吾宝	村山協定絵図裏書

天明二年七月	天明二年	天明元年一二月	(欠年) 酉八月	(欠年) 巳一〇月	寛延四年一〇月	寬延三年一二月	寛延三年一一月	寛延元年閏一〇月	延享二年一一月	寬保四年三月	寛保三年一〇月	享保八年九月	元禄六年一〇月	元禄二年三月	天和元年一二月
ニ付再度吟味願口上書一丹下様思召ニ不叶	下り嘆願同心傘形連名書… 村中大不作江戸	書	重而非礼御詫一札一雨乞願満行事ニ付		牛貢申渡之事	御田地作徳支配申付覚一向ウ廿四ケ年	午年御年貢申渡之事	辰年御年貢申渡覚	庄屋役跡目申渡覚一	差上ケ申砂留証文	坊城村御取ケ覚	しゆうけ川水車ニ付取替状…	付大目付廻状質物	ニ付指上ゲ済状一たま女不奉公	てかいと坊城村田畠覚一
五九六	五九六	五九五	五五五	五九四	五九三	弄二	弄 二	五二	五.	五九()	五八九	芸八九	兲	五八八	五八七
天保一四年九月	天保一三年九月	天保七年五月	天保三年一一月	(文化・文政頃)	(文化頃)	写到一一在一二月	寛女一一手一二月	寛政四年九月	天明三年一〇月		天明二年一一月	天明二年一二月		年九	天明二年七月
知行坊城村割付帳 六0八藤堂栄治郎	綿作不作ニ付御歎奉願上候… 六〇ゼ	神宮寺本堂大破二付御願 六〇六	多大ニ而御歎之事 六〇至百姓一同困窮	古河村分村由来覚写 < 0至	役地元支配之覚 六〇二代々庄屋替り	御2 数4	下二寸		被為仰付ニ付願上写 k00 兵右衛門隠居	附ヲ以奉願上候写 六00	困窮百姓書	江戸表下向日書覚	付御用き	名退役	関所通行手形之事

明和年間 御支配代々書覚	安永二年二月 御物成勘定目録	明和三年一一月 倉之宮守出奔ニ付御届状 六三	宝曆一〇年一〇月 新堂村明細帳 公10	延享年間 - 寺尾勤録、新堂村明細 AIO	延享四年一一月 新堂村免定之事 六九	貞享五年五月 新堂村田畑屋敷年貢高帳 六八	寛文八年二月 - 喜三跡田畠永代売渡シ状 六ハ	文禄四年九月 新堂村検地帳 < 六十	/		文久二年一〇月 出水欠損井手普請料覚 六十	文久二年一〇月 - 違作ニ付御免定之事	文久元年四月 - 違作ニ付御免定ノ事 苎宍	嘉永七年二月 御領下取締書 苎豆	嘉永四年一月 拝借金年賦上納御証文	売渡停止ニ付申渡覚 苎三弘化匹年六月 - 村方所持田地	
(欠年)	言えこをこり	宦队二年二月	元和九年	(雲梯)	明治八年	明治五年五月		明治五年五月	明治三年三月	明治三年三月	明治元年一〇月	慶応四年三月	元治元年一二月	元治元年一一月	元治元年三月	文久四年三月	
剣先船々賃ニ付言上覚 公旯	三付乍恐謹而言上	- オ 打	方成吋へ差入一札空 マアレト 字下井井溝付替ニ付		地祖賦課入費取調帳 容望	高反別書上帳 《竺	十ケ年賞米書上帳		消防規則	村庄屋心得条目	約取締令達書			子年免定之事	新堂村五人組帳	宗門御改寄帳	御雅所一紡申合書·······

(欠年) 一二月(世川)	七年二月 年) 年 月 年 月 年 月 年 月 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	天保一四平八月天保八年五月天明二年三月	安永二年七月安永二年七月	字保一七年一○月 宮保三年一○月 宮保三年一○月
魏室座支配申付書 六二 郷左衛門へ 曲川麴室座文書 六七0 興福寺一乗院領	ストライン 大を出り 単二 大を出り 願上口上書… を惣代ヨリ願上口上書… と	雲弟寸食地長	、)長 雲梯村免書上帳 利論ニ付申渡書 報書ニ付	線方売買ニ付願上
明治一八年八月万延元年一二月	嘉永六年一〇月嘉永六年一一月	嘉永三年一二月	5. 五. 一 年	(字和頃) 八月 安永九年五月 日
新定記 村納銀之事 村納銀之事	## 1	御勧学料銀拝借並返上之事… 六·村方倹約取締書 六元	要交て售り戻宅書勤申渡覚 野請入用銀請取覚 野請入用銀請取覚 開ニ付追訴奉言上候…	秤改メ料受取証 会当 曲川村宗旨御改帳 会当 一乗院門跡御教書案 会当

文政二年一一月	享和三年四月	延宝一〇年八月	\ \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		(天保頂)	天保三年九月	文政一三年一二月	寛政六年三月	宝曆一三年六月	宝曆六年一〇月	. —	宝曆四年二月	(大谷)	真 菅 揖 区	营 也 乙
諸事値下ゲ対処御請書 六六小物成地開場所書上帳 六六	寺村	慈明寺村小物成場検地帳写… 尧孟	太々神楽勧進書	当社勤清住吉社 神子等任免規式言上一札… 六三	社僧、	高数除地御尋返答	なもで踊日延べ詫状 六二雨乞願満	畝傍山口社々宝開帳御願 堯一	峯山福生院不埓ニ付願上書… 宍0	手続方ニ付言上書	福	峯山福生院後住推挙状 六六			<u> </u>
明治二年九月	弘化三年二月	天保五年九月	文化四年二月	文化三年四月	文化二年三月	文化二年正月	(曽我)	(江戸期)	(五井)	明治三年一二月	<u> </u>	つ寺田ノ	明治二六年一二月	明治七年六月	天保三年八月
座宫座祭礼約定書 与我座新町	達書 七九	魚取一件ニ付差入一札 三八妙法寺溜池	御救米等下付願 ジン 早損凶作ニ付	未解決ニ付重而願上書 三六御駕籠訴	中西要助等御駕籠訴下書 二	処置ニ付差入一札 三八幡宮徳用		称名院什物之帳 おつべ		寺田村可納租税之事 40K	村方倹約令達請状 岩岩		御料地畝傍山落柴下附願 þ0m	慈明寺村租税録 +0三	慈明寺村小物成地持主控帳… 100

寛政七年五月 神	寛政四年八月	九年二月	天明 八年三月 通	\ = <u>=</u>]	天明五年九月 - 地	天明 <i>王</i> 年三月 - 加	ī. :	天明四年一二月 - 妳	天明三年四月 飛	寬延四年七月 川	延享三年九月	英写三年ナ月		〔地黄〕	(明治欠年)
世保左京様預り銀覚 三	通井争論和済証文 亨曼豊田村、地黄村	飛鳥川筋水論済状写 宣	隣村不埓ニ付御訴願書 三三月第二て	5 注 - の		曾我村込水和談覚書 三六妙沽寺本	・ 設定する おり 一本 また	Í	^飛 鳥川筋川長川幅書上覚 岩	川筋領境御普請所書上ゲ 三六	飛鳥川井手ニ付争論済証文… 三四	内膳村へ約定書	也 本保、 村、 等畝		位置ニ付不服陳状書 与!! 鉄道線路水抜
即乘七年四月	六年四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二		延享二年	寬保三年八月	享保五年九月	正徳五年正月	正徳三年四月	延宝七年二月	正保二年一一月	正保二年一一月	宽永一九年三月	寛永三年九月	文禄四年九月〔土橋〕	(寅・夕年)	
品に応じ処断申渡	古生金字事件 土橋村明細帳 芸	代官所ョリ通達請書	土橋村村明細帳	土橋村高寄帳写 岩乳	土橋村々柄書上差出帳 起乃	水論為取替一札写 超	御料所百姓江仰渡書付写 岧	土橋村寺社書上帳 口	東土橋村定酉之免相之事 岧С	西土橋村定酉之免相之事 超0	土橋村定午土免之事 三芫	矢部村、土橋村丑之惣目録… 三六	土橋村御検地帳写	知行所大庄屋へ申渡状 言言	申号に 神保氏ョリ大庄屋へ申添状… 亨宗

ダイ 七年 プチ	てヒゴドマチ	文政九年一○月	文政六年六月	「ト現」	弘化四年二月	天保一四年一一月	天保一四年九月	天保一三年八月		天保一三年四月	文政一○年八月	文化一四年七月	文化一三年三月	文化五年正月	文化元年六月	(享和四年以降)	天和九年正月	明和八年一〇月
渡候所異議申立書	且 孝 史 印 稲 竹 凶 竹 ニ 木 原 土 お 勇	土橋村	小槻村村内取締覚		土橋村倹約取締書	春日若宮祭礼懸物請取覚	土橋村明細取調帳控	文字金銀並壱朱銀取調書	商売人諸職人書上帳		座頭祝儀取斗仕法書	土橋村社堂寺院書上帳	兼帯庄屋引受書類受取覚	村方倹約申合定書	一付書上帳	土橋村役人、人数書上帳神保氏役人並	博奕禁止触書	土橋村享保以降御取箇書写…
セバエ	センク	<u>-</u>	1八二		芸	芸	七五五	四中中	1:44		144	044	芸丸	芸へ	芸	芸	芸	甘五九
明治六年三月	天保拾五年正月	嘉永四年六月	室曆一二年二月	元文五年七月		文禄四年九月	(夕年)プ月	(ス三~六月	惠台二丰八月		文応元年六月	(豊田)	明治六年三月	(大垣)	多 地 区		文化九年五月	(欠年)
豊田村小入用明細帳 芫酉	豊田村倹約承知連印帳 55	問屋組合再開ニ付口上書 宍三	豊田村宗旨御改帳	野荒之禁断一札	日 木 徂	市郡	満寺評定申達状 另一	日前医二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	豊田主ニ付東大寺衆徒申伏… 550	栽	間		大垣村小入用明細書上ケ帳… 六六			f	小槻村秤員数書 六七	二条城内外修覆金受取覚 宍

元和元年一二月 完和元年二月 元和元年二月	文化六年	耳成地区	月台六手三月 明治二年 文久三年六月	(嘉永頃)	文禄四年	安政五年七月(西新堂)
十市村元和元年物成算用済覚 八一 和州十市郡 がいしょ村名寄帳写 八〇元 神役免柴垣之事 八〇元 十市村文禄検地帳写 八〇元 神でのよった。	ニ付五ケ村取替書 (04落切シ伏樋	日本へ、之手母系巾	新コオト人用月田長	内諸書物引渡目録	新口村御検地帳写	米川筋井堰取替書 5至
慶長一六年 慶安四年一○月 万治三年一一月	(欠年)	文禄四年九月	嘉永七年二月	寛延四年	元禄一六年一〇月延宝五年三月	寛永二〇年一一月
葛本村寅免相事 公园 葛本村免相之事 公园 葛本村庭免相事 公园 葛本村庭免相事 公园 高本村庭免租事 公司 高本村庭免費 公司 日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	(葛本)庄分米公事党大乘院庄楠本	十市郡中村検地帳	領方宗門改惣寄帳十市村小入用帳	領方宗門改帳集計 十市村村越	十市村村越方免状從江戸申来検地執行条々控…	安楽寺宗旨請状十市村御物成払算用帳

	_		
	-	-	

七四 -	ヒーミチャ 政九年二月 禄八年一一	元禄七年五月〔見門〕		文化一二年三月 寛保二年一一月 享保八年一一月	享保八年一〇月	宝永二年一一月
(1) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	する	大畐寸41水侖或午取季正文 < 竹田村と立会分水ニ付訴状	本村村小入用帳本村倹約取締状	葛本村戌年御年貢皆済目録… (三)葛本村免札之事 (三)葛本村亥年免状 (三)	葛本村卯年年貢割付状 公完未年免定之事 公兴	宝永二年免定 八芸 立合川切の件一札 八宝 葛本新口両村
延宝九年一〇月 延宝九年八月	(欠年) 五月明治七年一月	明治二年四月	攻久元年八月	嘉永三年一二月	嘉永元年一二月 天保一三年四月	天保八年八月
常盤村御成ケ御勘定目録 八汽常盤村定書 八汽	葛本村各種量計秤御調覚 八云一村限産物表控 八云	新口村車髪結名前取調帳八完 賦御貸下取調帳八完金札拾弐ケ年	葛本村御請書 八雲 車井手ニ付規定一札 八雲常盤、葛本両村	拝 人 高 告 へ値	風水害臨時入費割帳 八三日光社参御用金差上請書控… 公三	鎮守年中行事定書 八冠 米川筋ニ付取替状 八晃

(欠年)	(明治初期)	(江戸中期)	嘉永七年一一月	文化四年三月	文化二年二月	享和三年三月	享和三年三月	- 4	享保一一年五月正徳四年四月	永七年四	元禄一六年一〇月	元禄八年五月	元禄七年四月	元禄元年一一月
役宅修覆入用割付廻状 穴の小堀中務ヨリ	取究メ規定連印証 穴の諸上納他旧高割ニ	通用願人共江申渡覚 八八井路川筋劔先船	一一月大地震記録覚写 八字嘉永七年	囲米御赦免願書付 八公早損ニ付夫食	耳成山天神ニ付御願上状 八至	常盤村免割目録 公路	常盤村宗門改帳寄帳 八二	立木盗ミ取締定書 八	h #	/ 4.755 鈴・片頂 ご香肥代高騰ニ付嘆願書市郡百姓	天神之宮ニ付返答書 八呂	大福村との水論一件覚 八三	寺川筋入用ニ付言上書 公二	十市郡常盤村御成ケ割付事… (七)
保一五年二	天保一三年六月	文政一三年一二月	文化二年一二月	文化元年四月	天明九年二月	(明和四年頃)	1	宝曆七年一二月	宝曆六年一一月	宝永四年三月	宝永四年三月		元禄一〇年三月	(山之坊)
締筋小前承知請印帳	取帝甸コ達青書	ニ付為取替一札 400小入用銀難渋	論ニ付借	ニ付新賀村と取替一札 八八水論一件下済	阿弥陀寺ニ付御尋御答書… 八記山ノ坊村	山之坊甚太良一代記 / 5次	られている。これでは、これのでは、これでは、それでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、こ	雑義ニサ収替一札 (登小入用定式ニ而	宮之樹木伐取ニ付口上書… 八鉛山ノ坊村領耳成山天神	山論出入ニ付原材他との	新規被申候ニ付御願 八二 比们补米沿	<u>.</u>	方寸即食也長子	

元禄元年一〇月	寛文二年一一月	夏女元年一〇月	寛永一八年一一月	文禄四年九月	(上品寺)	寬保四年二月	慶安二年一一月	〔新賀〕	(欠年) 一二月	宝永五年三月	元禄一五年一一月	天和二年七月	慶安五年九月	文禄四年九月	〔木原〕	明治五年正月
上品寺村免定之事	上品寺村免相之事	事:	等村定免相之事	上品寺村検地帳 2:10		新賀村明細帳	新賀村新池造成替地相渡状… 凸云		造営妨ニ付御訴書 卆屋耳成天神宮	耳成山保安絵図裏書状 九三	耳成山々論ニ付御願 九二	木原村山之坊村耳成山界控 二	山木荒シ御止め願	木原村文禄検地帳 410		山之坊村小入用書上ケ帳 むべ
明治元年一一月	文久三年八月	万延元年一一月	天保一〇年八月	天保二年一一月	寛政元年一一月	明和九年六月	明和八年四月	即和三年正月	[宝曆年間] 八月	生曜プを 間刊プ	宝香工手員七月	宝曆二丰一一月	延享三年四月	元文二年四月	元文元年一一月	享保二〇年正月
上品寺村御成箇免定之事 叴語	軍用米出入覚 空三天誅組騒乱ニ付	上品寺村御成箇免定之事 空一	御通輿入用書上帳 450聖護院宮入峯	上品寺村御成箇免定之事 旮旯	上品寺村御成箇免定之事 5咒	上品寺村御救米割賦帳 超	飢人へ被下置扶持米覚 5器	奉公人々返し御触写	代录在联型 / 上品寺村高名寄帳	大垣村へ倹約仰出御請書… 空	上記を対・	上品寺村卸成窗兔定之事 汽三	駕籠入用書上帳	十市郡上品寺村反別指出帳… 空岩	上品寺村御成箇免定之事 卆云	五人組高附帳

近

世

O興福寺大乗院門跡領反銭注文

(寛正六年)

成簣堂文書

與福寺大乗院門跡領注文

一町三反大 新堂與內七丁三反小

寺門反銭公方御下向之時自両納所可進分

小矢部垣大四丁二反

新口郷長田

多郷 内善

九丁三反

六丁六反大坦大

常葉庄 以上十市郡 三丁七反 楠本 十一丁七反

五位庄 一丁五反 曽我庄 五丁

加留庄 慈明寺 二丁八反半 二丁四反大 加留国符 東坊城野 六丁六反大 一丁二反

妙法寺 四条 山本庄

総 地 X

以上高市郡

至徳三年六月九日

(天図保井文書)

興福寺一乗院門跡領注文

O興福寺一乗院門跡領段米注文

廻 当年御講師料段別参升米事 飛太郷三丁一

大窪寺四丁八

根成柿六丁 益田郷二丁

宇那手新堂大壺三尺

吉田郷二丁九反

八木郷一丁五

小綱郷四丁 今 井 三 万 万

以上高市郡

飯高郷八丁二

新口

以上十市郡

净法寺五丁六

右当年維摩会御講師御懃仕之間、 無懈怠可令進済之状所廻 任先例所有御下知也、

如件、 者早存其旨、来七月廿日以前、

二九

至徳三年六月九日

〇春日若宮祭礼料所庄々之事

(天正年間

(天図保井文書)

四条 新賀 大垣

内膳

給人結城山城守

給人楊本方

木原

山之坊

給人木猿焚会兵衛尉 給人三好□介

八田

新庄

上郡 吐田 下吐田 西 宮 宮 岡崎

豊田

飯高

以上六ヶ所

給人向井専千代

(以下、断欠)

〔*天正年間の文書と思われる〕

〇十市庄内若宮祭礼等会料覚

天文五年十二月

(京大文書)

桧垣発注 (アトフデ)

竹田 井戸堂

(給人力) 福智堂

(以下破

給人大喜多兵庫(咖力)

矢尾庄

喜殿庄

給人江村主殿助

八木寺 東田庄

葛本

古田 十市庄

大西庄

味間庄

上品寺

田原本

以下儀付而神願之料所庄々 春日若宮祭礼丼薪之神事

以上八ヶ所下代竹料(アトフデ「カケ」)

八(条圧力)

若宮祭礼幷十二大会料所十市郷內進官庄々事

納所三目代分

(中略)

坊城庄 未進在之、

名主取沙汰

新賀木原庄

橘本庄

進官下地内、藤本無沙汰

名主取沙汰

 \equiv

多庄

豊前 西宮

新堂 新口

成願寺 常盤

岸田 新富 大田市

給人伴田新兵衛尉 給人福地左馬進

給人小田左近

給人泰楽寺方

未進在之、

藤間ラダ

新口庄 作井庄 未進在之、 月別銭無沙汰共 沙汰人與方

沙汰人

沙汰人与四郎

上品寺庄

点役被相懸之間、 飯高進官下地十市郷へ入地、 進官米無沙汰也 進官一色下地処、

東大垣庄ヲウノ内ニ在之、 沙汰人彦三郎

天文五年丙申十二月 (*橿原市域内のみを抄出した。) H

O 十市 郷諸 庄若 宮祭 礼等 会料 覚

天文十五年八月

(京大文書)

若宮祭礼并十二大会以下所出料所

進官米庄

市郷諸庄注文

十市庄領 伊地知彼迦由自庄下注中村進官入地三町三反 坊城進官九反七反切、反別三斗負

総 地 区 新賀

弐町三反此内三反島

同

領

木原 同領 弐町橋本入地 反別三斗宛

山坊領 弐町六反七反切中村進官入地 五町三反七反切**、** 坊城進官入地 ョリー斗二升沙汰之、此外大田市惣屋敷 反別六斗宛

闰 領

大田市

葛本領 給人井戸方被懸了、 此外弐反アレ、家地蔵前坊城進官入地九反半、段別三斗宛

常磐 新口 又新賀入地八反、字東カシハラ、橋本進官入地八反、字ニシカシハラ、 五町弐反 被出了、給人西山方

反別三斗宛

同領 飯高進官入地壱町六反半

新堂 多庄進官入地一町一反

豊田 飯高進官入地三町、 反別三斗宛

同領

飯高進官入地四町四反

大垣 領 飯高進官入地五町弐反

内膳 新口進官入地八反、反別弐斗宛

上品寺 四町、 反別二斗宛

総

同領 飯高進官入地一町二反

天文十五年丙午八月 (*橿原市域分のみを抄出した。) 日

〇十市郷内若宮祭礼并十二大会料所

天文十九年閏五月

(京大文書)

若宮祭礼幷十二大会料所十市郷

進官庄々事

納所 会所目代分

竹田小路庄 全無沙汰

橘本庄 葛本山坊ニ在之、沙汰人助二郎

古帳四石十六合、 此外小公事色々在之、

去年分全未進

近年成一石五斗

新口庄 飯高庄進官下地十市郷庄々入地子、去年依点役無沙汰也 一石三斗八升 十六合 去年且弐百文上

同庄小目代宗舜方分

新賀庄 一石五斗五升 十六合 一石 十六合 去年且百文上 去年弐百文上

 \equiv

同庄小目代宗舜方分

木原庄 一石 十六合 去年且二斗五升 一石 十六合 去年且百文上

同庄小目代宗舜方分

一石 十六合 去年且二斗五升

天文十九庚戌潤五月 日 【米橿原市域分のみを抄出した。】

〇切支丹宗不施不受宗禁制拾五ケ条掟書 慶長十八年五月

(天図近世文書)

御箇条掟書

、切支丹之法之者、死を不顧、身より血を出して死を 成せは成仏と立るゆへ、天下の法度厳蜜也、実に邪宗

、きりしたん元附者ハ、韃靼国より毎日金七厘与ふ、 邪法也、依之死を軽んずるものを急度可遂吟味事、

建立を嫌ふ、依之可遂吟味也、ものは釈迦の法を不用故、檀那寺の且役を妨、仏閣の天下を切支丹に成し、神国を妨る邪法也、此宗に元附

て参詣せんは、判形を引宗旨役所へ断可遂吟味也、「、頭檀那たりとも宗門之祖師忌仏忌彼岸先祖之命日絶

持役を不用、宗門寺の用事身上相応に不勤、内心に邪、檀那役を不動、しかも我意に任せて、宗門請合之住宗門寺へ一通之志を述、内証にて俗人一類打寄、弔僧宗門寺へ一通之志を述、内証にて俗人一類打寄、弔僧宗門寺へ

し、親の恩を受て子に施し、仏の恩を受て僧に施す、受不施、是邪宗邪法也、人間ハ天の恩を受 て 地 に 施其宗門之祖師本尊寺用に不施、将又他人他宗之志を不其宗門之祖師本尊寺用に不施、将又他人他宗之志を不

吟味事、

をいたきたるを不受不施といふ、

可心得事

一、非田宗切支丹不受不施三宗共に一派也、彼等尊む本

総地

X

是正法也、

仍之可遂吟味事、

門吟味の神国故、一通宗門寺へ元附人に交り、内心不利死仏を信仰し、日本を魔国となす、然といへども宗ゆる、是邪法の鏡也、一度此鏡見るものハ深く午頭吉ゆる、是邪法の鏡也、一度此鏡見るものハ深く午頭吉尊、千頭吉利死頂須以と いふ 也、大丁須仏とも言故

一遍にして内心仏法を破し、僧の勧を不用、依之可遂建立も急度可勤也、邪宗ハ宗門寺の事一切世間交り、不申、宗門寺ゟ此段遂吟味、仏法を勧メ、談義講釈を不申、宗門寺ゟ此段遂吟味、仏法を勧メ、談義講釈を不申、宗門市ゟ此段遂吟味、仏法を勧メ、談義講釈を不申、宗門に元附、八宗九宗の内、何之宗旨に紛無、親代々宗門に元附、八宗九宗の内、何之宗旨に紛無

受不施にて宗門寺へ出入せす、依之可遂吟味事、

引導可致ため也、能々可遂吟味事、門寺之僧死を見届、邪宗にて無之旨慥ニ合点之上にて、死後死骸に刺刀与へ、戒名法名を授可申事、是ハ宗

三四

を退ヶ申事、 宗門寺を差置、 別而詮儀 外寺の僧を頼べ、 () た Ų 邪宗正法を可遂吟味 ・ 市其宗門寺の住持

事

とも他国他在にて死去之ものハ格別之事也、 先祖之仏事他宗へ持参り、 法事勤事禁制也、 然とい 能々可

遂吟味事、

有之者可遂吟味事、 先祖之仏事に行歩慥成もの不致参詣、 捋又其者持仏堂工備物、 不作法の者於 能 14見届

邪法正法可遂吟味事、

、天下一統之正法に紛無之者、

頭判を加へ宗門請合可

申候、 難成ものは証人請合を以て証文可差出事、 武士ハ其上の請状に証印を加へ指上、 其外血 判

專 相果候時分ハー 切宗門寺の指図を 承 り 執行可申

、天下之敵、 ころび候類族相果候節ハ、 万民之然者切支丹不受不施非田宗なり、 寺社役所へ相断、 検者を受

て宗門寺の住持弔可申事、

役所へ不断弔候節者其僧之

落度なり、 能々可遂吟味事、

神、 之冥官、 右十五箇条之趣於相背ハ、上者梵天帝釈、 其外日本六十余州之大小之神祗、 日本伊勢天照太神宮、 八幡大菩薩、 可奉蒙御罰者也、 四天王、 春日大明 五道

慶長十八年癸丑五月 日

前書之通天下之諸寺院宗門請合候面々、 此条相欠候而

落度可被仰付候間、 能 々可相守者也、

有吟味者也 右之条々毎度従公儀被仰渡候事ニ候得者、 銘々相心得可

貞享四年十一月十二日

(天図近世文書)

O山川御巡見衆様入用賃銀割付書

山川御巡見衆様人馬賃銀之割目録

山川御巡見衆中様御通リ被為遊候節御用人馬駄賃

(本文) (抽書)

御供馬四疋 銀之割付之事 但壱疋ニ付五匁宛此駄賃銀弐拾匁也

飾り馬四疋 但此 ||壱疋ニ付三匁五分ツ|||駄賃銀拾四匁也

御用人足九人 壱人ニ付弐匁五分宛 此賃銀弐拾弐匁五分宛

飾り人足三人 壱人ニ付壱匁五分ツ、此賃銀四匁五分

四人

御用御窺ニ参候、此賃銀三匁右ハ法貴寺村 道ニ而御見付之待番、但三ケ所居申候、此賃銀四匁□分、右ハ御通り被為成候時

三町ニ而御座候へハ、遠く御迎へなどに罷出候用意も 此人足不実之付掛ケニ而御座候、八木村へ御入之道筋 之儀外へ割賦可仕儀無御座候、御道筋村毎銘々ニ相勤 とて掛被申候儀相□候事ニ御座候、 入不申候、然所御見付之待番弐人ツ、弐ケ所ニ差置候 居申義ニ御座候、八木村領境ハ庄屋年寄居宅ゟ漸々弐 御休等之儀ハ御先触有之、先達而度々遂御窺を相知レ 勿論此人足其所役

浅人 申義ニ御座候、 ニ参候、 此賃銀五匁右ハ法隆寺江人馬御用数之様子窺

弐人 窺ニ参候、 此賃銀三匁右ハ峠村江御着被為成候由、 御昼休之御用窺ニ参候、此賃銀三匁右ハ御所町江御泊り被遊候ニ付、 御用

(貼紙) 御用筋ニ存遂御窺之儀ハ、何方も庄屋年寄参ニ付、人 足賃など取申筋ニテハ無御座候御事、 「是迄右四度之御窺人足八人度々儀ニ御座候、ケ様ノ

総

地 X

一、三人

一、三人

馬請共二、此賃銀四匁五分、 上、 此賃銀四匁五分、 右ハ御通り被為成之節馬指 右ハ人足指人足やとい

共

(貼紙) 之御数役人、弐人が三人ニてハ心安相勤り可申候、六 事毎紛敷書出シ御座候、漸御用馬四疋、 儀ニ御座候事、」 人も相掛り人足賃掛ケ取之儀、費多放埓成仕形不実之 「右二口人足六人(馬さし馬請人足さし、人足□□ 御用人足九人

、弐人 諸事帳紙代 集メニ参候人足代、此賃銀三匁、右ハ此割付銀 三分五リ

拾三口合九拾弐匁壱分三リ

定銭五百九拾壱文御馬人足二被下候

代銀七匁壱分三リ也引

村々掛高覚

高百三拾八石壱斗弐升五合済

北八木村

此掛ケ銀弐匁四分三リ印

高四百九拾壱石済

三五

南八木村

残テ八拾五匁也

此掛ケ銀七匁九分三リ印

高五百弐拾八石三斗六升三合済

此掛銀九匁弐分九リ

木 原 村

此掛銀五匁四分一リ印

高三百七石七斗済

山之坊村

此掛銀八匁八分六リ印

高四百九拾八石四斗五升五合済

石原田村

高三百五拾八石六斗三升済

西之宮村

此掛ケ銀六匁三分一リ印

大

福

村

高千六百石済 此掛ケ銀弐拾六匁壱分六リ印

新 堂

村

一、高六百六拾壱石四斗六升三合済 此掛ケ銀拾壱匁六分四リ印

飛 重 村

此掛ケ針四匁九分七リ印

高弐百八拾弐石五斗三升

九ヶ村高合四千八百弐拾六石弐斗六升六合 右掛ケ銀合八拾五匁也

> 右掛ケ銀此者ニ御渡し可被下候、以上、 但シ百石ニ付壱匁七分六り宛

貞享四年

「卵ノ霜月十二日

両八木村庄屋印

〇十市郡村々御箱訴諸事留帳 宝曆三年十一月 (葛本出屋敷・秋山日出雄文書)

宝曆三酉年十一月 今度御箱訴訟諸事書留帳

十市郡

葛本村

乍恐御箱御訴訟奉申上候

織田丹後守御預リ所

十市郡惣村へ百姓共

同御支配 にて茂 別而 土 一地悪

右之村々 惣百姓共儀、

敷、仍之先年御年貢御取箇筋、其村ハ土地善悪用水無

三六

段無之、 候而、 御取箇格別御高免ュ 候而も、 私領方村 姓迄至極 田畑質入、 迄年毎ニ難儀之趣、 入候、 之訳知等有之儀、 ~ 惣百姓一 届不被成下、 々之逐年数候得者、 役所之儀ハ其訳知御賢慮不被成下候哉、 込御賢慮を以、 御年貢御皆済仕来候得共、 統之御免相を以、 致方無之詰り村内へ押 最初ゟ御取箇相増下地高免下免之筋相捨 7々ハ 困窮仕、 元来私共田地之儀ハ、 統ニ 統 或ハ売代成家をとぼち様々して、 = 強 仍之弱百姓ゟ段と着類諸道具等 相潰 キ候 相潰レ候得ハ売人斗買人無御座、 御取箇被仰付候と奉存候、 其節御支配所御役人様方夫へ之御見 田地質入等ハ勿論売払度候而も、 候得 年心御取箇弥増ニ被仰付、 M 数度御歎奉申上候得共、 村と惣百姓必至と相潰 V 罷成、 困 者、 窮と申儀無之、 最早今以ハ下地手強ヶ百 픥 此上百姓何を以 徳用無之ニ付買人 都而至極畝詰 彼是最早弱 其村 当御預所ニ 然所芝村 V 相続 丰 ij 漸く是迄 /\ 申 強 無 (候所 相 勿論 候 最早 间 ŋ 尤御 キ之 御座 御聞 進 ケ 長 П 村 是 凡 奉

引

合ニ奉存 罷成哉、 村と亡所仕候る外無御座候段、 候 千万歎 ヶ舗仕

仰付処、 座候、 稲毛ニ手掛ヶ不得申儀、 難之村とニ者稲毛不残苅取、 共難計奉存候得者、 聞候内、 入、仍之早速御歎キ罷出候処、 万難儀躰、 を以被仰聞、 二候哉、其銀高之内初納壱歩四厘通御引被成候由年 能有候、 被申聞候 当年之儀近年ニ無之木綿稲毛両作共及不作ニ歎舗存 然所当立毛ニ応シ候而 都合弐止九厘分御引被下候 於然ハ最初被仰付候銀高も余り格別 又と御割紙を以銀高相改候義、 当立毛ニ不応セ格別夥敷銀高ニ付 然ル処立毛御見分之上当御年貢初納 仍之年預ゟ地頭表之様子御窺給候而、 猶百姓追歎キ申上処、(侯脱カ) 跡 ゟ亦弐歩半通り 弥以稲毛苅取之儀得不仕、 同百姓之心として至極難堪千 者 相 麦作蒔附迄相片付候砌 电 如何思召候而之御用 届 御掛 キ不申、 年預 又と壱 ケ被 (を以又と被仰 如何様之思召 成候由 若又右追 Ż 步 惣 御 筋 半 百 尤外無 割 無 通 姓 私共 越 掛 御 御 御 預 捨 盤 被

座

潰レ候故、 料之内ニ而茂藤堂和泉守様預所之村とハ於隣在ニ 損有座候、 村方も御座候、 私共様成土地悪敷、左之村、内ニ茂至極用水不自由成 積リ五公五民算当り有 毛 用 候 処、格別毛上ニ相違仕 其上御用捨を以御取箇被仰付候儀と相心得罷在候、其 毛御見分之上合毛御改之有毛、五公五民と被遊御立、 じ不申、 年預ゟ承知仕候銀高ニ而御皆済ニ候共、中々毛上ニ応 百姓手強々肥等も存分に仕込いたし、 五民之外被仰付候而、 御役人様方ニおゐても、 而被仰付候哉、 ヶ弐歩半之外、 縦私共算当り之通、有毛五公五民と被仰付候共、 格別立毛作リ勝チ、 尤地頭表御取箇筋之御積リ者如何被遊御立 ヶ様之筋も前条ニ奉申上候通、 肥ッ等仕込得不仕、 其段不奉存候得共、 又と被仰付候哉之儀、下として難計弥 ヶ様成処ハ耕作修理万端格別手間込外 何故百姓相続ヶ可相成哉、 御賢慮を以、夫と御見込五公 芝村御預リ所之村 疇限リ格別作劣リ、 私共相心得候ハ立 領続キ疇限リ候 前々何連之 ニハ必至 同御 都 和 相 而

上候、 增、 届被下、 段 所ニ相掛リ罷有候而ハ、村々亡所仕候ゟ 無是悲恐をも不顧、 姓之申分難相立奉存候二付、 右之通ニ御座候故、 立毛格別作劣リ候と申上候ニも則相潰候証拠御座候、 田畑売度と存申者斗ニ而、 相潰レ候と申儀不及承、 へと百姓へと相掛り、 民ニ御上納仕候而も、 泉守様御預り所之様ニ立毛上毛ニ作立候ハ、 ハバ民之歎斗ニも御座有間舗候哉、 千万歎舖儀ニ奉存候、 又如此作り劣リ下毛作り候而ハ、下毛之損亡御上 藤堂和泉守様御預り所於村々ニ、 広太之御慈悲千万難有可奉存候御 私共村へ何方様へ成共御預替へ被為仰付被下 直御訴訟奉申上候、 稲作ニ手掛ヶ不申、 於然ニハ如此百姓御取潰レ被成 上毛徳用ハ御上へと百姓へと相 私共村々相潰レ候証 誰カ買度もの無御座候、 何卒御慈悲を以、 地頭表へ押出シ置候而、 乍恐御賢慮奉願 外 迚茂芝村御預 苅取候而ハ百 御取箇筋ニ而 無 被為間召 縦五公五 拠ハ村と 座 当 候

候

右之趣御願奉申上候ニ付、 候ハハ、 村々二而百姓惣代罷趣候旅

宿 人急々御召出被為遊御尋被為成下候様ニ御 ハ神泉苑町油屋善兵衛方ニ差扣居申候、 乍恐村々役 願 奏申上

宝曆三酉十一月二日

訴訟村と

候

以上

下八釣村

吉 備 村

候哉、

当御頂リ所ニ奉入侯最初ゟ御取箇相増、

下地高

免下免之筋も相捨り、

凡一統之御免合を以年々御取箇

膳 夫 村

石原田村

内 膳 村

新 賀 村

葛 本 村 常

盤

村

御付被成候儀ハ無之、

若シ不作有之候ハゝ御検見之上

木 原 村

乍恐御 箱追 訴御願奉申上候

御奉行様

九 ケ村

願

織田丹後守御預リ所

和州十市郡村、百姓 共

> 有無之訳知等有之儀ハ、 敷、 依之先年ゟ御年貢御取箇筋其村々之土地善悪用水 其節之御支配所御役人様方二

候、 夫々之御見込を以御賢慮御取箇被為仰付候 儀 と 牽 然ル所芝村御頂リ所之儀者其訳知御賢慮不被成下

存

姓必至と相潰レ申候、 弥増ニ被仰付、 最早長々之逐年数ヲ候得者、 既二先年御箱訴訟奉申上候節、 村々惣百

芝村御役所におゐて被仰渡候者、 五公五民之外御取箇

毛上相応ニ御取箇御付被遊候様ニ被為仰渡、 奉存候処、 其後如何思召候而之御事ニ御座候哉、 承知難有 恩

之御訳知不被成下段々御高免ニ被召上、 去ル未申年之

百三拾石ゟ五拾石程相増候様ニ奉存候ニ付、 儀者凡五百石之役高ニ准シ見申候得者、 五公五民之外 段×御歎

三九

下地困窮之百姓弥以迷惑仕候

総 地 区 右之村

々惣百姓共同御支配所之内ニ而も、

別而土地悪

被遊亦ハ御過怠被仰付、

申上候処、

一向御取上ヶ不被成下却

而郷宿に御

留

四〇

姓驚入、 罷有候、 得共、 用捨 共 候 被仰付、 年之儀者近年ニ無之木綿稲毛両作共不作ニ及ひ歎敷存 候ゟ外無御座候段、 = 御座候哉、 候而も、 ニ入家をとぼち彼是漸々是迄御年貢皆済仕 罷成、 由 下地強百姓至極困窮仕、 メ候而も、 御取箇御高免ニ候得ハ徳用無御座 最早今以者見込無御座候哉、 尤御私領方村 年 御座候哉、 御大切之御年貢ニ御座候哉、 依之早速 当立毛二不応各別夥敷銀高二御座候二 然ル処立毛御見分之上、 此上百姓何を以相続可相成候哉、 預を以被仰聞、 惣百姓一 致方無之詰り村内江押出シ彼是一統惣潰 元来私共田地之儀者都而至極畝詰り候 統二 御歎 其銀高之内最初壱歩四厘通 々 千万歎ヶ敷仕合ニ奉存候御 ハ 強 = 相潰レ罷在候得者、 | 罷出 猶亦百姓追歎キ申 ク 困 [候処、 窮と申儀も無之、 田畑質入等ハ勿論売払度 当御年貢初納御割賦 他借之銀主も 他借仕或ハ田畑質 如 何思召 候ニ付、 Ŀ 村々亡所仕 買人無御座 来 候処、 御引被成 候 IJ 其村 而 付 事 買人無 無 候 之御 |惣百 御 当 座 亦 ₹ 得

届不申、 成候由 片付候砌、 候、 を以被仰聞候由、 罷有候、 私共相心得候ハ立毛御検分之上、合毛御改有毛五公五 如何被遊御立候而被仰付候哉、 毛中々も上ニ応シ不申、 下として難計、 リ各別之筋無御座 給リ候而、 極難堪へ千万難儀仕候、 思召とも難斗奉存候へ共、 々壱分半通り御引都合弐歩九厘迄御引被下候由、 と被遊御立、 尤外無難之村々ニハ立毛不残苅取、 Ξ 御座候、 其積り五公五民之算当り有毛用ひ申候処、 若亦右追懸弐分半之外亦々被仰付候哉之儀 私共江被申間候ハ跡ゟ亦弐歩半通リ御掛 稲作ニ手掛不申義ハ同百姓之心として、 其上之御用捨を以被仰付候儀 弥年預ゟ奉承知候銀高ニ而御皆済候 候、 亦御割紙を以相改り候儀 於然ルニハ 然処当立毛ニ応シ候ハ而中 尤地頭表御取箇筋之御積リハ 依之年預ゟ地頭表之様子御 弥以稲毛苅取候儀 最初被仰渡候銀高 其段ハ不奉存候得共、 麦作蒔付迄 を相 如 ハ得不仕 何様之 ŧ 年 心 Ŕ 得 相 被 揁 余 窺 至 ŧ

民

別毛上相違仕候、

縦私共算当リ之通有毛五公五民ニ被

仰付候共、 私共之様成土地悪舗左之村々之内ニも 至 極

用水不自由成村方も御座候、

ケ様成所ハ耕作修理

万端

各別手間込外損有之事共二(モ) 御座候、 ケ様之筋も前 条奉

申上候通り 前 々何連之御役人様 ニおゐても 御賢慮を以

夫々之御見込五公五民之外御用捨を不奉請

候

ハ

丽

/\

外

外被仰付而何 損之場所何故相続 を以相続可相成哉、 可 仕様無御座候、 御賢察奉願上候、 然ル処五公五民之 右

之通ニ 姓之申分難相立奉存候三付、 御座候ニ 付 稲作ニ手を懸不申苅取候而 地頭表に押出シ 一置候 八 八 गिर्ग 百

無是非恐おもか 預り所ニ 懸り 罷有候而ハ、 り見す直御訴訟奉申上候、 村々亡所仕候 ß 迚も芝村 外 無御

御

座 届被下、 千万歎ヶ敷儀と奉存候、 私共村々何方様ニ成共御割替被為 何卒御慈悲を以被為間 成 下 候 岩

右之趣御願奉申上 広太之御慈悲と難有奉存候御事 候、 村 K 百姓惣代旅宿 75 神 泉苑町油

総 地 区 尋被為成下候樣、 屋善兵衛方ニ指

御

願 候

奉申上候、 乍

以上 役

扣申

뀞 村

K

人

急 R

御

召

出

御

宝曆三酉年十一月十二日

御 奉行様

九ヶ村

連 判

覚

市

郡 葛本村

高千五百拾五石七斗四 升

`

此反別八拾壱町壱反七畝弐拾壱歩

拾七石壱斗七升弐合 間違地不同 足永荒引

此 反別七拾九町弐反弐畝六歩 残高千四百九拾八石五斗六升八合

毛付

内

步

分米九百四拾四石四斗五合

此反別四拾八町九反壱畝拾 Ξ.

此反別弐拾弐町六反壱畝三歩

分米四百三拾七石七斗五

开

綿作

分米九拾五石九斗弐升七合

畑作

四

内

稲作

此反別六町六反三畝六歩

分米四石八斗八升七合

屋敷

此反別三反式畝拾八歩

無反別九斗弐升七合

村弁

此反別七反三畝弐拾四歩

分米拾四石六斗七升弐合

新屋敷

稲作歩ニ

壱升七合毛 此反別四町四反八畝廿四歩

壱升五合四勺毛

此反別三町八反九畝拾八歩

壱升四合四勺毛 此反別八町弐反七畝拾六歩

壱升弐合五勺毛 壱升三合四勺毛 此反別弐町四反七畝拾八歩 此反別七町五反四畝拾弐歩

壱升壱合四勺毛 壱升壱合五勺毛 此反別五町八反三畝歩 此反別三町五畝拾五歩

壱升五勺毛 壱升九勺毛 此反別三町拾九歩 此反別七町七反三畝廿五歩

壱升毛

此反別二町六反拾八歩

右者御檢見之上增合被仰付候合毛也

此御取米九百五拾石九升二合

本

途

八斗五升

銀弐百弐拾七匁三分六リ壱毛 三石三升壱合

弐拾八石五斗弐升八合

銀三貫百八拾目

同三百拾八匁三分五リ壱毛

九分米 五拾目九分八リ弐毛 十分一

御直段

右之通御上納仕候、

地直段

四拾壱匁五分位也

宝曆弐申年

〇十市郡村々御箱訴訟控

四二

御蔵分掛 御伝馬宿入用

見取

口米

年賦返納

大川筋入用

四拾七匁弐分三リ四毛

宝曆三年十一月

(下八釣区有文書)

和州十市郡村々今度御箱訴訟扣十一月より之書附宝暦三酉年

乍恐欠込御願奉申上候 (^{®)}

和州十市郡九ヶ村惣百姓代織田丹後守殿御預所

数を候得共、村之惣百姓必至相潰レ申候、 候、 之芝村之御取箇御高免ニて百姓難儀之訳御歎ヰ奉申上 及承候得共、 所ニ奉成候ゟ 何れ之御預所様ニ茂御高免ニ被仰付候 方有之ニ付、 私共村之儀、 以来御年貢御取箇年々弥増二被仰付、 則藤堂和泉守様御預所、 御取箇筋承及入候所、 別而芝村之御取箇各別御高免ニ被仰付候 十七年以前已年 ゟ 芝村御預所ニ 私共村之隣在領続キ之村 各別之儀有之、以 長々之過年 尤一統御預 奉入

申御取箇、 難儀之と可申上様ハ無御座候得共、年々立毛ニ応じ不 得者、其御咎メ之御過怠手錠入牢郷宿預ヶ等被仰付、 潰レ申候、 毎年多ヶ相掛、 元ゟ御皆済銀ニ指詰リ甚難儀之上、右御咎メ之諸費等 おのすから御年貢御皆済銀及難渋御上納定日遅滞仕候 候得共、 被仰付候ニ付、 不被成下候哉、 リ所ニ奉入候而ゟ土地善悪ニより内損強キ之段御賢慮 キ申述御用赦を奉請百姓相続仕罷在候、 立至極悪整、 至極畝詰リ成場、 私共村々之儀、 纔之日当を以露命を継キ候者ニ御座候、 惣而百姓 向御聞届不被成下、 尤是迄地頭表へ数度百姓難儀趣御願奉申上(2歳ヵ) 内損強キ村々に御座候、 内損強の村々ニ御座候得者、 尤太切之御上納銀定日違之御咎メ百姓 高免下免之筋相捨り、凡一統之御取 別而木綿作虫入強ゥ土(き) 同御支配所内ニ而も別而土地悪舗 ご、耕作 件打掛御年貢 然共各別之御取箇故 依之前々ゟ其歎 然所芝村御預 地 米相 然所芝村 必至と相 剰麦作生 納 候 笛

総地区

候御事

四三

之御取箇立毛御検見御改表、

たとへハ百石之出来米な

相違仕候得者、 段々売果シ、 相立度候而も買入無之、 徳用無御座却而損毛ニ候躰故、 年々他借筋も相重り、 相償候共、 相掛り候、 れハ毛付高ニ ニ御取成、 依之年々御年貢おのずから及難渋ニ、 中々相届キ不申、 高を以申上候ハゝ、銘々作立候有たけを以 其外村役人之給米夫人足米等、 引当テ候而、 大小之百姓着儘之仕合ニ而今日を過兼罷 甚御咎メを奉請、 田畑質入売払等之儀も、 着類諸道具等ハ勿論、 其出来米八九拾石茂御年貢 依之困窮一年増相募り、 田畑売代成御上納銀 弥重上之難儀仕 諸入用都合 御日限等 最初ゟ 田地ニ 候 御

当立毛ニ応シ候而ハ彩敷 預を以被仰聞、 捨ニ候哉、 然所当立毛御見分之上御年貢初納御割賦被仰付候処、 当年之儀、 依之早速御歎キニ相出候処、 其銀高之内最初壱歩四厘通御引被下候由 木綿勿論稲毛共及不作歎ヶ敷存罷有候、 猶又百姓追歎キ申上候処、 銀 高ニ 御 座 如何思召候而之御用 候ニ 附 又々壱歩半 惣 百 姓 驚

> 存候、 歩之出来米明白ニ相知然ル時ハ古検地表延(ママ) 御引、 猶又取込候 舗 각 聞候内、 至極畝詰りと申上候筋自然と御賢慮ニ相叶 御引被成候儀と乍恐奉存候、 ハ是迄之通何を □ 尤作立候儘手掛ヶ不仕、 是迄之御取箇相考候而ハ、 刈取候而ハ其筋御賢慮ニ奉入候儀□不任懇意、 都合弐歩九厘御引被下候由、 御割替を以銀高相改リ候儀如何様之思召共難 而ハ おのすから給込旁百姓 □相歎キ候共、 御再見奉請 然ルニ付ハ稲毛取込候而 只百姓なための為当分 御聞届 年預ヲ以又々被仰 相潰 候 可 畝 ハ 候筋 御座 申儀と奉 ۷ 無無御座 惣 御吟 町 有 七 間

+ 候 月二日重キ御所様へ 候得共、 を待窺居候得共、 御当地旅宿 味奉請度ニ付、 月朔日ゟ村々ニ而百姓惣代一 何卒御慈悲を以兼々御聞届ヶ被成下度旨を以、 何之御沙汰も不被成下、 ハ神泉苑町油屋善兵衛方ニ相詰 稲毛手掛ヶ得不仕罷在候、 御賢慮ニ不奉叶候哉、 恐 を も不顧、 村に壱 最早稲毛 御箱御訴 四拾日 両 人宛 ハ刈し メ 依之去十 訟奉申上 I前ニ 龍 御召出 ゆん 趣 及

四四

負ひ、 之冥理も難斗奉存候得共、 上納相弁御皆済可仕義中々不及力、 候共御皆済相成へく共不奉存、其時ニおゐて何を以 之納と追掛ヶ被仰付候ニおゐてハ、 鳥類夥集甚給荒シ種々相捨り候儀難千万ま歎舖存候得 遙ニおくれ候得者、枯草之ことく落等ニ成、世上之諸 リ候様成御割賦高銀ニ御座候得者、 納壱通さへ地相場を以相積り候得ハ、 刈取候而ハ毛上ニ応シ不申、 立毛此節迄野ニ立置候儀ハ御公前干万恐多、 右之訳故稲毛野:立置御直 是迄之御取箇既ニ初 尤太切之御年貢請 作立候有たけ指 增而是迄之通弐納 七公三民二茂当 天

以神泉苑町油 候得共、 願奉申上候儀ハ、 こもつき果、 右之通御座候御直御訴訟申上、 御願奉申上候間、 百姓数日旅宿ニ相詰メ困窮之上ニ候者、 此上如何様成へく哉と十方を失罷有候ニ 屋善兵衛方ニ 若筋違杯と御咎メも難斗、千万恐入 何卒御憐愍被為成下、 差扣罷有候百姓共之義、 今以御番所様外様へ御 御賢慮を 飯代 急

付

総

地

区

恐御番所ゟ被為仰立被下候ハゝ広太之御慈悲と干万難 々御召出し被為成下如何様共御下知被為成下候様、 乍

有奉存所、

和州十市郡九 惣代共連判 ケ村

宝曆三酉年

十二月

日

京都御奉所様(行脱力)

〇宝曆箱訴一件御吟味次第書

御訴訟奉申上候御事

宝曆三年十二月二十二日

葛下郡村々御吟味之次第和州式下郡村々御吟味之次第 江戸御勘定奉行所様

酉極月廿二 Н

(常盤村・森文書)

四五

代弐人宛、 芝村役所ゟ御指紙ニ而御召出し被成、 常盤村藤兵衛、忠助、久三郎常盤村孫右衛門、源助、宗助 六次郎右七人 庄屋年寄百姓

江戸表ゟ御召出し被仰付、 参り、 同廿六日江戸へ出立、 同廿五日ニ暮方ニ芝村役所 道中い たし候、 供宗七

被召出被仰付候ハ、

宗助壱人村方ニ残シ置、

其外六人

都合七人罷下り候

都合六人 葛本村庄屋年寄、 小左衛門善兵衛、 弥右衛門供清六平兵衛、供清六

新賀村 年寄甚兵衛、莊屋彦惣、藤 r、新三郎 都合四 藤四郎

膳夫村 年寄武助、孫庄屋三郎助、 孫三郎付人弥三郎、 都合五人、

四ヶ村人数廿三人

芝村御役人付添 小林宗右衛門 中村佐太夫 足 上軽善右衛門 基右衛門 宗兵衛

宇陀春日村 才市郎 武兵衛 付人弥兵衛共、 都合拾人

双方〆三拾三人道中致候事

渡し候上被仰付候ハ、 戍正月七日江戸着、 御勘定奉行一 七ッ時ゟ織田丹後守殿下 色周防守様 屋敷引 指出

> し候段被仰渡候ハ、 土器町紀伊国屋庄兵衛宿へ 御預 ケ

四六

一被成候

納相掛申ニ付年番へ預ヶ申所割直し有之候、 同十六日御役所ゟ一色周防守様へ御引渡 段々不残御吟味之上、京都へ箱訴之御吟味厳舗初 Ū 然共跡 被 遊 之 B

上

常盤村之宿小石川春日町大黒屋長右衛門 弐割半掛リ申ニ付百姓共願申事

葛本村之宿牛込簞司町崎国 屋喜右衛門

新賀村之宿市谷田大津屋治助

膳夫村之宿天神下女坂下崎国

[屋清]

兵衛

右四ヶ村宿四軒こわかり候

同十六日ニ 御免状五拾ヶ年之写指上 申

事取箇之願書付出候様ニ 正月十九日葛本村斗御指紙 被仰 渡 = 而壱 候 人 ット 御吟 味

書付出し候様ニ被仰渡 同廿二新賀村御指紙二 而壱人宛御 吟 味

右取箇之願

同廿四日常盤村御指紙 = 而壱人ット 箱訴之御吟味

我

等一切不存候得共、 村ハ外之村ゟ願人多ヶ候ニ付夜五ッ時ニ先宿へ帰 様被仰付候故、 同廿六日膳夫村御指紙二而壱人宛御吟味有之候 諸事願書出し候様ニ被仰渡無之候 百姓代も京都へ参リ不申事、 常盤 ij 申

共苅不申故私シ茂残し置候と申上 調法故 常盤村源助儀二三ヶ年以前ゟ年寄被仰付候ニ付、 一切相談し出不申と申上候、 稲苅取之儀ハ 古役 無

厳舗御吟味之上皆々宿へ帰り申候

、二月四日御指紙ニ而四ヶ村不残被召出、 申上候ニ付、 入牢申付候と被仰聞候得共、 吟味被遊候、 神山へ参印致候と申上候、 不存と申上候御事、 と御吟味、 ·村善兵衛 膳夫村孫三郎新賀村蘇三郎 御吟味役人中 壱木彦九郎、川口久三 京都へ訴状者誰参リ候哉御尋、 百姓代八人入牢被仰付候常盤村六次郎 尤箱訴之書付等印形を誰致候様ニ申候哉 百姓代ニ付何角不存と申上候、 然ル処皆々有躰不申候而 一切存不申事故難申上と -郎 右四· 役人共一 壱人ツゝ御 葛 天 切

> 付候、 ッ封改被仰付 其外庄屋年寄御過怠手錠被仰付候、 候御 事 月ニ六ケツ

、二月五日御指 人宛御吟味、 佐久間五右衛門様御吟味、 紙 = 丽 四ヶ村庄屋年寄不残御召 箱訴之御吟 出 し壱

村役人共一切不存と申上候御事

箇ニ付間違ハ無之と被仰渡候、 取箇ニ付之吟味、 私し方へ御預ヶ被下候様御願申ニ リ申候、 共私シ共一切不存と申上候、 役人共有躰不申候得者入牢申付候と御吟味被遊 書付下リ申候、 訳御上ゟ書付も出し役人中へ能々見申様ニ被仰此方へ 殊ニ大根なと有之候と被仰渡、 同十六日四ヶ村庄屋年寄不残御召出し、 不申上候二付今晚入牢被仰渡候処、 弐割半高ニも畝歩ニも出来成ニも御掛 大和ハ大上之国ニ而候、 先重 尤弐割半之事弐割半之 且又芝村御役所之御取 付宿へ帰り 而吟味可致と宿 御吟 木綿作克 单 宿屋衆 味 候、 ハ先 留 然 所 ハ

同十六日ニ百姓之心得違之書付印形御 取 被 遊 候ニ

被成候事ニ付

右之分入牢被仰

四七

地

X

不申と申上置候、先此事追々吟味可致段被仰渡候、未居申候、御検見坪苅六尺三寸ニ而候、壱畝歩ニハ掛り付、役人共申上候ハ畝歩ニハ弐わり半掛り不申様ニ存

一、同十九日四ヶ村庄屋年寄御指紙御吟味被成候、

申酉三ヶ年之検見帳指上申

候

と申ニ付入牢被仰付候、小左衛門弥右衛門宿へ帰り申新賀村彦惣 此両人先達而入牢之者共 ゟ 此人能存知候膳夫村三郎助 此両人先達而入牢之者共 ゟ 此人能存知候

よく候ニ付、是を相認候尤八ヶ村之内五六ヶ村ゟ下書、百姓代牢内ニ而責申ニ付箱訴之下書太四郎持参致候

持参致候事

入牢、同日四ヶ村百姓代之内久三郎 同六次 郎 此 人 申庄右衛門方 β 頭庄屋共、何角克存知居候と被申由ニ而庄右衛門大の郎御吟味之上右五人入牢被仰付候、醍醐村木原村太四郎御吟味之上右五人入牢被仰付候、醍醐村、閏二月五日御指紙ニ而小左衛門、彦次郎右四人頭庄屋

葛本村弥右衛門、

膳夫村孫三郎右四人出牢致候、

ハ、左様之事ハ不成申と被仰渡候、

中へ源介我儘申

候

又五郎カ京都へ飛脚ニ参リ候様ニ被申候故参リ

候

新賀村藤四郎牢内ニ而病気ニ而死去仕候、 残牢ニ居申四八

新賀村彦惣、膳夫村武助右三人出牢致候、新賀村藤四郎出牢後病気ニ而相果申候、 同十五日葛本村善兵衛、候、壱々皆々ためと下り申候由、同十日常盤村六郎次

郎牢內三而病死仕候、

同十九日御指紙

ニ而藤兵衛、

源 四

不存と申上候、尤木原村太四郎ゟ偽リ申ニ付右三人御助、忠助右三人被召出候、 藤兵衛元来病気ニ而何事も

召出し忠助、

太四郎と対談ニ

Πij

忠助申上候ハ、

木原

四郎ゟ申上候ハ常盤村ニハ年寄役多ヶ候ニ付一ミ名も村へ参リ候儀一向不存、参り不申と申上候、然ル所太

不存、

誰ニ而候哉壱人参り候と申上、

然ル

所源介呼出

康

し被遊其方木原村へ稲作苅取不申候而箱訴之願致舗

人参リ候と申上候、 村へ参候儀不存と申上候、 と申参候由、 付 然者太四郎と乍憚対決被 仰 太四郎ゟ申候と被仰渡候、 弥源助ニ而候と御吟味役人被仰候 然共太四郎申候ハ年寄中壱 付 候 様ニ 私シー 申上 切木 一候得 原

躰ニ不申候得ハ牢へ遣し候と被仰候得共、 明日 被仰付候 参り候と難申上候と申上候得ハ、 村へ参候儀御吟味被遊候得共、 と被仰候、 罷出候樣二被仰付候、 太四郎と対決を被仰付候と申上候御事、 然共私し木原村へ参リ候様 同廿日源助斗御吟味ハ 何分不存と申上候、 又ヾ明日罷出候様 = 被 参不申事 仰 源助茂: 聞 木原 候ニ 有 先

(中略

五人、 五日、 桧垣村、 清次郎、七月十二日和州 伊兵衛江戸着、 七月十二日、 下之庄村善九郎、 東井上村、蔵堂村、 良福寺壱人、 同廿七日一色周防守様へ御引渡し、 根村壱人、 同十二日和州出 同廿五日廿七日一色周防守様 国本出立致候帯盤村定七、 当麻村弐人、大橋壱人 北花内村弐人、 高家村源五郎、 桧垣村、 立 出立、式下郡大安寺村平 葛下郡参リ申候江戸着廿 遠田村、 亀瀬、 作重郎、 王寺村より 為川村、 出合村源助 藤井村壱人 へ御引 倉橋村 南

> 遊候、 郎 渡候ニ付、 上候得ハ、 是迄之口書奧書可為致段被仰聞 屋共有躰不申候ニ付、 木原村源七井ニ忠蔵御召出し、 共覚違と申上候ニ付口書玄流と成申候由、 上候者、 仰聞候、 者国本へ 七月廿四日式下郡伊与戸村助四郎、 遠田村清兵衛、 尤御勘定御奉行不残御立合ニ而被仰渡候ハ、 尋二 田原本伊左衛門子玄流と申ものニ 此人儀拙者共名前間違候と遠田村長兵衛ゟ申 指扣居申事 其方部屋住居に候ハハ不及申上に候と被仰 遣し申候処、 長兵衛右四人御召出し箱訴願書候 順シ候義同様と被仰渡候、 八右衛門と申もの無之と被 候 稲作苅取之儀御吟味被 尤忠蔵何角御願 同新屋敷之源 丽 同廿 候、 四日 然共 拙 庄 由 者 四

付有所へ印形仕候、然ハ誰読聞せ申候哉御尋、誰共不訴致候ハハ御慈悲有之と奉存候、暮方ゟ参リ定七名前誰参り候様ニ申付候哉、夥敷御上納銀相掛り候ニ付箱正度箱訴致候段御尋、初壱度ハ天神山ニ而印形仕候、四度箱訴致候段御尋被遊、強訴御法度之段被仰渡候、、定七箱訴之儀御尋被遊、強訴御法度之段被仰渡候、

総

地

区

安兵衛読聞せ候哉ニ成候ハゝ左様之事ニ可有御座候と 存候私シ共水吞同様之百姓故何事も不存候□□内膳村

居申ニ付、 御年貢御上納銀相掛り申ニ付、 稲作苅残シ置候儀誰申付候哉ニ御尋、 水吞同前の百姓ニ候得共苅残し申候と申上 無誰共何方ニも苅残し 誰共なし夥敷

、彦市郎箱訴之世話致候、 私 五度参り申候、 共儀京都興正寺様之御用相動居申候、 切不存候、 和州村々上リ物集ニ罷出被申候ニ付、 又村用二罷出候哉是又不存候、 何角克存居可申と御尋、 京都へ壱年ニ 然共 親 pц

彦市郎一所ニ居申候得者何角能存居可申候被仰渡候私 寄合等へ孫右衛門歟年寄歟彦重郎カ参候哉と御尋、 、咄茂 一切無之候ニ付不存事

私シ水吞同前ニ付何事も不存候と申上候事

(中略)

廿五日江戸着致候分、御暇乞出申候、 八月四日御召出し被遊、 十市郡式下郡葛下郡、 一色周防守様ゟ

先月

候、 儀ハ百姓共能キ風俗致候ニ付困窮致候と被仰渡候、 候 被仰渡候段、 表ハ片毛斗り取入候得共高免と被仰渡候御事 大和国両毛取入其上色、蒔付出来申所と被仰候、 昼夜共相働キ精出し申候得者困窮致候事無之と被仰渡 姓と申者タゞツゞレギレヲ相着し、 申入候様ニ被仰候由、 末へ百姓迄も能へ申聞セ候様ニ被仰渡候御事、 一局致願候二付呼寄被仰渡候、 其方共箱訴致候儀相咎申事無之と被仰渡 尤百姓共困窮仕候と相願候、 帯等も縄帯を致 罷帰リ末△百姓迄 関東 尤 百 此

、先月廿五日江戸着之内、 右弐人召出しも無之御隙も出 定七遠田村長兵衛子新七、

候得共、其儀相叶不申事を被仰渡候事不申候事 シ共儀何卒四五日成共町 入牢致居候者十市郡庄屋衆中五人御召出候二付、 宿 へ御預ヶ被下候様ニ 御 願 私 申

、八月十三日、 郎兵衛、下之庄村源三郎、 次郎、与重郎、 十市郡木原村源七、 利右衛門、 又市、 式下郡遠田村長兵衛、 弥治兵衛、 八条村八郎兵衛惣 膳夫村治 清兵

之内膳夫村治郎兵衛壱人段々残り御吟味御座候処、 未タ御吟味残り候ニ付入牢可申付ゥ□被仰渡候事、 下郡大西村藤兵衛、 大西村佐助壱人、〆拾八人御召出し被遊、 文五郎、 伊与戸村助四郎、 新兵衛、 良福寺村甚右衛門〆拾七 同新屋敷村源四郎、 其方共 葛 御 右

、八月十六日御召出之上過怠牢舎被仰付候覚、 嘉兵衛、 藤兵衛、 源介、忠介、宗介、葛本村平兵衛、太兵衛、 新賀村喜兵治、甚兵衛、木原村弥四郎、 常盤村 平四

暇出申候、

夫故町宿へ帰り申候

郎 八条村善右衛門、 膳夫村新七、 出垣内村源次郎、 下八釣村新兵衛、下之庄村彦次郎、 出合村藤助右之人

数拾七人入牢被仰付候

、九月十一日御召出し、式下郡遠田 門、王寺村長次郎、 吉兵衛、 葛下郡当麻村茂平次、 曾根村源五郎、 南藤井 中村久兵衛、 村甚 兵 村 衛 孫 右衛 右人 久兵

、九月廿一日高家村、 倉橋村江戸着致候、 同廿五日御

総

地

X

数合テ八人

召出し町宿へ御預ヶ被成候

村壱人、吉備村仁郎兵衛、 九月廿三日十市郡常盤村武助、 膳夫村新助、 石原田村又市、 新口村又四郎 八条

右之人参候

、極月十日御召出し、 下郡当麻村茂平次、右六人病気ニ付出牢仕宿預ケニ候 人、十市郡八条村又市、善右衛門、 式下郡遠田村久兵衛、 新賀村甚兵衛、 吉兵衛二

(中略)

二月廿二日、 新賀村藤四郎

江戸町宿ニ而病死仕候人数

閏二月十日、

常盤村六郎次郎

閏二月十五日、 新賀村彦惣

五月二日、 常盤村宗七

四月九日、

膳夫村新六

同月廿日、 内膳村安兵衛

六月二日、 常盤村孫右衛門

同月廿四日、

常盤村彦市

五

総 地 区

同月廿一日、 内膳村宗兵衛

九月二日、 北花内村作重郎

同月十日、 吉備村平兵衛

同月廿五日、 遠田村長兵衛

同月廿五日、 常盤村藤兵衛

同月廿七日、 出垣内村源重郎

同月晦日、

吉備村平次郎

十月二日、 吉備村甚兵衛

十月七日、 葛本村喜平次

同廿日、木原村平四郎 同十八日、木原村弥四郎

同廿八日、大西村藤兵衛

十一月朔日、葛本村太兵衛

同三日、八条村宗次郎

同三日、遠田村甚兵衛

同十八日、 下八釣村新兵衛

同廿七日、王寺村長次郎

同廿八日、南藤井村孫右衛門

、十二月八日、下之庄村彦次郎

同九日、出合村藤助

同廿日、八条村善右衛門町宿二而出牢致候

正月六日、大西村新兵衛

イ廿九人相果申候

二月晦日、 八条村了伯

同晦日、曽根村源五郎

同十二日、 膳夫村新七

同十五日、 亀瀬藤井藤兵衛

、三月十日、

八条村又市

致候

、同十六日、 式下郡伊与戸新屋舗源四郎、 宿ニ而病死

候

、五月十日、

葛下郡当麻村中村久兵衛、

宿ニ而痛死致

(中略)

、亥之七月十八日一色様ゟ朝五ッ時ニ御指紙参候、九

五

申付、 郎助、 候趣、 兵衛、 村八郎兵衛、 村弥右衛門、 ツ 時 三之御 大西村佐助弐人、 伊 然 其方共先達而入牢申付置候処病気 与戸村助四 吉備彦次郎、 都合拾三人、 岩 ル 所本復致候ニ 出 治右衛門、 同善兵衛、 L 村 々、 郎都合三人、 木原源 式下郡ニ 三郡合テ拾八人一 + 仗 石原 弥治兵衛、 市 七 郡 丽 又度入牢 田村忠兵衛、 = 葛下郡良福寺村甚 下之庄村源三郎、 ハ 而葛本村 遠 田村文五 与重郎、 申付 色様を被仰 = 小左衛門、 下八 候と被 付 郎 膳夫村三 町 釣 宿 預 石 清 仰 村 付 条 渡 衛 ケ 兵 藤 同

六月二十二日までの約十五枚分の記事である。部分と終わりの方を採録した。大きく省略したのは二米この文書は表紙とも四十四枚の冊子。紙数の関係で、 一月二十日 かめ らの

而

右拾八人牢舎被仰付候御

事

0 高 宝暦十三年六月~十四年 殿 村 <u>と</u>下 郷 九 /ケ村 水論 五 月 (地黄町区有文書)

乍 恐

方

留

総

地

X

織 田 丹後守殿 市 御 預り 郡 所 新 賀

村

松平 -美濃 守殿領: 郡 分 Ŀ

品寺

村

田丹 後守殿御預所

織

内 膳

村

同御預 n 所

高 市 郡 醌

醐

村

藤堂肥: 後守殿領

同 郡

小

綱

村

神保 兵 庫殿領

郡 地 黄

村

佐渡三 四 [郎殿領

+ 市 郡 豊 \mathbb{H}

村

藤堂佐渡守殿 内分領下

同

新

村

丹後守殿御預 所

織田

同 木 原 村

用 水槌 抔も 小 ク、 砂 留 メ井手ト 及承候処、 近 年 樋

年 ₹

ハ

飛鳥川

筋

御 領

分田

中

村二

御

座

候高殿村

井手之儀、

先

大 + 俄水之節用水下 = 相 成 候 7 井手表 シ不申、 ハ 夥 下く之村方ハ 敷土俵を積 渇水之節 用 水 示を関

五

候、 以上、

打出シ、 含罷有候、 難義仕罷有候所、 其上土俵を積、 然ル所此度右之井手江新規ニ杭木弐百本余 是迄御願茂等閑ニ相成、年月心外之 用水を関留メ、 是迄さへ我儘成義共 一水も丁さへ

日高殿村庄屋清八方へ、右新規成打出シ杭早速取払候 かさつ恣儘成致方迷惑千万ニ奉存候、依之当月 我儘成致方下ペ之村ペハ何を以立毛 養 育 可 仕 御願ニ

罷出申度所存ニ御座候処、

又候ケ様成新規之取

下ッ不申候致方、

初而承奉驚候、

哉角申抜取申所存と相見へ不申、依之再応 対 談 仕 汰も無御座候付、又候当月四日及対談候得ハ、清八兎 之候否儀、 追而此方ゟ返答可致与申候得共其後何之沙 候

様ニと対談仕候処、

清八返答ニハ成程新規成義相違無

手表之義先規之通相守候様ニ被為仰付被下 度 奉 最早渇水ニ相成候得ハ村~用水甚差支難義仕候、乍恐 右之訳被為聞召上、 新規成井手杭早速抜取り、 向後井 願上

申了簡無之由強気成我儘故、不得止事御願奉申上候、

清八申候者乍新規縱及御公意ニ候共右之杭聊取払

候ニ付、 樋伏ャ替申由承候ニ付、 お切流シ来リ候義ニ御座候、 相成候所、 寸計之隠シ土樋を伏ゃ用水を引取候得共、 こ砂留メ抔を致候訳ニ而茂無御座候故、 6四分村領四条村支配堤之内ニ而用水引取候、 水丼和田村石川村之池水を以立毛養育致来候処、 四条村用水之義ハ、往古ゟ飛鳥川筋四分村領ゟ之出 例格ニ相成候而ハ気毒ニ奉存、 近年ハ砂留メハ不及申ニ、 及見候処樋前へ石ニ而仕内 然所去ル午年右之隠シ土 喜右衛門 新規ニ土俵を積 見付次第下と 対談も等閑ニ 郎 大サ五]成義殊 印 印 中古

、四条村之義先件ニ奉申上候通、 古より下へ之村へ江聊断もなく隠土樋を伏々、用水を 村領之出水和田石川之池水を以立毛養育無怠致来、 往古ゟ飛鳥川筋四 分

壱尺余之土樋 · 相違無御座候御事

五四

醍醐村庄屋

引取我儘成致方、剰去年新規成樋を拵伏セ替候義、 是

所ニ御座候得ハ、 全隠シ樋之証拠ニ紛無御座候、 ケ様之紛敷右之樋前杯と申義ハ全御 古来より有来候御普請

引取候儀、余刂恣成致方、ケ様ニ我儘致候而ハ、 下こ

来ゟ立毛養育ハ丈夫ニ致来候処、又候隠シ樋を拵用水

座有間敷奉存候、

四条村用水ハ和田石川之池水ニ而古

乍恐右之段被為聞召上、先規之通土樋取払候様ニ被為 之村方ハ渇水之節立毛養育難仕、迷惑千万ニ奉存候、

仰付被下候様ニ奉願上候、

而ハ、此上いケ様之義可仕程も難計、 右之通相違無御座候、 先件ニ奉申上候通右之我儘弥増候 無程下へ之村方へ

村□右新規之義早≧取払候様、被為仰付被下候ハ♪難有 立毛養育無覚束、千万歎ヶ敷奉存候、 乍恐被為聞召上当

可奉存候、 已上、 新賀村庄屋

宝曆十三未年六月 同村年寄

総

地 区

四 郎

右

衛 門

> 上品寺村庄屋 上田三郎次郎

内膳村庄屋 惣 兵 衛

同村年寄 兵 兵

衛

衛

小綱村庄屋 +

郎

同村年寄

介

地黄村庄屋 兵 衛

同村年寄 甚

七

又

豊田村庄屋 孫 左 衛 門

同村年寄

兵 衛

新口村庄屋

七

太

同村年寄

七

五五五

土佐土砂

乍恐御訴訟

木原村庄屋

総

地 区

治 兵

衛

 \equiv

郎

同国高市郡

村

和州十市郡 上品寺村

新賀 村 同国同郡

同国高市郡

同国十市郡 綱

地 \Box 黄 村

内 膳 村 村

田 村

村

妨

月朔日相手高殿村庄屋清八方へ右新規成樋杭土俵共早

向私共村と江水差下シ不申難義仕候ニ付、

当六

川水を以立毛相続仕来申候、相手高殿村之儀者隣郷田 和州高市郡飛鳥川筋之儀者、 古来ゟ私共村々田地右

樋二仕替、右飛鳥川井手表へ夥敷土俵を積、右新樋 水を以高殿村田地相養ひ罷有候処、右井手格別大キ成 中村之内ニ井筋有之、小キ砂留之井手御座候而右井手

水引取私共村と江之田地養水を関留、俄出水之節用水

ニ杭木弐百本余打並、其上土俵を積、 申上と奉存罷有候処、此度又<右川中井手筋江之新規(ママ) 下シ不申、村へ立毛相続難成、難義仕候ニ付、御願 田地養水関留相 可

五六

同国

同郡

木原

一 共 村

庄 屋

之候、 速取払 追而返答可致旨申候得共、 候様申聞 候処、 凊 八 申候者成程新規成義相 其後何之沙汰も不仕 違

候故、

度 ペ 対談仕候処、

清八申候者新規之儀ニ

候へ

申上候処、 不申候ニ付、高殿村御地頭植村出羽守様御役所へ 右之杭取払候義難成旨 御領分八木村清太郎元治杯と申もの取嗳ニ 一向横道成強気を申、 御 取放 願

不申、 罷出、 殊ニ七月十五日ゟ十七日迄右文言仕飛鳥川 彼是挨拶仕候得共何分高殿村我意ョ申罷有相 水 済

Ш 出候得共、 気之仕形ニ御座候得者、手差仕口論等仕候ハゝ如何様 筋 へ罷出土俵を積上ヶ水一滴も差下シ不申、 相手高殿村枝郷末へ迄太鼓を打呼付故、 段~強 右

中様御願申上候処、(〈脱カ) 之義可仕も難計様子ニ付、 故難申付候、 何方へ成 土砂方へ相抱り候義 共御願申上候様被仰渡候、 右之趣出 羽守様土砂御役 = 一而ハ 無之候 此節

さ当 惑仕罷有候二付、 醐村と申村有之候得共、 乍恐御願 庄屋庄三郎他行仕罷有 奉申上候、 尤私共村

総

地

X

稲作生立候太切之所、

養水を指留何分立毛相続不仕村

候ニ付得 御 願ニ 罷出不申

不残御召出御吟味被成下、 申上候、 養水相妨、 右之通少も相違無御座候、 右之趣被為聞召分、 村ハ稲作相続難成候ニ 何卒御慈悲を以右新規成井手 相手高殿村ゟ新規成義仕田地 相手高殿村庄屋年寄百性共 付、 不得止事 御訴訟奉

存候、 以上、

不仕候様被仰付被下候ハゝ、 杭土俵共不残取払樋取替、

是迄之通指上ヶニ仕新規之義 村と惣百性共一統難有

|可奉

宝曆十三年未七月廿七日

上品寺村 庄屋 三郎次郎

訴訟人

新賀村

庄屋 佐右衛門 代助左衛門

古 兵 衛

庄屋 勘 + 郎 小綱村

地 黄村 屋 甚

煩二付年寄又七 兵

五七

豊田村

庄屋 孫左衛門

新口村

庄屋 弥

木原村

庄屋

御奉行様

乍恐以書付御断奉申上候

木本村 弥右衛門

十市村

訴訟方

和 介

見瀬村

取嗳人

弥右衛門

返答方

四分村

甚三 郎

高殿村与下郷村々与水論出入之義、私共取噯被仰付

合

互ニ銘々相認候了簡書左之通、

訴訟方取嗳人了簡書

七

治 兵 衛

て可然哉、

、樋之義只今有姿弐尺ニ三尺ヲ、壱尺五寸ニ弐尺ニし

但願方へ壱尺ニ壱尺五寸

、杭之義者不残抜払候事 但シ川除杭として樋前ゟ弐拾間下ケ、

、井手上ヶ之義者土表壱表通ニ而可然哉、 但シ壱列、 袖杭弐間出し右之内江杭拾本打候而可然哉

右之通ニ而可然哉、

申三月十八日

返答方取嗳入了簡書

井手杭之義

除土砂留杭ニ相替可申事、 去未春打添杭者此度抜払候而右場所ゟ五七間引下ケ川 相過候得ハ指次第ニ致置可申候、 去~午春打候杭者醍醐村与及対談申上、猶十二ケ月余も

樋之義

候ニ付、此上者双方取曖人了簡書付を以相談可仕与申 奉畏、依之数度会談仕候得共、兎角了簡筋相分リ不申

五八

迄何共請負置

申度候、 之通以後ちゝめさせ可申候、尤聊成義ニ候得者伏替之節 蓋ニ引合候処弐三寸幅斗広ク相見江申候、此義古樋蓋 二三年已前伏替仕候処、細工人之心得違ニ候哉、古樋

見瀬村

弥右衛門

四分村

甚

三

郎

右之通

申三月十八日

候間、 頭様方御会談之上、双方挨拶人之者共了簡違却仕如何敷 右之通ニ而難相済候ニ付、 一致仕候様ニ被仰渡奉畏、再応対談仕候得共、兎 先達而御断奉申上候所、 御地

却申聞候所、 角前書之外難相寄、 相互ニ不承引ニ御座候而内済も相調不申、 致方茂無御座候故訴返之村々江乍違

惑ニ奉存候故、 殊ニ用水取引之時節ニも相成候得ハ指支等御座候而ハ迷 **乍恐以連印御断奉申上候、** 無調法之私共

一候へ者此上切者之余人江被為仰付候様御賢慮之程奉願

以上、

木本村

和

宝曆十四

申年四月

総 地

区

弥右衛門

十市村 助

御役所様

申四月廿七日上ケ

扣江

乍恐奉願口上

書

松平美濃守殿知行所

和州十市郡

上品寺村

和州十市郡 九ケ村

人御預り所 同州高市郡 醐

村

同

同人御預り所

膳

村

織田丹後守殿御預り所

同州同郡

賀

村

五九

同 人御預所

原

村

藤堂肥後守殿知行所 同州高市郡

綱 村

共

相手方兎角横道計申之相済不申、

其上論所

へ場所

神保備前守殿知行所 同州同郡

黄 村

佐藤三四郎殿知行所 同刕十市郡 田 村

藤堂佐渡守殿内分領下 同刕同郡 \Box 村

石村 < 庄屋共

有之候并手筋、 私共義同国高市郡高殿村を相手取、 往古有来候より近年格別大キ 同郡飛鳥川 成樋 = 筋 伏

被成下難有奉存候、 江水下リ不申、 月廿七日奉願候処、 **弁新規
ニ右川表
へ上表
杭木等打
之、** 立毛養育難成難義仕候ニ付、 其後双方御地頭表へ右出入御下 相手高殿村庄屋年寄被召出御吟味 下郷私共村 去未ノ七 々

> 取噯之義被申付、 市村和助、 被成下、 依之国元へ罷帰地頭表ゟ木本村弥右衛門、十 見瀬村弥 去秋ゟ此節ニ至迄段々取嗳被申候得 右衛門、 四分村甚三郎、 右四人江

及見二双方幷取嗳人立会候処、 樋表江引合申候 処相違仕、 古樋蓋之由三而持出候 当時之樋大 、キク 御座

故

候 違仕候故差当ヶ言葉も無之閉口仕罷有候、 全ク証拠ニ茂可相立所存ニ而持出候処、 先達而高殿 存之外相

来候上、地頭役人吟味見分も被致候事故、 村ゟ差上候返答書ヲ茂古来ゟ之寸法ニ聊も相違無之出 少茂相 違成

相違之儀者樋大工無調法ニ而寸法違候抔と申居候義何 義ハ不仕旨書上置候処、 取扱共取調候節、 右之通ニ而

済候義ハ有之間敷奉存候、 而茂 御 上へ申上候儀さへ 前後不残申上方ニ候得ハ、 全偽リを申儀と奉存候、 聊

万端乍恐御賢察被為成下候様奉願候、

=

共

難心得奉存候、

尤御地頭御役人相違之儘にて見分相

共立会居候而能存罷有候、

然ハ往古有来ゟハ年を経候

右之趣取嗳之者

六〇

儀迷惑仕候、 道を仕候者共御座候ニ付、 而 次第二大キ成樋二伏替申候儀紛 殊ニ新規ニ積候土俵杭木共論中ハいつ迄 下三而可仕様無御座乍恐難 無御座候、 ケ様之横

取嗳候而茂彼是と其儘ニ差置申候、 流水之分不残高殿村江せき入、甚勝手宜御座候ニ付、 私共義ハ右出入永

も有姿ニ差置候儀、

相手之者共ハ右有姿ニ致置候得

々 ニ

相成候程川上ニ而関留られ、

下郷江水下リ不申、

村

付時節ニ相成迷惑奉存候、 々夥敷立毛養育相成不申難義至極仕候、 先達而双方被召出候節ニも 殊更無程植

下郷 相手之者共申候者、 御地頭江相願候上仕候義故得取払不申段申之候、 、断も不仕新規之義仕侯段不届キ千万ニ奉存侯、 杭木土俵之義ハ新規之義ニ 候 得

江右之段被為仰聞被下候ハゝ難有奉存候、 京被成候義御座候間、 近比恐多奉存候へ共、 此節高殿村御地頭御役人中御上 何卒御慈悲を以高殿村御役人中 猶又相手之

> 宝曆十四 1申年

> > 上品寺村

三郎次郎

四月廿七日

庄屋

新賀村庄屋佐右衛門

介左衛門

吉

兵

衛

醍醐村 庄屋

庄

三

郎

木原村 庄屋 治 兵

衛

庄屋 勘 + 郎

地黄村庄屋 代年寄 平 三 郎

豊田村庄屋 代年寄 清 兵 衛

弥 七

新口村

庄屋

..................

「申五月 (端裏書)

御奉行様

京訴」

乍恐以書付御断奉申上候

下候ハ

村々惣百姓一

統

=

難有可奉存候、

以上、

総 地

 \boxtimes

者共被召出御吟味之上、

新規之儀共相改候樣被仰付被

六二

和州下郷九

ケ村

庄屋共

故 不埓千万二奉存候、 茂私ニ取計候義不相成義と及承罷有候処、 申 江 を付置申度候、 候而ハ一向毛付も不相成候間、 清八方江申遣し候ハ、 仕合甚難義仕候、 江再応御下ヶ被成、 申上候義可在之候、 御座候、 夥敷土俵を積、 和刕高市郡高殿村相手取、 此節下郷村々も田方植付之時節、 等閑二難仕置、 田方植付差支之義 此義其儘ニ差置候而ハ田方植付ニ差支候儀 高殿村よりも番人被差加江 惣而論中ニ論場ハ不及申、 流水を堰留、 去ル十二日惣代として下郷庄屋共 則去六日下取嗳人中も被及見候事 取曖中ニ 新井手夥敷土俵を積用水堰留候 論中論場之姿相替申候得 ハ勿論、 御座候所、 水論出入御地頭御役人方 下郷江水一滴も下し不 品ニより京都表江 村方により領水も渇 左様ニ流水堰 右論所杭木表 給候様ニ 右躰之致方 近辺ニ而 ハ 番 1御届 留

> 払 様ニ 候 此節立毛仕付肝要之時節ニ御座候故、 滴も水下シ不申難渋仕候ニ付、 処 り番人差置候、 存寄次第ニ当村よりも差加 此段左様ニ相心得可被申候、 候ハゝ土 候而茂、 不仕候仕合ニ御座候、 共、 論中ニ 被申付候、 領内八九分も植付相済申候、 一俵を相増、 論中故障ニ御座候得ハ右之趣 論中ニ而茂抜申きてハ成不申、 論場所 尤高殿村領分を下郷惣代庄屋共及見候 高殿村庄屋年寄被為召出、 手さし不仕様被為仰付 十分ニ流水堰留申 右之通重々我儘成義申下郷へ一 へ可申旨申候ニ 番人之義ハい 地頭方江相 下郷 御届 デハ 一 御下ヶ中ニ 儀 = 此上川水増申 土俵早 付 断 向毛付も得 ケ様共下 御 被 ヶ申上 座 申候処、 下 両村よ 候間 候 K 置候 御座 取 鄉

宝曆十四申年五月

難有可奉存候、

以上、

織田 松平美濃守殿知行所 和州十市郡上品寺村 庄屋 三郎次郎

间国同郡新賀村 丹後守殿御預り所 助左衛門

入候処、

清八被申候ハ土俵之義ハ下郷ゟいケ様ニ被

六二

総 地 区

> 同国同郡内膳村 庄屋 吉 兵 衞

右同断

同国同郡木原村 庄屋 治 兵

衛

同国高市郡醍醐村 庄屋 庄三 郎

右同断

藤堂佐渡守殿内分領下 同国十市郡二ノ口村 庄屋

佐藤三四郎殿知行所

同国同郡豊田村

同国高市郡地黄村神保備前守殿知行所 庄屋 孫左衛門

庄屋 甚兵 衛

藤堂肥後守殿知行所 同国同郡小綱村

+

郎

仰出、

取曖人迄茂御取替被下候得共、

何分下済熟談不

扣調候樣御取斗可被成、論所等迄御見分茂被成候樣被

行様
江御断被仰上候得共、再応御下ヶ被成、

何分下済

〇高殿村と下郷九ケ村飛鳥川筋水論済証文

明和三年四月

(天図近世文書)

奉差上済証文之事

得共、双方存寄行合不申、下済不相調候故、 和談内済仕可然、 水論之儀双方及異論候而者、 手高殿村被召出返答之儀被仰付、 未年、 御会談之上取嗳人等御差入被下、御利害等茂被仰聞候 頭御役人様方江御下ヶ被成候、依之御地頭御役人様方 和州高市郡飛鳥川筋水論之儀、宝暦十二午年同十三 下郷九ヶ村ゟ京都御奉行様江御願申上候処、 御憐愍之思召を以、右出入双方御地 諸費も相掛リ難儀可致、 御吟味之上、畢竟用 京都御奉

相調、 奉行様江御断被仰上候得共、又々御下ヶ相成、依之御 嗳人中ゟも御断申上候ニ付、 右不済不調之段御

 \vdash

地頭御役人樣方御会談被下、 御熟談之上私共初召出、

再応御利害被仰聞、 猶又下済御熟談之趣御書付を以御

見セ被下、 一旦下済仕、論所江双方立会相改候処、 右之趣双方得心:茂候者下済可仕旨被仰渡

又々下済不仕、其段御断申上候処、 去冬右之趣猶又不 互了管違ニ而

調之訳委細京都御奉行様江御断被仰上置被下候処、当

利害被仰出、 候間、今少ニ而下済不致段御残念ニ被為思召、 三月御地頭御役人様京都江被為召、 是非共不済仕候様ニと被仰出候趣共奉畏 水論之儀相互之儀 委り御

候、 依之双方得心和談不済仕候趣左之通、

樋前ゟ西打初杭木迄間敷改置候事、

済口ヶ条

樋前北之男柱 ゟ 打初杭木迄**、** 縄引通し 八間三尺六

4 打杭無之場所

但六尺三寸尺枝二而

抜払杭之事、

左之芝生有之所三間半杭木残、 夫ゟ西江打留メ杭木

迄間敷、

拾間八寸

之所之杭木、 不残此度和談之上抜払候事、

残杭木之事

六寸有之、右打初杭木ゟ西江芝生有之所杭木間敷、 右樋前男柱ゟ間敷相改置候処、 打初杭木迄八間三尺

三間半

此度和談之上相残候事、 但右三間半之東西留り杭ニ抜取杭之内ニ而丈夫成ル杭打

右芝手之次半間之杭抜取、 芝中残杭三間半之場所江

置候事、

間配り、 是迄之杭並ニ打之可申事、

西打留メ杭ゟ西川岸迄当時間敷、

六間弐尺

但去ル酉年新崩以前申改者四間也

論杭留リ之杭頭五間下江下ケ、 右残之杭丼芝手之次半間之抜杭之外、 四間之岸ゟ是間半宛四通打可申事、 土砂留之杭ニ横幅川 抜取候杭西側

中江右申改、

但

六四

此杭一代限リ之事、

東ニ而残杭頭ゟ西側土砂留メ杭頭迄、

間敷拾四間八寸

右川幅東樋男柱ゟ当時川岸迄、 惣間敷都合

弐拾八間三尺七寸余有之事、

土俵之儀者先規之通ニ候、用水差支無之様ニ相互ニ

可致事、

樋之儀古樋蓋之通縮メ可申事、

但、追而伏替之節対談之上縮メ可申事

只今有形樋寸法

内法 横巾 三尺 板厚弐寸六分

右樋蓋寸法

内法 横巾

此度論所双方和談済、口絵図双方村役人印形調為取

替置候事、

右之通此度双方未々百姓ニ至迄得心仕、 和談下済仕候、

年来御苦労ニ罷成候儀、 此上御公裁二相成候而者御奉行

総 地 区

> 方村々庄屋年寄百姓代連印を以、 仕、双方村方為取替証文取り遣り仕置候、然上者右一件 様御苦労之儀恐入候ニ付、得斗了管仕、右之通和談下済 二付、後来二至候而茂少茂申分無御座候、 済証文奉差上候所仍而 依之為後証双

明和三丙戌年四月

如件

十市郡上品寺村 庄屋 三郎次郎

A

年寄 宗 兵 衛 **(II**)

百姓代 勘 几 郎 **(1)**

同郡新口村

庄屋 弥

七

(11)

太 助 (A)

百姓代 源 匹

郎

(A)

同郡新賀村

庄屋 助左衛門

(1)

百姓代 藤 新 郎 七 (1) **(II)**

同郡木原村

庄屋 文

治

(A)

六五

百姓代 年寄 藤 四

郎

新 九

> (II) **(1)**

郎

庄屋 兵 衛

(A)

同郡内膳村

兵

百姓代 彦 四 (FI)

高市郡醍醐村

年寄 喜右衛門 庄屋 庄 三 郎 (A)

> 芝村嶋田清左衛門様 和尔土屋源吉様

郡山戸倉彦之進様

百姓代

平

(A)

(A)

同郡小綱村 源 三

勘

+

郎

1

百姓代

郎

百姓代 宗 次 郎 1

四

(A)

同郡地黄村

甚

兵

(1)

平

酉ゟ寅迄六ヶ年取米高書付

大和国高市郡神保三千次郎知行所

外拾四ヶ村

百姓代 新

(A)

兵 倒

十市郡豊田村

年寄清 兵衛

(11) **(II)**

孫左衛門

天保八年以降六ケ年

〇神保氏知行所六ケ年取米高書付

摂州 細井郡司様 京都 村田弥左衛門様 池尻 水谷文右衛門様

(土橋町・山崎伊平文書)

六六

高市郡高殿村

庄屋 清 年寄

八

(1)

市 郎 郎

百姓代 与

平

次

(II)

一、高三百八拾五石六斗三升壱合五勺 土橋村 大和国高市郡

一、米弐百拾八石五斗壱合弐勺四才同九戌年 一、米弐百五拾壱石三斗弐升三合弐勺六才天保八酉年 本途

同断

一、米弐百六石四斗四升九合七勺三才同十亥年 同断

一、米弐百五拾壱石三斗弐升三合弐勺六才同十一子年 同断

一、米弐百五拾壱石三斗弐升三合弐勺六才同十三寅年 一、米弐百五拾壱石三斗弐升三合弐勺六才同十二丑年 同断 同断

米拾壱石五斗六升弐合九勺四才

米七石五斗三升九合六勺九才 口米

夫米

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違無

卯八月

御座候、以上、

年寄 喜 郎 (A)

平 (FI)

庄屋 伊 兵 (11)

築山茂左衛門様 総 地 X

> 竹垣三右衛門 |様

御立会御役所

一、米百三拾七石壱斗八升九合五勺六才天保八酉年 一、高弐百三石九斗四合

本途

妙法寺村

一、米百弐拾九石九斗九升五勺六才同九戌年

一**、**米百五石三斗四升壱合四勺同十亥年

同断 同断

一、米百三拾七石壱斗八升九合五勺六才同十二丑年 一、米百三拾七石壱斗八升九合五勺六才同十一子年 同断 同断

一、米百三拾七石壱斗八升九合五勺六才同十三寅年

同断

小竹藪反別廿分

此取米七升三合五勺

壱ヶ所

米六石壱斗壱升七合壱勺弐才

口米 夫米

米四石壱斗壱升五合六勺八才

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相

違

御座候、 以上、

六七

総 地

右村

卯八月

年寄 伊 兵 衛

庄屋 勘 兵 (11)

竹垣三右衛門様 築山茂左衛門様

御立会御役所

御座候、 以上、

右村

年寄

助

(A)

同断 宗右衛門 (II)

竹垣三右衛門様 築山茂左衛門様 御立会御役所

、高百六拾七石弐升五合三勺

一**、**米九拾壱石七斗弐升弐合五勺七才同九戌年

一、米百拾五石壱斗三升弐合八勺三才同十一子年

同断

同断 同断

一、米百拾五石壱斗三升弐合八勺三才同十二丑年

米七石三斗六升壱合五勺

米拾弐石四斗三升七合四勺弐才

夫米

口米

六八

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違無

卯八月

同庄屋代

一、米百拾五石壱斗三升弐合八勺三才天保八酉年

本途 忌部村

一、米百八拾九石七斗六升八合弐勺九才同十亥年 一、米弐百三拾石四斗六升六合五勺弐才同十一子年

一、米弐百四拾五石三斗八升三合弐勺六才同十三寅年

同断

同断 同断 同断 同断

一、米弐百四拾五石三斗八升三合弐勺六才同十二丑年

一、米弐百三拾弐石九斗五升三合六勺七才同九戌年

一、米弐百五拾七石三斗六升四合九勺七才天保八酉年

本途

地黄村

高四百拾四石五斗八升六勺

一**、**米五拾七石九斗六升四合九勺三才同十亥年

一、米百拾五石壱斗三升弐合八勺三才同十三寅年

同断

同断

一、米三石四斗五升三合九勺八才	一、米五石壱升七勺五才
口米	夫米
一、小竹藪反別壱畝拾五分	外
五ヶ所	

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違 無 米九石三斗八升八勺五才

此取米壱斗

御座候、

以上

卯八月

右村

、米六石九斗六升弐合六勺六才

口米 夫米

御座候、以上、 右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違無

庄屋代年寄

年寄 喜 兵

衛 (A)

卯八月

右村

年寄

宗

七 (FI) (A)

竹垣三右衛門様 築山茂左衛門様

御立会御役所

築山茂左衛門様

竹垣三右衛門様

、高五百拾七石三斗五升

大窪村

一、米三百五拾五石八斗弐升弐合五才同九戌年 一、米弐百九拾五石五斗七升九合八勺七才天保八酉年 本途

一、米弐百七拾五石五斗三升七合四勺弐才同十亥年 同断 同断

地 区

六九

同断

同断

庄屋 助

御立会御役所

一**、**米百八拾九石八斗壱升弐合八勺八才同九戌年

一、米弐百三拾弐石八升八合六勺七才天保八酉年

本途

五井村

同断

高三百拾弐石六斗九升五合

同断

一、米百六拾石四斗壱升九合九勺七才同十亥年 同断

一、米弐百三拾弐石八升八合六勺七才同十二丑年 一、米弐百三拾弐石八升八合六勺七才同十一子年 一、米弐百三拾弐石八升八合六勺七才同十三寅年

総

総 地 区

一、米三百九拾三石九斗八升八合六勺四才同十一子年 同断

一、米三百九拾三石九斗八升八合六勺四才同十二丑年 一、米三百九拾三石九斗八升八合六勺四才同十三寅年 同断 同 断

米拾五石五斗弐升五勺

米拾壱石八斗六升九合六勺五才

口米

達無

夫米

御座候、以上、 右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相

卯八月

右村

年寄 又 兵 衛

(A)

1

御座候、以上、

九右衛門 (II)

築山茂左衛門様

竹垣三右衛門様 御立会御役所

一、米百弐拾弐石三斗壱升九合五勺五才天保八酉年 本途

山本村

高弐百三拾九石壱斗六升六合七勺

一、米百六拾九石三斗六升八合七勺弐才同十三寅年 一、米百六拾九石三斗六升八合七勺弐才同十二丑年

同断

同断 同断 同断

米七石壱斗七升五合

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相 米五石八升壱合壱勺

口米 夫米

違

右村

卯八月

孫 市 郎

同断 権右衛門 (I)

兼帯庄屋地黄村 平 (II)

竹垣三右衛門様 築山茂左衛門様

御立会御役所

七〇

一、米百五拾石八斗四升壱合三勺三才同九戌年

同断

一、米五拾九石八斗五升四合壱勺五才同十亥年

一、米百六拾九石三斗六升八合七勺弐才同十一子年

卯八月 右村	御座候、以上、	右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違	一、米八石五斗九合七才	一、米拾四石弐斗五升七合八勺三才	一、柴竹山反別弐反九畝分	此取米四斗五升	一、雑木芝山反別九畝五分	外	一、米弐百八拾三石六斗三升五合七勺后十三寅年	引一	了	一、光正九拾弐石弐斗五升八合壱才	引了(x) 一、 , , 一、 , , , , , , , , , , , , , , ,	可、米弐百五拾三石六斗三升五合七勺一、米弐百五拾三石六斗三升五合七勺	(R) 高四百七拾五石弐斗六升壱合
		己通相違無	出米	夫米	壱ヶ所		壱ヶ所		同断	同断	同断	同断	同断	本途	慈明寺村
一、米四石八斗五升八合八才	一、米七石四斗七升三合八勺壱才	外	一、米百六拾壱石九斗三升六合八才	司片三貨F 一、米百六拾壱石九斗三升六合八才 「1111年)	司十二丑年一、米百六拾壱石九斗三升六合八才三十一子年	一、米七拾七石弐斗九升八合八勺壱才后十岁年	司一文字 一、光祥 四拾壱石六斗八升四才	司九戈年一、米百五拾壱石九斗三升六合八才	(八酉年)	日合むロミト犬十二合善慈明寺	御立会御役所	竹垣三右衛門様		主國 長	年寄 長
口米	夫米		同断	同断	同断	同断	同断	本途	: 其 田木	村枝 村 村 村 村 村 村			Ė	大郎 助 @	兵衛

総 地 区

七二

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違 無

御座候、以上、

卯八月

右村

年寄 清

Ŧi.

郎

(A)

甚 助

新 七 **(1)** (FI)

兼帯庄屋五井村 助 (A)

竹垣三右衛門様

築山茂左衛門様

御立会御役所

一、高弐百弐石七斗三升三合

一、米百三拾石四斗六升四合七勺六才天保八酉年

一、米百拾六石七斗七升四合八勺壱才同九戌年

一、米百弐拾九石六斗九合六勺六才同十亥年 一、米百三拾石四斗六升四合七勺六才同十二丑年 一、米百三拾石四斗六升四合七勺六才同十一子年 一、米百三拾石四斗六升四合七勺六才同十三寅年

同断 同断 同断 同断 同断 本途 箸喰村

外

一、米六石八升壱合九勺九才

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違無 、米三石九斗壱升三合九勺四才

口米 夫米

御座候、以上、

卵八月

右村

年寄 善 次 郎

(EI)

庄屋代年寄 新 (A)

築山茂左衛門様

竹垣三右衛門様 、高弐百五拾三石七斗四升四合八勺 御立会御役所

一、米百四拾六石六斗七升八合三勺四才天保八酉年 本途

吉田村

一**、**米百四石壱斗八升六合四勺弐才同十亥年 一、米百三拾三石三斗弐升五勺壱才同九戌年 同断

一、米百四拾六石六斗七升八合三勺四才同十一子年 一、米百四拾六石六斗七升八合三勺四才同十二丑年 同断 同断

同断

七二

一、米百四拾六石六斗七升八合三勺四才同十三寅年

同断

外

米七石六斗壱升弐合三勺四才

米四石四斗三勺五才

口米

夫米

御座候、以上、 右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相 違無

右村

年寄 清 三 郎 1

同断 兵 (A)

圧屋 字 (A)

築山茂左衛門様

竹垣三右衛門様 御立会御役所

一、米弐百三拾八石七斗四升三合弐勺七才天保八酉年 本途

一、高三百八拾石六斗壱升七合弐勺

古川坊城村吉田村枝郷

竹垣三右衛門様 築山茂左衛門様

御立会御役所

一、米弐百三拾八石弐斗壱升七合弐勺弐才同十亥年 一、米弐百弐拾弐石三斗八升七合五勺七才同九戌年 同断

総 地 区

> 一、米弐百三拾八石七斗四升三合弐勺七才同十二丑年 一、米弐百三拾八石七斗四升三合弐勺七才同十一子年

一、米弐百三拾八石七斗四升三合弐勺七才同十三寅年

同断 同断 同断

米七石壱斗六升弐合弐勺九才

口米

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違無 米拾壱石四斗壱升八合五勺壱才 夫米

御座候、以上、

卯八月

右村

年寄 甚 六 (1)

同断 勘 兵 衛 (A)

庄屋 久 兵

一、米九拾四石弐斗三升八勺五才天保八酉年 一、高百六拾四石四升弐合

同断

七三

本途 大谷村

総 地 区

七四

一**、**米八拾四石九斗七升八合九勺三才同九戌年 一、米九拾四石弐斗三升八勺五才同十二丑年 一、米九拾四石弐斗三升八勺五才同十一子年 一、米五拾六石七斗三升九勺五才同十亥年 同断 同断 同断 同断 一、米百四拾弐石九斗六升六勺九才同十亥年 一、米百八拾四石三斗弐升七合弐勺四才天保八酉年 一、米百六拾五石八斗三升三合壱勺壱才同九戌年 高弐百八拾三石弐斗六升五合九勺

> 本途 畝傍村

一、米九拾四石弐斗三升八勺五才同十三寅年

同断

柴山反別六分

米四石九斗弐升壱合弐勺六才 夫米

壱ヶ所

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違無 一、米弐石八斗弐升六合九勺弐才 口米

御座候、以上,

右村

卯八月

年寄 佐 助

(EII)

嘉 兵 衛 (FI)

兵

(A)

築山茂左衛門様 兼帯庄屋土橋村 伊

畑反別弐畝拾五分

此取米弐斗

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違無 米五石五斗弐升九合八勺弐才

御座候、以上、

卯八月

右村

年寄 忠 兵 衛 (A)

喜 兵 衛 (A)

竹垣三右衛門様 御立会御役所

一、米百八拾四石三斗弐升七合弐勺四才同十一子年 一、米百八拾四石三斗弐升七合弐勺四才同十二丑年

同断 同断 同断 同断

一、米百八拾四石三斗弐升七合弐勺四才同十三寅年

同

断

見取場

米八石四斗九升七合九勺八才

夫米

口米

同断

築山茂左衛門様

竹垣三右衛門様 御立会御役所

一、米八拾石八斗弐升六合八勺弐才天保八酉年 、高百拾弐石弐斗四升三合

敞傍村枝郷

本途

一、米七拾壱石壱斗壱升六合七勺三才同十亥年 一、米八拾九石弐斗壱升四合弐勺三才同九戌年

同断 同断

一、米九拾六石三斗弐升弐合四勺七才同十一子年

同断

一、米九拾六石三斗弐升弐合四勺七才同十二丑年

同断

一、米九拾六石三斗弐升弐合四勺七才同十三寅年 是者京都西本願寺掛所倍光寺御座候ニ付村方ゟ掃除 同断

其外仕候間、前々ゟ夫米口米免許被成下候

右者去ル酉ゟ去寅迄六ヶ年本途米高其外書面之通相違無

卯八月

総 地 区 御座候、以上、

右村

築山茂左衛門様

庄屋

文

六 (II) (A)

年寄 同断

利 善右衛門

兵 衛

(1)

竹垣三右衛門様 御立会御役所

O畝傍山、松、 天保十四年八月 雑木立林仕訳書

(天図近世文書)

松雑木立林仕訳ヶ書

三拾町六反壱畝拾五歩

此分取箇無御座

林松雑木立壱ヶ所畝傍村之内

字宮山下々畑

此訳

七五

三反三畝拾歩

吉 田

但高三ッ八分取弐升八合五勺

口米

此山手米壱石三升 五町壱反三畝歩

Щ

本

村

外ニ三升九勺

口米

此分米弐石五斗

字宮山小松山

此山手米壱斗九升

壱町五反五畝歩

外ニ五合七勺 口米

字峯山小松山

此山手米七斗三升

三町六反四畝五歩

慈明寺村

但元録十三辰年御陵御改之節、右之内四升七合

八勺引ケル

六斗八升弐合弐勺 弐升五勺

口米 納米

字峯山小松山

九町歩 此山手米壱石八斗

大谷

村

外ニ五升四合

口米

村

字峯山小松山

同

村

字峯山小松山 八町歩

畝

傍

村

此山手米壱石六斗

外ニ四升八合 口米

字西辻小松山

弐町九反六畝歩

此山手米七斗四升

同

村

外ニ壱升五合壱勺七才 口米

右者

候、尤納米之儀者前書之通年々村々江相渡、 公儀御小物成場所ニ而、 先前ゟ三千次郎方ニ致取扱来

右村方ゟ

姓持二而者無御座候、以上、 御支配大津御代官石原清左衛門様江為相納候得共、百

七六

〇葛本組合村ゟ上納御用金取調帳	天保十四卯年八月
	水谷新吾郎 」
	右之通御上納仕候
石原田村	庄屋 儀 兵 衛同村納入

(葛本町・河合正義文書)

慶応元年閏五月 御用金上納取調帳 慶応元年 扣

古 備 村

身元懸り小前一高懸り

同

金百三拾八両壱歩

丑閏五月

年預 庄右衛門

右之通御上納仕候

合金弐百六拾四両壱歩

同村納人

庄屋 清

次

郎

膳 夫

金百弐拾九両壱歩三朱

合金弐百六拾七両壱歩三朱

総 地 区

村

身元懸り小前一同高懸り

金七拾七両壱歩 合金百四両壱歩

身元懸り小前一同高懸り

前同断

同村納

人

庄屋 忠

兵

衛

金四拾弐両

身元懸り小前高懸り

一同

出

合

村

合金五拾五両

前同断

金弐拾弐両三朱

合金三拾四両三朱

前同断

庄屋 源 同村納人

助

出垣内村

身元懸り小前一高懸り

同

同村納人 孫 助

庄屋

七七

総 地 区

` 金四拾両弐朱

合金六拾両弐朱

右之通御上納仕候

身元懸り小前高懸り 同

同村納人 庄屋 勘 兵

衛

下八釣村

身元懸り小前高懸り 同

金四拾両三歩三朱

合金五拾八両三歩三朱

右同断

同村納人 庄屋

甚 太 郎

飛 弾 村

身元懸り小前一高懸り 同

金弐拾五両三歩弐朱

合金三拾壱両三歩弐朱

同村納人

明治四年

右之通御上納仕候

庄屋 喜 兵 衛

葛 本 村

金弐百三拾五両三歩三朱

身元懸り小前一同高懸り

橋

本村

前同断

合金四百弐拾三両三歩三朱

同村納人

七八

庄屋 与右衛門

惣合金千三百両

通村々ゟ御上納仕候、 右者此度御用金被為仰付、 此段御届奉申上候、 当組合村々取調候処、

以上、

前書之

日

慶応元年

丑閏五月十一

御預御役所 高取

萬本村

年預

庄右衛門

L-

〇御管内村々区分並戸長副控帳

明治四年八月

(醍醐町・森村庄文書)

(長帳)

御官内村々区分 對 控帳

辛未八月

戸高

長取

第

右 副 狛 右 戸 長

猪

十

土区

第

区 松田薩森吉清 水谷 井庄 广廖 村 村 村 村 村

田 井 嘉 八

土額 上 下 覚寺 子嶋 子島 郎 村村 村 町 村

葛上郡 三 三 区 五 四 三 車兵

木 庫

村 村

総

地

 \mathbf{X}

山

第 \boxtimes 右 副 喜 右戸長 多村喜 木久八

郎

 丹
 谷
 市南市
 佐
 藤
 羽

 財
 田
 尾
 田
 井
 内

 財
 村
 村
 村
 村
 村
 村

五吉 区野 郡

第 六

郎

第

八

区

西区 寺 妙 与 越 親 新 根 音寺 成 坊 柿 城 村 村 村 村 村 村 村

右戸 安 長 田

四

郎

見

瀬

大 真 桧 栗 大 阿 平 御 部 根 軽 弓 田 園 前 原 田 Ш 村 村 村 村 村 村 村 村

右 戸 木 長 村 今 出

忠

惣 河^里 合 方村 村 = 八 郎

七九

右副 米 総 田 田 三十 地 区

亚

郎

+ + = = 七 五 九 区 四出和石 木 別 法 高 新 四 Ш 殿 町 条

村 村 村 村 村 村 方

> 野沼 合 北小縄八 木 房 手 木 郎 郎 村 村 村 村 郎

林 半 三 郎

鳥 釣 山 原 村 村 村 村

小 飛

右戸 森 長

村

庄

市

郎

東

八

四六

屋 田

方

第拾三区 祝島岡 庄 村 村 村 村

右副 真 右 戸 長 井 Ш 冬畑栢稲尾入上細上 弥 次 野 森淵 曽 谷 川居 五. 平 平 村村村村村村 村 村 村

八〇

〇醍 翻組 村 々決算並人員集金覚

明治六年一月七 (醍醐町・森村庄文書)

覚

金三円

同六拾

Ŧi.

宇陀紙三品代美濃紙上半紙

戸 但籍 型シ拾銭宛標紙千五字 百枚代

同拾 Ŧ. 円 四 拾

一日ニ付拾四銭宛認雇人三人工料百拾工!

分

一飯五銭ヅ、右雑用一日ニ付十五銭

一泊弐拾銭中飯拾銭御本県出勤十五日

同 同 八円五十弐銭五 四円五十銭

同

九円

三十日、一泊弐拾銭中飯拾銭土佐御出張所江出勤、郡中会談用

同

拾六円五

拾

厘 区六ケ村諸入費村々役人下調ニ付

壱工ニ付三十五銭飯込人足賃六工分

同

、弐円拾

銭

金五拾九円六拾七

但シ壱人前ニ三位銭五厘 銭五厘割

右之通立会取調候処相 違無御座候、 依之連 即 仕 候 以

総 地 X

上

明治· 上六癸酉. 月七日 年.

醌

戸長 副戸長 醐

音

羽

森

Ш

喜 又

八 治

郎 郎

(A)

法花寺村

戸長 副戸長 藤 関 本 本 茂

八

郎

(A)

高

長

平

副戸長 塩 見 弥

治

郎

(II)

戸長 同断 松 喜 多 良 郎 平

(A) 1

別 所村 副戸長 松 田

(無印)

戸長 藤 武 八 郎

(無印)

吉 \blacksquare 八

上飛弾村

副戸長 米 田

Ŧ.

平

戸長 Ш 本弥 八 郎 (無印)

弾 副戸長

飛

Ш 中 利 郎

萩 弥 亚 (A)

增 池 谷 田 文治 平 五. 郎 郎 (A)

八

区

右戸長世話取扱

村 庄 市 郎

惣人員千七百五人 永六拾七銭五厘此金五拾九円 三銭五厘宛 戸籍ニ付入費高

此金八円八十九銭

人員

弐百五拾四人

醍 醐

村

此 金弐円六拾六銭 同

七拾六人

法花寺村

金拾三円四拾銭五厘 三百八拾三人 高 殿

村

同

此

此四円三拾七銭五厘(金融力) 百弐拾五人 別 所

村

`

同

六拾人 上飛弾村

`

同

同 此 金弐円拾銭 八百七人

/金五拾九円六拾七銭五厘 此

·金弐拾八円弐拾四銭五厘 下無興村

〇深田溜池八ケ村規定書

明治十三年八月

(慈明寺村・細川弘光文書)

明治十三年八月

深田溜池規定書

高市郡深田池郷中 大和国第四大区二小区

字深田池総合反別六町弐反歩 深田池郷村中規定盟約 書

官有地池敷反別五町

?八反歩

兹ニ登録候事 成他ニ記入無之為念 村地図ニ悉皆記入相 という。

此訳

反別弐町九反歩

久米村所轄 畝火村所轄

池尻村所轄

民有地池敷反別四反步

反別壱町四 反別壱町四反五

反

五畝 畝歩 步

八二

此徳米壱石八斗九升弐合九勺

反別三反三畝歩 久米村民有地

此改正定約米壱石弐斗五升

反別六畝歩 畝火村民有地

此改正定約米四斗四升弐合九勺

此改正定約米弐斗

反別壱畝歩

池尻村民有地

右民有地四反歩之儀者、元池床預リ米三石七斗八升五合

八勺、池郷中ョリ久米村畝火村池尻村之三ケ村迄、 従前

蒙リ候ニ付、 渡来候処、明治八年地租御改正一般地税減租之御仁旨 池郷村ョリ民有地池敷所持之三ヶ村迄照会

協議之上、 前記載之通、米壱石八斗九升弐合九勺、 池床元預リ米総高之内、 半額減米之 熟談相 池郷村ョリ

三ヶ村迄、 定成米左ニ記ス 年々可相渡決議ニ付、 則池敷米及各村迄可渡

、米壱石八斗五升九勺 畝火村渡米高

地

X

内訳

米四斗四升弐合九勺

民有地池敷米前記定高

米七升八合 元年貢興内

米三斗

米壱斗壱升五合

植板挿稜人足米

新通井興内 字宮ノ後宮ノ前

荒崩興内

米三斗五升

米三斗壱升五合

字井手ノ上土取場年貢米

米三升

米弐升

池用ニ付帳簿記載手数米

字大井手東側田地弐坪荒興内

字大井手板掛外シ人足興内米

但民有地池敷米前ニ記載ス定高

、米壱石弐斗五升

久米村渡米高

米弐斗

、米六斗九升八合弐勺

池尻村渡米高

内訳

米壱斗五升弐合四勺

米弐斗

字込通井興内米

民有地池敷米前ニ

記ス定高

스

八四

米弐升五合八勺 元年貢分與内

米五升

米壱斗五升 米壱斗弐升

字通井與内米

元年貢諸掛リ物ニ付興内米

水込人足賃米

内訳

米三斗三升

山本村渡米高

米弐斗

池用ニ付帳簿記載手数米

字大井手板掛外シ人足與内米

字ツユマタケ上戸樋ニ付荒地興内

、米七升 四条村渡米高 米八升 米五升

但池出水之節見廻リ興内米

、米弐升〇七勺 大久保村渡米高

但、字白土花通井年貢元四升壱合四勺之所、民有地池

熟議相整、弐升〇七勺可相渡定約

敷米ト同様、地税減租ニ付、

協議之上半額ノ減米、

右之通、 就而者、 郷村中一同協議之上、定成米取究示 每年池郷村吏立会、郷費計算之際、 談

前記 相 整

反ノ上反別六反歩

取扱候事

定メ米時之米価石代相場ヲ以、

六ヶ村迄無滞渡シ方可

、池郷各村、 反ノ上掛リ、 田面水掛総反別、

且大井手之上下ョ以、

池掛り田地総反別四拾七町三反歩八ヶ村 反ノ下掛りト、 名称区分左ニ

但大井手ノ上掛リョ以、 反別拾弐町六反三畝歩 従来反ノ上ノ名称ョ有ス井手 反ノ上掛リ

水、不掛故ョ以、 諸掛リ米ノ内、壱反歩ニ付、 五合

反別三拾四町六反七畝歩 宛之引米スル事

但大井手ノ下掛リナルヲ以、 従来反ノ下ノ名称ョ有ス

反ノ下掛リ

増米スル事

井手水掛リニ付、

諸懸り米ハ壱反歩ニ付、

五合宛之

池郷各村水掛反別左ニ

池 尻 村 村

反ノ上反別四町三反弐畝歩 久 米

一反ノ上反別六町九反四畝歩

畝火村

大久保村

従是下掛

反ノ上反別七反七畝

一反ノ下反別壱町七反五畝歩

大久保村

一反ノ下反別九町八反八畝歩 山 本 村

一反ノ下反別三町七反三畝歩 慈明寺村一反ノ下反別拾五町八反九畝歩 四 条 村

前記反別各村従来水掛ニ付、水割之儀者、水賦帳簿

記

載之通、

遵守自恣無之様可致候事

、当溜池定式諸費及水割費修営繕臨時入 費 等 之 儀

方相違無之旨ヲ記シ、該帳簿ニ捺印可致候事賦課シテ、速ニ受払可致、尤立会之者、必計算割賦者、毎年池郷八ヶ邨立会諸費精算簿ヲ製シ、郷村迄

上、着手ヲ為シ、該費金者、池郷中水掛リ反別ニ賦修営繕ノ箇所生シ候際者、池郷村吏立会協議決定之、溜池樋管弐ヶ所、及池浚堤防修営繕、大井手井路

総

地

X

課徵集可致事

地ト民有地ノ二種ヲ混淆シテ錯雑タリ、郷村ノ多キニシテ、各村耕地相続致来陳ルニ、該池地床ニ官有右、深田郷溜池之儀者、往古ヨリ八ヶ村之共有養水

キ狐疑ト狡猾ニ渉リ、 憤起スルモノナリ、明治戊辰ス、之レ郷村中相互ニ共和一ナラスシテ、隔意ヲ抱

実地之錯雑トニ

拠リテ、

良モスレハ葛藤之萠ヲ生

祖之御旨趣、国朝之鴻恩重大ナルヲ不知ナシ陳ハ、之御維親御訂正之令厚ク、同八年地租御改正一般減

目恣私情ニ流レ一聯郷村ニ事物之闕ク事ヲ覚エサラ民者皇国之民ニシテ、 一邑一郷モ俣一家ナリ、何リ

ヤ、

己ヲ責己レヲ顧ニ、

淳直之道ヲ履行スル

時

私情之論端ヲ開ク村方有之候得共、原被ニ互ル入費ヲ有シ幸福ニ至ル、因テ、爾来此溜池ニ付、 新変及不明、葛藤之論ナク互ニ補育協力ヲ施行セハ、広益

約聊違失無之様、 村内通牒シテ、 永延 親睦共 和可悉皆発言之村方ョリ弁償支出可為致決議ニ付、 此規

Ŋ

明治十三年八月

畝

火村

致, 地図ニ 致ニ書上為致、則地引図ニ於テモ、畝火村所属之 地租御改正之際、畝火村ョリ池反別五町八反歩一 但官有地之儀者、三ヶ村之所轄ニシテ、 ナルニ付、該三ヶ村及池郷村協議之上、 為其郷中一統連署捺印候者也 相顕シ在之候間、郷中之レヨ可存事

大和国第四大区二小区高市郡

総代 組頭 植

田忠次

郎

(11)

(A)

米村 吉 村 伊 平

久 総代 増 井

組頭 小 松 半 治 郎 (A)

市

 \equiv

郎

尻 村 総代 中 西 善

太

郎

(A)

池

組頭 若 林 源

七

(A)

前書之通協議確定ニ依リ奥書候也

大久保村

頭 竹 竹 中 中 久 次 郎 (I)

与 八 郎 (A)

> 山 本 総代 村

村

頭

若 高

林孫三 岡

郎 平

(A)

与

兀

明治八年 区域混淆

総代 牧 本 徳

 \equiv

郎

(A)

組頭 宮 下 与三 郎 (A)

慈明寺村

総代

細

Ш

長

三

郎

(A)

組頭 松 室 四 郎 1

久

総代 新 寺

田

村

松 村 七 (A)

組頭 Щ 崎 惣五 郎

(11)

条村

(1)

嗳人 宮下与 総明寺村 三田 川 \equiv 郎

取

長 三 郎 **(II**)

同

戸長

第四大区二小区

柴

田 嘉 郎 (11)

八六

(八木・北八木)

O大捉三郎島地売券

長禄四年十二月二十六日

(飯貝・本善寺文書)

八木辻井ヌイスミ(端ウラガキ)

売渡 島地作識新券文事

右件畠者大捉三郎雖為先租相転之□領、□(世)(長)(私)

合壱反切者、字北ハホリマテ」

者彼方へ沽却候処実正明白也、 而依有今要用直銭壱貫文ニ限、永代阿」 可有他之違乱」

妨候者也、 仍為後日証文状如件、」

長禄三年 庚辰 弐月廿六日(四)

八木地

X

売主大捉三郎 (筆印)

O阿茶五郎屋敷寄進状

文明四年五月十二日

(飯貝・本善寺文書)

買主阿者五郎

奉寄進 屋敷事

ホクヨウアリ、其外ハ諸公事一粒も不可有、」合一所 南限道、西ハサヰメ、北ハ堀北堤マテ、公事[__]」在八木辻戌亥角字クシノワキ、東ハ[__]

右件之屋敷者阿さ五郎相伝之下地[____、(^^^)

然依有子細二、戍亥角之道場者永代奉」(力)(△≥)

子細、不可有違乱煩他之妨ニ候、 仍而後日」 寄進者也、然上者於此下地者雖為何様」

支証文永代奉寄進状如件、」

文明四年壬辰五月十二日

八木 (生)や

阿茶五郎

八七

(裏書アリ)

寸、丁西一丈、丁西へノコルフン二尺八寸ニトヲノサ八木ノ道場ノコト 東ノ 丁八尺、 中ノ丁二ケン 六尺五

カイアリ

八木イヌイヤシキノフミ也」

〇寺田氏血脈続誌

(江戸初期写)

(寺田勝治文書)

(*前省)

——宗清 寺田新五郎

奉二仕越智玄蕃頭利明公一

日+而為言*定紋;如晶、于然退;居于和州,以来為主*田房河州在、世"為言緩山池重覆;得;晶壁"、則穪言平。故母方苗字寺田用、之、先定紋靏之丸、永禄、年父宗故母方苗字寺田用、之、先定紋靏之丸、永禄、年父宗 越一天正十一年六月;出勤;于越智殿之舘、賜;於八木

号音級光義達音

光広 二男寺田勘右衛門

有:"御懇望」而譲、之、従、夫以、田徳、為、渡世、室郷、所持之武具馬具従、高取城主脇坂公之御家中、臣公之成、御代、于爰寺田一統、者随、于越智公:大臣公之成、御代、于爰寺田一統、者随、于越智公:大臣公之成、御代、于爰寺田一統、者随、于越智公:大臣公之成、御代、大田、

八八八

年八月三日行年四十九而没³、号₁華月妙蓮大姉 出入于 紀伊公云々、于時光広夫婦自為二於画像 行年六十七而卒、号:1西念光広居士1室^慶長十三 而伝:于後代:云、 于時寬永七年庚午十二月十日、 丼衣服大小吒難」有為"頂"戴之、依"其由所"而為" 公和州御出馬之砌于私宅、而御紋附惣金三宝土器 時慶長十九年十二月二日、被、為、有ハ及御ハ源家康 半左衛門者出:1于忌部邑,而為:1田地支配,云々、 者従二菊亭御殿1被、下婚姻、 而有三男子四人,一 于 男

朋継 寺田半左衛門

"入二武門、同国戒重屋鋪雖、奉、仕二織田公」病而 氏娘萬喜娶、之、有小男子二人、一男寺田喜兵衛再

誉玄徹、然。後住::于念仏院、改:於寺地:為:諸堂 於1当麻1為1剃髮1為11江戸増上寺所化、于後号11諦 蟄:居于八木郷:畢、二男小字千代吉者入:于仏門 従八木郷為…忌部邑退居,而為:出百性;、 妻、布施

> 之 皆建、父朋継者雖其有其所持田徳」于為二両子1失」 子八月三日、行年五十六而死、号·清寿、 八日、行年七十二而卒、号二釈教智、妻、万治三年 剩無:相続人:及:老病、于時寬文元年丑七月

宗貞 寺田喜兵衛

号三長誉利的 年未十一月十九日、 行年七十一而没:: 于親里 | 号:: 妙祐,` 夫宗貞者同四 雖、娶、之病中離縁、 屋鋪、病而蟄、居于八木郷、妻、同家中井上氏娘波留 奉仕:|織田公||性得嫌||野業|||好|||仕官|出|||勤于戒重 而後至三元禄元年辰八月九日 行年 八十六而卒二于八木郷

〇寺田氏大系図

(正徳頃)

(寺田勝治文書)

(*前省

第八世 安見九郎光儀

八木地区

八九

室、同八乙丑年三月十二日行年四十九而没、 奉;;仕畠山尾張守高政公被任美作守;于時永禄六年 癸亥 十二月十日行年五十四而卒、 号:清巖院親照居士;。 号二教誓院

到林大姉

第九世 安見新七郎宗房

卒、。号: 林光院宗房。室、家之娘而産:於男子四人:則 妙義ト云。記言右|尤河刕在世之由来者血脉続誌第二ノ 雖;為其性畠山氏;為;;安見家養子;于後退;;居于和刕八 木駅云々。于時慶長二丁酉年三月晦日行年 七十 三 而

卷"委,記"故略之云々

寺田新五郎宗清

出勤、同十二年甲申十月三日利明公卒去。 血脉読誌二巻父宗房代"記」之畢。 天正十一年六月始而 奉: 仕和刕越智玄蕃頭利明公 | 從是寺田氏改易之由来者 同十三年二

月十六日筒井定次公伊刕"国替利明公子息利国公伊刕"

御共、依之寺田宗清同引越、

同年五月獺瀬ノ城苦戦

宗清行年二十五而討死、 号三釼行義達

九〇

寺田勘右衛門光広

第十代 慶長十九年十二月二日被為□入御東照宮様和刕路御出(宣力)

馬之砌云々、 于時寛永七寅午年十二月十日行年六十七 産言男子四人こ云々。 而卒、。号、西念光広居士。室者京都従菊亭御殿被下、 于時慶長十三戊申年八月三日行年

四十九而没。号三華月妙蓮大姉

寺田半左衛門朋継

任二同郡忌部邑而為業於耕作一云々于時寬文元丑年七月 八日行年七十二而卒る。 号:釈教智:妻者布施氏娘、 万

治三庚子年八月三日行年五十六而死。号二清寿

寺田喜兵衛宗貞

元禄元年戊辰八月九日行年七十一而死、号二朗向妙祐 誉利的[°] 時元禄四年辛未十一月十九日行年八十六而卒"。号:長 戒重御屋鋪奉仕織田公1然処多病而蟄1,居于八木邑1,于 妻、同家中井上氏娘為病中離緣而没言于親家

寺田勝助正次

真誉栄林;
為郡山城主 本田大内記殿 池床替地争論而得;於利,下為郡山城主 本田大内記殿 池床替地争論而得;於利,下

寺田新之烝宗為

寬永廿癸未年正月五日没、号l.栄光院昌誉宗珠善女l.二月廿四日卒z。号勧了喜誉友方、 室者田中氏娘喜智、奉仕藤堂和泉守、于後任l.八木邑l云于時承応二癸己十

寺田伝右衛門宗成

邑退居罷有候。新知弐百石寺田伝右衛門・記畢*于然菅于古記間宮三郎兵衛様浪人寺田勝烝躮当国高市郡八木世上憚ザ而伯父正次之為u養子ı而奉仕于植村公。依之取ı就中寛文年中宗成者新之烝宗為之雖,a為実子! 有u取 就中寛文年中宗成者新之烝宗為之雖,a為実子! 有i

癸己年正月晦日没ス。号言信院法誉貞寿比丘尼」 」照院心菴友甫居士、、室者 石嶋氏娘セ米、 于時正徳三照院心菴友甫居士、、室者 石嶋氏娘セ米、 于時正徳三点享四丁卯年九月廿七日宗成行年五十八而卒、。号 月

寛文九年十二月五日 の金三郎家屋敷売渡状

(河合鋭治文書)

売渡し申家屋敷之事

替り御座候共、此家屋敷ニおいて、一言違乱妨有間敷者所実正也、縦天下一同之馬借、徳政、又ハ御国替御給人右之家屋敷ハ依有今要用、銀子三百拾匁ニ永代売渡し申合壱ヶ所ハ西弐間半八尺(南ニくい有)御年貢高壱貫

寛文九年

也

為其後日之支証文如件、

酉ノ十二月五

うり売 金三郎 (花押)(ママ)

庄屋三郎二郎@

八木地区

九一

八木地 X

北八木村土は しや

長九郎殿旨

〇村々困窮荒地起返銀寄托褒美通達書 (江戸初期) 未四月

其方儀去ル辰年角倉与一支配所之節、

和州村々之内連々

(河合鋭治文書)

段等之手当として、銀三貫五百目差出、 及困窮、手余荒或者村惣作地相嵩候ニ付、手余地起返手 功二致候二付、

年壱割弐分之利足を以諸家在々江貸附、 二相渡候旨、 与一方ニ而江戸表江相伺処、(傍晩カ) 右利銀を以手当 去年二月御下

様申上処、 仰付候間、 知相済、 則伺之通取斗罷在候処、 右出銀仕候段、 右出銀寄持之筋二付、 寄持之旨誉置候様、 其村我等御代官所ニ被 御褒美之御沙汰御座候 此度被仰

未四月

渡候間、

可得其意候、

木 宗左衛門

和州十市郡北八木村

O山川御巡見使通行被露回状覚

貞享四年八月

(天図近世文書)

貞享四年丁卯八月十九日両八木村ゟ出シ申候

各々様方御披露

村々早々御廻シ

覚

山川御巡見様御衆中、

明廿日 二八木村御昼休之由,

次、 同初瀬村ニ御泊リ被為成候由、 桜井村迄直ニ通り申候村次ニ仕候儀、 就夫八木村二而人馬御 速々可仕と

書之下:村高を御書付ニて印判御居、(歴カ) 奉存如此二御座候、 村々何茂御同心被成候ハゝ、 先々江 御廻 右村 シ可

以上

被成候、

留り之村ゟ八木村江此廻状御返シ可被成候

両八木村

庄屋印

卯ノ八月十九日

九二

年寄庄九郎江

年寄

木原村印 醍醐村印 高五百弐拾八石三斗六升三合 高六百弐拾八石八斗弐升

山之坊村印 高三百七石七斗

石原田村印 高四百九拾八石四斗五升五合

此領内先年を役儀掛り不申候由

西之宮村印 高三百五拾八石六斗三升 膳夫村

大福村印 高千六百石

新堂村印 高六百六拾壱石四斗六升三合

戒重村印 高弐百八拾弐石五斗三升

O北八木村明細書写

(正徳・享保頃)

(天図近世文書)

明細書

北八木村

和州十市郡北八木村植村出羽守領分

、本高百三拾九石壱斗六升三合 去々申年御取米四拾四石五斗九升九合

右之内屋敷高拾八石八斗七升八合 去酉年御取米五拾壱石弐斗五升

田数五町弐反八畝

畑数壱町五反三畝余

御高札六枚

親子兄弟

毒薬

八木地区

九三

切支丹 何事によらず

火を付者

人売買

氏神恵比須神社

宗門毎年八月御改御座候 御朱印寺社無御座候

稲荷大明神

每年祭礼九月廿六日

家数百五十軒 寺弐ヶ寺 内浄土真宗 円明 立教 寺寺

日傭続仕候百姓間間ニ売買幷

人数合五百六拾壱人

内 女弐百九十四人

新地荒地無御座候

切支丹類族無御座候

` 馬弐疋

牛無御座候

当年麦作六歩程ニ御座候

酒造高弐百石

北八木村庄五郎

内三歩一造、六拾六石六斗六升六合六夕

右之通相違無御座候以上

庄屋 弥

重 郎

同断

北八木村年寄

小右衛門

庄 九 郎

O南八木村四十二人真宗 二改宗願

元文五年三月

(飯員・本善寺文書)

口上書以御願申上候

、私共儀浄土宗ニ而高市郡八木村国分寺旦那ニ御座候

中違布之儀御座候故、 処、兼而浄土真宗ニ帰依申度罷在候処、此度国分寺旦 幸之儀ニ奉存、改宗之願届 三御

九四

座候、 座候得共、 依之貴寺旦那ニ御願申上候、 何分今般改宗仕度候二付、 尤御辞退之儀茂御 達而御願申上

仍而連判以願上以上、 元文五庚申年三月

北町分

与 兵 衛 **(1)**

兵

(A)

清 清 甚

兵

衛 吉 介

他出 (I) (II)

兵

乾西口丁

両所分

七

七 九 吉

兵

孫 四 郎 (1)

又 七

即

兵 兵 兵 兵

衛 衛 衛 衛

他出 (A)

(1) (11)

印

惣 久 八 権

助

兵

七

長兵衛 後家(無印

七

佐兵衛 後家 他出

五. 四 庄 嘉 妙 太兵衛

兵

[良兵衛

九 兵

郎 衛 信 後家

(1) (II)

八木地

区 **(II)**

> 字 又 三 兵 郎 衛

> (I) (11)

東町:

与

兵

平 長 兵 四 良 衛 (11)

清 兵 衛 (1)

源 四 郎 (II) 与

兵

衛

(I)

吉 兵 衛 **(1)**

御役人中

寬保二年六月五日

O 南八木村 卅九人 真宗 ニ返宗 一

札

(飯貝・本善寺文書)

乍恐差上申一 札

> 平 四良兵衛 七 (1)

藤 兵 衛 **(1)**

吉 \equiv 郎 (II)

伝 助 印 乾

茂

兵

衛

即

乾 ゆ り (無印)

乾奥伊 兵 衛 **(1)** (11)

乾 合四拾弐人 つ た

九五

私共儀浄土宗南八木村国分寺旦那二而御座候処、右

様兼帯所南八木村ニ御座候留主居伯宥坊ョ以、 国分寺去ル未年無住ニ罷成、後住之義及出入、 本善寺 去ル申

被下、浄土真宗ニ改宗仕候、其後国分寺住持私共願之 三月右之訳申入候処、御聞届之上本善寺様旦那ニ被成

願申上処、早速御聞届被遊被下難有奉存候、然ル上者 通二罷成候二付、代々之宗旨之儀ニ御座候故、 本善寺様江茂自今与力同事ニ御馳走可申上候、 其段御 為其連

判一札差上申候、以上、

寬保二戌年六月五日

卅九人惣代

平兵衛印

長四郎印

清兵衛即

本善寺様 御役人中

O金台寺伯順他行延期願

九六

(欠年) 五月廿四日

(飯貝・本善寺文書)

口上之覚

私儀先達而為学行他国仕度段奉願候得共、 少々指支之

奉存候、 儀出来、 一応御願申上候儀、 路銀等手支申候付、 右躰之儀申上段、 右手番仕候迄暫致延引度

上候、右之段各樣冝御取合奉願上候、以上、

入奉存候得共、差当り候難渋ニ付不得止事、

此段奉願 近頃恐

午五月廿四日

金台寺

伯順

(花押)

随円寺様 吉原清記様

延享年間

O寺尾勤録、南八木村明細

、高四百六拾五石壱斗

(大福・広吉寿彦文書)

八木村

内 。弐石四斗弐升九合 。七石壱斗四升九合 弐石五斗壱升五合 出水床共荒引 煙亡高 大工高 御制札 村々出水池三ヶ所 忠孝毒薬切支丹

残四百六拾弐石五斗八升五合 毛附

此取米四百弐拾石九斗五升弐合 九ツ壱分

高六斗

此定取米三斗

新田 無役

一、米弐斗九升 、米拾三石六斗六升六合 夫 藪年貢 米

一、米拾弐石六斗三升七合 \Box

米

納合米

御牧勘兵衛

-除 -*都 -鎮 守 検地文禄四年 宮寺真言宗延明院春日大明神

一、国分寺 年貢地 净土宗当麻念仏寺末

一同断 西福寺 一向宗本願寺末寺

八木地区

一、道

場

跡屋敷壱ヶ所

一向宗飯貝本善末寺

O北八木村年貢皆済目録

高百三拾九石壱斗六升三合

御物成八拾弐石八斗七合

内七斗壱合

八石弐斗壱八升壱合 十分大豆銀納 新開定成

七拾四石五斗弐斗六合 九分米銀納

此銀五百四拾八匁弐分壱毛 石ニ付六拾六匁弐分

内

此銀四貫六百六拾弐匁三分四り七毛 石ニ付六拾弐

外

一、米八升四合 米弐斗七升六合

六尺給

九七

御伝馬宿入用

寛延二年三月 寬延元辰年皆済目録

(河合鋭治文書)

十市郡 十市郡

米弐石四斗八升四合 銀弐拾匁八分七厘四毛 口米 御蔵前掛 右ハ大坂御城内鉄炮合薬御割賦銀慥ニ請取申候、 **凹一、**銀六分五厘四毛

宝暦九年卯六月

出合村庄屋

九八

北八木村

助

即

北八木村

O 大川筋御 普 清 割 賦 銀 受 取 覚

右者去辰御年貢皆済二付如件

芝村役所倒

納合銀五貫四百九匁三分五厘四毛

此銀百七拾七匁九分弐厘壱毛

/ 米弐石八斗四升四合

宝曆九年十月十九日

(河合鋭治文書

覚

回一、銀四拾三匁八分八厘五毛

右者去寅年大川筋御普請御入用御割賦銀慥 二請取申候,

北八木村

年寄 庄屋

以上

惣百姓

宝曆九年卯十月十九日

北八木村

出 合 源村

介 印

O北八木村免札之事

(河合鋭治文書)

天明元年十一月

O大坂城内鉄炮合薬割賦銀請取覚

宝曆九年六月

(河合鋭治文書)

覚

天明元丑年免札之事

杉浦次右衛門印 河原清右衛門倒

北八木村

高百三拾九石壱斗六升三合 十市郡 北八木村

残高百二拾九石弐斗壱升九合 此取米七拾六石七斗五升六合 内九石九斗四升四合 当丑木綿不作風雨痛一作引 免五ツ九分四厘 毛付

取米合 七拾七石四斗五升七合 、屋敷反別五畝廿歩 此取米七斗壱合 新開定成

定納物

内七石七斗四升六合

銀弐拾目壱分 酒酢醤油造改

、米八升三合五夕 御伝馬宿入用

一、銀弐拾目八分七厘四毛 御蔵前掛 一、米弐斗七升八合三夕

六尺給

姓不残立会、 右者御領所当丑年令檢見御成箇相極候間、 無甲乙致免割、 来ル極月廿日以前急度可 村中大小百

皆済者也

(天明元年)

八木地区

藤井文太夫印

O北八木村年貢皆済状

天明二年

天明二寅年皆済目録

高百三拾九石壱斗六升三合 御物成六拾八石七升五合 内七斗壱合 新開定成

十市郡 北八木村

十分一大豆銀納

六石八斗

此銀三百七拾壱匁壱分六厘五毛 石ニ付銀五拾四匁五分壱リ九毛

内六拾壱石弐斗六升七合 九分米銀納 此銀四貫三百三拾壱匁弐分七リ壱毛 石ニ付銀七拾目六分九厘五毛

惣百姓

年寄 庄屋

(河合鋭治文書)

九九

外

銀弐拾目壱分

米弐斗七升八合三夕

酒酢醬油造役

米八升三合五夕

六尺給

御伝馬宿入用

米弐石四升弐合

口米

御蔵前縣

銀弐拾目八分七リ四毛

一、銀六分

口銀

此銀百六拾九匁九分三リ七毛

納合銀四貫九百拾三匁九分四リ七毛

右者去寅御年貢銀納皆済二付如件,

卵三月 芝村役所〇

北八木村

庄屋

惣百姓 年寄

〇両八木村変事対処方取替一札

天明三年三月

(天図近世文書)

為取替一札之事

、旅人当村二而行暮差宿之儀者、 先例之通南北月替ニ

共、当番村ゟ御上様江御訴之儀者不及申、諸入用其村 旅人 難儀無之様可仕候、 若其者 凶事等出来候

ゟ相賄可申候事、

御制札場所之儀者両八木村境ニ而、 往昔ゟ独旅或者

速為知ら会、両村立会候而、 修行之躰之者致山宿来候、若行倒変事等有之候節者早(4) 御制札場左右共無差別

躰ニ□計、諸事入用不依何両村弐ッ割ニ可仕候筈、尤働 御上様御届ヶ之儀者費無之様南北申談、 村江引請御

訴可申上候事

附 ij 前段同様之筈ニ候、尤際限 御制札場隣家四方角屋敷之内 三而凶事出来候

-00

丑寅角庄三郎所持之家屋敷限

辰巳角清兵衛所持之家屋敷限

未申角九兵衛所持之家屋敷限

戌亥角源七所持之家屋敷限

何れ様方ニ而も東西南北より御通行之節、 御伝馬人

事

足等早速差出、

両村役人立会、御差支無之候様可仕候

` 何れ様ニ不依四至御通行之砌、当村ニ御休泊有之候

御本陣之儀ハ南北順番ニ可致候、 乍併其節用支

候儀も有之候ハゝ互ニ頼合、 御本陣御差支無之様可致

、宿送之者四方ゟ村鑓ニ贈リ来候節、 両村対談之上是

又一躰□□計、順村江差送可申筈、 ハハ、諸入用両村弐ッ割ニ候、 御上様江御訴之儀者南 勿論凶事等出来候

北申談、 村江 引請 御届可申候事

東西町筋軒外:而往来之輩行倒又者捨子其外喧嘩口 八 木 地 X

> 双方村役人立会諸入用等弐ッ割ニ可致、 何事ニよらず臨時変事出来仕候ハゝ、 互ニ為知ら 尤軒場よ

論

り内ニ而出来候事ハ其村可為一村懸り ·候事

候、然ル上ハ此条々急度相守可申候、為後日之為取替 右之通双方村役人此度立合、 両村 - 違却無之様 相 極

置

札仍而 如件

天明三卯年三月

十市郡北八木村 庄屋 与 七 郎

(II)

年寄 庄五 郎 (A)

同断 正左衛門 (1)

高市郡南八木村 年寄 庄屋 彦三 弥 郎 八衛

0

〇北八木村五人組帳 天明七年三月

(河合鋭治文書)

天明七年 五人組帳

. 組 一頭 、

五.

兵 兵 四 兵

衛

(A)

平. 彦

源 利 兵 兵 衛 衛 **(1)** (E))

/ 五人 郎

弥 与

 \equiv

郎

(1) (A)

又

五

郎

(II)

____組 ___。 ,

勘

三

郎

(A)

善

太

郎

1

藤

11

z

(11)

助

清

郎 衛

(1)

熊 権 忠

三郎

(A) **(1)** (EI)

/ 五人

長

兵

衛

1

兵

兵

衛

九 弥 兵 重 郎 (II) (EI)

清 源 兵 四 郎 1 (1)

/ 五人

半九郎 / 五人

(II)

(II) **(1)**

甚 平 (II)

作右衛門

四郎兵衛 兵 衛 (1)

清 庄

次 七 七

(II) (1)

源

 \equiv

(1)

源 七 1

四郎兵衛 1

五郎兵衛

(1)

新 兵 (II)

十市郡 十市郡

兵 / 五人 (11)

長兵衛 庄右衛門

市

右

(1)

八 1

/ 五人 郎

忠兵衛 八 又三郎 太右衛門 木地 〆 五 人 五. 区 (I) **(1)** (1) (A) 人 源七かしや 一、称八郎 一、称八郎 一、称八郎 一、又 兵 衛 即伊左衛門かしや 組頭 / 五人 市 明円 三 (本) 数立(本) 第 寺(印) 印 教 立 グ四人 郎 (A)

 小右衛門かしや
 川への

 利兵衛かしや
 小石衛門かしや

 川へかしや
 小田人かしや

 一、忠 次 郎 印
 中国

 一、忠 次 郎 印
 中国

 同人かしや 一、利 兵 衛 卿 小右衛門かしや 一、平 七 卿 小右衛門かしや 日本、中 七 卿 一、喜 兵 衛 倒利兵衛かしや 組頭 グ五人 一、勘 六 卿小右衛門かしや / 五人 (II) | (A) かしゃ | (一、孫 兵藤七かしや 一、伝 四 庄九郎かしや 四組頭の大五人

(1)

(FI)

衛 (A)

一、 清右衛門 ⁽ (ムシ) 一、善兵衛 倒勘三良かしや 組頭 一、善次郎円立寺かしや 一、市郎兵衛忠兵へかしや 一、平 八 興正左衛門かしや 組頭 一、 茂 庄 兵 兵 平 八 衛 剛 剛 剛 g/ 五 (A) (EII) (EI) 一、長 兵 衛 倒 外五人 一、源兵衛 甸同人かしゃ 一、吉 兵 衛 卿八兵へかしや 組頭 / 五人 / 五人 (I) (I) (A) **(1)**

四四

介組頭

一、久 一、善 一、善 大衛門かしや 大衛門かしや 大 御 一、伝兵衛剛 一、庄 兵 衛 印正左衛門かしや 組頭

一、久 尓 倒市三郎かしゃ /六人

蔵 (II)

ち 19

一、嘉 兵 衛市三郎かしや

/ 五人

O 三郷立 合墓所 ニ付取替証文

寛政二年十二月

為取替申定証文之事

、南八木村墓所之儀者、従往古北八木村醍醐村三郷之 墓所ニ而在之候所、先年右墓所臨時入用之儀ニ付南八

本意儀此段難点止、 木村醍醐村右両村及違却、南都御番所様ニ而出入ニ罷 則醍醐村墓郷相離中絶二罷在候所、対先祖江不成 此度墓郷内北八木村ゟ双方江段々

懸ケ合、一同得心之上帰入和談仕候、 八木 地区 然ル上ハ墓所大

> 歩通り者墓本工相懸り、残六歩之儀者北八木村三歩、 破之節ハ、三ケ村家別ニ寄進取集、 残銀高拾分之内四

醍醐村三歩、無違背出銀可致候、尤臨時之事出来候ハ

致候、且又右墓所へ非人怪我躰之もの立寄不申候様、 ^、早速墓本ゟ二ケ村江為相知、 万事相談之上取計可

兼而非人番ゟ茂入念之 □ 様立会 申付置候、 依之為後

証 為取替証文仍而如件

寛政二庚戍年

十二月日

南八木村庄屋 郎

(EI)

同村年寄

宗次 郎

(11)

同村同断

八

(II)

(A)

同村年寄

善右衛門

同村同断 治 (FI)

三五

(河合鋭治文書)

北八木村庄屋

(1)

申

為後日之一札仍而如件、 寛政二戌年十二月日

同村年寄

九 郎 **(1)**

同村同断

与 七 郎 **(1)**

O 南八木村溜池下郷差支之儀引請一札

寛政二年十二月

札之事

支在之旨申候得共、 此度其村用水溜池御催之所、 右ニ付先達而ゟ墓所之儀醍醐村と 新賀村丼上品寺村ゟ差

違却之義在之候所、 此度拙者共挨拶を以帰入和談相調

申候、然上ハ池之儀ニ付下御差支之儀ハ拙者共 無違背相調候様取斗可致候間、 池願筋之儀ハ其村 相 引

者共へ御任せ可給候、万一下郷両村差滞儀在之候共 候儀在之候ハゝ、是又私用之儀を以取斗可申候間、 御勝手次第御願可被成候、

若下郷ゟ井筋之義ニ付相□

(河合鋭治文書)

O北八木村御成箇割附 寛政三年十一月

南八木村庄屋中

北八木村庄屋

(A)

同村年寄

庄

九

郎 **(1)**

(河合鋭治文書)

一、高百三拾九石壱斗六升三合檢見取 亥年御成箇割附之事

此取米七拾七石七斗壱升六合

屋敷五畝廿分

此取米七斗壱合

免五ツ五分八厘五毛内

和州十市郡

但壱石弐斗三升七合弐夕余

新開定成

夕

相引請候上ハ拙者共罷出、差支ニ相成不申候様埓明可

一、銀弐拾目壱分

米弐斗七升八合

酒酢醤油造役

六尺給

銀弐拾目八分七厘

御伝馬宿入用

御蔵前入用

米八升三合

米 米七拾八石七斗七升八合

銀四拾目九分七厘

迄不残立会、無高下令割賦、来ル極月廿日以前、急度右者当亥御取箇相究之間、村中大小之百姓入作之もの

可皆済者也

寛政三年亥十一月

角倉与一角

(I)

左 庄 屋

惣 年 庄 百 寄 屋 姓

寛政四年閏二月
〇早損場御定免御糺願

(天図近世文書)

(表紙)

|定免卸札シ書上ヶ||寛政四歳

御定免御糺シ書上ヶ帳

子閏二月

和州十市郡

乍恐書付を以奉申上候

和州十市郡北八木村

<稲毛苅取之儀も百姓勝手ニ相成候間、多分増米致出

御定免奉請候ハハ、 人足継送り等之諸費も無之、年

奉差上候様被為仰付承知奉畏、乍恐左ニ奉申上候、情定免相請候様、且又定免難請村とハ委細書付相認

得者御定免奉請度罷 在 候 得 共、既ニ去丶戌年旱損ニ蝎所屬骨共全縣○ 蝎所 三付、村方惣百姓及対談ニ候所、小高之村柄故候場所ニ付、村方惣百姓及対談ニ候所、小高之村柄故候右漿天水

八木地区

付、 稲毛不残皆無二被仰付下候、当村之儀者是迄数度

成下候ハゝ △奉請度、尤前文奉申上候通格別之早損場付候ハ当子年6寅年億三ケ年切三△ 不承知二個座候得共、何卒六拾五石宛之御定免二被為一般人用不知二個座院得共、何卒六拾五五斗四升七台高 右躰之旱損場所ニ付、 增米仕候而御定免奉請候義 一同

所ニ 下候ハゝ難有奉存候、 御座候間、 御上様御慈悲を以右之趣御聞置被為成 依之乍恐書付を以奉申上候、 以

寛政四子年閏二月

上

十市郡北八木村 百姓代

小右衛門

(1)

年寄

正左衛門

(A)

庄 九 郎 (A) 同断

庄屋

三右 衛門

(A)

角倉与一 御役所

〇極旱損場ニ付御定免願書上ケ帳

寛政四年閏三月

(河合鋭治文書)

寛政四歳

御定免御糺シ書上ヶ帳 子閏三月 和州十市郡

·北八木村

乍恐書付を以奉申上

和 州十市郡北八木村

御定免奉請候ハハ人足繾送リ等之諸費も無之、 年々

稲毛苅取之儀も百姓勝手ニ相成候間、 多分增米致出 情

差上候様被為仰付、 定免相請候様、 且又定免難請村々 承知奉畏、 乍恐左ニ ハ 委細書付相認奉 奉申上候

損場所に付、村方惣百姓及対談に候所、 候得共、 当村之儀者用水井筋溜池池等 全躰小高之村柄故、 御定免奉請度罷在候共 切無御座候付、 右躰天水場所 極早

一〇八

当村之儀者是迄数度右躰之旱損仕候而難渋ニ付、増米 稲毛不残皆無二被仰付下候、 O醍醐寺三宝院様御入峯行程覚

文化元年七月

醍醐ゟ吉野迄御休泊

ŋ

長池 御泊

宇治

御休

迄三ヶ年切ニ奉請度、尤前文奉申上候通、格別之旱損

御定免ニ被為仰付被下候ハゝ、当子年ゟ来ル寅年

गिर्

場所ニ御座候間、

御上様御慈悲を以、右之趣御聞置被

為成下候ハゝ難在奉存候、依之乍恐書付 ヲ 以 奉 申 上

御休 ŋ

候、

以上

寛政四子年閏二月

十市郡北八木村

百姓代 小右衛門

(1)

御泊

御泊

ij

清水峠 御休

越部

御休

御泊リ

吉野

仕候而御定免奉請之儀、

一同不承知二御座候得共、段 何卒七拾石五斗四 升七 合 ニ

々御利害被仰聞候に付、

既ニ去々戌年早損ニ付、

(天図近世文書)

角倉与一 様 御役所

八 木地 区

一〇九

` ` 南都 玉水 八木 田原本 横田 木津 御休 御休 御休

1

年寄 正左衛門 (1)

同断 庄九 郎

土佐

御休

三右衛門

ď

文化元子年

七月

嶽入

万歳

菱田御氏

入用 (アトフデ)

四 東分 川

不申、

或者買〆等いたし候もの有之候ハゝ、其年寄之商

文政二年十月

〇米穀下直ニ付諸色直段引下ケ取締方書上帳写

(天図近世文書)

段ハ下直ニ候得共、諸色之直段者追々引上ケ不埓之事ニ義、其余諸色共米穀ヲ元トして可売出道理候処、米之直候、酒酢醤油味噌之類、米穀ヲ以造出シ 候品者 勿論之近年米直段下直候処、諸色之直段者高直ニ付諸人及難儀

候、

以後米穀之直段準シ可成だけ諸色之直段引下ヶ可申

下ヶ売可申候、

等夫々商売方之もの共江可申付候、 右之通申付候上ニもニ候間、諸事正路ニ可致売買旨、仕入元ヲ初、問屋中買候、 尤直段を引下ヶ候而も品柄ヲおとらせ候而者無詮事

候、此趣国々所々へも相触候間、 諸色仕入元直段引下ヶ猶直段不引下ヶ候ハゝ、其筋之遂詮義急度曲 事 可 申 附

之もの共諸色直段引下ヶ之有無之義、一村限りニ巨細ニ処、猶又此度村々売もの直段ハ勿論、仕入元幷問屋中買候、 右之通従江戸表被仰出候ニ付、 先達而御触 御座 候売人之もの共ゟ可訴出候、若打捨置候ハゝ是又可為曲事

酒造方

相糺奉申上候様、

被仰渡畏左三奉申上候、

同村源八角

ニ引下ヶ売可申候、尤並酒者壱匁之所相改七分ニ引諸白壱升是迄壱匁弐分ニうり申候所、此度相改壱匁

売可申候、	右者仕入元可成丈ヶ取締、此度			荒物売人	右之外	可申候、	処、此度相改壱割半下ケ、已来	右味噌之義者壱匁ニかけ 目 是迄		味噌造方	右酒造方同断	醬油造方	右酒造方同断	酢造方	右ニ準シ直段引下ヶ売可申候	請売酒屋
	此度相改以来壱割半下			八木村			巳来五百七十五匁ニうり	迄 五百	"	"	同村	八木村		八木村		八木村
	来壱割	佐	清兵	源			十五和	五百目 こうり 申候	同	同	茂兵	伝 兵		忠		平四
	半下ヶ	七鲫	不衛	助			みこうり	り申録	人ঞ	人即	八衛 ⑩	不衛		蔵印		郎即
	9	₩	Œ				ŋ	沃	₩	₩	₩	₩		₩		(H)
				_;					$\vec{}$			_;				
肴売人	右同断	薬種類	右同断	菓子類				右同断	青もの類		右同断	絹類売人	右同断	木綿類	右同断	小間物売人
同村		同村	"	八木村	"	"	"	"	同村	同村	同村	同村		同村		八木村
与		佐右	武	六三	市兵	か	甚	忠兵	又	吉次	平 兵	治兵		宇兵	治	藤
兵衛		佐右衛門	助	郎	六 衛	ん	七	共衛	吉	郎	兴	共衛		光	助	八
◍		(E))		(1)		(11)	(11)	(1)	(E)	(1)	(1)	(1)		(11)	(1)	

八木地区

八 木地区

右同断 " 幸 助 (A)

" 孫右衛門 (A)

豆腐壱丁是迄十四文ニうり申候処、

此度相改十弐文

四

郎

(1)

幷油あけ三文之所弐文ニ相下ヶ可申

" 新 七 (A)

同村 庄 七 **(1)** 候、こんにやく壱丁六文之所五文ニ売可申候、 こうり可申候、

旅籠宿并茶屋

八木村

庄

兵

喜

(II)

右同断 瀬戸物類 右同断 金物類

質屋利足是迄壱ヶ月ニ銀拾匁之利足、 壱 匁五分所 長 助 (A)

此度相改已来壱匁三分ニ引下ケニ候、

、紺屋是迄と者仕入元取〆り 染賃可成丈 引 下 ヶ可 申 候

、肥商売右仕入元可成丈取締り、直段下直ニ売買可仕

油屋右是迄等者引下ヶ以来相改、 大坂相場ゟ廿匁高

候

ゟ三十匁高ニ而売可申候

豆腐こんにやく 油請売右ニ準シ引下ヶ売可申候、 八木村

嘉

助

(1)

`

綿打職 右同断

八木村 "

平

吉

(I) (1) (E)

治

兵

衛 衛

弥 助 (11)

百廿文ニ相下ヶ可申候、 是迄壱人壱宿百五十文ニ御座候所、 尤壱ぜん飯十弐文之所此度 此度相改、 已来

八木村 義 兵 衛 **(1)**

大工職

相改、已来十文ニうり可申候

是迄壱人:弐匁五分之所、 但木梚職も同断御座候、 此度相改已来弐匁弐分ニ

左官職 相下ヶ申候、 八木村

六 兵 衛 **(1)**

八木村

藤

兵

衛

(1)

" 利 八 (II)

" 政

又 吉 (A)

是迄繰綿壱貫目ニ付打賃壱匁八分之所、 以来壱匁五

桶之輪入職 八木村 弥 八便

分ニ相下ヶ可申候、

是迄壱人弐匁五分之所、 ケ申候、 此度相改、已来弐匁二相下

八木村 新 佐 兵 衛 蔵 (A) (II)

髪月代

あんまとり

11 い

平 兵 衛 (II)

質屋

是迄十六文之所、

此度相改已来十四文相下ヶ申候、

吉 次 郎 **(1)**

是迄利足壱目ニ銀百目之利足壱匁五分所、 此度相改

以来壱匁三分ニ引下ヶ可申候、

油屋

八

木地区

吉右衛門 (II)

次 郎 (II)

Ϊ, 油請売

匁高ニテ売可申候、

是迄等者引下ヶ以来相改、

大坂相場を廿匁高を三拾

字

兵 兵

衛 衛

(11) **(1)**

孫

紺屋 右ニ準シ引下ヶ可申候、

是迄と者仕入元取〆り染賃可成丈引下ヶ可申候、

清

七

(1)

弥

Ξ

郎

(1)

す

八木村 武 助 1

7

伊 兵 衛 (II)

此度相改以来者廿弐文相

奉公人男女給銀

下ヶ申候、

是迄壱人壱度廿四文之所、

此度相改已来弐割相下ヶ可申答

樫木屋

是迄鋤鍬柄平弐匁五分二御座候所、已来壱匁八分二 八木村 勘 兵 衛 (A)

__

相下ヶ申候

灯燈張

是迄通りゟ諸色相改、

八木村 伊 兵

已来壱割半相下ヶうり出し申

衛 **(1)**

候

合羽類

右同断

八木村 弥 助 (A)

日雇働

申候、 是迄壱人壱匁弐分之処、 此度相改已来壱匁ニ相下ケ

右御趣意之趣得与申聞相糺候之所、書面之通酒酢醬油味

噌等之直段ハ不及申、 諸職人賃銀等迄引下ヶ申候、 右之

方ニ出来候諸産物売出直段等ニ至ルまで、米穀之外何ニ 外商売とも諸色仕入元并問屋中買之ものハ不及申、 当村

奉公人給銀等迄可成丈引下ヶ可申答、 よらず米直段ニ諸色直下ヶ可申積り、 其段諸商売人共ハ 且又諸稼日雇賃銭

不及申、外小前人共ゟも村役人方江書付 取 置 申 候、

以

売可申候、

一、畳職大工職ニ同断、

一、石切職是迄壱

上

文政二年

巴卯十月

庄屋

同断 同断

源 専

(A)

八木村年寄

彦

 \equiv

郎 治 助 **(1)** (1)

伝 兵

大庄屋

当村方に無之分

壱□以五分五厘売申処、 此度相改已来四分五厘ニうり 、酢受売酒造方同断、一、糀造方右糀造之義ハ是迄、

可申候、

、まん中焼餅屋壱迄五ッ十文ニうり候所、 此度相改已

来五ッ八文ニうり可申候、 セんニ付十六文ニうり申候所、 一、うどんそば切、 此度相改已来十弐文二 是迄壱

人一日ニ三匁五分、此度相改已来三匁ニ相下ヶ申候

八分相下ヶ申候、 一、屋根屋弐匁五分ニ御座候所、 一、かぢ屋職是迄鍬壱丁ニ付弐匁五 此度相改、 以来壱匁 右ハ取方下直ニ取締以来弐割下ケニ而銭売ニ仕候

分、 半下ヶ、 此度相改已来弐匁ニ相下ヶ申候、 一、傘張右同断、 一、下駄類右同断 一、瓦屋職壱割

〇諸色値下ゲ御請書

天保十三年六月

、造醤油屋方

庄 吉 平

助

(II)

兵

衛

(II)

七

(1)

右ハ是迄壱升売百文之所、以来銭九分ニ而売出し可申候

清 兵 衛

郎

忠

次

(1)

平. 要 \equiv 郎 助 (1) (1) 右ハ是迄百六拾文之所、以來之所百三拾文ニ而相泊メ可申候(ママ)

旅宿屋

右ハ是迄壱匁五分売之所、以来壱匁弐分売り出し可申候

刻多葉粉屋

理 与. 善

助 衛

兵 太

(I) **(1)**

郎

(1)

(喜多靖文書)

十市郡 八木村

壬寅六月

諸色直下ヶ 天保十三年

御請書

、造酒屋方

弐割下ケニ而壱匁弐分売出し可申候 右ハ是迄壱升ニ付壱匁五分売之所、以来

魚類

庄

Ŧ. 郎 **(1)**

八木地区

久 兵 衛 **(II)**

嘉右衛門 **(1)**

嘉 兵 衛 (II)

、菓子類

右ハ元文取締以来、壱割五分下ケニ而売出し可申候

常

七

兵

衛

(II) (1)

、日雇働

兵

(1)

、綿打職

右ハ是迄日雇壱匁候之所、以来壱匁六分ニ而働可申候

忠 理

八

(II) (II)

平

兵

衛

忠

兵

衛

(11)

七

(II)

右ハ是迄壱匁五分之所、以来壱匁弐分ニ而働可申候、 但し銭

佐 助

(1)

平 勘 儀 忠

兵

衛 六 衛

(1)

ニ而申受候

助

専 祐

太

郎

(II) (II) **(1)**

、按磨導引

右ハ是迄拾六文之所、以来拾四文ニ仕候

治 助 (II)

兵 衛 **(1)**

儀

安 治 郎 (1)

右ハ是迄売直段弐拾文売之所、以来拾六文ニ而売出し可申候

候

右ハ是迄掛目百匁ニ付三匁染之所、以来弐匁三分銭染ニ可仕

、紺屋職

与

徳 又

蔵 八

(II)

(1)

、豆腐屋職

七 **(1)**

七 **(1)**

新

、大工職

佐治兵衛 **(II**)

申候

右ハ是迄拾壱匁五分之日雇之所、以来銭弐匁五分ニ而相働可

長右衛門 **(1)**

治 郎 吉 **(II)**

伊 之 助 (A)

弥 三 郎 **(II**)

右ハ元方取締以来、壱割五分下ケニ而売出し可申候

、菜種屋

作左衛門 (I)

弥(章)清 (*) 兵 衛 (I) 右ハ買元取締以来、壱割半下ケニ而売出し可申候

諸道具商内

助 (11)

右ハ是迄手間貨札弐匁五分之所、以来銭弐匁五分ニ而働可申

八木地区

畳屋桶屋職

温頓萬麦切

右ハ是迄拾弐匁売之所、以来十文ニ売出し申候

宗 八

(1)

久 兵 衛 (A)

一 七

、小間物類

七 宗 長 吉

兵

衛

(II) (I) (1) (1)

兵 兵

衛 七

衛

右ハ仕入方取締是迄直段ゟ壱割五歩下ケニ而売出し可申候

喜

兵

衛

(1)

、蒟蒻屋

、薪木商売

右ハ売買下直ニ可仕候

権 兵

衛

(I)

右ハ是迄拾弐文売之所、以来拾文ニ而売出し可申候

庄 兵 衛 **(II**)

繁

八

(11)

蠟燭職

右ハ元方取締以来、壱割下ケニ而売出し可申候

九 兵 衛 (11)

、木綿類

、米屋商売

右ハ買入下直ニ仕、売出し可申候

弥 七 (1)

又 七 **(1)**

、荷次商売

右ハ是迄之口銭ゟ以後、五分下ゲ仕候

源 次 郎 (1)

宇 半 九 郎 (11) (II)

、荒物商売

右ハ元方取締是迄直段ゟ、以来壱割半下ケ売出し申候

久兵 衛 **(1)**

梅

吉

(1)

右ハ買入下直ニ仕売出し可申候

青物類

、請売酒屋 右ハ是迄壱合拾六文売之所、以来拾三文ニ而売出し可申候

、絞り油屋

右ハ下直ニ売出し可申候

一 八

伊 弥右衛門

(II)

B 助 **(II**)

(A)

 \equiv 郎 **(1)**

市

右ハ是迄之売直段ゟ以後、壱割弐分下ケニ而売出し可申候

八 (II)

善

八 郎 (1)

喜

三

郎 (11)

又

庄左衛門

庄 九 **(II)**

郎

右ハ元方取締以後、下直ニ売出し可申候

、髪月代

右ハ是迄弐拾四文之所、以後弐拾文ニ仕候

徳 兵 衛

(II)

長 + 郎 **(1)**

蔵 (1)

藤

此度御節倹之儀被仰出難有相守可申候、尤諸色直下ヶ前

北八木村 徳

同断 弥 兵 重 郎 衛

(1)

庄屋 庄

八木地区

(1)

九 郎

覚

内五拾匁当時受取(アトフデ)、九拾弐匁弐分五厘当寅六月勘定詰

上候、以上、

天保拾三年寅六月十一日

ヶ条之通取締仕候ニ付、依之一同連印ョ以、御請書奉差

四拾壱匁六分壱厘

、百三拾壱匁八厘

、三拾四匁四分五厘

九拾弐匁三分六厘 此口皆済也 (アトフデ)三拾八 匁弐 分四厘

一、弐拾九匁六分八厘

忠平跡 信

兵

衛

七

なら屋 茂 兵 衛

弥右衛門

O年貢不納人召出願状

天保十三年八月三日

(喜多靖文書)

丑年御年貢不納御願帳

八木村庄屋

又

金 台 寺

西 福 寺

善 六

一九

百七拾匁四分八厘 此口皆済(アトフデ)内三拾七匁弐分四厘 ハ百三拾六匁七分弐厘 此口皆済 (アトフデ) 弐拾弐 匁九分六厘 七匁余不足当月十五日限り(アトフデ)弐拾四匁弐分八厘 此口同断(アトフデ) 弐拾弐匁四分八厘 拾六匁壱分三厘 弐拾六匁五分三厘 内百匁当時受取両度入(アトフデ) 此□□□済(アトフテ)九拾五匁九分五厘 此口日延(アトフデ)百七拾八匁壱分五厘 五拾匁五分五厘 百弐拾匁四分三厘 四百弐匁壱分七厘 此口皆済申候(アトフデ)弐拾五匁壱分六厘 此口皆済(アトフデ) 八月二日納 角や 新屋敷 かじ屋 同 釜屋 長 作 久 利 利 伊 忠 利 忠 秀 喜 徳 兵 治 兵 兵 兵 四 四 平 兵 兵 郎 郎 郎 衛 衛 衛 衛 衛 衛 七 助 善 治 我等儘勝手而已申候相納不申候ニ付、 千万難有奉存候、 被下度、乍恐奉願上候、 申上候、 O芝村藩借用銀返済請合 右之通去丑年御年貢不納仕候ニ付、 、三百八拾壱匁六分 天保十四年九月 大庄屋 此度地頭表御勝手向御取直御仕法之為、御基各方被(ママ) 三百八拾三匁六分 五拾壱匁壱分四厘 天保十三年寅八月三日 森村庄左衛門様 何卒相手之もの共被召出、 差入申一札之事 以上、 右之趣御聞届被為成下候ハ、、 札 八木村庄屋 度々及催促候得共、 急速相納候樣被仰付 得止事乍恐御願奉 (河合鋭治文書) 彦 半 市良兵衛 \equiv 兵 七 衛 郎

(II)

仰合、 格別厚御懇志を以銀六拾五貫目御出 銀 被 下 候

儀、委細致承知、御領分一統大慶無此上仕合奉存候、

亥年迄八ケ年之間、急度年々御渡可申旨、御役人中ゟ 右御返済宛ニ、御蔵米之内百五拾石宛、来辰年ゟ来ル

勿論、 村々ニ而茂仮如何様之年栖御座候共我々引請、

被申付、一統致承知候儀相違無御座候、依之地頭表者

各方ゟ御差図次第其先方迄無遅滞相送可申候、 差入申御蔵米引請一札仍而如件、 為後日

天保十四卯年九月

大西村 城堂安右衛門芝村領支配大庄屋 (A)

同断勾田村 中西 小一 郎

同断芝村

中 · 谷 平 =郎 (A)

屋八兵衛殿

飴

屋清兵衛殿

同 六殿

八木地区

古手屋徳兵衛殿 倉橋屋孫兵衛殿 油 屋小三郎殿 熊野屋権兵衛殿 土橋屋庄九郎殿 屋徳兵衛殿

O芝村藩札基銀借用覚 (天保頃)

(河合鋭治文書)

、銀百八貫七百弐拾壱匁也 借用申銀子之事

(II)

右者此度御勝手方ゟ御規定一札を以、 御銀札御仕法被

十一月ゟ来ル午歳十一月迄こ、元利無相違急度可致返 用申処実正也、返済之儀者利足月八朱之積を以、 相立候為基銀御出銀御願申候処、 御承知被下慥請取借 当酉

済候、 為後日銀子借用連印証文仍而如件、

武上郡戎重村

(I)

中西小右衛門山辺郡勾田村 **(1)**

式上郡大西村

城堂治三郎 (11)

細田治右衛門同郡穴師村

(1)

十市郡北八木村

九郎

殿

前書之通相違無之候仍而奧印如件、

河 原善太夫 **(II**)

丹 羽彦兵 衛

(天図近世文書)

〇安政二年田畑高反別書上ゲ写

安政二年四月、写明治元年十月

明治元年戊辰十月日

安政二乙卯年田畑高反別書上ケイ 高写し置候

八木村

畑方分米合七拾三石八斗八升弐合五石 畑高く

上田合弐拾町六反四畝廿三歩 分米合三百三拾石三斗九升七合三夕

中田合壱町壱反九畝廿六歩

上田中田合弐拾壱町八反四畝拾九歩 分米合拾六石八斗三合五夕

分米弐石五斗壱升五合 分米三拾石九斗六升七合弐夕 分米合三百四拾七石弐斗八夕

分米九石九斗六升三合四夕

川成出水床

永荒村弁高

屋敷高

水帳不足

分米五斗七升壱合壱夕

惣高合四百六拾五石壱斗

、当地御門徒之儀者、先年元文度天明度差上置候書付

右之通相違無御座候、以上、 安政二年乙卯四月

八木村百姓惣代

郎

同村組頭惣代 衛

同断

六三 郎

調印可仕候手寄役之儀ハ当村無御座候ニ付追而同村年寄 伝三郎

同断

小右衛門

高取御役所様

〇死去人取置方入縺ニ付規正一札

安政二年九月

(飯貝・本善寺文書)

八木地区 奉差上一札之叓

> 之上取置可仕之処、近年等閑ニ相心得、猥りニ金台寺 こて無之而ハ取置仕間敷候、 リ奉恐入候、此上者其節ニ急度御届申上、御沙汰之上 江頼出取置仕侯段、不都合之訳柄、今般重而御諭ニ預 之次第も有之、死去人等之節者毎度御届申上、御差図 以上、 依而此段一同連印を以御

安政二卯年九月

請書奉差上候、

金物屋 又 六 兵 兵 衛

くすや

衛

1 (I)

くすや

Ŧi. 兵 衛 **(1)**

八木屋

五.

兵

衛

(1)

金物屋 幸 輔 (1)

久 兵 衛 (II)

与 助 **(1)**

同 同

豊浦屋 Ś 兵 衛 U (無印) **(1)**

卯

同

飯貝 御役人中様 御本坊

> あら物屋 丹治屋 飯貝屋 戸屋 飯貝屋 志 作 藤

弥 藤 七右衛門 助 吉 (無印)

(II)

兵

衛

(II) **(II**)

O北八木村八十歳以上御改帳

蔵

弥 七 **(1) (1)**

け (無印) 3 (11)

勘兵 衛 ゑ **(1)** (1)

しほや

同

利 兵 衛 (1)

八木村

う (無印) 吉 (1)

か

圧 藤

兵

衛

た **(1)**

右之通相違無御座候、

安政三丙辰三月

う

、当辰 八拾弐才

、当辰 八拾四才

甚 兵 衛忠兵衛家內人

勇治郎母

、当辰 八拾三才

グ三人内男売人

年寄 徳右衛門 北八木村 **(1)**

二四

安政三年

安政三年三月

(河合鋭治文書)

八十歳以上御改帳 丙辰三月

北八木村

円立 き 母

< 即

(II)

そ **即**

同断 弥 重 郎 **(II)**

庄屋 庄

O 庄太郎へ 苗字扶持差免状

(外ツツミ)覚書

安政三年十一月

北八木村庄太郎

(河合鋭治文書)

丁旦三月

北八木村

先達而亡父庄九郎金子差上置候段、寄持之事ニ候、依(**文)

之其方江苗字差免、九人扶持被下之、

安政三丙辰年

十一月

役所

(II)

上八木村 庄 太 郎

<u>__</u>

一、 嘉兵衛跡 一、組 忠 頭 次 郎

(11)

権 兵 衛 **(II**)

と

(1)

/ 五人

一、 組 清 頭

兵

衛

1

一、宗 兵 衛 (1) (II)

けか七 **(1)**

〆六人

O北八木村五人組帳

安政四年三月

一、庄 五. 郎 **(1)**

忠

兵

衛

(II)

〆六人

(河合鋭治文書)

一、久 佐 兵 兵 衛 衛 (A) **(1)**

五人組帳 安政四年

す **(II)**

、嘉右衛門

(II)

、八兵 **(11)**

善 太 郎 **(1)**

一**、** 平 兵 (II)

政

七

(1)

、小右衛門 源

<u>二</u> 五.

八木地区

八木地区

/ 五人 / 五人 一、一、一、と定九 一、 、、組 (議) 庄^頭 一、喜 一、 亦 半 九 一、作右衛門 一、吉 兵 兵 兵 兵 郎 衛 衛 衛 八 助 衛 助 6 (II) (A) (FI) (FI) **(1) (II) (1) (II)** (II) (A)

> / 五人 一、太右衛門組頭 一、忠 一、直 一、清 一、 久 兵 兵 兵 衛 衛 衛 (FI) (A) (A) 即

/ 五人

二、九

兵

半 清

三 兵

郎衛

一、伊兵衛剛一、弥助剛

一**、** き

0)

(A) (A) (A)

一、善右衛門

一 、 組 又^頭

市

郎

、三 重 郎 ®

(1)

作右衛門かしや
 一、茂門かしや
 一、大海が市がしや
 一、大海が市がしや
 一、大海がしや
 一、大海がしる
 即
 一、大海がした
 四
 四
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回
 回

作右衛門かしや一、多次の即のでは、多次の即のでは、多次の即のでは、多次の即のでは、これのでは、こ

一、利 助 即 市 有兵衛かしや 組

、み ツ 即

、甚 七 即

(I)

二六

/ 五人

組頭

グ五人

一、治 兵 衛

(1)

グ五人一、方、次、郎一、方、次、郎一、方、次、郎一、房、次、郎一、房、次、郎 / 五人 一、与兵衛剛 小新一七 倒 一、新 七 倒 一、と く く 一、り う @ 八 木 地 **(II**) (P) (A) (EI) (1) (A) 区 組頭 / 五人 〆五人 作右衛門かしや一、与善素太郎かしや一、儀 兵 衛かしや上兵衛かしや一、伊 之 助 一、伊 助 即 、利兵衛剛弥助かしや 組頭 (A) (FI) 組頭 一、と め 即 で 兵衛かし屋きく跡 で 兵衛かし屋 / 五人 / 五人 一、寅 吉 同人かし屋 助いしゃ ✓ 五人 一、平 兵 衛 大三郎かしや 郎 かん 次 郎 一、弥右衛門の同人かし屋 めの国と . (1) (II) **(1)** 印頭 **(1)** (A) グ五人グ五人一、吉 兵 衛 卿一、吉 兵 衛 卿一、吉 兵 衛 卿 / 五人 一、伊 兵 衛 即 一、 伊 兵 衛 即 一、庄 かしや 一、安 次 郎 、多 蔵 ⑫ 源三郎かしや佐助跡

@組

(1)

(II)

(1)

(E))

頭

組 頭

区

、ふじ即かしや

一、藤 兵 衛 即 一、み よ 回 平三郎かしや ま 回 い

/ 五人 一、治 良 吉弥助かしや が

(I) (A)

(II)

一、太 助 **(II)**

〆六人 一、徳 兵 衛権兵衛かしや ® 組頭

一、要助圧五郎かしや 一、為吉字兵衛かしや 1

一、利 兵 衛半九郎かし屋 、きわ即 (I)

(1)

一、清 二 郎 清兵衛かし屋 一、甚 兵 衛

(1) (1)

一、清 介圧九郎かしや (II)

組頭

〆六人

一、忠兵衛剛 一、京 八 回一、京 八 回

〆五人

年寄 弥

+ 郎

同断河合庄九郎 **(1)**

O北八木村宗門寄帳

安政四年三月

宗門四冊之寄帳 安政四年

北八木村

丁巴三月

浄 真土 宗 一、本家人数合弐百八人内男九十四人 宗門帳三冊之寄

浄土宗 一、本家人数合四拾九人分女廿弐人

宗門御改御奉行

寺尾勝蔵殿

村田覚馬殿

庄屋 平沼徳右衛門

(11)

(河合鋭治文書)

大念仏宗

一、本家人数合八人内男四人

右本家人数合弐百六拾五人内安百四十人 宗門帳四冊之寄

浄土真宗

浄土宗 一、借家人数合百六拾八人内好八十九人

一、借家人数合弐百弐拾四人内男百十八

大念仏宗

一、借家人数合三拾人内男十三人

真言宗

一、借家人数合六人内男四人

本家者弐百六拾五人 右借家人数合四百弐拾八人内安弐百弐十弐人

借家者四百弐拾八人

惣人数合六百九拾三人內女三百六十人

寺三ヶ村 竈数借家百十四軒

八 木地区

> 真言宗 無住正福寺

浄土真宗

円立寺

一、浄土真宗 明教寺

右三ヶ寺者右人数之内へ加入不申候

別宗門帳差上申候

当村ニ者牛馬無御座候

中略—

安政四

丁旦三月

北八木村

年寄 弥 同断 河合庄九郎 + 郎 (II)

(II)

庄屋 平沼徳右衛門 (A)

宗門御改奉行

村田覚馬殿 寺尾勝蔵殿

安政五年六月

O植村侯参府道中中飯諸入用書上

(喜多靖文書)

二九九

八 木 地 \boxtimes

諸入用大割書御願帳御参府ニ付御中飯御願帳

八木村

一、弐匁六分巳十一月十三 В

三拾五匁-1 月十九日

+

拾匁

三拾六匁 拾匁

弐匁五分

拾四匁三分

七匁八分

六匁五分| 此口可除事 ハリ紙)

人百弐拾四匁七分

(御中飯造用、伝三郎/御用人様御上下拾壱人

(御中飯造用、弥八) 多羅尾様御供廻り五人

(手伝夫代宿余内共) (砂持人足夫代余内) (弐人御中飯造用)(道筋御見分御出役様

/手伝夫代宿余内共/御用人様御下宿掃除幷

(右同断余内]___

(武ケ所繕夫代

(六人御中飯造用、/村田様御上下 源助

> **乍恐奉願上候、** 以上

右之通相違無御座候間、

当夏大割方へ御加入被成下度、

残而内六匁式分多羅尾様御供廻り御造用引

安政五年午六月

八木村年寄

源

助 **(1)**

同村兼帯庄屋 庄 九 郎

(A)

同断

平 -沼徳 右衛門 **(1)**

〇内膳村、 安政六年七月 北八木村通井掘堀取替

札

(河合鋭治文書)

為取替 札之事

内膳村北八木村通井掘堀之一件、 新規古規之入縺之儀者

取嗳人江貰ヒ 取 此度相改候訳ヶ左之通

事

通井掘堀之節者、

北八木村ゟ内膳村江、

案内可致筈之

三〇

字下越御田地江、水掛ッ之儀者、是迄之通相互ニ、 差

支無之様三可致事、

右之通取嗳ヲ以此度相定メ、 両村未々百姓ニ至迄、 同

付、双方為取替一札仍而如件、

ニ得心之上、向後相互ニ中睦間敷仕、

自今聊申分無之候

安政六年 未七月

> 十市郡内膳村 百姓代 太

年寄

宗

治

郎

(1)

助 **(II)**

同断 善 七 郎 **(1)**

庄屋

彦 兵 衛 **(1)**

前書之通此度取嗳ヲ以相済申候付、奥印形仕候、 以上、

取曖人

新賀村

年預

作右衛門

(1)

大庄屋 森村庄左衛門 **(1)**

北八木村

御役人中

八木地

区

の水難ニ綿作柄傷ミ御見分願 安政六年八月

安政六年

水難ニ付御見分御願帳 未八月

北八木村

乍恐書附を以急歎御願奉申上候

八木村役人

百姓共

当村百姓共義、当年木綿作蒔附已来相応二生立、 冝.

敷御座候而修理等入念追々生立、冝敷相見へ候所、 去

堤切出来、 ル十二日夜大雨ニ付、 右泥水当村領へ流レ来リ、 飛鳥川筋洪水ニ而、 荒所田地左ニ奉 縄手村領川

申上候、

(中略 田畑十二枚ノ記事)

相応ニ生立候所、右泥水ニ付難渋仕罷在候所、 右之通字四ヶ所木綿作水押ニ相成、 銘々百姓共丹誠と□□ 泥水ニ而押倒、 最早近く 是迄

ヶ敷奉存候ニ付、 小前 百姓共 ゟ 急御願申上 呉申出候ニ 肥し等も多分仕込罷在候所、 右様ニ相成候而ハ甚歎 之内ニハ木綿等も吹出し候様奉存、

度、乍恐御願奉申上、厚御憐愍之程、偏ニ願上候、右之 付、不得止事差上歎御願奉申上候、何卒急御見分被成下

趣御聞済被為成下候ハゝ、 御広大之御慈悲と、千万難有

仕合.·奉存候、以上、

百姓代 小右衛門 北八木村

安政六年

未八月十五日

同断 年寄 河合庄九郎 弥 十郎

庄屋 平沼徳右衛門

御役人中様 長沢様

高取

御役所様

O長沢国産会所取扱願状

安政六年十月

(天図近世文書)

三三

御館様御国産之品御廻ニ付、私とも江売捌方并御銀 乍恐奉願上候

手形御取扱被為仰付被下候樣此段奉願上候、

尤御禰号

之通御聞済被為成下得者難有奉存候、以上、 申正之儀有之候得者、如何共被為仰付可被下候、 ニ差障候儀者勿論、 諸事事正路二取扱可仕候、萬一不 右願

安政六未年十月

和州八木村醍醐屋 六三

郎

(1)

同村小泉屋

清 兵

衛上京中ニ付

安政六年十一月

O兼帯庄屋頼入候ニ付村方一統請書

__

(喜多靖文書)

安政六年

書 (依頼ニ付)

請

巳未十一月 八木村一 統

差入申一札之事

御座候、 地二 不及申、 儀も在之候、 方一同より村役之儀御願申上候処、 村兼帯庄屋役被成下候得共、 Ь 納未進銀年々為相嵩、 知被成下難在奉存、 当村百姓共之内、 無之故、 御座候故、 当村ニ 御上様江向ヶ退役之儀御断被成候処、 甚タ難渋ニ御座候、 其上村地高六拾石斗在之、 おいて右ニ付、 始末仕候ものも無之、 甚ダ困窮之もの共在之、自然御上 依之右書付差入可申候、 先庄屋役中之節、 前書之訳ヶ故、 依之其許殿昨年 当村庄屋役相勤候もの 段々引合之上御承 誠に難渋之村方 尤夫上同畝高 村難幷入組之 段々村方 右ニ付昨 此度村 より当

> 其外万事諸上納向御取締被下候、(産脱力) 是迄未進在之上、昨年より其許及役申之処、 中村為方之儀ハ違変不仕候、 共へ取締之儀、 年之処ハ勿論、 御掛合被下候ハハ、 以後誠ニ当村者難渋之場所ゆ 弁ニ村方小前連印之内、 猶又高持組頭之もの 如何様ニ被仰付候、 未進銀相 村地

之もの共ハ其許殿如何□被仰□御上納未進之処相成候

ハハ、村方へ引請、其許殿へ一切御難儀相掛申間敷候、

嵩之もの在之、

右故村方取締相成不申候間、

右不納

美

相頼候ハハ、 組頭之もの共より、 外二取締被下候共、 步五厘之利足以、 上納可仕候、 用等万事毎年六月十日限、 り其許殿より御上納相納候日限仰被下候ハゝ、 其許殿二而御取替可被下候、 其内不調之もの在之候ハゝ、 元利共右日限迄ニハ無間違御勘定可 若御年貢御上納筋ハ勿論、 急々仰被下候ハハ厳敷申付、 急度御算用可仕候、 尤月壱割弐 年寄役丼ニ 早速 初納よ 諸小入 其上 御

仕候、

猶繁多之其許殿故、

村用二付年寄并組頭之内心

八木 地 区

未進仕、元利共相嵩候とも、其許殿へハ一切御難儀相 添可仕候、 尤前御上納筋之儀右様申上候上、名前之内

年寄

吉右衛門

(1)

三四

同断

源

助

(A)

被下候銀辻相嵩候ても、年寄幷組頭之ものゟ急度御上(カ) 掛不申候、勿論故障筋者不及申、其許及諸向御取かへ

役之ものゟ急度始末可仕候、依之為後日一同連印を以 納可仕候、猶後日其許殿退役之節者、 御取替銀村方跡

安政六年已未十一月

規定差入一札依而如件、

八木村新屋敷 治兵衛剛

(七十名連印、略)

同

組頭惣代

六兵衛

(II)

同

権 兵 衛

(I)

百姓惣代

衛

(1)

忠 兵

同

孫 兵 衛

(P)

O種痘相済証券

万延元年十月十六日

(河合鋭治文書)

(木版) 万延元庚申 (黒印) 相済 十月十六日 種 痘 八木村 証 券 当二才 女子 (木版) 種痘 相済(黒印) 藤井之印 高取家中 (包ミ紙)

兼帯庄屋

河合庄九郎殿

八木村	御殿様御中飯ニ付諸入用御願帳		万延元年十一月		疱瘡相済(証)種痘所高取				
'	(喜多靖文書)								
一、拾三匁廿日	一、拾匁四分十八日夕	一、拾六匁九分	一、三匁三分	一、三匁六分	一、四拾弐匁	一、拾匁	一、拾匁	一、拾匁	
日夕御越、廿日朝中飯五人分共右同断上下四人、御延引ニ付十九	御泊造用 郷方衆上下四人	拾三人御中飯造用人御用人樣御上下	遠見人足夫代外山村二王堂村へ	繕夫代 御出張所三所	右同断余内、一軒ニ付六匁づつ御家中様方御下宿七軒	御下宿、右同断 江戸表ゟ御登之御用人様	右同断余内御迎之御用人様御下宿	手伝夫代余内 御家老様御下宿掃除人足	

一、三匁九分十一日

御出役様、上下三人御中飯造用御高札御色別□替ニ付

一、三匁九分七月朔日

上下三人御中飯造用御道筋御見分ニ付

一、三匁九分十六日

、三拾五匁

余内、宇三郎御本陣掃除幷砂持人足夫代

上下三人御中飯造用御高札場御見分ニ付

一、五匁壱分

代三人分根成柿村上八釣村江知らセ参候夫根成柿村上八釣村江知らセ参候夫御延引之処弥廿日御着ニ付柏原村

夫代卯兵衛、喜右衛門右同断ニ付、土佐町江両度参り

夫代弐分、平助、大兵衛 御延引二付初瀬村迄聞合二参候

必百八拾匁弐分

一、四匁、

廿日

、 五匁弐分 廿日朝

八 木 地 区

右之通相違無御座候間、 何卒当冬大割方江御加入被為成

下度、乍恐奉願上候、已上、

万延元年申十一月

八木村公事方庄屋

兵 衛 (II)

庄 小 屋 兵 衛 (II)

前書之通勘定ニ可被相立者也

御役所様 高取

柳 田 清 次 (ED)

庚 十一 月

田中織衛門

大庄屋中

法付、

御引請御頼申候処、尤二御聞入、

O芝村藩借財支弁方規定書

万延二年二月

(河合鋭治文書)

規定書

勝手向従来不如意二而、 別而去ル寅年必至与差詰、

> 却而借入相嵩蔵米売捌等迄差支候故、御先代ゟ之御勘 定其儘:有之、旁申兼候得共、無拠一昨年蔵米払蔵方

無拠公務入用両境賄金銀領分ゟ為致出銀候付、収納米

受冝候故、可也之融通可相成処、一咋年来駿府入用幕(ஜ) 出席被下候ゟ人気引立、昨年者存外直段相進、追ゝ気 御出銀御賴申候処、不残御察速ニ御承知、入札定日御 (早)

勢被下、御蔭を以無滞越年ニ至り候段至大慶、 太之事:有之上、過分之揖毛:而取悩候次第、 厚御加 旦那ニ

茂深被致満足候、此期を不取迯、兼而被申付候取締仕 御助情可被成(成)

、公務入用両境賄金銀、 下ニ付、 弥手堅取極御規定申処左之通、 此度田中善左衛 門

書之表御出銀御頼申候事:

田中伊兵衛并大庄屋専掛リ等御談を以、

別紙月割

米屋竜

近年諸色高直三而、月賄相嵩有之候得共 追々取縮申談中ニ付、 情へ減候様可致事

、年分収納米銀、

為御任被申候間、

每年九月以後、

兼

月割御出銀元

利御勘定銀高御引取可被成事、

而定有之候銀納日限ニ者掛所江御立会、

万延二辛酉二月

第十 小林寛兵衛 肇 (1)

太田廉兵衛 (A) (A)

上路与一郎 山下久之進 (FI)

(1)

丹羽彦兵衛 (II)

(A)

河原善太夫

河合庄九郎殿

、借財先々改革談二付、

自然公辺掛リニ至迄、

御談話

二就而、付届向其外失費者別段御談二不及、時宜二御

取斗可被下事、

事

、蔵米払入札之儀茂為御任申候、定日御出席可被下候

其上ニ茂時宜ニ而急度可申付事 右定日不納遅納等有之村方者、

無御遠慮御申聞、

前書之通相違無之候、 依而奥印如件、

度会采男 (I)

(I)

渡辺正太夫

表書之通相違無之もの也、(裏書)

、大庄屋初村役人為方精勤之者引立候儀勿論ニ候、

自

銀札方之儀別紙差入候一札之通、為御任申候事、

摂津 **(II**)

〇芝村藩ゟ銀札通用規定一札

万延二年二月

如件、

覆臟御談申、

仕法通急度致貫通候之様御規定申一札仍而

右之通及御熟談、

御任被申候事ニ付、

為筋之儀御互ニ無

然仕法ニ不応もの差引之儀、

無御覆臟御談可有之事、

八木地区

一三七

(河合鋭治文書)

銀

【札通用規定一

一札之事

先年銀札引替相滞、 不容易取悩、 種々申談候得共、

別紙証文面之銀子御出銀被下致大慶、 頼族候次第深御憐察を以仕法立之儀御承諾被下、(ママ) 兎角臨時差支自力ニ難及、 致心 労居候之段、 早速領分江仕法 、染々及御 此 度

相達、 用取締方御談申候ニ付、 望致成就、 村役人初末々迄難有狩別而役人共ニ者年末之願(ママ) 統致安心候、 新銀札弐百貫目御渡申候、 此上追々御取立手堅永久通 仕

弐百貫目請札ニ申付候代リ、 銀弐百月之内 法見積左之通、

六拾貫目 手宛銀渡

此利拾四貫目 取之置貸附銀領分初慥成方江質物 年々御取立可被下事

百四拾貫目

此内

七貫目 半利足相渡

御厄介被成下候者、 残而七貫目充、 拾箇年之間元足御積立貸附被置 年限中ニ 者証文元銀 可 柏 済

> 積、 尤利足者每年別二御渡可申答之事、

三八

替所請札引合等一切御任申候、 候儀ニ付、 右之通御談申御取扱御頼申候通、 萬々一時変申、 役人共初何方ゟ茂違論ヶ間敷儀、 時ニ持寄候節者、 為方一途ニ御引請被下 元替所者勿論、 役人共ニ茂申 決而無之 小引

定差入申一 札如件、 速ニ 談 候

取鎮候様取斗、

偏手堅永久通用相貫候樣致、

大庄屋其外領分一同大坂蔵元江茂申付、

調銀為致

萬延二辛酉年二月

第十 肇 1

小林寛兵衛 (II)

太田廉兵衛 **(II)**

丹羽彦兵衛

(A)

河原善太夫 1

河合庄九郎 殿

前書之通相違無之候、

仍而: 奥印如件、 度 会 采 男

渡辺正太夫

〇非常の時故処遇心得覚

(河合銳治文書)

文久二年

先達而扶持方差上候得共当節柄二付、 別段之訳を以、

者御人数之中江可被差加候間、 以前之通扶持方石六拾目直段を以被下之、尤非常之節 兼而相心得居可申候、

但带刀差免無之者共茂非常之節差図次第可致帯刀候、且扶 持方者地方役所ニ而可相渡候間、 兼而承知可被在候

文久二壬戌年 十一月 役所 (A)

河合庄九郎

但当八月迄者御扶持方米是迄之通被下之

文久二壬年

(ワリ印)

五月 役所

(1)

八木地

区

安政度以前ゟ被下之壱人扶持茂差上候付銀 三 枚 被 下

〇蝦夷地産物仕入金借用書

河合庄九郎 北八木村

慶応元年十二月

(河合鋭治文書)

元仕入金預り手形之事

右者蝦夷地産物元仕入出銀之內江慥ニ請取之候、 一、金百両也

則元仕

候、九十二ヶ月之見込ニ有之候得共、 着次第、御払之代銀を以、年五朱之利足相添相渡し可申 入銀与して堺会所江差立可申候、尤返済之儀者御産物到 延着等ニ而若十三

出金預り手形、 仍而如件、

但

御仕法書之通売徳之内、

御益其外諸掛

り b

0) 引 ヶ月已上ニ相成候ハハ、年七朱之利足相渡可申、

為後日

全徳銀之内弐割方御下ヶ相成候事

南都池之町

箱舘産物方 掛屋仮御用達

慶応元丑年十二月

一三九

(ワリ印)

之

紀和城屋寅三郎 **(II)**

同所東城戸町 前同断

銀 屋 孫 作 **(II**)

八木村土橋屋

庄九郎殿

前書之通相違無之候以上、

箱舘方懸リ 羽田半之亟 **(II)**

同断 青木忠兵衛 **(**

村 耕作

L...

(平田寅之助文書)

〇神武陵仮守戸申付状

慶応元年嘉永元年

北八木村

神武天皇山陵御修補御成功二付、 其方江仮ニ守戸申付候 嘉右衛門

一、出水堀添壱ヶ所八木村領字墓ノ東南出水

但し東西長キ処ニ而三拾八間弐尺

間、

大切二可奉守護候、尤身分等之儀者、

追而御沙汰可

有之候事、

右御用向迄携候節ハ、苗字帯刀御免之心得ニ而、

但

相勤可申事、

丑十二月

O八木·小房間堀添普請御請書

慶応二年三月

(天図近世文書)

慶応二年

御 請 書

寅三月

小八 房木村 控

小八 房木 村村

乍恐奉差上候御請書

一、出水堀添壱ヶ所同村領字西出水

四〇

処右場処御見分之節、八木村丼小房村一同差支有無情 上候処、 江新屋敷二仕度奉存候三付、 出し土を以、八木村南口より小房村小口迄、 右者八木村領出水弐ヶ所、 御廻村先二而御見分被為成下難有奉存候、 此度堀添普請仕度奉存、 去月七日書附を以御 往還筋両側 願 然ル 当堀 奉 申

敷候、 之義出来候ハゝ、 添普請丼新屋敷共御赦免被為成下難有奉存候、 御糺御座候処、 猶又普請中土砂廉末無之様大切ニ可仕旨被仰渡奉 聊差支無御座旨奉申上候二付、 何時ニ而も御差図次第少しも違背仕間 万一 願之通堀 故障

付重々 承 知奉畏候、 依之連印を以御請書 奉差 上 候、 以 畏候、

尤普請出来立次第早々御届ヶ可申上旨、

是又被仰

慶応弐年寅三月

上

八木村

稲 田 吉 石衛 菛

六 兵 衛 1 1

河 合 庄 九 郎 (II)

八

木 地

X

村惣代 松 村

源 兵

衛

(A)

栄

菊 清

松 衛

(A) (A)

兵

半

兵

衛

Ш 六 三 郎

松

(11)

卯 \equiv 郎 (1)

平

沼

寺 田 源 弥 庄 源 次 兵 衛 郎 助 (A)

(A)

(11)

(1)

N **(1)**

z

友

(II)

地主

平 藤 庄 興 庄

次

郎

(II)

稲

田

吉右衛門

(1) (1) //

次

郎

(II) (A) A

助 七

K

四

主砂留 御役所様

同断

寺 田 源

助

(II)

庄屋

河 合 庄 次 郎

(II)

藤 野 権 兵 衛

(1)

同断

取締リ

森

村

庄右衛門

(1)

小房村地主 部 吉 兵 衛

(II)

隣田 前 部 吉 兵 衛 **(II**)

長 兵 衛

村惣代

吉 兵 衞 (1)

徳 兵 衛 **(1)**

九 郎 (1)

同断

年寄

庄屋

庄

〇神武陵守戸役申付状

(慶応二年?安政元年?)

四二

(平田寅之助文書)

植村駿河守領分

十市郡北八木村

嘉右衛門

間、太切二可奉守護候、仍而苗字帯刀差許候、尤給米可 神武天皇御陵御普請御成功ニ付、 守戸役其方 江 申 付 候

被下之処、国事多端之折柄ニ付、当分之内銀子被下之、

寅十二月

O 江戸月賄金不融通ニ付御願書

慶応四年五月二十九日

(河合鋭治文書

乍恐御歎願奉申上候

、御蔭を以銘々共へ江戸御月賄御用奉仰蒙、千萬難在 御月賄方一同

相勤メ罷居候、然ルニ当節柄ニ付、 不融通合旁以当春

八 木 地 区

仲間一 居候、 役人様ニも御帰廚相成、 付 来御願 取縋而御歎願奉申上候、 両宛、来月より出金可仕様御聞済ニ預り度、此段偏ニ 右様不手廻り、不融通出之時節ニ付、 甚六ッヶ敷奉存、 銘々共割府を以出銀相勤居候得共、 誠ニ恐多ク御願奉申上候得とも、 同広大之御慈悲与、千万難在仕合ニ奉存候、以 奉申上候処、 尤当月分調金出来兼漸々相調出銀仕 月々江戸御賄金千両 右之趣御聞届被成下候ハ、、 何卒此上江戸御賄金月々五百 御與様方幷御 月千両出金方 宛 同実ェ心痛仕 出 金 被 仰

慶応四年辰五月廿九日

上

御月賄方 藤 野 権 兵

衛

(I)

河 合 又 次 郎

木 村 惣右衛門 (I)

村 善 兵 衛 藤

井

治左衛門

(1)

吉 松 井 平右衛門

御殺人中様御納戸

亚 松

兵 兵 河

助右衛門

河

合 沼 岡 合

長 徳 清

九

郎 衛 衛

(11)

O凶作ニ付御助成米頂戴書上帳

明治二年十一月

(天図近世文書)

明治弐年十一月 当已御物成米頂戴書上帳 醍醐組八木村

(長帳)

覚

米拾八石六斗壱升八夕

八木村

御上聞、 右者当秋毛不熟、 厚御慈悲ヲ以為御助成米、 且物価騰貴ニ付、 農民共難渋之趣達 書面之通御下ヶ被

四三

迄、 成下、 無甲乙割賦仕、依之御請書奉差上候、以上、 難有奉頂載候、 則当村作人共 小作 出作人二至 、此度御支配所一躰江御賄出金頼談被仰出候ニ付、 四万両当閏十月ゟ来未七月迄、月月毎ニ出金、尤利足

明治弐年巳十一月

八木村

惣代 稲田吉右衛門

同断 寺田源助 年寄

松村源兵衛

同断

河合庄次郎

庄屋 谷 孫兵衛

t

藤野権兵衛

同断

〇両八木村御月賄出金請高名前帳

明治三年十月

明治三年

午十月日

(天図近世文書)

同弐拾両

金弐拾両

御月賄出金請高名前帳

両八木村

同弐拾五両 同弐拾両

九百両割賦左こ、

月弐歩御返金、

同年十月晦日限、

依之両村出金高四千

八 条 九屋 兵 衛

(II)

金弐拾両

△ 料 屋 忠 兵 衛 **(II)**

同弐拾両

小間物屋 兵 衛 **(1)**

同弐拾両

△ 利 兵小むら屋 衛

(1)

同弐拾両

八 百 又屋 兵 衛

(II)

同弐拾両

箱屋 寅 吉 (11)

同弐拾両

嶌 屋 庄 七 (11)

多葉紛屋 (1)

番 条 市屋 \equiv 郎 **(1)**

土橋 小屋 八 郎 (II)

四四四

金

同四拾 同三拾 同五拾五両 同五拾五両 同三拾両 金四拾両 同三拾両 同三拾両 金三拾両 同五拾五両 同三拾両 同弐拾五両 同弐拾五両 同弐拾五両 八木地 両 両 区 平 屋 弥 平屋作右衛門 平屋 直 次 *** 吉右衛門 | 菊 屋 助 香久山屋 伊屋 茶 △三 売 売 平屋 寅屋 醍醐 忠屋 辰 巳 安屋 桶 _屋 寺田源助 次 次 兵 助 郎 郎 助 郎 郎 衛 六 吉 八 七 (I) (A) (FI) (II) 1 **(II**) **(1)** (A) (11) (A) (A) (A) 1 金三百六拾両 同四百弐拾両 同三百六拾両 同百七拾両 同百七拾両 同百三拾五両 同百五両 金七拾両 同六拾五両 同弐百両 同百七拾両 金百七拾両 同百七拾両 同百四拾五両 経屋喜 三 輪 友屋 熊野 源屋 # 屋 清 釜屋 紺屋 辰 巳 尽 谷 忠 松村源兵衛 河合庄五郎 松岡清兵衛 河合庄次郎 稲田吉右衛門 松山六三郎 小川平兵衛 兵 兵 兵 兵 孫兵衛

衛

(A) **(1)**

衛

衛

(FI)

衛

(A)

(1)

七

(II)

助

(1)

七郎

(A) (A)

八木地区

一四六

一、同拾両	一、同拾両	一、同拾両	一、同拾両	一、同拾両	一、金五両	一、同五両	一、同五両	一、金五両	臨時御用意金高	右之通銘々請高無相	合金四千九百両	一、同五百両	一、同三百六拾五両	一、同四百弐拾両
直次郎	かっぱ 助 卿	三輪屋 吉 倒	忠次郎回	安次郎®	· 財 七 卿	病量 源 八 卿	· 唐屋 · 上庫屋	上に上 小八郎 回	百	·違出金可仕候、依而受書如件、		河合庄九郎	藤野権兵衛 邸	平沼徳兵衛
一、同四拾両	一、金四拾両	一、同四拾両	一、同四拾両	一、同三拾五両	一、同三十五両	一、同弐拾五両	一、金弐拾両	一、同拾五両	一、同拾五両	一、同拾五両	一、同拾五両	一、	· -	一、金合町
松山六三郎 @	小川平兵衛 @	兵衛	喜兵衛 郵	金屋 岳兵衛 @	稲田吉右衛門 📵	清兵衛卿	清 十 面	人 助 郵	源 助 @	源重郎 ●	作右衛門	から屋寺田源助(図	1 1	吉占斬門 動きぬ屋

遠出金可仕候、依而請書如件、 O北八木村長寿人改帳 右之通銘々受高御入用之節ハ御沙汰次第、 、同百五拾両 合金千弐百三拾両 五拾両 午十月日 同百弐拾五両 同百拾五両 同九拾五両 金九拾両 同九拾両 同五拾両 同四拾両 三輪 友屋 谷 松村源兵衛 河合庄九郎 平沼徳平衛 河合庄五郎 藤野権兵衛 松岡清兵衛 河合庄次郎 孫兵衛 七 **(1) (1)** (I) (II) (11) 何時成共無相 、七拾七歳 、七拾四歳 、七拾三歳 、七拾三歳 、七拾三歳 、七拾壱歳 八拾六歳 七拾四歳 七拾八歳 長寿人御改帳 明治四年 九人内安六人即加力人内男三人 三月 十 市郡 十 市郡 平沼六蔵祖母 なか母 寅吉母 定八母 لے 忠 久 与 3 6) Ξ 郎 ょ 重 み 7 平 る つ (A) (I) (1) (II) (1) (II) (I) **(1)** (1)

明治四年三月

(平田寅之助文書)

右之通御座候以上、

四七

八木地区

高取 御役所

〇北八木村竈数書上ケ帳

明治四年九月六日

(醍醐町・森村政逸文書)

未九月六日

北八木村

竈数書上ヶ帳

辛明治四年

明治四年

八 木 地 X

年寄 平井作四郎 ®

(ED)

庄屋 同断 平沼徳四郎 河合吉三郎

河合庄九郎 (A)

四(マ 土はしや 河内屋 三川屋 八条屋 江戸屋 とり屋 木原屋 河内屋 古手屋 八条屋 うす屋 嘉 又 庄 小 弥 蔵 弥 多 九 政 喜 重 次 治 重 市 兵 次 八 四 \equiv 良 衛 良 良 良 郎 郎 良 蔵 を 良 平 七 郎 蔵

醍醐屋 土はしや 菊屋 平野屋 三川 三川屋 しば屋 丹波屋 桶屋 うだ屋 木原屋 木原屋 玉屋 屋 忠 寅 む 政 弥 す 奈 宗 庄 定 半 太 つ 庄 次 三 良 九 治 良 吉 吉 郎 7 吉 七 八 良 平 8 な 八 郎 蔵

四八

 あ 大 筆 た 木 醍 と 油 木 更 新賀屋

 あめ 坂 屋 は 原 屋 屋 内 屋 屋 屋

 正 伊 駒 喜 伊 太 忠 か? と な 要 伊福寺

 上 ゴ
 八 木地 区 良 う 七 蔵 六 吉 八 蔵 平. 良 か 吉 〆五拾三軒是迄家持方
 棉屋 田 中 屋
 木
 刀
 新
 三

 綿
 屋
 質
 輪

 屋
 屋
 屋
 ミセ屋 象形九 弥 喜 駒 勇 明 嘉 右 平 利 三 立 次 教 三 三 寺 平 良 七吉郎 寺 郎平 よ 蔵 郎

 長
 上

 東
 本

 大
 本

 大
 本

 大
 本

 大
 本

 大
 本

 大
 本

 大
 五

 大
 大

 中
 本

 大
 大

 上
 本

 大
 大

 上
 本

 大
 大

 中
 大

 上
 本

 大
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中
 大

 中<

四九

小 新 常 山 土 辰 田 ミ き 田 中 八 は 更 村 町 門 田 は 巳 中 セ び 葉 村 □ り 居 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 屋 を を を 八 地 利ひき佐み駒喜喜栄為と長市半 三 平 良 らぬ七 よ吉次八蔵吉よ 七 郎

治 三 五. 太 次 껃 ち郎 良 蔵八 良 郎 郎 七 良

Ŧī. 良 次 わ良八吉蔵郎七蔵く蔵蔵 け松七め

くまの屋 くまの屋 き 寺 下 常 観 戸 平 お 八文屋 屋 屋 屋 屋 屋 はま治多定新な寅い庄世豊き十 市 \equiv +: るつ平仲吉平か吉そ 吉い吉 良 É

八 木 地 X

慈明寺屋 木原屋 木原屋 新賀屋 高塚屋 かへ屋 小綱屋 木原屋 木原屋 権次 寅 す 七 八 吉 良 郎 吉 良 良 7 松 蔵 じ 七

清五良かし家佐 はりまや 山ノ坊屋 庄九良 車木屋 高田屋 飯貝屋 多 桶 屋 屋 新賀屋 御所屋 高田屋 作久庄やは 亀 萬 与 庄 次 次 太 兀 次 良 良 良 吉 吉 す 吉 郎 る 郎 3 七 七

明治四年 森村庄市郎様 戸長 辛未九月六日

右之通相違無御座候以上、 家持借屋合百九拾弐軒

圧九良かし家 いぬいや 田葉木屋 田原本屋 とり屋 岩 太 勇 三 亚 る 蔵 吉 蔵 良 ね

> 新賀屋 田中屋

お か

٢

ょ

8

新賀屋

良

八

(副) 平沼徳四郎 (庄屋

河合吉三郎 (A)

(A)

グ百三拾九軒 二ノ口屋 桧前屋 上品寺屋 田中屋 伊 利 藤 き 長 三 五.

> 郎 平

ち

Ŧi.

八木地区

(ハリ紙)

覚

河合圧九良 右相改候竃数之外ニ

平沼徳四良

河合庄九良 ノ四軒御座候、此段以切紙 松岡清五良

御届ケ申上候、以上、

O第十区·第十一区戸数口数書上帳

明治四年十月

戸数口数書上ヶ帳

第拾区拾壱区 明治四年辛未十月

(河合鋭治文書)

第拾区

同郡小房村

九拾五軒

三百七拾九人

戸数

口数

内

男

百八拾八人

第拾区 女 百九拾壱人

口数

戸数

十市郡 北八木村

高市 八小縄郡 木房手 村村村

五百拾五人

内

男

千百五人 弐百五拾五軒 同郡八木村

第拾区

五三

一、戸数

口数

内

百弐拾七人

女 男

百弐拾人

弐百四拾七人

高市郡縄手村 四拾八軒

女 五百九拾入

第拾一区

十市郡北八木村

百七拾一軒

七百拾壱人

戸数 口数 内

男 三百四拾壱人

女 三百七拾人

必戸数五百七拾九軒(後筆)

右之通御座候以上 合弐千四百四拾弐人 女千弐百七十壱人男千千百七十壱人

副戸長 同 藤野権七郎 平沼徳四郎

(1) (1)

戸長 河合庄九郎 (1)

戸籍

御役所

〇両八木村牛馬取調帳

明治四年十月

八

木地区

(河合鋭治文書)

辛未十月 第拾区拾壱区

牛馬取調書上ヶ帳 明治四年

以書附奉申上候

一、馬 壱疋

高市郡八木村

七

一、馬 壱疋

同村 同村

か

8

政

吉

一、馬 壱疋荷付運送

(ママ)

一、馬 弐疋荷付運送 一、馬 四疋荷付運送

合拾弐疋

同村 同村

利

八

駒

十市郡北八木村

良 吉

右者区内村~牛馬飼主取 調 仕 候 処 書面之通ニ御座候

五三

間 此段奉書上候、 以上、

明治四年 辛未十月

高取御役所

戸長

河合庄九郎 (11)

明治五年十二月

O第十区·第十一区(八木附近)

(河合鋭治文書)

総計書上帳

明治五季 壬申二月

第十一区区内総計書上帳第 拾 区区内総計書上帳

高市郡

十市郡 村

三ヶ村

十市郡 ケ村

総戸数五百六拾九戸

村数四ヶ村

内

高市郡

総人員二千五百三拾九人

内 男千二百二十六人 女千三百拾三人

内

高市郡 千八百三拾四人 三百九十八戸

同郡

内

女九百四十三人男八百九十一人

十市郡 百七拾一戸

同郡 七百五人 内

右内訳左ニ 女三百七十人

農工商民

同人員 千三百五拾人 二百七十七戸 内

高市郡 二百九戸 女六百八十四人男六百六十人

内

同郡 千拾四人 内

女五百十人 男五百四人

十市郡 六拾八戸

同郡

三百三拾六人 内 女百七十四人

千百五拾五人 二百八拾五戸 内 **女六百十四人** 男五百四十一人

高市郡 百八拾四戸

内

同人員 雑業民

一五四

十市郡 同郡 百一戸 七百九拾六人 内 女四百二十四人

僧 七戸 同郡 三百五拾九人 内 女百九拾人

同人員 三拾人 内 内 高市郡 五戸 女十四人

十市郡 二戸 内 女八人

同郡

二拾人

盲人 同郡 四人 内 女男三人

右 高市郡

制札場 高市十市二郡両面 二ヶ村

高市郡

寺院 十二ヶ寺

内 高市郡 十市郡 三ヶ寺 九ヶ寺

八

木地区

拾人 内

女男 六四 人人

人力車 右 高市郡 二輪

郷蔵

二ヶ所

大八車 右 高市郡 四輪

十市郡 高市郡 三輪

輪

小車

五輪

高市郡 十市郡 二輪 三輪

筆学 二ヶ所 教授 生徒百八十三人 内 安七十七人 二人

高市 郡

内 壱ヶ所

十市郡

壱ヶ所

教授一人 生徒四十三人 内

生徒百四十人 教授一人 内 女五十五人 男八十五人

一 五 五

八

小荷駄馬 十三疋

内

高市郡 市郡

四疋 九疋

乗馬 疋

右 高市 郡

以上

右之通区内取調候処相違無御座候、 明治五年壬申二月

以上、

河合庄治郎

(11)

同 藤野権七郎 (1)

同 平沼徳四郎 1

戸長

河合庄九郎 (II)

高 御 取 庁

O魚屋渡世人身分引請証文

(平田寅之助文書)

明治五年三月

差入申引請証文之事

新口村治兵衛与申者、慥成実意之者二而、 私共入魂

ニいたし、 、

能承知仕候、

此者今度魚屋渡世致度存候ニ

付、 之候節者、 晦日払ニ無滞急度御勘定為致可申候、自然相滞候儀有 尤魚代金之儀者懸ヶ先不寄、不勝手杯一切不申、毎月 一身体品替有之候節者、 其許殿魚問屋被成有之候致度、合取引可下成度、 引請之私当人ゟ無遅滞急度皆済可仕候、万 跡相続之者候、 引請勘定仕、

引請証文差入依而如件、

其元殿迄決御検難御迷惑ヲ相懸ヶ申間敷候、

為後日之

明治五年

申三月日

十市郡新口村 十市郡新口村

引請人 箱屋高市郡八木村 竹 蔵

(1)

楢治郎

高市郡南八木村 魚屋 治 亚

(A)

十市郡北八木村 嘉重郎殿(平田氏)

一五六

前書之願ニ依テ左之鑑札ョ下附ニ相成候、

免余 第弐百六十号 第四大区十三小区 平田嘉重郎

八木村

魚市渡世

明治八年二月

〇明治四年以前十ケ年間貢米書上帳 明治五年五月

十ヶ年 貢米書上帳

北八木村 十市郡 大高取県附

十市郡

反別八町五畝三分

八

木 地

X

、戌米五十四石五斗 畑田 米米 弐拾石四年八合
三十四石九升弐合

、亥米四十四石六斗八升九合(文久三年)

畑田 米米 **弐十石四斗八合**

、子米三拾五石三斗三合

、 丑米五拾九石四斗五升八合(麼吃元年) 内 畑田 米米 **弐拾石四斗八合 拾四石六斗弐升五合**

内 畑田 米米 **弐拾石四斗八合 三十九石五升**

(河合鋭治文書)

、寅米四十九石七斗九合(慶応三年) 畑田 米米 **弐十石四斗八合**

、卯米三拾九石弐斗五升四合(慶応三年) 畑田 米米 弐十石四斗八合

辰米三拾四石八斗弐升八合(明治元年) **弐十石四斗弐升**

此高百三十九石壱斗六升三合 内壱石五年九合四夕

一五七

北八木村

畑田 米米

八 木 地 X

一、巳米四十 壱石九斗六升

· 午米五十三石三斗七升七合(明治三年) 畑田 米米 式十石四斗八合 古老石五斗五升弐合

、未米五十三石三斗七升七 畑田 米米 弐十石四斗八合 三拾弐石九斗六升九合

右之通 相違無御座候、 畑田 米米 弐十石四斗八合
弐十石四斗八合 以上、

十市郡北八木村

年寄 百姓惣代 松岡清五郎 平井作

明治五年 壬申五月

庄屋 " 平沼徳 河合吉三郎 四郎 四郎

庄屋 合庄 **九郎**

奈良県 御役所

同七円

五

拾

六銭

同九円六拾三銭五厘

`

明治六年 酉二月

申年小入用書上ヶ帳 高市郡一少区

八木村

申 夏小入用 覚

同 九拾 弐 銭 五. 厘

金拾円五拾六銭

八八厘

村と割合金掛リ高申七月元組合

同拾壱円八拾六銭七厘 駄賃金共 が 大年三歩 一上納金 拾六銭ツ、 松代人足廿弐人半壱人ニ付字南出水北堤普請ニ付 損合幷入目掛料共同年置米三拾石

弐銭四厘七毛替倉橋村忠平払普請杭代三百六本壱本ニ付字南出水普請幷川堤

合五十九度一度ニ七銭五厘ツ、付二十ケ度諸同ニ付十八ケ度都付中夕飯二十一ケ度御差紙用ニ但シ御出張之節当村兼吉入牢ニ土佐郷宿小間平払

同四円

应

I拾四

銭

五.八

〇八木町申年小入用書上ケ帳

明治六年二月

(天図近世文書)

同弐円拾三銭壱厘

紙縄代其外いろいろ

八木地区	一、同壱円弐拾六銭七厘	一、同弐円弐厘	一、同九拾銭五厘	一、同壱円拾弐銭五厘	一、同壱円五拾八銭五厘		一、同三拾三銭	一、同壱円三拾七銭	一、同八拾七銭五厘	一、同九拾四銭	一、同五拾九銭三厘	一、同七拾三銭五厘	一、同壱円八拾五銭	一、同三円拾弐銭
	入牢内飯代村方賄 同人奈良県庁 <i>ニ</i> 而	入牢中飯代村方賄当村兼吉土佐出張ニ而	十六ケ度賃銭〆土佐出張所ゟ差紙	両皇大神宮江前例之通備 伊勢幸福太夫取次ニ而	売り 外にかり付賃共 一一 がいます かいかり 付賃共 一 が のいます ライビット アンド	て人公旦/ロフ明ニニ 十男 に更奈良郷宿雑用	引合夫代 吉村喜三郎渡土佐行夫代幷諸方	土佐行夫代甚次郎渡	岡本花口払村方絵図面三通り代	油代倉孫払	幷通泉さらへ之節酒代共熊権払諸祭礼ニ付御神酒	大六かま中払紙弁いろいろ買物代	人足賃銭〆奈良茂払右門樋伏替ニ付	小房村木徳払字佃溜池門樋幷板代共
	一、同七拾銭四厘	一、同弐拾銭	一、同三拾弐銭	一、同廿五銭七厘	一、同壱円五拾銭	一、金三円九銭六厘	一、同三円拾弐銭五厘	一一会七円招戸銀七厘	17日合人鬼 17日常	日ない人目前	右之通相違無御座候、以	イ六拾九円九拾三銭八	一、同壱円拾壱銭五厘	一、同五円
一五九	油代 倉孫払 同断ニ付焼明	御神酒代熊権払 諸祭礼ニ付	壱円銭幣切替賃 申年初納金七拾	元土佐出張所納 五升七合弐夕四才代 未年二方米目溢	郷蔵番賃休蔵渡	郡中入用掛り	番人七平夫代	村用小使夫代清次郎	型/17/11/11/11/11/11/11/11/11/11/11/11/11/		主	厘	五ケ月分庄吉渡村内夜番賃	普請ニ付方ゟ助成元番人七平居屋敷

` ` ` 同四拾銭 同四 同壱 同八拾九銭 同四拾弐銭 同拾弐銭 同六拾八銭七厘 同壱円拾弐銭五厘 同六拾 同八拾 同壱円五拾三 同五拾銭三厘 同三拾七銭五 同拾銭四 拾五 円三 四 四 一拾五 銭 銭 厘 厘 銭 銭 代 清吉渡私御布令廻達箱ニツ **幷水引余内共上安渡** 南出水池水番賃 諸伺ニ付八ケ度中夕飯都合十八ケ度但シ御出張之節御差紙用ニ付十ケ度土佐郷宿小平払 **俵縄代共** 字南出水膳七夫代 奈良行諸入用 私小学校取設ニ付 膳七瓦代 久吉払御高札屋根披損 差紙賃銭イ土佐出張所幷芝村ゟ 弐斗弐升石ニ付三円十二銭五番人居屋敷預り米 夫代 甚次郎渡土佐行幷諸方引合 紙代弁いろいろ買物代 土佐行夫代中谷喜七渡 順村送人ニ付人足夫代 紙代釜忠払 炭代辰安払 厘 右之通相違無御座候、 明治六年 合テ百七円弐銭也 同壱円 同三円九拾壱銭四厘 壱円五拾四銭 同三円三拾銭五 同壱円五拾銭 酉一月 厘 以上、 高市郡 両境塚木代 本佐払 人足夫代幷杭板代共字佃溜池膳二付 但学校御願ニ付四日分夫代共奈良行雑用 友吉庄吉志な三人渡村内夜番賃 村方諸入用私学校取設ニ付 一小区八木村 組頭 一六〇 好 植 民谷吉良平 松山六三郎 小川平次郎 稲田吉重郎 藤野源次郎 平井直次郎

Ш 田 忠 喜 七 平

> (1) (A)

(A) (A) (A) (A) (A) (A)

副戸長 松村源三郎

同断 河合庄次郎 **(II**)

同断 寺 田 源 吾 (11)

同断 谷 孫 平 **(II**)

戸長 藤野権七郎 (EI)

奈良県令四条隆平殿

(河合鋭治文書)

O第十区·十一区銃砲弾薬取調帳

明治五年三月

明治五年壬申三月

銃砲幷弾薬取調書上帳

第拾区拾一区

以書附奉申上候

第拾区高市郡八木村

大小銃砲弁ニ弾薬類共商売致居候もの無御座候、

八木地区

、大小銃砲所持之もの、 右村ニ無御座候、

之もの左ミ

、大小銃砲丼ニ弾薬共商売之もの無御座、

尤銃砲所持

同郡小房村

、銃砲弐匁玉壱挺

同村 同村 矢野利三郎 植松徳 平

銃砲弐匁玉壱挺

同郡縄手村

、大小銃砲弁ニ弾薬類共商売之もの無御座、 尤銃砲所

持之もの左ニ

銃砲壱文目玉壱挺 同村

杉本吉平

銃砲壱文目五分壱挺 同村

今村清八

同村 竹村清治郎

銃砲弐文目玉壱挺

十市郡北八木村

一六

八木地 X

大小銃砲丼ニ弾薬類共商売致居候もの無御座候、

一、大小銃砲所持之もの右村ニ無御座候

右者当区内取調候処書面之通相違無御座候ニ付、

此段奉

申上候、以上、

明治五年壬申三月

戸長河合庄九郎 1

奈良県土佐出張所 御庁

〇神武陵遙拝の儀区内限リ布告

明治五年三月九日

(河合鋭治文書)

明後十一日、貫属士族卒民神武帝陵遙拝之儀、銘々住

所氏神社内ニおゐて取行ヒ可申事、

壬申三月九日

別紙之通第一区ノ戸長より区内限布告可致様申来リ、

依之明十一日其村々土産神におゐて遥拝ョいたし取行

候、以上、

ヒ可有之候事、

此廻状 至急順達戻リより 返脚可被成

一六二

北八木村

三月十日

戸長

河合庄九郎

印

即 八木村

印 即

小房村 匣

縄手村

村々庄屋中

〇八木一村限産物表

明治六年三月

(天図近世文書)

明治六年三月 村限産物表

第拾一大区高市郡一小区

第拾一大区高市郡一小区

村限産物表

現石

_ 米五百五拾石

八木地区	一、胡麻壱石五斗	一、豌豆三石五斗	一、唐黍八斗	弐拾丸	为 拾丸	一、煙草 三拾丸 但シ壱丸	一、菜種七拾五石	一、実綿三千六百斥	一、粟壱石五斗	一、小豆五石	一、大豆弐拾石	一、空豆拾五石	一、小麦八石	一、麦八拾石	一、糯米拾三石五斗	同弐百五拾石	内 米三百石
	自用費消	同断	自用費消	自国売物	自用費消	但シ壱丸ニ付目方六貫目	自国売物	同断	同断	同断	同断	同断	同断	同断	自用費消	自国売物	自用費消
	一、柿三駄	一、梅五駄	一、野芋三拾駄	一、午房壱駄	一、菜七百貫目	一、葱三百五拾/目	一、蕪五拾/目	一、水菜弐百五拾〆目	一、大根百駄	一、干瓢五拾〆目	一、南京瓜六百/目	一、西瓜五拾玉	一、真桑瓜百廿/目	一、白瓜百弐拾/目	一、胡瓜六百/目	一、茄子千弐百貫目	一、大角豆壱石壱斗
一六三	同断	同断	自用費消	同断	同断	同断	同断	同断	同断	同断	同断	同断	自用費消	同断	同断	同断	同断

一、刻煙草弐拾駄	一、蠟燭千五百斥	一、種粕四百駄	三拾石	内 百三拾石	一、油百六拾石		百二十石	三拾石	一、醬油百五十石	一、焼酎拾六石	一、酒五百六拾石	壱万四千弐百疋	八百疋	一、木綿壱万五千疋	一、竹五拾駄	一、棗壱駄	八木地区
	同断	自国売物	他国出輸	自国売物		自用費消	自国売物	自用費消	同断	同断	自国売物	他国出輸	自国売物		同断	同断	
り 治 ラ 全 三 チー 一 日	(名) 申禺麦趸册入礼払下覚写		奈良県令四条隆平殿	三月	明治六年	座候也、	右之通一村限、壬申一		一、□三十羽	(豬ヵ) 一 、 狗十疋	一、鶏五十羽	一、雨合羽	一、傘五百本	拾七駄	为 三駄	
\(\begin{align*} \text{Cont.} \	(喜乡情文藝)	4下笔字		<u></u>	戸長 藤野権七郎 @	副戸長 河合庄次郎 @		壬申一ヶ年取詞候処、書面之通相違無御	(調)同断	同断	同断	自飼	自国売物	自国売物	他国売出輪	自国売物	一六四

高市郡神武天皇御陵、 外廻り丸木棚新規御繕ニ付、 在来

之丸木柵一、杉古木三千三百五本、右之通今般入札ヲ以 御払下ヶ相成候条、望之者ハ精々入札いたし、 其村々戸

長手許被取集、来ル十七日迄之内租税課被持参届ヶ出候

明治六年三月十一日

也

奈良県令四条隆平

八木村正副戸長中

〇八木町人力車小車所持御願 (天図近世文書)

乍恐御願奉申上候

明治六年三月

人力車小車御願 高市郡一小区八木村

今般人力車小車左

人力車弐輌

辻本利三郎

八木地区

人力車壱輌

吉村源七

(A)

奈良県令四条隆平殿

〇開路用度掛リ御免願状

明治六年八月五日

(河合鋭治文書)

乍恐奉願上候

開路用度掛り御免役御願 河合や十市郡北八木村

河合庄九郎

私儀

御蔭を以開路用度掛リ奉拝命、

乍不調法御用相勤来リ候

/ 三輌

、小車壱輌

新田徳平

尤御税月々可奉御上納候間、 右之通新規所持仕度奉存候間、 何卒右之趣御聞届被成下候 **乍恐此段御願奉申上候、**

、難有奉存候、以上、

明治六年三月

高市郡一小区八木村 副戸長 河合庄次郎

戸長

(1)

藤野権七郎 (11)

一六六

八木村

竹内源治

御

より今一段万相勤旨御説諭ニ預リ、 付 処、 已ニテ、 過日書面を以右役儀御差許奉願上候処、 深奉恐入候得共、私共人少ニ相暮シ殊ニ家族ハ女而 実心御大切之御用欠勤仕候段種々奉 恐 縮 重々難有奉存候、 開路御掛 候 再 ij

成下度、此段幾重ニも縋而御願奉申上候、以上、

応奉願上候儀恐多奉存候得共、

開路用度掛り御免許被為

明治六年酉八月五日

(ワリ印)

有 河合庄九郎 **(1)**

書面出願之情実無拠相聞候得共、開路開業以来之手続モ(朱書) 有之ニ付、 郡令難聞届候、 家事情之 取締早々 出願可致

八月廿日

事

奈良県

勧業所 (H)

〇牛肉売捌御願許状

(明治六年十一月二十日)

(天図近世文書)

奈良県令四条隆平殿

O 魚市引続営業御願

魚市売御願

(明治初期

(平田寅之助文書

私儀先年ョリ魚市売営業罷在候処、今般更ニ営業之儀可

右是迄之通リ営業仕度候間御差

許之儀奉願上候、 以上 願出御沙汰ニ相成奉畏、

先般牛肉売捌願書差出シ置候ニ付、許可ニ相成候間、 鑑札弁許可書共下ケ渡候間、 印形持参、 午前十二時罷出

癸酉十一月廿日(明治六年力)

候事、

十三小区 戸長役所(藤野)

右村

役人中

第四大区十三小区

十市郡八木村 三百四拾三番屋敷

第二条

、 合村ノ上集会場設置後ノ経費 朝一村費ニテ仮令ハ筆墨

云フ 而已ニ限リ、十分九戸数割、十分一地価金割議費ヲ而已ニ限リ、十分九戸数割、十分一地価金割

会議所 御領県

平田嘉重郎

O南八木村·北八木村合村契約証

明治十三年十一月二十二日

(河合鋭治文書)

合村ニ村南北契約証

合村ニ付南北契約証

第一条

一、今般南北合併出願スル上ハ、期ヲ待テ採用ノアル者 トス、然ラハ合村ノ上ノ経費支弁方契約不得不為、(ママ) 故

ニ左ノ条款ニ倚テ取扱可申筈也、

八木地

X

附ス者トス、

第三条

、従前南北区別ノ間ニ経費分明ノ分アル時ハ、双方適 宜ニ支弁致来候ニ付、 爾後ト雖モ、 道路水利ハ勿論

旧習慣ニ依テ取扱フ事、

第四条

、郡役所課出学費人員戸数割、 其他地価ノ分ハ、 都テ

従前之通可致事、

第五条

、従来村方貯蓄金ノ儀ハ、 南方ハ南方ニ適宜、 北方ハ

北方ニ適宜ニ可致候事、

合併行届候上ハ、 前条件之通這般森村庄一郎殿取扱ニテ、両村一統立会、 ノ良法取設候節ハ、村方一統協議ヲ遂ケ、 箇条ノ旨趣違約等決而無之筈、 熟決ノ上施行 若新規

可致、 依テ契約為取換致候也、

明治十三年十一月二十日

十市郡北八木村組頭

岡本弥三郎

(I)

平田嘉十郎 (I)

松山忠二郎 **(1)**

河合小三郎 (A)

太田又市郎 **(II**)

河合庄三郎

印仕、此段御断申上候本日不在二付帰村之上開

(貼紙)

平井作四郎 (II)

河合又治郎 (II)

松岡清五郎 **(1)**

右村総代

平沼徳四郎 (II)

河合小七郎 (E)

高市郡醍醐村

取扱人 森村庄一郎

(1)

前書之通、両村合併ノ協議熟決ニ拠リ、 双方契約為取換

候条件、相違無之三付加奥判候也、

明治十三年十一月廿二日

戸長 柴田嘉一郎

沢 田 利 印 印

O高市郡八木村村誌 明治十五年五月

(旧八木町役場文書)

誌

村

大和国高市郡

角 木 村

村

誌

大和国高市郡八木村

本村古時ョリ高市郡ニ属シ、 中古以来、 郷名廃シタレハ何レ 遊部郷ニ属ス、 ノ郷ニ属スルヲ詳ナラ 然レトモ

ス、又他村ト分合ヲ為サス、按スル玉林抄ニ聖徳太子

高市郡 八木村御中

一六八

通フ云々、又延喜式国分寺料一万束ノ云々、此村タル斑鳩宮ヨリ斜ニ曽我橋ヲ渡リ、八木ノ里ヲ過テ橘宮ニ

疆域

ヲ知ル可シ

ŀ 道畑丼ニ飛鳥川中央ヲ以テ界ス、 東 地池塘ヲ以テ、 飛鳥川中央ヲ以テ界ス、北ハ十市郡 ハ同郡醍醐村ト井路ヲ以テ堺シ、 小房村ト道ヲ以テ、 南 四条新町、 西ハ同郡今井町 ハ 内膳村、 同 郡縄手村 北八木 今井町 ŀ 耕

幅員

村

木原村ト道路中央ヲ以テ接続ス

東西八町拾間、南北六町五拾間 面積詳ナラス

管轄沿革

テ同氏土地奉還ノ後ニ及ヒテ奈良県ノ管内トナル、時頃ス、其子政武家督相続、寛永十七年二月故領地被召頒ス、其子政武家督相続、寛永十七年二月故領地被召然事が一次の政策を開始の、戦ナクシテ淡天正年中、脇阪中務少輔安治之ヲ領ス、戦ナクシテ淡

八

木地

区

管轄トナル、同拾四年一月ニ至リテ更ニ大阪府ノ統轄ニ明治五年十月ナリ、又明治九年五月ニ至リテ堺県ノ

トナル

里程

標柱マテ八町三間、南ハ小房村標柱マテ七町、北ハ北拾八町、四隣東ハ山坊村標柱マテ拾壱町、西ハ小綱村大阪府庁ヨリ東南拾弐里廿八町、御処郡役所マテ弐里

八木村標柱マテ壱町三

一拾間

地勢

当リテ川アリ飛鳥川ト云フ、 郡ニ接ス、地平坦田畝広濶耕作便ヲ得、 立セリ、 山 日本風土記ニ日ク平城旧都ヨリ金峯山下ニ至ル、 ニシテ香久山ハ其東南ニ当ル、此三山皆平田 ヲ大和三山ト謂フト、本村其三山ノ中間ニアリ、 平陸其間唯畝傍山、 ハ村ノ東北七町計ニアリ、 其他近キハ山ヲ見ス、 耳成山、 中央ニ当リテ人家アリ、 畝火山ハ西南拾七町計 香久山アル 本村高市郡 村 ノミ、 ノ極北十市 西南界ニ ノ中 故ニ是 浩々 耳 = 特 成 ij

一六九

北八木ヲ合セテ八木駅ト為シ、 瓦屋稠密、 商業繁盛実

ニ本郡 ノ都会トス、 人家中ヲ南北ニ 貫通 ス ル 道アリ、

是 V ヲ奈良ョリ 紀州ニ通 スル街道ト - ス故、 運輸便ヲ得

地 味

ナ ij

テ車馬

洛

然

V

١

E

Ш

ヲ

去

ル

遠

ケレ

ハ薪炭常ニ□乏

土 |壌黒ニシテ少シク砂ヲ混 風 土記ニ 日ク土地中肥 民用少カラス、 ス ル 1 1 1 シ テ、 漆松柏 極力強 行ヲ

然レト 適シ桑茶ニ宜シカラス、 モ方今漆松柏竹等ハ敢テ生セス、 希ニ綿煙草ヲ作 唯五 ル

榖 出

ノミニ

「スト、

水 土 無 地膏腴ナルヲ以テ収穫 ク概シ テ | 雨露 1 出 水ヲ以テ田 ノ利多シ、 1 灌 用 漑ヲ為ス 水ハ 頼 Δ 可 1 キ 河

税地

九畝拾歩 弐拾壱町四反

畑

七步大町六反八畝

社 地 三畝歩

宅 田

三町三反歩 三町三反歩 藪

池

五反壱歩

墓

地

六畝廿歩

地

方税

金五百拾三円

地 地

壱町五畝八歩

総計 但 旧檢反別 三拾三町三反弐畝四

畑荒 地 三畝壱歩 地 廿四步五町四反五畝 廿九 七 九 歩 畝

宅 田

社 畑 地 荒

四步四反弐畝 地式町六反

池 三畝拾三歩

弐反九歩

拾壱 を を 大 敢 三歩壱反七畝壱歩

墓地

寺

総計 但 明治八年新検反別 三拾八町壱反五畝八歩

貢租

地租 金米 百六拾三円三拾七銭八厘四拾五石八斗八合九夕九絲

租 但 金百三拾六円五銭七 明治九年一 月 日 調

地

但 明治十四年 月 日 調

税 但 金六百四拾弐円八拾四 明治十二年度調

七〇

但 明治十三年度調

総計 千三百壱円八拾九銭七厘

寺三戸 本籍 平民二百六十二戸士族六戸 五字 総拾三字 真宗五字 社 浄土宗 村社壱座 末社四座

総計 弐百七拾弐戸

男五百四拾六口 平民五百三拾九口士族七口

女五百七拾口

千百拾六口 平民四百九十九口士族八口 男四人、女二人他出寄留 六人

他入寄留弐拾四口 男拾壱人、女拾三人

明治九年一月一日調

牛馬

牡馬壱頭

但 明治九年一 月一 日調

舟車

牛馬壱輌 人力車卅弐輌

八木地

区

Ш

荷車

廿四

輌

小大 車八 車

廿四 輌輌

飛鳥川 村ノ東南新町小房両村ノ間字墓ノ東ョリ来リ、本村 五拾七

用水ヲ為サス リテ北方ニ向ヒテ流ル、 其長サ拾弐町拾四間半、 巾三間田ノ ト新町今井両村ノ間ヲ流レ、村ノ西南ニ来リ、又曲

坪ニ至ル、其間長サ三百弐拾間、巾四尺田ノ用水ヲ為サス 四金田川 リ、北方ニ向ヒ田中ヲ貫キ、北八木村ノ界字十ノ村ノ南方縄手村ノ界字佃ヨリ来リ、佃池ノ傍ヲ周

道路

ル往還トス、当村ト内膳村、北八木村、木原村ノ間ヲ通ス、北界ニ当リテ、東西ニ通スル往還アリ、大坂ョリ伊賀ニ通ス 長サ四百十五間巾二間、又村ノ中間ヨリ西方ニ向ヒ神武陵ニ 通スル往還アリ、 人家ノ内ョリ今井界ニ至ル、 長サ三百三拾 ヒ北八木村ノ界ニ至ル、其間長サ四百弐十間、巾弐間、村ノ 西京ヨリ高野街道 県道三等ニ属ス、村ノ南方小房村ノ界 ョリ来リ、人家ノ中間ヲ貫キ北方ニ向

掲示場 人家ノ中央ニアリ

寺社

春日社 中松槻等アリ 村ノ中央ノ西方ニアリ、村社々地東西三拾三間、 祭神天津児屋根命ヲ、社地南北廿五間、面積六百九坪

八木地区

ナリ ニ日ク、 国分寺 南八木村ニアリ、 ノ西方ニアリ浄土宗西京知恩院ノ末派ナリ、大和志東西廿五間、南北拾七間、面積四百三十九坪、人家 延喜式ニ日、国分寺料一万束印此

西福寺 立中興等詳ナラス 寺ノ東北ニアリ、西京真宗西本願寺ノ末派ナリ、建東西拾五間、南北拾弐間、面積二百三十五坪、国分

金台寺 東西十二間、東北十二間五歩面積百四十二坪、 寺ノ北方ニアリ、真宗西京西本願寺ノ末派ナリ 国分

学校

品寺村、木原村ナリ、其生徒総員百九拾人内男九拾人、女百 公立小学校 女六拾五人、其聯合村、北八木村、内膳村、上村ノ西方国分寺内ニアリ、本村生徒男五拾人、

郵便局

四等郵便局 村ノ (文章切レ)

民業

男 商業甚タ盛ンニシテ皆商売ヲ業トス、希ニ農業ヲ事トス レトモ商業ノ余暇ノミ

女 布織又ハ紡績ヲ業トス、其他又裁縫等ヲ事トスル ノミ

右書面之通ニ御座候也

明治十五年五月

右村田掛 松山六三郎

(1)

〇十市郡北八木村村誌

同

戸長 民谷吉次郎

松村源三郎

(1)

同

七二

明治十五年六月

(旧八木町役場文書)

村 誌 大和国十市郡 北八木村

村

大和国十市郡北八木村

誌

本村本村ハ高市郡八木村ニ接続シ、其北方ニアルヲ以 テ、北八木村ト称ス、 素ョリ十市郡ニ属シ他村ト分合

ヲ為サス

疆域

東 ハ 同 郡 木 原村 ኑ -道及ヒ 田 畔 ヲ以テ界ト シ、 西 ハ 道又

市郡 八木村ト新街道中央ヲ以テ界ト シ、 北ハ東方 = テ

__ ーテ当 郡 新賀村ト 通井或ハ 道等ヲ界ト ス

通

并

ヲ以テ界シ、

同 国高市

郡

醍

醐

村

雅

地

=

隣

シ

西

方

元

通

井等ヲ以テ界シ、

同

郡

内膳

村

=

隣

り、

南

ハ

同

玉

高

壱里

町

奈良治安裁判

所

Ξ

IJ

南方五

里弐拾

拾

隣

同

国 元

> 八木村 西

幅 員

東 一一三 町 Ł 間 南 北四町弐拾壱間、 面積不詳

管轄沿 重

臣秀吉卿 ノ弟秀長任国 時、 之ヲ領ス、 天正年 中

ル 中 務 同年 莎 輔 3 脇阪安治之ヲ領 IJ 本多氏之ヲ領ス、 シ、 明年 其後、 同氏淡州 寛永十七年 須 本 = 植 移

乜 ノ後、 植村氏封土ヲ返上シ、 明 7治四辛 *未年年 \exists 1)

村氏

7代リテ之ヲ領セシ

力、

明治維

新徳川氏

大政

グヲ奉

還

ナ 奈良県管轄タリシ Í, 同 + 应 辛巳年又更ニ大阪府 力、 同 九两子年 <u>۔</u> 至り 統 轄 堺 ŀ 県 ナ ル 所

里程

大阪 府庁 \exists IJ 東 南拾弐里 八 町 \equiv 輪 郡 役 所 3 IJ 西

方

弐五 畝町

六步反

八

木

地

X

標 内 膳村元標へ 東隣同郡山 町拾弐間、 八町弐拾三 ノ坊村元標 北隣当 間 郡上品寺 拾弐町 南隣

村 同 Ŧ.

標 高 \equiv 市 間

拾壱 郡

町

郡 町

地勢

間

四

Ի

E 面 Щ 亚 ヺ去ル遠 坦 ニシ テ、 クシ 中 テ、 央ニ 中街道ヲ貫帯 薪炭乏シ ジ、 運 輸 便ナレ

地 味

テ、 其 色薄 時 黒 々旱ニ苦シム、 其質中等稲 架 而シテ、 = 宜 シ 又水害ノ憂アリ、 水利 甚 タ 不 便 =

シ

税地

畑

八六 歩 気 献

宅 地 弐五 畝町 三八 八弐 前町 八弐 前町 八五 弐四 八五 八八 八式 廿四 八五 弐四 八反 歩反 歩反 歩

1

轄

ŀ

総 計

但 旧検 反 別

畑

畝

七三

八 木 地

宅地 総 六畝 八歩 八歩 万 大町 三 反 四畝 廿七 歩

但 明治八年 新検反別

貢租

地租 賦金 五拾銭壱厘弐百三拾八円 九拾壱銭四厘金弐百拾円

総計 四拾壱銭五厘金四百四拾九円

地租 明治九年一月一

但

日調

国税 三厘 八拾壱円

総計

地方税

拾弐銭三厘 -四年

地租 明治十

国税

地方税

明治十三年

- 度調 日 調

月

戸数

本籍 百八拾壱戸 平民

弐戸

真宗武字

社 壱戸 式外村社

> 総計 百八拾四戸

> > 七四

但 明治九年 月一 日 調

平民

男四百四口

女四百六拾八口

平民

人数

八百七拾弐口 無内 之 外 寄留

総計

但 同上

牛馬

牡馬 八匹

但 同上

舟車

総計 拾四輌 人力車

七輌

荷車

七 輌

小車

但 同上

JII

字土手堀溝 同郡内膳村地内ニ入ル、長弐町弐拾三間、巾壱字土手堀溝 村ノ東方字風呂尻ニ起リ、西北字戒町ニ至リ、 入ル、長三町弐間、巾五尺隣村ノ用水引ニシテ、又本村ノ用 字東川溝 水ニ供シ悪水ヲ瀉下セス り流レ北方字六ノ坪ニ至り、十市郡新賀村地内ニ村ノ東南字駿河町ニテ、同国高市郡八木村地内ヨ

間壱尺二寸村ノ悪水ヲ瀉下ス

壱町、 字堺町溝 巾壱間壱尺弐寸村ノ悪水ヲ瀉下ス 北ニ流レ字戒町ニ至リ、同郡内膳村地内ニ入ル長村ノ西南字堺町ニテ、同国高市郡八木村地内ヨリ

道路

間 中街道 巾弐間、馬踏敷同シ 村ノ中央ヲ貫キ北方当郡新賀村界ニ至ル、長三町七三等道路ニ属ス、村ノ南方同国高市郡八木村境ヨリ

新街道 村ニ属ス問長四町二十一間、 三等道路ニ属ス、村ノ南方高市郡八木村境ニアリ、 東南当郡木原村界ョリ西南同郡内膳村界ニ至ル、其 巾二間馬踏敷同シ、 中央ヨリ高市郡八木

社

ヲ祭ル 重事代主神ヲ祭ル、祭日九月廿六日、 恵比須神社 尺四寸、面積百八十坪、村ノ西方続ニアリ、八式外村社々地東西十六間三尺六寸、南北十間五 末社稲荷神祠宇迦御魂

寺

明教寺 其後衰微セシヲ以テ、永正二乙丑年八月二十六日 僧万正更ニ リ、康安元辛丑年三月廿日僧鈴木政盛入道賢信開基創建ス、 七坪、真宗西京與正寺ノ末派ナリ、村ノ東南ニア東西十三間壱尺八寸、南北十四間六寸、面積百八十

十八坪、真宗西京本願寺ノ末派ナリ、村ノ西方続キ東西三十七間三尺、南北七間四尺二寸、面積二百八

シテ中興ス

廿三日僧万有中興ス ニアリ、開基創建不詳ニシテ衰微セシヲ 寛永十八辛巳年八月

学校

人民共立小学校 徒男三十五人、女四十人村ノ南方八木小学ニ聯合セリ、

本村ノ生

明治九年一月一日調

村会所 但 方続キニアリ東西三間、南北六間三尺、 面積拾九坪五合、

村ノ西

但 明治十四年一月一日 調

物産 植物 本村ニテ消費ス 米三拾石 麦三拾五石 菜種拾四石

草綿千斤

飲食 酒百六十壱石五斗八升 隣村ニ販売ス

民業

男 手稼ヲ業トスルモノ五十壱戸 農ヲ業トスルモノ二十戸、商売ヲ業トスルモノ百十戸、

女 右之通御座候以上 縫織紡績等ヲ業トスルモノ五十人

明治十五年六月

大和国十市郡北八木村

河合庄九郎 **(1)**

Л 木地区

八木地 区

O南北八木村合併規約

明治二十一年十月

(河合鋭治文書)

両村合併規約

両村合併規約

第壱条 今般南北八木村合併示談行届上願採可ノ上ハ左

第六条

ノ条款ニ依テ取扱可申候事

但シ町村制明治廿弐年実施後ノ事

地池敷及ヒ飛鳥川其他堤防道路水利旧習慣ニ依

従前南北区分ノ間ニ經費分明ノ分及ヒ共有耕宅

第弐条

リ取扱候事

第参条 地方税雑種税ハ町村制 ノ法則ニ照準スル事

如件

但シ学校費ノ義ハ町村制実施ノ上更ニ取定メル事

第四条

旧壱村限リ内費ハ従前ノ通リ別途収支スル事

ル 事 第五条

両村ニ関スル会議上ニ就テハ議員全数ニ撰定ス

一七六

但シ町村制議員ノ数ハ町村確定ノ上至当ノ配置ニス

仮令ハ小房村ヲ合併スル片ハ八木町四名北八木 村弐名小房村弐名トス而メ町村数箇ニ渉ルキハ

更ニ配置ノ協議スル事

又両村ニ限ル片ハ各村四名宛トス若シ行レサル

片ハ前ニ其部合ヲ取定メル事 又聯合村他村ニ渉ル片ハ更ニ示談ヲ改正スル事

従来村方貯蓄金ノ義ハ南方ハ南方ノ適宜北方ハ

北方ノ適宜ニ可致事

第七条 両村宅田畑等級ノ義ハ混雑不致様注意スル 事

合村ノ上ハ普通ニ及ホス事件ハ成可ク両村熟談

第八条

ノ上執行スル事

前条件這回森村庄市郎取扱ニテ両村議員立会盟約スル事

大和国十市郡北八木村 村会議員 平田嘉重郎

明治廿壱年十月日

岡本弥五郎 河 河合庄三郎 岡本丈蔵 河合小三郎 松岡清五郎 合

(A)

鈴木諦 平沼徳四郎

> (I) (E)

長倉直治郎 (EI) **(II)**

同国高市郡八木村 村会議員 河合庄治郎 **(1)**

応川利八 藤野権七郎 (II) **(1)**

福島芳治郎 新治郎 (11) (1)

第弐条

谷

藤野 稲田吉重郎 蔵 **(1)** (A)

中川弥三郎 (1)

山田太三郎 Ш 忠 **(A)**

好

久吉 (A) (II) O南北八木村·小房村合併規約

(A)

明治二十三年一月六日

(河合鋭治文書)

(FI)

三ケ村合併規約

三ケ村合併規約

第壱条

今般南北八木村及小房村ノ三ケ村合併示談行届 採可ノ旨左ノ条款ニ依テ取扱可申候事

但シ町村制明治廿弐年実施後ノ事

取扱ノ事

地池敷及飛鳥川其他堤坊道路水利旧習慣ニ依り(ママ) 従前三ケ村区分ノ間ニ経費分明ノ分及共有耕宅

第参条 地方税雑種税ハ町村制ノ法則ニ照準スル事

第四条 旧壱村限リ内費ハ従前ノ通リ別途収支スル事 但シ学校費ノ義ハ町村制実施ノ上更ニ取定メル事

一七七

第五条 三ケ村ニ関スル会議上ニ就テ左 ノ如ク議員配当

撰定スル事

但シ町村確定ノ上町村制議員全数ノ四分ノニハ八木 村ョリ撰出シ小房村及北八木村ハ各全数ノ四分

ノーヲ撰出スル事

仮令ハ町村制議員全数十二名ナルドハ八木村ヨ

リ六名北八木ョリ三名小房村ョリ三名ヲ撰出ス

ル事

第六条 従来村方貯蓄金ノ義ハ三ケ村各適宜ニ可致事

第七条 三ケ村宅田畑等級ノ義ハ混雑不致様注意スル事

第八条 合村ノ上ハ普通ニ及ボス事件ハ可成的三ケ村熟

談ノ上執行スル事

前条件這回森村荘市郎取扱ニテ三ケ村議員立会盟約ス

ル 事如件

大和国高市郡八木村

村会議員

河合荘治郎 (

明治廿壱年拾月五日

藤野権七郎

谷

新治郎

(1) (II)

> 応 中川弥三郎 稲田吉重郎 福島芳治郎 Ш 野 利 菊 蔵 八

> > (A) 1 (1)

一七八

(1)

山田太三郎 (1)

好 Ш 忠 (1)

大和国十市郡北八木村 村会議員

河

平田嘉重

郎

(A)

合 1 久吉

松岡清五 郎 (11)

河合小三郎 (FI)

本丈 蔵 (FI)

岡

河合莊三郎 (I)

岡本弥五 郎 1

平沼徳四郎 (A)

鈴 木 諦 順 (A)

長倉直次郎 (FI)

村会議員同国高市郡小房村

八木 地 区 〇三ヶ村合併、

明治二十三年一月六日 八木町造成盟約書

明治廿三年一年六日

볦

約

書

(河合鋭治文書)

恒 松 亚

> 盟 約

藤岡敬次郎 (1)

安田太四郎 (II) (A)

平 吉 井(ゴ) 長 平 請力西 尾為 吉 (II) (1)

> 以テ、協議ノ上今ノ大字八木北八木及ヒ小房ヲ合併シ ニテハ致底法律上ノ義務ヲ負担スルノ資力ニ乏シキヲ

明治廿二年四月一日ヨリ町村制実施ニ付、

旧村区域

ョリ旧町村ノ財産及営造物ノ使用幷ニ建築修繕費等ハ 一ノ自治区、則チ八木町ヲ造成シタルモノニシテ、固

森田源三郎 田 由 (II) (1)

伊 松 (FI)

木 松

村 田

治廿一年十月五日合併熟議之際、数ケ条ノ規約ヲ締結 各々従前之固襲ニ依リ其大字限リ、依然保守負担スベ シ、其条款ノ趣旨ニョリ理治執行スヘキ筈ニ付、今茲 キ筈ニ付、将来互ニ紛雑ノ弊ナカラシメンヲ慮リ、

明

二為取替証書如件 規約条款ハ飽迄固守スベキ筈ニ候、 ヿニ決定セリ、 ニ撰定シ、 域僅少ナルヲ以テ認可不相成、 ニ区長ヲ撰定シ其理治ヲ為サシメント相謀リシモ、区 町役町ニ於テ区分相立ヲ自治制ヲ執行スル 然ル上ハ明治廿一年十月五日ニ成 依テ常設委員ヲ各大字 依テ再ヒ盟約ヲ互 タル

一七九

高市郡八木町大字八木

町会議員 河合庄治郎

(11)

藤野権七郎 (11)

民谷吉治郎 (11)

明治廿三年一月六日

松村源三郎 (A)

新治郎 (A)

欠員

同郡同町大字小房 町会議員 安田太四郎

松 徳平 (II)

藤岡敬治郎 (I)

高市郡八木町大字北八木

平田嘉重郎殿

岡本丈蔵殿

町会議員 河合久吉殿

(平田寅之助文書)

〇高市郡役所へ建物譲与謝状

明治三十年四月二十三日

曩ニ本郡役所当町ニ設置ノ際其庁舎ニ充ツヘキ家屋ナク

〇内膳村文禄検地帳 (内膳)

文禄四年九月

(天図近世文書)

文禄四年

和州十市郡内膳村御検地帳〔本帳〕 九月日

増田右衛門打口

居候建物ヲ原価ニテ譲与セラレ幸ニ同庁舎ニ充テ本町ニ 設置スルコヲ得今日在ルニ至リタルハ全ク本町ヲ愛撫シ シテ全町民カ殆ント困鳴セシ時ニ在テ曽テ計画起工相成

一八〇

決議ニ拠リ聊カ謝詞ヲ呈候敬白

公共事業ニ熱哀セラレタルノ結果ナリト確信ス爰ニ町会(ママ)

明治三十年四月二十三日

平田嘉十郎殿 八木町長榊原亨

(米末尾集計ノミ)

上田 壱石六斗代

拾弐町六反拾三歩 分米弐百壱石六斗七升

中田 壱石四斗代

下田 壱石三斗代

弐町四畝拾三歩

分米弐拾七石六斗壱升

下々田 壱石壱斗代 弐町五反六畝四歩 分米弐拾九石四斗四升

下田久荒 石代

壱町六反拾七歩

分米拾七石弐斗六升

三反四畝拾九歩 分米三石四斗壱升

上畠 壱石弐斗代

六町壱反壱畝弐拾五歩 分米七拾三石四斗弐升

中畠 石代

三反六畝五歩 分米三石六斗壱升

下畠 八斗代

壱町壱反七畝三歩 分米九石三斗九升

下々畠 六斗代

八木地区

九反壱畝弐拾壱歩 分米五石五斗弐升

弐拾七町五反拾歩 六畝拾歩 分米三百七拾二石九升 分米七斗六升

居屋敷

田畠合

此外先高に内三石八斗八升高市郡へ入

以上

文禄四年九月日

此数五拾壱枚之内墨付四拾九枚也 佐伯彦兵衛

(花押)

庄屋源四郎 きもいり藤七

たうひやう藤五郎 ミヤのうは

〇内膳村水帳割

慶長十八年十二月十三日

慶長十八丑年

和州十市郡内膳通水帳割 给木権佐殿方 十二月十三日

八一

(上田宗司文書)

(表紙)

八二

	上同自	上同田	上同自	上高田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	i I	上同田	1 上同	上同自	上かなやり		上同田	上同田田	下局	可 下神 田 木
	壱畝拾歩	七畝拾歩	壱畝五歩	六畝弐拾歩		壱反八畝拾八歩	八畝八歩	弐畝八歩	四畝弐拾九歩		三畝拾五歩	八畝拾歩	九畝拾八歩	八畝八歩
	壱斗六升	壱石壱斗七升	壱斗四升	壱石三斗七合		弐石九斗七升六合	壱石三斗七合	弐斗七升弐合	七斗九升五合		五斗六升	壱石壱斗六升三合	七斗六升七合	壱石五升四勺
<u></u>	孫右衛門	同人	又 四 郎	善五郎	<u></u>	助次郎	源次郎	孫次郎	藤次郎	<u></u>	今 若	孫右衛門	弥六	弥 五 郎
	中同	上同	上同	上同]	上同	上同自	上局用畠	引上同 自	ij	上同	上同	下上へ 自	: 下同 : 田
				上畠 壱畝弐拾歩]	上島 弐拾四歩	上畠 四畝弐拾八歩	上畠 四畝五歩	月 皇 三畝拾七歩	Ī			下畠 七畝拾弐歩	下田 壱反拾五歩同
	畠	畠 壱畝	島 壱畝弐拾七	畠 壱畝弐拾		岛 弐拾四	畠 四畝弐拾八	^田 畠 四畝五	畠 三畝拾七	司	畠 八畝八	畠 四畝三	畠 七畝拾弐	田 壱反拾五

	F	上同	上同	司 上	同 上I 田	司	上からく	· 上同 ! 田	7 下○畠	3 上同 田	1	上同田	」上下 四畠く	上局	記上同 畠
八木地区		壱畝三歩	拾八步	九畝拾弐歩	八畝拾三歩		拾六歩	八畝弐拾四歩	九畝弐拾六歩	壱反七畝三歩		八畝七歩	壱反弐畝四歩	弐畝	弐畝拾歩
		壱斗三升弐合	七升弐合	壱石四斗九升五合	壱石三斗四升九合		六升四合	壱石四斗八合	壱石八升五合	弐石七斗三升四合		壱石三斗壱升七合	壱石弐斗九升六合	弐 斗四升	弐 斗八升
		孫九	同人	弥六	同人		六郎四郎	又 四 郎	源三郎	六郎四郎	<u></u>	左近五郎	甚六	六郎四郎	助六
		上ふなた	中同田	中同自	下同畠		上畠からすた	上同島	下同く畠	上同自		下同田] 下同 自	上岸自	l 上や 田とく た
		拾步	九畝	拾五歩	弐畝五歩		五畝拾七歩	六畝拾弐歩	三畝拾八歩	九歩		八畝拾弐歩	弐畝拾七歩	弐拾歩	七畝弐拾六歩
一八三		三斗三合四勺	壱石弐斗六升	四升九合	弐斗弐合.		六斗六升八合	七斗六升八合	弐斗壱升六合	三升六合		壱石九升三合	弐斗四合	八升	壱石弐斗五升九合
		志	弥	次	左衛門		源	志ゆんも	藤	藤		甚	源	同	甚

上同田	上同自	上同	上八田屋田	<u> </u>	中同田	上やないた	上同自	中同田		下同田	中同田	上同自	上同自	
八畝拾歩	九畝六歩	弐拾壱歩	七畝拾歩		壱反壱畝	壱反壱畝六歩	四畝	四畝拾弐歩		三畝三歩	壱反八畝弐拾歩	弐畝弐拾四歩	七歩	八木地区
壱石三斗三升三合	壱石壱斗四合	八升七合	壱石壱斗七升四合		壱石五斗四升	壱石七斗九升弐合	四斗八升	六斗壱升壱合		三斗四升壱合	弐石五斗六升七合	三斗六升六合	弐升八合	
孫一	同	新工	次		与	惣	同	同		志,	次	次	五	
 三郎	人	五郎	郎	L	次 郎	次郎	人	人	L_	んほ	郎	郎	郎	
上同	田	上同畠	畠ゝ わき		上同田		上西行		1	上同畠	畠	田	上見 田 坂	
上畠 壱畝弐拾歩	上田 弐拾四歩	上畠 六畝弐拾五歩	畠ゎ		田 八畝弐拾		上田 壱反拾九歩西かつほ	下島四畝五歩	<u> </u>		上畠 四畝拾七歩		上田 六畝弐拾三歩見ま坂	
畠	田 弐拾四	畠 六畝弐拾五	島 三畝九いわき		田 八畝弐拾		は	四畝五	J	畠 弐畝弐拾七	畠 四畝拾七	田 六畝五	田ま坂	一八四
畠 壱畝弐拾歩 弐斗 与	田 弐拾四歩	畠 六畝弐拾五歩 七	島 三畝九歩		田 八畝弐拾五歩 壱石四斗壱升四合	壱反拾九歩 壱石七斗弐合 藤	壱反拾九歩 壱石七斗弐合 源	四畝五歩 三斗三升三合 源	J	畠 弐畝弐拾七歩 三斗四升八合 源	畠 四畝拾七歩 五斗四升八合 か	田 六畝五歩	田 六畝弐拾三歩 壱石八升三合 源ま坂	一八四
畠 壱畝弐拾歩 弐斗	田 弐拾四歩 壱斗弐升六合	畠 六畝弐拾五歩 七斗五升壱合	畠 三畝九歩 三斗九升六合		田 八畝弐拾五歩 壱石四斗壱升四合	壱反拾九歩 壱石七斗弐合	壱反拾九歩 壱石七斗弐合	四畝五歩 三斗三升三合	J	畠 弐畝弐拾七歩 三斗四升八合	岛 四畝拾七歩 五斗四升八合	田 六畝五歩 八斗六升三合	田 六畝弐拾三歩 壱石八升三合ま坂	一八四

		上同田	上眉	司上江田	東上に十田田	1	上后	引 上西 畠士	国上同 一 畠	引 上同 田	j	上同田	上同田	上同田	上同田
八木地区		壱畝弐拾七歩	九畝五歩	壱反四畝三歩	壱反弐畝		四畝弐拾五歩	四畝弐拾歩	壱畝	八畝弐拾四歩		弐畝拾五歩	五畝弐拾弐歩	三畝弐拾五歩	弐畝拾七歩
		三斗五合	壱石壱斗	弐石弐斗五升六合	壱石九斗弐升		五斗八升	五斗六升	亳斗弐升	壱石四斗七合		四斗壱合	九斗壱升八合	六斗壱升五合	四斗壱升弐合
		同	喜	弥	与 四		弥	弥	弥次	弥次		源次	同	同	源 五
	_	人	七	六	郎	<u></u>	六	六	郎	郎	L	郎	人	人	郎
		上さ 田う た	上同畠	上同 田	上同 田		上同 田	上三 畠 坪	上同 田	田うけ		上同田	上同 畠	上同田	上同畠
		弐反弐	五畝	四	丰					. h					
		弐反弐畝拾七歩	七歩	[畝弐歩	壱反壱畝六歩		八畝弐拾弐歩	弐畝弐拾歩	壱反弐拾四歩	壱反四畝拾八歩		九歩	弐畝弐拾壱歩	壱反壱畝拾弐分	壱畝弐拾歩
一八五		献拾七歩 三石弐斗壱升壱合	七	走	它反壱畝六歩 壱石七斗九升弐合		八畝弐拾弐歩 壱石三斗九升七合	弐 拾	反	壱反		九歩四升九合	弐畝弐拾壱歩 三斗弐升四合	壱反壱畝拾弐分 壱石八斗弐升五合	壱畝弐拾歩 弐斗

八木地区

八六

上同 上と 上八 上同 畠 畠い 田ノ 田 と 坪 し 下同 下同 上同 上同 上同 上同 上同 上同 ₹ 畠 田 田 畠 峊 畠 畠 田 弐拾七: 弐畝 八畝 三畝拾 四畝三 壱畝拾 六畝七 壱反壱畝弐拾四分 壱反拾五歩 弐畝弐拾歩 七畝七歩 六畝弐拾 弐歩 歩 歩 歩 九 步 歩 八斗 壱斗四 弐斗四 壱斗九升六合 壱石八斗八升八合 壱石四升 五斗壱升 六斗五升六合 七斗四升八合 三斗弐升 八斗七升 壱石六斗七升九合 1升五合 左衛門次郎 彦 甚 甚 同 松 志 新 又 孫 弥 藤 三 千 九 九 三 \equiv 三 次 N 五. 郎 郎 郎 人 世 ほ 郎 郎 郎 郎 郎 中同 上五 下す 下同 畠 畠反 ゃの 田 畠町 畠 下同 下西 上同 上同 中同 上同 上同 上同 - と畠 畠か畠 畠 畠 岛 峊 ٤ 六畝拾. 弐畝 弐畝拾 八畝 七畝拾四步 四 四 四 五畝拾四 三畝弐拾六歩 Ŧi. 畝 畝 畝 畝拾弐歩 畝弐拾壱歩 \equiv 八 九 步 步 步 七 歩 步 歩 六斗 六斗弐合四勺 四斗九升弐合 四斗八升 三斗壱升八合 六斗五升壱合 三斗弐升七合 三斗八升七合 三斗五升弐 壱石四升四 Ŧi. 九斗九升六合 斗弐升四

_

助

五.

郎

甚 新

六

 \equiv

郎人

甚

四

郎

同

同

太郎五

良

新

次

郎

藤

七郎郎人

五 源 同

四

上 上 左 右	六口	上畑	上畑	上畑	上畑	上畑	上畠		上畠	上田	中田	下畠
左田 克畝弐拾六步 弐斗弐上畑 志畝弐拾六步 弐斗弐上畑 志畝弐拾六分 弐斗三	[合壱反四畝弐拾六歩	三畝拾四歩五厘	弐畝弐拾五歩	壱畝弐拾六歩	弐畝弐拾七歩	卜拾	壱畝拾六歩	此内訳	壱反四畝弐拾四歩	拾四歩	弐畝拾七歩	四畝
升四合四勺 彦四郎	莎 壱石八斗四升八合	四斗八升三合四勺	三斗三升七合弐勺	弐斗弐升六合四勺	三斗四升八合	弐斗弐升六合四勺	弐斗弐升六合四勺		壱石八斗四升八合	五升五合七勺	三斗五升九合	四斗四升七合
上田	'E	善 七	惣次	喜	善七	源	彦 四		六郎五.	同	甚	藤
二 就		郎	郎	一介	郎	七	郎	L	郎	人	六	七
(ラク 音 カ) 和 州-	:							田畑	分	畝数合七	下畠	上田
(十市郡内膳村御検 (十市郡内膳村御検		Ш	下畑 壱反	中畑 壱反	田田	中田壱	上田 壱	石。森等	分米合百石	合七町三反	壱反拾弐·	壱畝
	•		分に付	= =		反ニ	反ニは			四畝当	步	
佐伯彦兵衛			公: 付八斗代	2:付壱石代	三付壱石三斗	反	反ニ付壱石六斗代			町三反四畝弐拾八歩	歩 八斗三升壱合	壱斗六升
			っけ	三付壱石代	こけ壱言式	反ニ付壱石四斗	ニ付壱石六			四畝弐拾八歩	步八	壱斗六升 六郎五

八木地区

一八七

八木 地区

〇十市郡内膳村高寄帳 寬保三年八月

(天図近世文書)

大和国十市郡内膳村高寄帳

大和国十市郡内膳村

高弐百九拾壱石八斗八升八合

此反別拾七町三反三畝廿五歩壱厘九毛

此反別四反六畝五歩七石六斗四升 池床

高

此反別壱反八畝四歩弐石八斗五升四合

川成堤敷

高

内

此訳

上田八町五反弐畝廿七歩六厘三毛

世八步 壱反七畝七歩

内

川池 成床

中田壱町四反六畝廿六歩七厘九毛

高百六拾五石壱斗弐升六合

壱石九斗三升六合代

内 拾四步

川成

高弐拾五石三斗五升四合

下田弐町七畝廿七歩五厘五毛 壱石七斗弐升六合代

八畝三歩

内

高三拾三石三斗八合

壱石六斗弐合代 池床 川成

下々田壱町六反壱畝弐厘四毛

内 七畝弐歩

高拾九石五斗三升

壱石弐斗壱升三合代

上畑弐町五反壱畝廿四歩九厘八毛

内 式畝廿步 五畝廿九歩

堤川池成成床

高三拾七石七斗七升五合 壱石五斗代

中畑壱反六歩

高壱石弐斗七升六合

壱石弐斗五升壱合代

下畑五反四畝廿四歩

一八八八

高五石四斗八升五合 壱石壱合代

下々畑四反弐畝廿四歩

高八斗壱升五合

屋敷五畝拾四歩

右者今度大和国十市郡内膳村、

在来増高を以村高相改ニ

壱石四斗九升壱合代

高三石弐斗壱升九合

七斗五升弐合代

位石盛書面の通相極者也、

付

寬保三年亥八月

御勘定

奥谷半四郎

(II)

同

菅沼久次郎 **(1)**

吉田源之助

(FI)

同

同

遠藤七郎左衛門

(I)

同

神山三郎左衛門 **(1)**

野村庄助

同

八木地 区

右之通相極者也

削字なし紙数五枚表紙共

神尾若狭守

〇内膳村御免割目録

(上田宗司文書)

一、高弐百三拾三石四斗九升七合今高弐百九拾壱石八斗八升八合 寅之年御免割目録

内

此取米百五拾四石六斗壱升七合

弐拾四石八斗七升壱合

畝引高 永荒

弐石弐斗三升壱合

弐石七斗弐升四合

申年荒

五石

一八九 寅ノ年木綿稲不作引 同

出井重四郎

小以三拾四石八斗弐升六合

一、高三拾八石五斗九升三合今高四拾八石弐斗四升壱合 残高百九拾八石六斗七升壱合

此取米弐拾五石五斗五升四合 内

三斗六升九合

四石壱斗壱升

畝引高 永荒

小以四石四斗七升九合

残高三拾四石壱斗壱升四合

弐口残高合弐百三拾弐石七斗八升五合 弐口取米合百八拾石壱斗七升壱合

但シ御公儀様江上ル御物成

右高 此取米百八拾石壱斗四升七合四勺 七ツ壱歩六厘ニし而七ツ六歩六厘ニし而

、米五斗八升四合 六尺給

、米壱斗七升五合

御伝馬宿入用

右取米差引弐升三合六勺

不足

此米懸ル高弐百四拾石五斗九合

郡

山方

高石九合ニし而

差引残テ四升壱合四勺

不足

右差引残ァ三合弐勺

不足

、米六升壱合三勺

丑ノ年過出ス

為後日連判仍而如件、

右之通村中立会免割算用割付仕、

重而互ニ申

分 仕

間 鋪

候、

延享三寅年月日

伊 四 郎 **(1)**

(A)

兵 兵 衛 衛 (P) (EII)

五.

長宗

次

郎

(II)

吉 兵 衛 (A)

印 (EII) 九〇

、米壱石四斗四升七合

郡山方夫米

三口合弐石弐斗六合

市 兵 衛 印

清 九 郎

郎 助

(A)

小

郎

九郎兵衛

衛

(上田宗司文書)

〇今井ョリノ入作ニ付労力費用等定証文

宝暦二年八月

定証文之事

、十市郡内膳村領田地御兔割賦幷小入用掛村方仕様相 方 丑年ゟ去と午年迄六ヶ年分御免割表明白顕然ニ相改違 違相見江**、** 会算用御吟味被仰村、芝村郷宿ニ而双方立会、 ニ付、石原田村忠兵衛、 双方連印ョ以算用目録奉指上、今井町十八人小前 芝村御役所様工出作方今井町ゟ御願申上候 伊与戸村武兵衛殿、 両人へ立 延享二

> 之向後之定方左ニ記シ候事 帳表過納ニ相見へ候所、 一付、今井町ゟ了簡ヲ以六ヶ年分之出入内済仕候、依 右御両人段と世話ニも相成候

、年々小入用掛所と相違之儀繁多ニ付、右両人之衆中 了簡ニ預り候上ハ、向後立会明白ニ相改可申候事、 **ゟ御挨拶ニ而、** 是迄之小入用高算用改之儀今井町ゟ御

之損毛有之候共、御上様ゟ分ヶ御引方相立不申儀ハ決 、年と御免札表ョ以立会相改、当時元割高弐百四拾石 乙免割、賦可仕候、尤本郷出作二不限格別之立毛水旱 諸事御上様ゟ被為成下候通リ之表ヲ以、本作出作無甲 五斗九合二致免割、尤此上年八臨時之荒引出来仕候共 テ段免之取計 と 仕間鋪、 本作出作同意 ニ 可相守候事、

、今井町方近年出作多ゥ相成候ニ付、壱年替リニ壱人 熟可致候事、 宛向後惣代役相勤、 村用ニ罷出不限何事ニ相談之上詫(ママ)

申 領內諸普請并諸人足日役諸賄等萬端帳面 勿論其時と双方相対仕、 其訳不分明之儀無之様ニ 記シ置可

八

木地区

可致候、 同叓ェ可相心得候、 尤人足等高割ニ致双方ゟ出し可申候、 但シ今井町ニ人足無之時ハ可申合 尤本村

候事、

レ候様ニ可致候、 村人足小入用帳委の断書致之、 尤出作惣代之人と折と立会、 何時ニ而も委細相 互三改 知

改双方得心之上本作出作小入用平均:割候上、 小入用本出平均之所、 近年猥リニ 罷成候ニ付、 元高高 此度相 合、極月ニ至り算用少も無滞様ニ可致置候、尤古来者

石ニ付米五升ツゝ出作掛候筈ニ相極 アメ候事

談可申候、 村方公事出入之儀、 縦田地筋之義ニ候共、 領内地方懸リ之儀ハ出作へ及相 出作不得心之義ニ

不及申、 7 其入用出作へ掛申間鋪候、 田地筋之争論ニ 無之分ハ入用銀出作江 其外自分出入之儀 切掛

申間鋪候支

叓 池水掛之儀今井町と立会人足ニ而水入候様ニ 可仕 候

> 九二 双方和融詫熟仕候(ママ)

様ニ可致候事、

、右様之外新規之儀決テ申出

間鋪、

訳難相立、 迄露顕不仕村方私之割方相違之儀明白ニ相改被申村方其 右前文定之儀者近年御免割賦并小入用懸之儀出作方江是 依之石原田村忠兵衛殿、 伊与戸村武兵衛殿ゟ

熟仕、 付段、 ル上ハ自今已後前段定之通、本村ト出作ト無差別和融詫(ママ) 御上様江其段被申上候 出作今井町人数江再三御申宥メ被下及内済候、 不限何事ニ申談、 而ハ村方いか様之御咎ニも 毛頭無相違、 向後堅ゥ相 守可 可被仰 甫 然

為後証本作出作為取替証文印形仍如件、 十市郡内膳村百姓代

同断

兵

衛

A

吉

兵

衛

(A)

宝曆二年

同断

同断

申八月

三

郎 助 (1)

清 兵 衛 **(II)**

同村年寄

伊 兵 衛 (II)

氏神願籠之儀本作出作之惣代共相談可致候夏、

同村出作高市郡今井町 上田忠右衛門 (A)

壺屋吉左衛門 (A)

細井戸屋九兵衛 岡屋又兵衛

内膳屋源四郎 綿屋又八郎 (FI) **(II**)

珠数屋清兵衛 古手屋市郎兵衛 @ (A)

綿屋七兵衛 (FI)

小寺屋市兵衛

(11)

鍔屋 新堂屋忠五郎 藤四郎 (II) (FI)

医師 綿 屋 喜兵衛 玄 亭 (EII) (1)

古金屋五兵衛 (FI)

中村屋四郎兵衛 @ 新堂屋平兵衛 (FI)

相止、

庄屋預り同年寄

兵 衛 (A)

(II)

之趣御役所様江奉申上、後日違乱為有間 敷 奥 印

加ル者

右之通御上様ゟ御吟味取計ヒ被仰付及内済候、双方得心

南町年寄

吉 兵

衛

(II)

内膳屋忠兵衛

(1)

也

〇堀さらへ取替申一札

明和七年十月

(北八木・河合鋭治文書)

伊与戸村武兵衛 石原田村忠兵衛

(A) (II)

為取替一札之事

、此度内膳村之領末ニ引続キ、北八木村之堀さらへ出 来候所、 領境之堀さらへニ内膳村五一応之届無之候ニ

付、内膳村より北八木村江届ニ相成、依之堀さらへ暫

村弥兵衛八木村庄三郎右両人取嗳二而、 双方可及意論:茂之所憐在之論干万難黙止、中 双方得心在之

一九三

則左ニ

、北八木村乾角之堀北八木村之領内ニ付、万端北八木

村之支配ニ候亨

、右堀道添抗、此度双方立会相改メ打之可申候亨

但し向抗打

諸業往来差支無之様露切仕候事

一、右之堀、毎年露切之節、道江土上ヶ候儀、在来之通

一、堀之北側内膳村田地用水之儀ハ、是まで入来り之通

、いつにても道附之儀ハ立会ニ候亨

一、大さらへ之節者、北八木村より内膳村江相届可申叓

右之通此度取曖を以互ニ申分無之相定候条、

仍而為取替

連判一札如件

明和七年寅十月日

庄屋 兵 兵 衛 衛 (II) (II)

十市郡内膳村

同村御私領方

O宗旨御改帳末尾集計

天明七年三月

宗 天明七年 旨御 改 帳

和州十市郡

村

(末尾集計)

法花宗壱軒 一向宗七軒

人数

人数合三拾弐人

四人

十市郡北八木村 百姓代 彦 与七 庄左衛門 庄九郎 小 四 重 郎

(1)

郎 郎

(1) (I)

庄屋

庄屋

一九四

百姓代 彦 兵

以上

(天図近世文書)

惣人数合三拾六人 内男弐拾弐人

候、無懈怠仕候疑敷者御座候上ハ、早速可申上候、仍而 姓印形取之差上申候、御法度之切支丹宗門之者:無御座 右之人数男女共書面之通り宗門相改、旦那寺丼大小之百

如件

天明七年未三月

和州十市郡内膳村 庄屋 小

百姓代 年寄 宗 次 重 郎 郎 郎 **(1)** (I)

(A)

久 吉 源 兵 次 **(1)** (E) (II)

兵 **(1)**

高木角右衛門様

家数合拾四軒

外ニ 内 無高 高持 拾 壱三 軒軒

惣堂 社 壱ケ所 壱ケ所

内

惣人数合八拾人

男 三拾七人

男 女 七才以下 四拾三人

七才以下

女

去丑年トハ男壱人増

女増減ナシ 御座候

(天図近世文書)

〇宗門奥寄帳 嘉永七年正月

八木地区

丑弐疋

宗 寅 正 門 奥 (等) 嘉永七年 月 帳 十 市 内^郡 膳 村

五姓壱軒増

五人 七人

一九五.

馬等迄相改候処、書面之通相違無御座候、以上 右者当村家数人数寺社当庵、 山伏 八乙女 弥宜 煙亡 占者 座頭 医師 庵 午 嘉永七年寅正月 其外前書之通名目之者、 十市郡内膳村 無御 無御 無御座候 無御座候 無御座候 無御座候 無御座候 無御座候 年寄 無御座候 無御座候 庄屋 座候 座候 善 79 郎 郎 (11) 1 午 付 得心之上、向後相互ニ中睦間敷仕、 内膳村北八木村通井□堀之一件、 右之通取噯ヲ以此度相定メ、両村末ヽ百姓ニ至迄一 〇通井溝堀取替 支無之様ニ可致事 事、字下越御用地江水掛リ之儀者、 通井□堀之節者、北八木村ゟ内膳村江案内 安政六年七月 双方為取替一札、 取曖人江貰ヒ取、此度相改候訳ヶ左之通 安政六年未七月 為取替一札之事 二札 仍而 如件 百姓代 太 年 新規古規之 入 縺 (北八木・河合鋭治文書) 自今聊申分無之候 寄 是迄之通相互:差 宗

可

致筈

之

同

之

儀

高取

御役所様

庄 同

屋

彦 善 兵

衛

1 (A)

断

郎

次 七

> 郎 助

> (A) (I)

九六

前書之通、 此度取嗳ョ以相済申候付、 奥印形仕候、 以上

取嗳人新賀村 年

預 佐右衛門

(1)

大庄屋 森村庄左衛門 醍醐村 **(1)**

北八木村 御役人中

(小房)

〇小房村規定取締帳

安政五年正月

(大願寺文書)

安政五戍午年正月日

上取斗可申事

ハ勿論、願而何事ニ不寄諸法事等迄、

旦那一同示談之

定 取 締

規

高市郡小房村 大願寺同寺旦那

村方一同

規定書之事

当村大願寺儀ハ従来看坊寺ニ罷在候処、 度々留守居僧相

八木地

X

之 那中ニ而彼是差縺之廉も出来、双方迷惑之儀も間々有 替リ、就而ハ諸雑費も相嵩、就中留主居僧之儀ニ附、 同寺事兼而自庵二仕度村方一同思願候処、今留主居 旦

学道僧之自庵に仕候に附、永世規定取縮条々左に 学道僧儀ハ、甚々以実躰之仁ニ而、寺務法用萬事如法ニ 自他之旦那并ニ村方迄一同帰依仕候ニ付、 大願寺事

、当村惣道場大願寺儀ハ是迄看坊寺ニ罷在候処、今度 而ハ、 者我儘之儀決而仕間敷、 村方丼ニ旦那一同示談之上、 自坊ニ申替奉願上候ニ付 同寺事自坊ニ相成候廉ヲ以、 同寺諸修覆并ニ什物調進之儀 住持弁ニ直旦那之

、当寺諸懸り物、何事ニ不寄是迄通り、自右坊ニ相成 専一ニ相守、 候廉ヲ以、致僧長身勝手之儀ハ決而仕間敷、(増カ) 同示談之上取斗可申候、 尤も新発意繾目相続之義ニ附而も村方旦 右自坊ニ相成候廉ヲ以、 寺務法用

我儘之儀仕間敷候事

一九七

き み !	富蔵⑩	なか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	大願寺旦那		-2:0	安政五午戊年正月日	申、為其大願寺学道幷二旦	ハ、此規定書ヲ以而急	右規定取締り通り向後は	勝手之儀ハ決而仕間敷、芸	ニ有之候趣キニ而、大願も	様、都而諸懸り物一躰是迄通	誓借家人たりとも 当村	付、当村幷ニ旦那一同示談	々以小旦那ニ而、 直旦那:	一、当村惣道場大願寺此度中	八木地区
こ う	与兵衛⑩	すえの	繁蔵の	学道匣	高市郡小房村大願寺		旦那村方一同連判如件	度相改、万端実意に伏し可	相心得、若違変之儀有之候節	萬端約定通り可仕筈之事	寺相離直勤ニ致し貨候杯と身	込通 リ 可仕筈、 尤も旦那寺外	当村方住居中ハ、大願寺直旦那同	同示談之上、 村方宗旨人者勿論、	(斗ニ而者 後々相続相成兼候ニ	度自庵ニ相成候迚も、同寺事甚	
仁兵衛®	弥 七 ঞ	庄治良⑩	安 七 ⑩	源三郎	伊助卿	長次良⑩	平次郎⑩	五良七⑩	平八郎	伊兵衛	他門徒他宗惣代	久兵衛回	太助⑩	辰 蔵 郵	伊助卿	清治良甸	
力松	清三郎	太次郎	勘兵衛	茂兵衛	利兵衛	徳 兵 衛	長兵衛	利右衛門	伊兵衛	安兵衛	久兵衛	徳兵衛	乙八	萬之助	勘兵衛	惣助	一九八

(II) **(1)** (11)

(1)

À

(II)

(1)

(1)

(11)

(II) (II) **(1)** (11) (11) **(1) (1)**

前規定書通り相違之儀、毛頭無之候ニ付致與印置候 寛政五年 天明三年

年寄 庄 兵 衛

(1)

庄九良 1

同断

吉左衛門 (E)

O大願寺永代経寄附芳名録

享保九年~慶応迄

寛政六年

/ 八年

万足屋長兵衛 道具屋平次郎 絈屋源兵衛 魚屋勘兵衛

米屋庄兵衛

十一年

文化四年

魚屋勘兵衛

道具屋平治郎 米屋庄兵衛

文化六年

万足屋庄九郎

(大願寺文書)

道具屋平治郎

万足屋やす 魚屋たみ

文化十三 文化九 文化八 文化七

文政元年

/ 十四年 享保九年

清三郎

絹屋三兵郎衛

(米各人の戒名を略す)

坊城屋庄兵衛

播磨屋為蔵

道具屋平治郎

文政九 文政九 文政六 文政五

今井屋清兵衛

文政十二

油屋伊兵衛

八木地区

天明四年 宝暦八年

万足屋長兵衛 絈屋源兵衛 紺屋吉兵衛 絈屋源兵衛 紺屋吉兵衛

宝曆六年 寛延四年 延享四年

一九九

八木地区	X		
天保元	笠屋弥七	// 五.	表具屋久兵衛
天保三	坊城屋庄兵衛	安政三	絹屋弥七
天保四年	表具屋久兵衛	安政六	綛屋源三郎
天保六年	道具屋藤兵衛	// 六	表具屋久兵衛
天保六年	表具屋久兵衛	万延元	安川勘三郎
天保五年	油屋長治郎	// 元	古手屋おとわ
天保七年	坊城屋庄兵衞	文久二	煙草屋徳兵衛
天保十二年八月	平野屋五兵衛	文久二	古手屋おとわ
天保十二年九月	平野屋五兵衛	元治元	表具屋久兵衛
天保九	大阪屋作兵衛	元治元	中尾梅吉
天保十二	万足屋庄九郎	元治元	古手屋おとわ
天保十五	煙草屋伊兵衛	元治元	指屋いわ
弘化三	万足屋庄九郎	慶応二	雲梯屋喜兵衛
弘化四	油屋とく	" =	十市村なか
弘化三	万足屋庄三郎	// 三	日野屋おむめ
嘉永二	坊城屋おかじ	" =	会人
″ 五	油屋もと	" =	木殿屋善七

十八日 古金屋おしな

四月六日 伊勢屋源助

加賀屋清治郎

O高取藩領内小房村等洪水流失覚

(欠年) 八月十二日

(天図近世文書)

貴え等日长、まと臣室而臣即畐申上畳戻月孫と昜斤厚を去ル十八日夜大雨ニ而、釧八郎城内崩所ハ不及申、長屋(高坂城植村氏)

水ニ而流失家丼水押潰家山崩溜池堤切井堰流失川堤切等復中ニ御座候処、楢々危く相成、且城下丼領内共稀成洪潰家等出来、其上先達而先御届申上置候崩懸之場所専修

出来候処、又々同前両側江切込小房村流失家潰家水押等ニ而田畑土砂入夥敷、 已先達而切込候小房村川堤漸築上

入多出来、剰他領葛城川筋蛇穴村領内川堤又々切込、領床堀町数難斗、於兵庫村茂凢長百間程川堤切込田畑全砂, 小亡所:可及程之姿:相成、其外隣在大河之如く土砂入, 小位所:可及程之姿:相成、其外隣在大河之如く土砂入

八木地区

内観音寺村初下郷村々田

畑土砂入床堀、

先達而ゟ茂多出

届申上候、以上、

来申候、

追而取調候上巨細御届可申上候得共、

先此段御

八月十二日

植村釧八郎家来

岡村久米次

〇村内へ呉服商出稼手形

明治四年七月

(北八木・河合鋭治文書)

出稼手形之事

広瀬郡百済村之内 奈良県御管下

安平

当未

年八月迄五ヶ年之間、呉服商内ニ罷出度旨申出候付、出右之者其御村内ニ有之同人所持抱家迄、当八月ゟ来ル亥

稼手形差出シ申候、

右日限中此手形ヲ以、

其御村内迄御

奈良県御管下 広瀬郡百済村之内

新子庄屋 太平治

高取県御管下

(I)

七月晦日 半未 「表書之通聞届候や 高市郡小房村

(ウラ書)

奈良県 庁 方

奈良県庁

明治十五年四月

村

誌

大和国高市郡

村

O 村

誌

(旧八木町役場文書)

幅員

ヲ接ス、北ハ南八木村ハ耕地ヲ以テ界ス

南八木村ト道ヲ以テ境ス、南ハ四分村ト錯雑出入堺

東西八町三拾間、

南北壱町拾弐間、

面積詳ナラス

管轄沿革

ス、寛永拾八年ニ至リテ植村出羽守家敏高取城主ト 中務少輔脇阪安治、因幡守本多俊政相継 テ 之 ヲ 領

天正ノ頃、大和大納言秀長ノ領地タリ、其ヨリ後、

大和国高市郡小房村

村

誌

疆域

郷名廃シテ用ヰス

リ高市郡ニ属シ、遊部郷ニ附ス、然レトモ中古以来

一村ヲ称スル延宝元禄ノ間ニアリ、本邑ト共ニ素ョ

村ヲ云フ、懐フニ小房ト称スルハ久シケレト、

ル者見エス、唯四分村属邑二ト記セリ、

其一ハ小房

別ニ

本村元四分村ノ属邑タリ、故大和志ニ小房村ト称ス

久保村ト耕地ヲ以テ、四条村ト飛鳥川中央ヲ以テ、 東ハ同郡縄手村ト道又飛鳥川中央ヲ以テ境ス、西大

<u>__</u> <u>__</u>

治五年十月ナリ、 土地奉還 ナリ之ヲ領ス、 ノ後ニ及ヒテ奈良県ノ管轄トナル、 世々子孫相続テ之ヲ領ス、 又明治九年五月ニ至リテ堺県 降テ同氏 時 (ノ管 三明

内トナ ル 同十四年一月ニ至リテ更ニ大坂府 ノ統轄

里程

1

ナ

ル

条新町標柱マテ壱町五間、 弐里拾壱町、 大阪府庁ョリ東南拾弐里三拾三町、 四隣東ハ縄手村標柱 南ハ四分村標柱 マテ四町、 御処郡役所マテ マテ拾町 西 二 四

拾弐間、 北ハ南八木標柱マテ五町拾間

地勢

天香久山アリ、 本村周リ和州三山アリ、 東北ニ耳無山アリ、 西南ニ畝火山アリ、 皆此山ヲ去ル拾 東南

山 五. 一町計リニシテ独リ香久山廿五町計リニ、 ヲ見ル遠シ、 地平坦開濶田畝開ケ耕作便ヲ得、 其他四 然 面

北ヲ貫通 レ トモ土地広カラス、 スル道アリ、 其形南北長ク東西短シ、 此ヲ高野街道トス、 人家アリ 其南

八

木

地

区

是ニ沿フ八木駅ニ連リ小都会ヲ為シ頗ル繁盛ナリ、 運輸便ヲ得テ山ヲ去ル遠ケレハ薪炭乏シ

地味

壌□々トシテ極力弱シ、 利不便ナリト雖モ、村ノ北方ハ尤モ不便ニシテ唯雨 湿フ、五穀ニ適シ其他桑茶ニ宜シカラス、 土地茶褐色ニシテ黒色ヲ帯シ、 其他乾燥ナラス、 土質砂多クシテ、 概シテ水 冬時常 其

方ニ比スレハ較々便ナリ

露ヲ仰グノミ、

南方ハ四分村ノ余水ヲ受ク、

故ニ北

税地

田三反六反七畝廿五歩

畑弐町壱反九畝拾六歩弐厘

宅地九反三畝三歩九厘

寺五畝九歩

但、 旧検反別 総計六町八反五畝廿四歩壱厘

田四町六反六畝廿四歩

池壱反壱畝歩 畑弐町九反六畝拾九歩

寺壱反廿九歩

宅地壱町九反六畝廿弐歩

101

総計六町八反弐畝四歩

明治八年新検反別

貢租

但明治九年一月一日調

租

国税金弐百三拾九円

日調

総計

平民百七戸 寄留 平民壱戸

寺壱戸 真宗弐字

但

明治九年一月一 日調

本籍

地租金百五拾七円 金百八拾十円廿銭三厘(ママ) 但明治十四年一月一

但明治十二年度調

地方税 金 (アキ)

但明治十三年度調

(アキ)

総計百九戸

戸数

人数

男弐百拾八口 平民

女弐百拾九口

平民

総計四百四拾七口 男壱人 他出寄留人

但 明治九年一月一日調

舟車

人力車弐輌

荷車弐輌

小車

総計四輌

Ш

飛鳥川 トノ境ヲ流レ、人家ノ南ニ至リ、全ク本村ニ入リ、村ノ東南四分村ノ界字「サケシ」ヨリ本村ト縄手村

p三引、3,引く,為.、 又北ニ向ヒ、本村ト四条村ノ堺ヲ流レ四条村ニ入ル、長サ 中三間、 田ノ用水ヲ為サス

道路

寺ヨリ東南ニ向ヒテ、四分村ニ通スル道アリ、長サ百九拾久保村ノ界ニ至ル、其間長サ三百九拾三間、巾弐間、又神通 道アリ、巾弐間又飛鳥川ニ沿ヒ東方ニ向フ道アリ、是ヲ飛鳥 間、巾八尺又人家ノ中、南方ヨリ東方ニ向フテ諸村ニ町スル 渡り少シ西ニ折レ、 西京ヨリ高野街道 南方二赴キ本村ト四条村トノ境ヲ過キ大 ョリ来リ人家ノ中ヲ貫通シ、飛鳥川ヲ県道三等ニ属ス、村ノ北方ハ本村ノ堺

往還トス、又其他四彊ニ通スル道アリ

二〇四

預ル 鷺栖神社 見へタリ、本村元四分村ノ属邑ナレハ共ニ祭祀ニ 此社四分村ニアリ、今鷺栖八幡ト称ス、大和志ニ

明治十五年四月

寺

立中興等詳ナラス 大願寺 少シク南ニアリ、真宗西京西本願寺ノ末派ナリ、建東西拾壱間、南北拾間六歩、面積百拾七坪村ノ中央

此観音ヲ祈願スル輩ハ皆奇験アリ、中就胃病ニ妙ナリ、故ニ 心信拝詣者陸続絶エス ス、唯現今ノ本堂ハ百年前ニ建立セリト古老ノ伝アルノミ、 観音堂 ノ東南隅ニアリ、本尊十壱面観音創立 年月 詳ナラ東西十四間弐歩、南北拾五間、面積弐百拾弐坪、村

学校

男拾七人、女拾三人、縄手村通学生徒男拾五人、女拾人 公立小学校

見する人、できると、
はないます。本村通学生徒 男廿五人、女拾五人、其聯合村新町村通学生徒

但、明治九年一月一日調

民業

男 甚タ商業盛ンニシテ、皆商売ヲ業トス、希ニ農業ヲ事ト スレトモ、商業ノ余隙ノミ

女 布織紡績ヲ業トス、又裁縫等ヲ事トスルコトアリ

右書面之通ニ御座候也

八木地

X

右村用掛

藤 岡 久

平. (I)

竹村 戸長 清 次 郎

同

今井地区

今井地 区

(今井)

〇四条領内今井カヂ井手売渡状

天正十一年四月二十九日

(今井博道文書

売渡申四条領有之カヂ井手叓

代米弐拾石也

之儀、他之不可有違乱妨者也、件之井手懸リ之田地者、 代今井靏寿殿江売渡ス処也、但元券文者、一乱ニ依引失 申不相副、縦天下一同之徳政其外地起等之雖有無理非道 右件之井手者、我々雖為買得、今依有要用、彼代米ニ永

者也、 毎年一反ヨリ米弐升ツゝ取来リ候、此趣永代不可有相違 往古ヨリ如此ニ付而売渡ス処明鏡也、仍後年之支

証文之状如件

天正十一年癸未四月廿九日

曽我 中西善介(花押)

O 今井町寛永五年辰年納米同払方帳

寛永六年十一月四日

(称念寺文書)

右皆済也

辰年納米同払方帳

ピノ十一月四日(寛永六年)

兵

部

高三百三拾石三斗五升

今井村

取三百三拾石三斗五升

拾ヲ取

口米九石九斗壱升壱合

月払壱石三斗弐升弐合

御本帳之外改出

物成四口/三百五拾壱石四斗九升四合

今井村

一、高壱石ハ茶屋やしき

同 喜四郎 (花押)

取壱石

拾ヲ取

改出/壱石三升四合

口米目払三升四合

惣物成合 三百五拾弐石五斗弐升八合卿

払 方

一、四拾壱石六斗六升六合辰ノ十二月廿六日 (菅屋十右衛門 さた

(古市十郎右衛門) 石ニ弐拾四匁ヅツ さた

拾八石ハ

此銀壱貫目ハ

此銀四百五拾九匁ハ 石ニ弐拾五匁ヅツ

右同人さた

五拾三石ハ

此銀壱貫弐百七拾弐匁 石ニ弐拾四匁ヅツ

六拾石ハ 此銀壱貫四百五拾八匁 石ニ弐拾四匁三分ヅツ 右同人さた

百七拾九石八斗六升四合 此銀四百九拾六匁六分 石ニ弐拾五匁ヅツ 右同人さた

払方合 內人貫六百八拾五匁六分 三百五拾弐石五斗三升即

今非地 X

以上

寛永六年日十一月十

一四日

竹下三郎大夫印 星野金右衛門@

今井兵部殿

〇今井兵部宗忠嶋原一揆出兵願書

(今井博道文書)

寛永十五年一月四日

Ŀ

、今度、肥前国嶋原一揆二付、 被仰出候、 被思召ニ付、 就其拙者式儀折々致御目見、 御領分仮名も在之者、 御出馬之儀可有御座と 書付差上候様こと 御念比之御

年来武具・馬具等者所持仕候、俄之儀、 難有、 御鉄炮之者廿人被仰付候ハゝ、 右之趣御取成所仰候、以上、 其御厚恩奉報度候間、 御供申上度候、 難有可奉存候 人を抱申儀離 依其

仕候、

御序之刻、

意、

正月四日(寛永十五年カ) 今井 地区 今井兵部 三拾壱石弐斗七合七夕 高橋屋太郎兵衛 二 〇 八 今町

宗忠 (花押) 四拾壱石三升

弐拾七石四斗壱升壱合

兵部

合三百三拾石三斗五升

例

〇今井村高辻

御奉行所

寛永十八年二月九日

(今西啓師文書)

是ハ松平下総殿御代より御取被成候 壱石七斗

土井 年 貢 敷

是も下総殿御代より上り申侯、

銀子合五拾枚

銭合三拾八貫六拾文 右ニ同

以上

巴ノ二月九日寛永拾八年

東町

西町 南町

内藤与一左衛門様

今井兵部 宗

忠 (花押)

高三百三拾三斗五升

今井村

高市郡今井村高辻 巳/二月九日

ひかへ

寛永拾八年

右 高之内わけ

四拾七石九斗七升三合六夕

四拾壱石九斗弐升九合 三拾四石弐斗六升 七拾六石五升八合七夕

三拾石四斗八升

北町

新ノ町

河喜多伝左衛門様

件

〇鍛治井手水上ニ而水替取ニ付取替一札

(今井博道文書)

一札之事

寛文五年七月

、其元様御所持之鍛治井手水上ニ而、 当村之者共密。

横セき仕、水替取候ニ付、先規御糺有之所、先年寛永

年中殿之井手衆与申分出来候砌、当村百姓中江書付以 被仰聞候趣、此方吟味仕候所、聊も相違無御座候、右

井手之義者当村領内ニ有之候得共、往古ゟ当村之持合

二付、 当村内を少も差構不申候、 猶又井手水上二而

ニ而は無之、 勿論支配等も不致候得共、井手用水之義

以来ハ用水之節、 仍之当村ゟ井手普請川張等之筋立合不申候、井手用水 村方ゟ流シ水ニ而も替取申間敷候、

之義者其方次第ニ 御斗可被成候、 夫ニ付、洪水之節者井手掛衆より早速罷出、 村方 ゟ 違乱申間敷 妨 可

被申候段、

急度御申付可被成候、

為後日取替一札仍如

今井地区

寛文五年

四条領小世堂村

巴七月

百姓惣代 庄 屋庄 兵 兵 衛印 衛印

今井兵部様

〇今井町未年御年貢可納割付

延宝七年十一月

(今西啓師文書)

高四百拾弐石九斗三升八合

(註一この高は延高四一二・九三七五石の合未満を

内 四石弐斗九合

増高

三百弐拾六石壱斗四升壱合

残

田畑毛付高

永荒池床

米壱石七斗八升九合

此取三百九拾九石弐斗九升四合 高九ッ六分厘内

茶屋敷年貢

土井年貢

和州高市郡今井村 未御年貢可納割付

切上げたものである。)

八拾弐石五斗八升八合

内七斗三升七合

二〇九

取合四百壱石八升三合

四拾石壱斗八合

納わけ

十分一大豆金納

三分一米金納

百三拾三石六斗九升四合

弐百弐拾七石弐斗八升壱合 米納

延宝七年未十一月

付者也、

右之通極月廿日を限可致皆済、若於令難渋者、急度可申

米拾弐石三升弐合

口米壱石付三升宛

半 兵衛側

庄屋百姓中

(今西啓師文書)

〇桜井代官様宛今井町窺書

元禄十六年三月

窺

書

今井町惣年寄

覚

蔵入国領半兵衛様御支配之節被仰付、五人組 町中家屋舗並田畑売買・質物入証文之儀、先年 ・町代・

御

形仕、則月番割印仕候、 其町年寄判形仕、其上惣年寄吟味仕、 御領分二罷成候砌、 帳面ニ留書・印 平岡三郎

右衛門様御支配ニ罷成候時分奉伺候得者、前々之通ニ 通ニ不相替、 兵衛様御尋ニ付、右之趣申上候所、半兵衛様被仰付候 奥書判形仕候様ニ而被仰付候、 其後於半

可仕旨被仰付候、 致事、とい前々之通ニ致シ、弥念を入、以来相違無之様ニ吟味可 唯今二至、 右之通ニ御座候,

、外側惣構土居・藪堀之儀、 候得共、猥ニ罷成、 無用心ニ御座候ニ付、 町代ニ申渡、 五年以前卯 每度吟味仕

= 0

之内外ニ垣結ヒ、 年、 杉半右衛門様江奉窺、 其上町代共相廻シ、 惣年寄罷出 度々 吟味仕、 吟 味 土居 仕 候 藪

之様ニ垣等可申付事、 是ハ吟味之仕方仕候、 此上猶更致吟味、 藪茂り不用心ニ無

故、

只今ニ至、

余程茂リ申候

申候、 置申候、 他所行之儀、 町年寄並町代之儀ハ惣年寄方 江相断、 尤遠国え参候節ハ、 町人ハ其町之年寄江相断、 惣年寄罷出御断申上 帳 帳面ニ記 面 Ξ 留置

是ハ前々之通可致事

方江申来、 町中公事出入之儀、 其外諸事御願之義、 吟味仕、 弥内々ニ而不相済儀ハ取次仕申上 其町年寄取扱、 惣年寄方ニ而吟味仕、 不 相済儀惣年寄 其上

是ハ尤候、前々之通可致事

而取次仕申上候、

年寄江被仰付候、 町中江被仰付候御法度御触等並諸事被仰出候之儀惣 惣年寄方江町年寄呼寄申渡来候、

他 所より当町へ引越居住仕候者ハ、 其村之庄屋或

今

井

地 X 是ハ書面之通ニ可致事

慥成百姓より手形取之指置申候

付、其上罷帰致居住候ハハ、先々之様子聞届候上、得下知之可差置、 緩今井町所生之者ニ而も、 他所江参、 数年有是ハ書物之通尤候、以来一入念を入、内証聞届、証文等取

差置可申事、

町中惣構九口門之儀、

暮六ツより指明、

開

キ

候 相残ル五 口 ハ夜中一 切出入不仕候 申候、

右之内、

東西南北四口

ハ相改、

出入致させ 六ツニ

申

中一切出入無用ニ可致事、是ハ前々之逆、夜中四口ハ相改、 出入可為致、

残五口ハ夜

婚礼之儀、 其町年寄より書付を以申来候ニ 付、 惣年

寄罷出御断申上候事、

是ハ書面之通可致事、

被仰付、 遊女・野郎之儀、 事、是ハ一入念を入吟味可致、 町年寄江申渡、 町中二片時茂指置不申候様 毎度吟味致させ申候、 若在之ニおゐてハ、 可為越度 = 度々

御座候、 当町之儀往還ニ而無御座候ニ付、 然共商人又者慥成者 = 御座候へ者宿仕候、 旅人之宿仕候者無 尤

一夜泊り之者ハ其宿ニ帳面ニ記置、更ニ夜共逗留仕候

仕、其町年寄方へ指出シ吟味仕候、

者ハ、其町年寄へ相断申候、

右記置候帳面、

月切写

是ハ書面之通尤候事、

一、火事之節ハ、用心のため九口門を堅メ、他所之者一

切入不申候、

是ハ前々之通ニ可致事、

江罷出候時分、其子細吟味仕、口上書を取、牽窺御免、他領与出入有之、奈良・京・大坂御番所並給領役人

之上罷出候、

是ハ書面之通ニ可致事、

書付を以奉窺候、以上、右之通前々より勤来申候趣、今度御支配替リニ付、

乍恐

元禄十六年未年三月

源右衛門郵新 之 助邸

忠右衛門印

今井町惣年寄

桜井孫兵衛様

〇今井御役所御定法書写

元文二年九月

(南妙法寺・吉田勝司文書)

巴九月 巴九月

覚

致候義御不審有之、御代官吟味不届ヶ手代与庄屋百姓馴ならでハ無之候、勿論凶作故之義ニハ候得共、年と破免而、和州之儀定免請候以来、定免之通居り年ハ弐三ケ年御取箇之義諸国御料近年定免ニ居り年ハ 少 ク 破免勝ニ

味被成候間、御取箇之義随分吟味詰、検見取ハ勿論、縦ゟ松左近監殿本田伊与守殿、地方御用被蒙仰、一く御吟

合候故、引方茂相立候儀、相聞候段被及御沙汰候、

当年

地面作毛ニ応シ不同無之様ニ可致旨被仰渡候、 領点下免成村多有之由相聞候間、 相立候、 免ニ難成村方ハ損亡甲乙ニ随ひ、 有之程之大風雨洪水、 取箇付致候間可得其意候、 引方難願相立候檢見取村方茂見分之上根取二不相構、 当作之儀只今迄申立ニ成程之障茂無之候得ハ、定免村こ く損亡有之候共当年之義勿論、 引方多候故、 入願候ハゝ、 且又去辰年之義風雨損毛故之義ニ候得共、 其上和州之義ハ御料私領相双、 当年ハ為立返候様一同ニ被仰渡候儀故、 御勘定所江申立見分之上村別相糺、 近国江相聞候程之大変ニ而、 大躰義ニ而 引方相立候様ニ被仰渡 只今迄根取ニ 御料村方格別私 ハ向後引方難 御料一統 かわらす 実ニ定 失等 検見 少 御

旨可存候

ニ被仰渡候間、手廻シ承候間、兼而左様ニ相心得可申晴候得ハ、手代ハ勿論庄屋百姓迄御仕置之義相伺候様成義も有之候ハゝ、縦無証拠之義ニ而茂相糺、 不審難、手代百姓馴合私曲等之義、猶又厳敷致吟味、若不審

地区

風説等及承候ハゝ、双方共相糺御仕置之筋相伺候間其此上差出し申間敷候、 尤手代江茂急度申渡シ置候、若間、金銀米銭ハ勿論之儀、 聊之品ニ而茂音信礼物、弥例之義と相心得候而ハ間違候、 急度被仰渡も有之事候候、 尤此義前 こゟ度ミ申渡シ候事ニ候故、此度義茂通

定免場二而茂御取箇相進候様二可致旨急度被仰渡候、

尤

有之、 御年貢皆済御届ケ等之義ニ付而も、 義弥情出、三月皆済差支無之様前広ニ上納可致候、 ミ候様成義有之ハ、 之義ハ有之間敷事ニ候得共、 納方難渋候様成義も有之由相聞候段及沙汰候、 相立候村有之、一同無之筋ニ候得ハ、引方不相立村方 分之上三分以下二而引方不相立、 和州之義、少く風雨ニ而茂定免場所者検見相願、 吟味之上其趣ョ以御仕置之筋相伺候筈ニ候間、 別而厳敷取立候間可得其意候、若及□滯候村方(澤力) 速ニ可申上旨被仰渡候、 万一右之筋を以、 三分以上ニ当リ引方 猶又被仰渡候筋も 尤納方之 事を工 尤ケ様 当 見 是

又申渡置候

庄屋年寄勤方之義、是又手廻シ承候善悪之義申上候

筈ニ候間、

随分相慎御役筋情ョ入、

相勤可申候肝要之

事ニ候、 百姓共一統致候而ハ、 庄屋年寄役之義ハ村方グリ而専事ニ候、 御為之筋ニ曽而無之候、 百姓共 然所

耕作等不怠、 之善悪ヲも相糺可申聞候、 専情出シ候様ニ申付、 常と小百姓江茂委細申含、 御取箇相進候様こ

心掛相動可申候、

論 勤 右之趣急度相守、 我等召仕等迄何様之軽キ品ニ而も差出申間敷候、 御取箇進候様ニ考弁可致候、 小百姓共江具ニ申聞、 且又賄賂之筋手代 諸事 絜 白 Ξ 此 勿 相

花魚 庄九郎

段末々者迄急度相守候様ニ、

具ニ可申聞候、

以上、

巳九月

村と

庄屋

年寄

百姓

大小百姓拝見仕、 右之通御書付ヲ以被仰渡奉畏候、 一く奉畏候、 為御請庄屋年寄百姓代 右御書付村と写仕、

> 印形差上申候、 以上、

> > 1

_ 四

〇惣年寄町政ニ付口 寬保二年七月

上書

(今西啓師文書)

(表紙) 今 井 町

乍恐口上

惣

年

寄

去月十六日惣年寄町年寄町人被為召出候節、 御意之

御尋御吟味筋ニ

而茂無御座、

趣謹而奉承知候得共、

言之儀茂不奉申上退参仕候、 今井町諸商内茂無之、 町

様被為思召上、 人共次第ニ困窮仕候処を御考被為遊、 給銀取候町代肝煎無之共可相 諸入用茂相減候 済儀、 並

町年寄茂壱町ニ壱人宛ニ而茂可相勤ル義と被仰出、 諸入用並町代肝煎給夜番賃ニ至 私

共も高持之人数ニ而、

恐を茂不顧、私共存寄左ニ奉申上候、迄相掛リ候へハ、入用重※申儀好※候義無御座、依之

之代リ、 上候様□□候、 壱両人ツ、相依リ、 迷惑ニ奉存候間、 町代肝煎相止、 可然儀二奉存候、 難相動り様ニ奉存候、 不依何事相勤上候無給之月行事二而物入茂相 然ハ退役仕候年寄並相止 町人江諸事手間不申様、 町年寄老人宛二而壱町之 支 御用手間不申様ニ可相勤と段 然レ共御用之節手間候而ハ私共 然共町人ゟ年寄壱人月行事 マ候町代肝! 急度被仰付 配 仕 K 申 候 煎

奉行所紅訴訟又ハ返答ニ及候者共茂有之候得ハ、差間へハ、諸国紅取引仕候ニ付、年中ニハ京都大坂南都御他村拾五六ヶ村ニ茂准シ申候、殊更商人之儀ニ御座候他村拾五六ヶ村ニ茂准シ申候、殊更商人之儀ニ御座候、常宗門帳改、竈数八百八拾六軒、人数三千六百五拾、常宗門帳改、竈数八百八拾六軒、人数三千六百五拾

被下候様奉願上候

、南都御奉行所江年礼相勤候儀、古来ゟ相勤候様ニ奉

今

井

地

 \boxtimes

不申様奉

願

上候

仕差出シ候書付御座候、自今以後是迄之通、御奉行所町方江申聞候処、六町惣代として、壱町ニ壱人宛印形存候、寛永年中私共三人之内、新之助源兵衛退役仕度

江御礼相勤可申哉、

乍恐御窺奉申上候,

義 止. 惣高掛リ罷成候儀ニ御座候哉、 拾四軒五歩六厘与申名目相止、 掛リニ御座候、 軒五歩六厘ニ掛リ来候、 先達而町人ゟ願上候書付ニ、 今井町惣年寄之儀、 前々ゟ町場ニ 村並同前二仕度御願申上 町人願之通村並ニ仕候而ハ町役三百七 相立、 古来ゟ相動来、 夫銭入用之儀者地方町方惣高 町入用之義ハ町役三百七拾四 此段御窺奉申上 夫銭入用町 候 向後諸事是迄之格式相 由 承候、 松平下総守様 入用共向 今井町之 候 御

及申、 上 尋ニ付、 ニ被仰付候、 以御下知相動申候、 公事訴訟ニ至迄取計、 前格申上候所、 国領半兵衛様御代官之刻、 町支配取計之法十七ヶ条之御 其後本多内記様御代、 死罪ハ郡 Ш 惣年寄: 町 奉行 右同 勤 旂 方御 中 様

代ハ今井兵部私共先祖江町方御預ヶ被遊、

御用向

八不

以相窺、 定書被下置、 御印形頂戴仕相勤候所、 其趣ニ相動来候、 当御役所江茂右之格を 町中難儀之段を 町方

を御聞被遊、 去月私共町年寄町人まて御召出被為仰渡

候趣、 ハ向後諸事役義之勤方相改勤可申儀ニ御座候哉、 是迄何角奉窺候通二相勤可然儀二思召候哉、 難決 又

定仕候、 当御預リ所ニ罷成、 去冬町人ゟ度々願書差上

候節、

御役所紅私共持参仕候へハ、

以来御役所江差上

上候二茂不及候様二被仰渡候二付、 候書付ニハ、町年寄加印惣年寄奥判仕、 其趣堅相守候所、 惣年寄持参差

私共気儘二取計候様二被仰出甚迷惑仕候、 乍恐御吟味

と間違ニ罷成、 町中江宜御下知之障ニ可罷成と再ヒ 奉

奉願上候、

右之趣不申上候而ハ、上之思召と私共存寄

窺候、

右之通御窺奉申上候儀恐多々、是迄差扣候得共、 町人之

私共役義被為立置候御儀二差扣罷有、 躰相見江候へハ、 了簡区々ニ 峺 家持借家人二至迄、 如何様之間違出来仕候茂難斗奉存候、 此節 若間違出来仕候而 ハ 町役人蔑仕候

> 無調法ニ茂可相成義と奉存、 乍恐言上仕候, 宜御下知

メ申度奉願上候、 以上、 之御書付を茂被下置候ハ、、

町中工読為聞、

無滞穏

相

治

寛保弐年戌七月

兵衛卿

同

上田忠右衛門即

戒

御役所様 重

〇 惣会所出来ニ付六町組頭申合規定連印帳

(天図近世文書)

寬延二年六月

寬延弐年

惣会所出来ニ付六町組頭連印帳

去ル三月書付を以、

町入用減少仕候様願申候所、

其後段

二六

々御吟 味被下、 此度被仰渡候

銀弐百五拾 匁 申候壱ケ年給銀町代々其町ゟ相渡

米九斗 月扶持米一升五合之積り箱本迫り惣会所へ相勤一ケ年ニ三ケ

シ非番の月御用有之惣会所にて相勤候得

日

割

ヲ

右之通、

町中

統ニ熟談仕、

少茂申分無御座候、

町代肝

但

以夫持米一升ッ ۷ 相渡積りニ候

銀百五拾匁 中候一ケ年之給銀肝煎へ其町々ゟ相渡し

但シ非番之月相動候得者、 米六斗 二ケ月相勤夫持米一升ツ、積り箱本迫り惣会所江壱ケ年ニ 日五合ツゝ相渡候積 ŋ

右者、 入用帳御吟味之上、 延宝七未年、 **積書帳面等御見ゃ被成承知仕候** 正 徳四午年、 寛延元辰年右三ヶ年 町

相賴候得共 東西南北四口門之儀、 倹約之節ニ候得ハ、 是迄鍵取料差遣候而、 自身番念ョ入鍵取 町代

中門の義、 是迄之通賃銭出し、 番人差置申

度候、

町

仕候

掛 其町内古来之通り、 番中門江出し 申儀候得 拍子木一 度ツゝ 右中 門迄参 打セ申つもり り け

今 井 地 X 候

入用銀割付 倹約筋ニ 付諸事六町之入用物惣会所 度々早速間違無之出し、 手つたい 而 御 調 無 被 御座 成

様可仕候

仕恭奉度候、 御苦労被成下、 統ニ熟談之上取斗可申候、 として増減仕間敷候、 煎給銀之儀、 依之為後日組頭共連印差上候、 年々合力仕来及銀高候、 御勘弁ヲ以諸入用相減、 若増減致さで難叶儀ニて、 倹約節之儀御願申候処、 此已後之儀者 町中共不残安心 六町 各様 町

寛延二年

旦六月

新町組 頭

木 じゆす屋 細井戸屋 屋 吉 彦 清 兵 衛印 郎印 七即

細井戸屋 七郎兵衛印

上品寺屋 小右衛門印

内 ೭ 膳 り 屋 屋 吉右衛門印 彦 ДŪ 郎印

今町 組 頭

二七七

北町組頭

郎印

لح 醍 り 醐 屋 屋 屋 庄 彦 善右衛門印 九

郎印

木 冨 木

綿

屋

佐

平 兵

分

屋

善

兵

郎印 衛印 次印 衛印

取

屋

利

屋

清右衛門印

油

屋

善 弥 四兵

上品寺屋

兵 兵 衛印

西町組

頭

塩 布 雲

屋

五

郎

八印 衛印

屋

久

兵

二八

梯

屋

市

兵

衛印

中

屋

四郎兵衛印

上品寺屋

弥右衛門印

岡

屋

、衛印 衛印

手 手 野 یح 屋 屋 屋 屋 屋 源 又 宗 庄 八 九 兵 兵 + 兵 郎印 衛印 郎即 衛印 衛印

か 古

平 岡

古

町年寄中

南町組頭

細井戸屋

庄左衛門印

屋

彦 六 郎印

上品寺屋 古

郎即 衛印

鉄

屋

久

兵

東町組

小もの屋 頭 粉 屋 孫 四

郎即

葛 筆 綿 屋 屋 新 又 次 八

> 郎印 郎即

屋 屋 屋 屋 善右衛門印 五. 六 与右衛門印 兵 兵 衛印 衛印

논

り

り

帶

白

0
今
井
六
町
内
家
数
人
数
覚

宝曆十三年

(今西啓師文書)

人数合七百五拾八人

内

女男 女男

三弐 九九 百百 拾拾 拾五 七五 弐十人人

家

借

家 持

公内

宮寺壱ヶ寺

此僧

弐 入

内

北

町

借家 百拾 三軒 今

家数合百四拾四

内

覚

持 家 女男 女男 百百八九九 八九拾 九九 十九 七 七 人 人

(数合五

音五

拾

弐

人

内

家

借

内 借家 家持 拾弐 軒軒

東町

家数合百六拾三軒

内

家数合百八軒

馬二疋

御

座

候

借 家 持 家 女男 女男 百百 八八 四 式 拾 六 人 人 人

人数合四百三

拾

人

内

借家 家持 軒軒 南 町

家数合百三軒

内

人数合四百拾八人 内 家 持 女男 女男 百四 百四 拾 克 八 人 人

借

家

寺壱 ケ 寺 此僧俗 弐拾三人

借家 家持 百七拾七年 軒

西

町

内

家数合弐拾

今

井 É.

地 軒

区

町

家数合百七拾六軒

寺壱 ケ 寺 此僧俗八人 (数合六百拾六人 内

家

持

借家 家持 百四拾四

借 家 女男 女男 弐弐 六八 百百十五三 四廿八人 拾八人 七人

借家 家持 百三 廿九八八 押軒 新 町

七人 内 借 家 家 持 女男 女男 弐弐 百百 百百七十 弐拾人人 人人 人

人数合六百四拾

ケ 寺 此 僧俗拾壱人

寺

弐

惣年 寄中

馬壱疋御座

候

熊三 郎 家数合弐軒

人数合拾人

内

女男

五五.人人

人数五人

内 女男 三弐 人人

二九

惣家数合九百拾弐軒 内 借家 家持 七百弐拾1

惣人数合三千四百四拾四 X 内 借家 家持 女男 女男

(*右覚は「宝暦十三年書上ゲ」による。

〇今井町中掟書持家借家印形帳

明和元年六月

(今西啓師文書)

但

役人ハ附候人数ハ、

其役人へ欠付為

遅

ク

候

明和 元年

町 `中掟書持家借家印形帳

覚

町中掟之儀当所ニ 御役所無之故哉、 自然と万端猥

相

成候、

惣

而当所之儀、

従

御公儀も

前

K

町 場 ニ被為 仰

前々より定被置候御法度並近年従芝村御書付を以、 而 在市とハ違候間、 新規之格相定申間

> 所々の出火、近在の出火之節、 遲滯有之間敷候 去日定在之候役道

寄差図を請候而、 随分無油断相働 札取役へ札相渡シ、 口 单

持候而火元へ欠付、(脈)

惣年寄

町 真

者ハ、後日急度咎メ可申候、 町在共火元へ欠付、 札相渡、 尤近在之出火ニ 札取役へ札不 相 役 渡

人へ付候者、月番惣年寄より手桶持セ可 遣

水運セ、水纒之大桶へ丈夫ニ荷込可申

所々出火之節者、

召遣ひ有之家より、

荷

桶

=

而

火元

所々出火之節、 始終格別ニ働候者ハ、 外町役人主ニ

見届 ケ置、 後日惣会所ニ而沙汰可有之候

出火之節役人外、

棒並鳶口等持候而

出

申

間

敷候、

猥ニ役人之外持出候ハ 7 もき取可申

乱水之節も、

傘下駄杯ハ勿論、

棒

鳶

杖杯、

被為仰渡候田畑屋舗質入等、

小作年貢並家賃銀之儀、

具ニ沙汰ニ可仕候、

尤御上納

究之通急度訳立可仕候、

役人之外持出候ハゝ、 其儘差置不申候間、 可得其意

自身番催シ大切ニ相勤可申候

前髪付又ハ老人出し申間敷候、

、中門之番、火をともし、番家ニ人無之事も候、 四ツ

時より明ヶ置候ハゝ、 吟味之上急度咎可申候

前々より御停止之事ニ候間、

心得違勝負

博奕之儀、

事之宿仕候者、 後日申訳有之間敷候、 此儀急度相守可

但 無宿者不絶当所へ入込候様相聞へ候、 応意ニ致

可申候、夫共本人聞入不申候ハゝ、其町役人へ相知引入候族有之故:候間、両隣向之者も心を付、相咎

可申候、役人より急度吟味可申候

壁土仕置候ハゝ、 火をともし、往来之難儀無之

今井地区

様可仕候

町中猥ニ置土仕候儀有之間敷事ニ候、 差図請可申候 自今ハ其町役

> 候故埋レ、 町中水門、 大雨の節者難儀之筋ニ相成家も有之様承及 時々役人より掃除申付候共、 猥ニ 塵芥捨

申候

候間、

決而捨申間敷、

兼而心掛、

水通シ能様ニ

取計

、牛馬入込候節、 合両つなきに仕候而ハ、 かんこう火付させ申間敷候、 往来難義之筋ニ候間、 片つな 並向 1

ぎェ可仕候

但、 町内牛馬遣ひ口ニ付申候並たばこくわへ往来仕

間敷候

、家々雨落水通シ、

先規より定来候通、

新規之水通し

成候、 竹植可申候、 付ヶ申間敷候 外側藪之儀、 借家ハ家主より時々吟味仕候而、 其儘ニ而差置候得ハ、本家之不調法ニ相 一本も伐取申間敷候、 荒候所ハ能旬 右之通心得 =

可申候 但 土居間数此方二先年改候帳面有之候間、 猥ニ土

蔵並立物仕間敷、

吟味ニ成候而ハ申訳無之筋ニ候

之候得者、其所へ捨可申候 町内辻々へ塵芥捨申間敷候、 門々之外とニ捨場拵有(ママ)

但 夕方ハ町中銘々表通掃除可仕候

、家々焙煤掃仕、畳擲候ハゝ、暮ニ及申時分カ、又者(除) 得可在之候 候而ハ、近所迷惑ニ相成、又者往来妨候而町中共其心 夜明前迄ニ而戸明ヶ不申内擲可申候、 諸商人見瀬開き

、油屋・綿打屋・たばこきざみ屋・髪結諸方より手間 出候ハゝ、手間ニ入込候主人越度可申付候 我儘無之様、 取入込来り、 兼々急度可申付置候、万一喧嘩口論等仕 いづれも若き者共ニ候得者、 町中へ出、

至迄申渡置、 右之通被仰渡、銘々罷出承知仕、 急度相守可申候、 以上 心得違無之様召遣ひニ

明和元年申六月

[米以下の連署省略]

和州高市郡今井村之覚

、元高三百三拾石三斗五升 但、六十年以前迄御蔵入ニ而、

敷と申所に、御代官松村吉左衛門様御住宅被成、 則今井村之内御茶や屋 毎年

立毛御見立二御納被成候事,

、其以後、松平下総守様御拝知ニ罷成、郷中並ニ御取

拾四文宛も月事ニ指上来リ申候事、 来り申候、 諸役御赦免之御約米にて、銀子五拾枚町中ゟ毎年指上 土居新開御年貢七斗弐升四合御もり付上納仕候、其後 被成、並ニ御茶や屋敷ニ御年貢定成、 並二年頭八朔歳暮為御礼銭鳥目三拾八貫八 壱石三升四合、

、下総守様郡山ゟ播州へ御所替之一年前ニ、世中勝手 申候処ニ、 候へ共、其年斗之義ニ候と被仰候故、 共百弐石四斗七升五合御取被成候、 能御座候とて、右元高ニ三損御増被成候、 翌年下総様播州姫路へ御所替被遊、 其節色々御詫言仕 無是非一 此米口目仏 年指· 則郡

〇和州高市郡今井村之覚 (江戸中期

(上田隆一文書)

へハ本多内記様姫路ゟ御入部被成候下総様御代之様子

有躰ニ申上候、年ニより御免被下候儀、 度々 御座 候

下ニ罷成、拾九万石共ニ元高ニ弐割半之延高ニ罷成、一、内記様御逝去以後、中務様出雲様肥後様御三方之御

屋屋敷御年貢土居御年貢小物成御礼銭御礼銀共ニ指上四百拾弐石九斗三升七合三夕此取九ツ五分、並ニ御茶三斗五升ニ、延米八拾弐石五斗八升七合三夕、合延高今井村之儀も下地之増米御免ニ被成、元高三百三拾石

被成候事、被成、則年寄共預リ手形郡山御奉行所へ是迄毎年御取、御先代ゟ右之御年貢米毎年町之年寄共へ不残御預ヶ

申候事、

(中略)

〇御ケ条覚書

(江戸中期?)

今 井 地 区

(上田久一文書)

申出候如何躰之付口も可申付候、以上、組切ニ組頭ゟ申渡万一違背之者有之候ハゝ組頭ゟ急速可

右ケ条之趣急度相守諸事成丈倹約可致候、

其旨兼而五人

月日

覚

,博奕賭諸勝負堅致間鋪候、兼而五人組隣家心掛聞附,從御公儀様被仰出候御法度之趣急度相守可申事、

至迄堅致間敷候、万一違背之候者聞附町役人江早速、婚礼之儀分限相応軽可取計候、其砌水祝石打等子供

組ニ至迄急度可取計事、次第町役人江急速可申出候、

右之場所ニ罷合候者ニ而茂急度可取計候事、可申出候、外ゟ申出候ハゝ当人茂同様ニ可申付候、尤

、三月五日初節句等ニ客来堅致間敷事並重物祝儀物取

遣無用之事、

一、神事仏事之営者格別費無之様倹約可取計事、

都而留主中見舞土産物取遺堅無用之事、

三四

中大小之百姓共江可被申聞候、

勿論百姓共訴訟事も候

一、不祝儀之節内仕廻ニいたし他へ膳等持出候事致間敷

勿論禁酒堅相守事

無宿者又者住所不知者宿致候儀並女名前ニ而夫躰之

者引入置候儀決而致間鋪事、

ゟ酒肴之類令取候儀致間敷事、 何事ニよらす挨拶ニ事寄彼是申立、 詫酒号シ当人方

の御料所御巡見ニ付諸事用留帳写外

天明八年六月

(上田久一文書)

寛政三亥年五月御料所荒地起返り掛 諸事用留帳之写 天明八申年六月御料所御巡見二附 IJ

但 シ天保九戌年三月写之 御検分御先触之写

覚

通り候節、 今度国々御料所村々巡見被差遣候ニ付、 於村々相尋候儀者有躰ニ可申達旨御代官所 右之面々相

> 、右之面々御朱印並御証文員数之外人馬入候ハゝ、其 被申附候

ゝ、少茂不差扣訴状を以右之面々江申出候様是又可

合を以駄賃銭取之人馬可出ス候、 所定之駄賃銭有之者定之通、 定無之所者近辺御定之割 御朱印並御証文之外

無賃之人馬壱人壱疋も不可出事、

候 も先例之通可被出候、 為馳走送り迎之者出候儀可為無用候、 其外訴訟有之者者可被出候、 案内之百姓

、巡見之面々相通候道筋掃除並道橋一切作

ŋ 申 間

敷

業を止メ無用之者堅ク不被出様可被申触候

農

、巡見通り候道筋ニ而茂百姓農業之儀少し茂無遠慮営

~候樣可被申附候、

、巡見案内其外用之為として御代官手代被出候儀可為 無用、 手代江可相尋候叓有之節者巡見之面々より旅宿

呼寄セ 可承候間可有其心得事

右之面々旅宿少々小屋掛取繕者不及申畳替可為無用

候 ふるく候而も不苦候、 賄道具等も有合候を借 IJ

П

申事、

旅宿可成家一 村三三家無之所者、 寺又者村を隔候而

成共不苦候事、

菜等者其所相場次第売候樣可被申附事、 泊り昼休之場所ニ而も入用之飯米塩噌並薪酒肴油野

、其所ニ無之売買物脇より遺置売セ被申間敷候、 諸道具者勿論酒肴ニ而茂持寄候儀堅ク可為停止事 衣類

代官所中江も可被申附候、 切受用無之筈ニ候間、 右之面々金銀米銭衣類道具者不及申、 内々ニ而も 若内々ニ而茂音信仕候者相 堅ヶ音信不仕様御 酒肴菓子等迄

聞

江におゐてハ可

一曲夏候間、

其旨急度可被申附事、

様ニ申渡候間、 無拠入用有之候ハゝ、 右之面々家来下々迄在々ニおゐて衣類道具等買不申 得其意売買不仕様可申付候、 各々面々より御代官江申談、 若右之類 御

事

今 井 地 X 代官より致吟味、

処ニ有合候者相場次第ニ

売

渡 可

申

休 休

東川 当

田

泊り

下

市

休

湯夜

塩中

泊り

谷黒

村淵

条

内々ニ 丽 切売買不仕様可被申付

野道之馳走として新規茶屋等造之儀堅ク 可 為 無 用

右者御代官不吟味も有之檢見之次第川除其外地方ニ

付

事

候間、 答可被仰付候条**、** 候 者共等へも右之通申渡、 普請公事沙汰等猥成儀茂可有之哉ニ付巡見被差出 百姓等訴訟ニ不出様差押候者有之候ハゝ後日ニ 御代官者不及申手代役人又者村々之 書面之条々無相違様ニ先達而

可被申触候、 以上、

申正 月

御料 所御巡見 遠藤兵太夫様

遠藤兵太夫内

石川清助

国 立野村 泊休

法隆寺

休

西

代

泊り

宁

井

泊り

大和

麻 泊り 御 所 休 東佐 味田 泊り Ŧi.

三五

休 寺 戸 泊休 吉 野 休 山 \Box 泊り 松山 町

泊休 休 萩 原 休泊 休 初 瀕 泊り 泊り 三 輪 休 泊り 郡 Щ

泊り 南 都

法蓮寺

須

Ш

邑

地

誓多林

取計候、 間 別紙之通御先触出候間、 添触とも 申合御休泊村方二而継合可被申候、 村 尤人馬継之儀壱村限ニ継候てハ 々ニ而 写取候而者手間取候間 相廻候条得其意無間違様可被 混 且右御先触 御休泊村 雑 致 L 並 候

被致候、 ニ而写取置前後御道筋村々江者右御休泊村より通 留 リ村ニ留置出役之もの江可被相返候、 此廻状村下ニ令印形昼夜ニかきらす早々 以上、 相 達 廻 可

候

已上

織田豊前守内 奥 村 佐兵 衛

植村出羽守内

申六月廿五日

大屋四良兵衛手代 賀 逸 亚

井指長左衛門

右御巡見人足之儀先年ゟ 醍醐村年預庄左衛門殿方ニ而 本 多 伴 五. 郎

> 人駕籠五挺右醍醐村引請二 引請を詰有之候所、 今年彼是及違論段々掛合、 相成、 当町ゟ外ニ駕籠六挺 人足百

二二六

村迄御巡見道筋十一ヶ村へ割賦相掛当町 馬三疋出之都合相成候、 然 ıν 所右人足賃銀翌御休当广(熊) る取立候処、

木戸村壱ヶ村不承知申立

ふ差出候ニ

付

翌酉年五月十

右出入中書付数通写 証文差上、 右入馬割賦木戸村ゟ出銀仕内済相整候趣、 七日ゟ南都表江御訴訟申上候出入一件、 此已後右一件二付双方申分無御座等、 御 座 候 得 共 此帳面二者除置申 同六月廿六日 南都表江済 但し

H

宿町方役人出勤心得方左之通

江戸御巡見御役人中様当町江

御入之砌、

道筋人足御用

、天明八年申六月廿七日

御道筋御宿口迄も敷砂等一 尊坊大橋

を御道筋両側草切芝掃除人足相懸ヶ置候、 切不致候 尤

江戸御三方様御用宿口 両脇ニ盛砂仕候、

同廿八日早朝ゟ御三方様御宿元ニ番所出来、 幕を張り

高持弐人袴羽織着用並借家人四人も ^ 引きやはんニ而

相廻し申候、

之六口ハ高持壱人借家弐人相詰、右両番所ゟ不絶金棒

尤居町ゟ三人外町ゟ三人都合六人相詰、

外門

相詰候、

平 さ大長糸鯛 ゝ椎い玉 け茸も子

汁 □ 片は □ ま 菜

飯

鉢ならつけ

瓜

御酒

着 玉□かあ □たひ 子だけ

廿九日朝 献立

鉢すゝき

平 でんがく

菓子椀 牛房せん 今 井 地区

汁さき海走

鉢したし

飯

已上

両人御挨拶ニ参上仕候、

町御泊リニ付、東町年寄与右衛門殿、 右御三方様廿九日五ッ時当町御出立被遊、

北町丁代嘉兵衛右

廿九日夕御所

右御巡見ニ付諸入用覚

西町賄

繕普請並
請並
音
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方
方</p

六百弐拾目弐分四 四百三拾八匁八分九 厘 厘

新町賄

右同断

三百拾匁三分四厘

今町賄

右同断

南町崩 繕普請並諸造用

東町賄 右同断

、弐百弐拾壱匁六分弐厘

弐百四拾目五分弐

厘

百九拾九匁四分壱厘

、三百九拾弐匁九分九厘

北町 賄 右同 断

新東南 町町町 年預 三丁賄

百五拾三匁八分

四百弐拾目三分弐厘

惣会入用

東町賄

宿々御見分ニ付諸入用右者芝村飛田市左衛門様

其外諸入用並音物肴代日雇人足但し町方損し繕ひ

三貫弐匁八分壱厘

惣〆高

此内

拾四匁壱分八厘 弐拾三匁六分四厘 、米代御渡しニ付受取分一御役人中ゟ木銭

|右年預ゟ与内 |馬三疋駄ちん |が出版と

諸品売仏代

弐拾五匁

右組合ゟ与内道筋人足九十人

弐百八拾目

六百五拾目

右割方与内

/ 壱貫弐拾弐匁八分壱厘 検分入用与内芝村飛田様宿

三拾目

引残テ壱貫九百八拾目 九百九拾目 四丁割

内

九百九拾目

高割

御料所

御私領

御私領

御私料 入組 御料所

御料所

御私領

御料所 右之八ヶ村者村内御通行ニ御座候

御料所 御料所

御 御 私 (私 () 料 () 料 ()

右之四ヶ村者領内計御通行

但し

但し石ニ付

今井町ゟ当麻村迄御通行筋村内 弐匁五分壱厘打

同郡 高市郡 今 小 綱 井 村 町

同郡 同 郡 曲 曽]]] 我 村 村

葛下郡 同郡 高 三倉堂村 田 村

同郡 市 場 村 村

大 橋

同郡

同郡 大 中

葛下

郡

今

里

村

村

同郡 郡 木 戸 村

勝 根 村

座

= 御

候

高田村兼帯ニ有之候故、十一ケ村江割賦仕候 御朱印人馬人足賃割賦銀ハ、今里村ハ

寛政三亥年従江戸表荒地御見分ニ付

御先触之写

和 人 足 弐 人 馬弐疋

内摂津播摩国迄、上下並於彼地御用中幾度も可出之是(寶) 者御料所村々荒地起返リ免直等之場所見分、 従江戸相模伊豆駿河遠江三河近江丹波山城大和和泉河 吟味為御

用勝与八郎被差遣付而被下候者也

寛政三亥年

三月廿六日

勝与八郎持参之御用書物長持壱棹、御証文 河遠江三河近江丹波山城大和和泉摂津播摩国迄、 従江戸相模伊豆駿 上下

並於彼地御用中幾度茂急度可持参者也

亥三月 越中印

御朱印御証文写遣し候条可得其意候

今 井地 X

亥三月廿六日

勝与八郎 印

出之、

一、 人足 足 覚

弐人

一、御用長持壱棹御証文 二、馬 弐疋

内壱疋人足弐人ニ代ル

右者御勘定勝与八郎、此度上方並東海道筋御料所村々 持人足

荒地等見分就御用左之通出立被致候間、

書面之人馬

馬壱人壱疋茂被差出間敷候、 雇人足之儀者御定之賃銭受取之不用之人 尤渡船川越等之場所前後

滞可差出候、

所有合之品を以一汁一 無差支様可被取計候、 菜之外何ニ而も 馳走ヶ間 勿論木銭米代三而被相

泊

申合、

候間、

上

敷儀被致間敷候、

此先触早々順達於留可被相返候、

以

亥三月廿六日

戸嶋逸平

即

御証文之写

和泉河内摂津播磨国迄、 馬壱疋従江戸相模伊豆駿河遠江三河近江丹波山城大和 上下並於彼地御用中幾度も

可

是者御用付御普請役元〆川島藤八罷越付被相渡

今

之者也、

寛政三亥年

越中 印

右宿中

覚

一**、**馬壱疋

触早々順達於留可相返候、 之品を以一汁一菜之外馳走ヶ間敷儀有之間敷候、 取計候、 疋差出間敷候、 右者上方並東海道筋御料所村々荒地見分就御用、 人足之儀者御定之賃銭請取之其外、余計之入馬壱人壱 通出立罷越候間、 泊リ候而ハ御定之木銭米代相払候間、 旦川越船場等前後申合差支無之様可被 書面之通差出無滯継立可申候、 則御証文之写相添遣し候条 所有合 此先 左之 尤雇

印

御普請役元と 川嶋藤八 可得其意候、以上、

亥三月廿六日

覚

本馬弐疋

之場所見合吟味御用ニ付、左之通出立いたし候条書 渡船場川越等有之場所差支無之様取計、 之人馬無滞差出、 右者家等其儀上方並東海道筋御料所村々荒地免直起返 菜之外馳走ヶ間敷儀決而致さす、不用之入用不相掛 御定之賃銭受取之継立可被申候、 泊宿之儀一汁 尤 面

候 依之先触差出候、 以上、

可被取計

起荒 返地 掛り御勘定組頭手附

山中太良右衛門手代 梶山与六

即

亥五月十日

五月十一日 泊り夫ゟ添上郡奈良奥御見分有之由ニ候大坂出立奈良海道松原村泊り十二日法蓮 飯綱常之丞手代 堀内兵助 即

帳面之儀內々恩借仕書写置候、 戌年江戸御巡見御役人中様御越之趣ニ付、 右本帳者酉之内認ニ而今西氏ニ相納有之所、 以上、 先規為心得 当天保九

天保九年

戌三月廿一日写之

但し表紙共紙数三拾壱枚有之候

今 井 町 八兵衛覚達

O申歳御年貢銀皆済目録

享和元年五月

(天図近世文書)

申歳御年貢銀皆済目録之事

米三百三拾石壱斗六合

内壱石七斗八升九合

新開定成

高市郡

今井町

此納訳

三拾三石壱升

十分一大豆銀納

此銀壱貫八百四拾壱匁八分三厘 但壱石二付銀五拾五匁七分九厘六毛

弐百九拾七石九升六合 九分米銀納

此銀弐拾壱貫九百七拾弐匁九分弐厘

但壱石二付銀七拾三匁九分五厘九毛

外

、銀弐拾六匁

銀弐拾八匁

銀拾五匁

米九石九斗三合

今井地区

醬油造冥加銀 酒造冥加銀

酢造冥加銀

O申年御成箇免定

天保七年十二月

口米

銀弐匁七厘

、米八斗弐升七合

、米弐斗四升八合壱夕

六尺給 口銀

銀六拾弐匁弐厘八毛

外米〆拾石九斗七升八合壱夕

御蔵前入用 御伝馬宿入用

此銀八百拾壱匁九分三厘 但九分米同直段

右者去申年、本途并小物成品々、令皆済二付、 納合銀弐拾四貫七百五拾九匁七分七厘八毛 度々相納

候請取通ひ与引替如斯候、 重而手形類差出候共、可為反

古者也、

享和元酉年五月

西嶋源左衛門即

林 小左衛門印

町 年 寄

今井地区		1 [11]1]
申年御成箇免定 	高壱斗六升	新田
一、高四百拾三石五斗壱升九合 今井町 高市君	此取米四升八合	免三つ
内	高四斗弐升壱合	新田
四石四斗壱升四合 永荒川岸荒引	此取米壱斗四升七合	免三つ五分
四拾七石弐斗壱升弐合六夕 入損地引	一、屋敷反別壱反九畝歩	新開定成
弐拾六石七斗弐升壱合八夕 \員地一下川	此取米壱石七斗八升九合	
214	取米合弐百拾九石八斗弐升	
四拾石五斗壱合八夕 当申木綿作水押皆無引	納訳	
残高弐百八拾石六斗八升六合五夕 毛附	弐拾壱石九斗八升弐合	十分一大豆銀納
此取米弐百拾八石三升壱合 亳附七つ七分六厘八毛内	百九拾七石八斗三升八合	九分米銀納
此訳	外	
高七拾五石八斗七升壱合五才 田畑	銀拾五匁	酢造冥加銀
此取米拾六石弐斗七合 免弐つ壱分三厘六毛余	銀弐拾八匁	酱油造冥加銀
高百五拾石七斗六升壱合九夕 屋 鋪	銀弐拾六匁	酒造冥加銀
此取米百七拾壱石五斗三升七合	米六石五斗九升五合	口米
高五拾三石四斗七升弐合五夕五才 太西領	銀弍匁七厘	銀

此取米三拾石九升弐合

米六斗六升四合

六尺給

外米壱斗六升三合者 損毛高八拾壱石三斗七升七合立懸り

候分当申年御免除

米壱斗九升九合壱夕

御伝馬宿入用

銀四拾九匁八分壱厘八毛 外米四升九合者 右同断

御蔵前入用

外銀拾弐匁弐分壱厘者 右同断

右者御預所、去ル卯ゟ来酉迄七ヶ年定免之処、

破免御成箇書面之通相極候間、 此免定を以無相違致割合、 当十二月十五日限、 町中幷出作之者 迄茂立 急度

皆済可仕もの也

天保七申年十二月

吉川三右衛門面

瀬 村 尾権兵衛即

田丈四

郎即

村瀬丈左衛門倒 林 小左衛門⑪

右町

町代 町年寄 惣年寄

〇御箇条御仕置帳

(江戸後期)

(上田久一文書)

御

筃 条

御 仕 置 帳

水損ニ付

条々

、前々従

公儀度々被 仰出候御法度書之趣弥以堅相守、

御制法

之儀不相背様村中小百姓下々迄可申附事、

、五人組之儀町場者家並、在郷者最寄次第、 組合、子供弁下人店借り地借之者ニ至迄悪事不仕様ニ 家五軒宛

不用候ハゝ可訴事、

組中常々無油断可令愈儀、

若徒者有之庄屋之申附をも

、人之売買一切御停止之事

附リ、男女奉公人年季之儀 公儀御定之通、拾ケ年

今井 地区

今排

二三四

代二召抱候共、 を可限、 乍然近年被 可為相対次第之間可存其旨事、 仰出候通向後年季之限無之譜

之者有之候者早速可申出、 可相守、 毎年宗門改帳、 宗門帳之通二人別入念相改、 三月迄之内可差上、 切支丹宗門之儀御高札之旨 若御法度之宗門 宗門帳済候而後

間其旨を存、

兼而質地証文庄屋年寄五人組加判二而

取

、五人組帳宗門帳ニ押候外印判拵置申間鋪候、 召抱候下人等者寺請状別紙ニ可取置事、

若子細 其外之

事

百姓者庄屋年寄江可断、 庄屋年寄者役所江可相断、 名を改候ハ >早速可断 五人

候而印判替候ハゝ、

組帳ニ茂宗門帳ニ茂改候名を可記事、

附り、 印形押候節者其訳聞届、 印形随分大切二致庄屋年寄五人組江茂預間敷 得心之上可申事、

族来候ハゝ早速可註進事 行江可差出置之候、 若他村より縁組等ニ而当村江右之

切支丹転之者並類族有之分者別帳二記之、

切支丹奉

ゝ拾ヶ年を限り質手形ニ庄屋年寄五人組加判可為仕、 田畑並山林等永代売買御停止ニ候、 若質物 ニ入候ハ

> 時庄屋年寄五人組加判無之候ハゝ、 ゟ出候儀不可仕、 田畑質ニ入金銀を借田畑を銀主ニ為作、 勿論田畑並山林等売買ニ付出 右出入取上不申候 御年貢者 入有之 地 主

引可致事 田畑山林屋鋪売買倍手形御停止ニ候間、 可得其意候

知れ候者ニ而茂請人無之候ハゝ質物ニも取間敷候事、 衣類道具又者門橋等之はづし金物類、 切買取間敷候、 右之品質ョ取又ハ預リ不可置、 出所不知売物 出所

又者不孝之輩あらは不隠置可申出、 者悪心を以公事をふ非公事を勧メ偽を工人之害を成者 惣而家業を第一ニ可相勤百姓ニ不似合遊芸を好、 何事ニよらす神水 或

可仕事、 を否誓詞を書候而申合セ、 味同心致徒党ヶ間敷儀不

盗賊悪党人有之ハ訴人可仕、 褒美可為取之其上仇

不成様三可申附

布木綿可着之、平百姓者布木綿之外不着之、綸子紗綾、百姓衣類之儀結構成物を不可着、名主ハ妻子共絹紬

請奢ヶ間敷儀仕間鋪事、附り、男女共乗物ニ不可乗、惣而屋作等目ニ立候普

縮緬之類者襟帯ニも致間敷事、

候、尤婚礼之夜石を打又ハ水祝ニ事寄振舞を致させ、一、聟取嫁取之祝儀奢ヶ間敷儀 無之様 分限 ゟ 軽ゥ可仕

, 丁 1555年至 17月 17月 17年、 応分限内証ニ而 軽産之祝不相応之祝仕之由可為停止、 応分限内証ニ而 軽

大勢集大酒不可吞候、

所ニ寄蚊帳之祝新宅之披ろメ初

ク可仕候丼葬礼野酒一切停止之事、

、捨子堅々不可仕、若他所之者捨置候ハゝ村中ニ而致

養育早速可注進事、

不可致之事、不可致之事、不可致之事、

事、御停止ニ候、若村中ニ而靍白鳥売買致候者有之者可訴御停止ニ候、若村中ニ而靍白鳥売買致候者有之者可訴、猟師之外鳥獣一切不可取、猟師たり共靍白鳥取候儀

今井

地区

其村之役人並牛馬主ゟ手形を取相返シ、其 旨 可 注 進第庄屋年寄江告之、村中立会致僉儀、持主知レ候ハゝ、他所ゟ捨牛馬幷放レ牛馬当村江来候ハゝ、見出シ次

事、

所聞届請人を取、五人組ニ相断可売買、出所不慥成牛、馬之筋をのべ候儀御停止ニ候、牛馬之売買候ハゝ出

馬不可買取事、

道路之端ニー切立テ間敷候、仏亨神事祭礼等軽ゥ可執題目之石塔供養塚庚申塚石地蔵之類、田畑野山林又者、新地之寺社建立之儀堅ゥ可為停止、惣而ほこら念仏

行、新規之祭礼不可取立事、

一、寺社之儀住持社人替り候ハゝ可注進事、

神仏致開帳候ハ

ゝ可注進、

当村神仏他国江当分相移

輿を送り来候様成儀有之ハ不可請取之、村中ニ少シ之シ開帳仕候儀有之儀者、前方ニ可注進、又者他所ゟ神

間も差置間敷事、

当村二有之出家社入山伏行人道心者店借地借之者並

三六

前方帳二付有来候酒屋之外新規酒屋又者請売之酒屋

為仕間敷候、庄屋年寄江不相達候而他所ゟ参候者、一____等其外____之類迄常々致吟味候而、胡乱成者住居

不可仕事、

夜之宿をも不仕様ニ村中家持大小之百姓水吞等迄常々

堅ク可申付事、

難成者有之者可注進、又者他村を子細有之候而立退来一、村中之者之内或者立退或者遂電或ハ身上潰候而住居

候者者親類たりといふ共当村ニ一切不可置、有付住居

相断慥成請人手形取之、宗旨相改遂吟味注進候而可差

致度と願候ハゝ、 其者之出所家業之様子聞届、

出所江

置、店借地借等之者置候も右同前ニ可相心得事、

百姓田畑子孫ニ為分取候共、

壱人前ニ高五石ゟ内不

分ヶ候儀有之者可得差図、惣而親類立会書附取置、後可分ヶ、小高百姓者子孫ニ為分取間敷候、若子細候而

日ニ出入無之様ニ可心懸事、

出入無之樣可心懸、若又及出入候節庄屋年寄之印形無、跡式之儀存生之内庄屋年寄並親類立会書附置、後日

之儀譲状者不可相立事

間敷候、私領ニ而茂 分郷或者村隣ニ而茂、 当村境目紛、当村之内ニ而 能操相撲又ハ狂言其外見世物芝居為致

敷地ニ而致候者芝居不始以前ニ早々可注進事、

致間敷事、、惣而遊女野郎之類一切当村ニ不可置、一夜之宿を茂

茂堂宮山林道路ニ死人有之ハ其者持来リ候雑物等改、、行衛不知者ニー夜之宿も不可貸、旅人其外何者ニ而

庄屋年寄立会様子委細書附候而可注進、

若堂宮山林等

其外手負又ハ不審成者他所ゟ来候者出所を尋致、付届ニ隠忍ひ胡乱成者有之者令僉儀、品ニ寄搦捕可訴之、

注進之上請差図候而彼者相渡可遣事、

往来之輩若煩候者早速医師ニ見ゃ随分致保養能

人分

参候儀難成候者、其者之在所を承届ヶ迎を呼寄セ手形リ食物等入念あたへ看病仕置可注進候、歩行不叶先江

を取相渡遣可申候、

若病死致候ハゝ其者之道具等改

庄屋年寄立会致封印置候而可受差図事、

早速可注進之、火事盗人喧嘩口論手負之者、 殺害人或者致自害或者倒者有之候ハゝ、 右同前二無油断可注進事 番人を付置 惣而不慮

成儀出来候ハゝ、

者有之ハ隣郷之者迄出会搦捕、 難成候ハゝ跡を慕ひ落着所江急度可申届事、 = 村中二而喧嘩口論有之者庄屋年寄出会可裁判、 而喧嘩口論等有之節者不可走集候、 早速可注進候、 人を殺シ立退候 捕候儀 他村

為越度事、 有之者早速可申出、 田畑荒シ置へからす、 隠シ置脇より訴候ハゝ庄屋年寄 永荒場起返り切添又ハ新田畑 可

堀を埋出シ又者道をせばめ、 附り、 多葉粉本田畑二作候儀停止之事、 秣場林際を切添田畑不

新堀不致候而不叶所有之ハ可請差図事 可仕出、 前々る無道所江道を付出不可、 仕若道を付替

場江刀脇指弓鑓長刀等を持出、 用水掛引常々申合置争論無之様可仕、 今 井地 区 令荷担者有之ハ其科本 水論境論等之

人ゟ可重か

吟味猥二人馬触仕間鋪候、 二能荷物を附候様成儀一切不可仕候、 御伝馬宿江定助大助郷ゟ人馬寄候ハゝ、 其宿之馬を囲 御朱印者勿論駄 に置面 問屋年寄致(庄力) K 、勝手

附り、 之、若人馬割二難心得事候共、 助郷江人馬触来候ハゝ剋限を不違 先無滯出之、 無 滞 後日 可 出 =

賃伝馬人足之儀常々致吟味無滞様可仕事、

、渡舟有之村者定之通舟賃取之、往還之輩昼夜無滞可 相渡候、 仮令大水之時分たりといへとも、 定之外船賃

可申出事、

之駄賃馬人足昼夜を不限無滞可出之事 御用之人馬者不及申、 本海道ニ而 無之共、 往来之者

多ク取申間鋪事

、御朱印又者御証文も無之人馬を出シ候様ニと申、 寄立会僉議之上怪敷躰候ハゝ可注進事 者駄賃不出通り候者あらは、 其品ニ寄押 江 置 庄屋年 或

村中申合番屋を作り番人を付置、 家前ニ銘 々火消道

具を拵置火之用心随分入念、 風烈敷時分ハ昼夜を不限

IJ

自身番仕

庄屋年寄も、

出火無之様ニ可仕、 町並者町中村方ハ村中相廻 若出火有之者鳴を立村 中之者 立

会

精

を出

シ

可消

勿論御年貢米人置候郷蔵大切ニ囲

可申事

毎度灰小屋ゟ致出火候間灰小屋江 灰 を入 候

畤 水ニ而しめし入念可申事、

附り、

、堤川除不切様ニ常々申合、 随分可囲之、 道橋等損候而往来之障ニ成候歟、 洪水之時者村中之者 出 田

畑損亡ニ可成所者、 難成所者御入用ニ而 惣而小破之時早速可修覆、 可 市附(触無之候共請取場之道 自普請

橋常々無油断作り可申事

間 樋戸前道具並鉄物川除棒杭笧等之儀盗取 常々心懸見廻り不盗取様ニ可仕事 族 有 之候

鳴を立候節、 洪水之時堤川除囲 若其場工不出会者あらは庄屋年寄可遂僉儀事、 村中之者拾五以上六十以下之男、不残可 候節、 盗人又者狼籍者並火事有之

典

候 鉄炮之儀猟師又者威シ鉄炮渡置候外、 若隠置候者有之由訴人有之ハ、当人者不及申庄屋 村中不可隠置

二三八

年寄五人組迄可為曲夏事

御林御立山之竹木者勿論、

枝葉下草迄公用之外伐採

間鋪候、 木伐遺候者書附差出、 縦令百姓持林並屋敷四壁之木ニ而も、 得差図可伐事、 目立

、入合之野山面々之持山ニ而茂 候、 靍之觜を入候儀可為停止、 草木之根 田畑山崩砂入等無之様 を 堀 取 間 敷

ニ山林苗木を植立可申事、

附 停止之事、 Ų 山 中二而 焼畑致来候所者格別、 野ニ火附候義

少ニ而親ニ離レ耕作仕付難成者あらは = 致候者有之ハ急度可令愈儀、 諸作第一能キ種を撰候而蒔、 独身之百姓長煩又者幼 耕作可入念、 庄屋年寄立会、 荒作之様

村中二而助合田畑不荒様二可仕事、 附 ij 地所不相応ニ田畑諸作他ニ替、 作劣耕作等不

精成者有之者吟味仕小検見之節も引方を立取らさせ

間鋪事、

、勝て孝行又者実躰成者有之者可申出、隠 置 間 鋪 候

事

之ハ遂吟味、其趣可訴之事、

ニ事寄博奕ニ為似儀何ニ而も一切不可仕、若違背之輩一、博奕惣而賭之諸勝負、或ハ百人講と名附、或者商内

負取嗳可相済、

勿論滞儀有之者可訴事

附り、

庄屋年寄不儀之致方有之ハ百姓方ゟ可訴事、

有之歟又者、

右之宿致候者有ハ早速可訴事

或者大酒を呑致酔狂行跡悪敷者有之ハ可訴之事、、百姓ニ不似合致風俗長脇指を帯シ喧嘩口論を好き、

怠るニおいてハ庄屋年寄可為曲夏事、少々合力抔請候共、刀帯候儀御停止ニ候、若僉儀之上小を合力抔請候共、刀帯候儀御停止ニ候、若僉儀之上の軽キ侍奉公ニ出、其後在所江引込罷在候族、先主お、常々刀を帯候儀仕間鋪候、百姓子供ニ限リ並 親類之

ゝ、其子細庄屋年寄五人組江書附を以可相断、公事訴出、若他国江奉公ニ出侯歟、又ハ用事候而 相越 候 ハ、他所江参二夜泊り罷在候程之儀者庄屋江 相 断 可 罷

江可相断、尤庄屋年寄右之趣早速可注進事、

公儀江出候共其趣書附を以其村庄屋年寄五

訟ニ而

届、親疎好悪を不撰理非を能々致分別、毛頭無依怙贔事村中出入有之時者庄屋 年 寄 立 会、双方之意趣を承之而小百姓ニ心を附、身上不成者を可致介抱、不依何、庄屋年寄者正直を専ニして私欲を不仕、慈悲之心有

十分一銀納之為ニ米売候ハゝ、先米納之員数を積り、、御年貢皆済無之已前、穀物他所江不可出之、三分一

随分致吟味、舛目不切様ニ俵入可入念事、一、米納之儀庄屋年寄立会、青米死米砕籾糠等無之様納米程上米を拵置、次之余リ米を売可申事、

米主舛取米見之名迄銘々書附致印判、俵毎ニ可入之、入候中札ニ国郡村之名御代官之氏名年号月日庄屋年寄積之節者一俵宛菰ニ而包、俵不損様ニ可致、俵之内江、俵拵之儀二重菰ニ而小口かゞりすり縄ニ而可仕、船

今井地区

外札者国郡御代官之氏名米主之名計可記之、 札裏ニ 俵

之貫目可書附事、

用並船中雑用等多ゥふ入様ニ申附、 御城米船上乗之儀、 村中遂吟味可遣之、 委細帳面為記入用 御蔵前之入

可

取置、 請取手形通帳ニ致シ、 不埓:仕置、 納之儀ニ付、 御年貢割之通銘 銀之員数納主之名書付、 御年貢金銀庄屋方江取集候ハゝ、 後日出入無之様可仕候、 少も申分無之旨御年貢帳面之奥ニ惣連判 惣百姓之連判も取置不申及、 々百姓る皆済候ハゝ、 渡之押切印判致遣、 印判可為致之、 若御年貢割納方等之儀 扣帳ニ納候度々金 惣百姓ゟ御年貢 庄屋方ゟ金銀 出入ニ候ハ 其上其年之

御年貢米銀納候節庄屋方ゟ納主江銘々手形遣之、

庄屋年寄義急度曲夏可申附候事、

= 帳:入念書附可致判形、 御年貢皆済仕候ハゝ皆済目録役所ゟ渡遣候間、 訴候共取上間鋪事 不念二而手形無之、出入後日 惣百 庭

姓ニ是を見せ印形取置可申事

可申出事、 銀納之時掛屋之者百姓ニ対シ非儀申懸候者其品早速

惣而従 公儀被下候人足扶持等、

当座

三銘

々割渡帳

每年御年貢免定出候者、 村中之者二披見為仕、 庄屋 事

面

=

請取候趣為書附印形可取之、

惣而継合勘定不可

年寄る村中大小之百姓出作之者江も不残相触、

寄合候

委々書附、 書附写させ 其上免定之奥ニ別帋継候而立会披見仕候旨 而致免割、 小百姓江茂 疑敷不存候様 二其訳為申聞 小物成浮役隙時物共二可納、 米銀壱人前 右

書付、

銘々印形可取置、

郷蔵之戸 = 茂 免定之写いたし

入念、御年貢之儀申渡候日限之通相納候様ニ常々村中 交一同ニ不致之、差引を立可割合算用違無之様随分可 可張置、 御年貢割仕候節村中夫銭小入用と御年貢と入

庄屋年寄江兼々申附候通、 当役所役人並下役之者其 可申合事

こ其囮可申出恩置後日ニ目引戻、ふた忍F将可急或定或者押売押買不依何叓不作法之儀致候ハゝ、不隠有躰而も音信礼物等一切仕間鋪候、右之者共若貸物借り物外召仕等ニ至迄金銀米銭衣類諸道具酒肴其外軽キ物ニ

1. こ其趣可申出隠置後日ニ相聞候ハゝ庄屋年寄可為越度

合候節村入用:懸之、食物酒肴一切給間敷事、

公用之儀又ハ村中申合等之儀ニ付、

庄屋年寄村中寄

ヶ酒肴為給間鋪事、一、堤川除御普請用水堀さらへ之時人足等ニ村入用ニ懸

印形無之書附持参候而、何事申附候共一切 承 知 不 可、役人之家来其村江参口上:而 申儀者不及申、役人之

間

年々之帳紛失無之様大切ニ可致置事

仕早速可注進事、

無之様申附候条、酒肴等此方ゟ差図無之物何ニ而も調御定之薪銭出之、上下共少も百姓之馳走ニ不成村々費段ニ可調候、尤即時ニ代物可受取之、 泊休之所ニ而者持廻候、又者村々ニ而相調候野菜等者其村ニ而相場直、役人並小役人村々相廻り候節者、何時も飯米塩噌為

割懸候ハゝ庄屋年寄可為曲夏、無差図人馬集置百姓之置間敷候、若調置此方江不入ニ付、寄合飲喰村入用ニ

障費間敷事、

添可差出、 可為曲支、 作り置間敷候役所印有之帳之外庄屋ゟ懸り物割掛 帳ニ委細書附可置、 役所印可相渡候条、 遂吟味、入用多無之様可入念、右入用帳之儀白紙を織 村中年中之夫銭懸り物小入用等之儀、 每年翌正月中前年之村入用帳写候而本帳 一覧写帳を留置、 立会候者も印形可仕、 惣而村中入用少茂不残当座ニ右之 本帳者庄屋江 随分庄屋年寄 此外別帳 可 相 返 候者 相

此旨を急度可相守事、りとも都而是迄門塀庇有之分者格別、新規ニ者難成条的とも都而是迄門塀庇有之分者格別、新規ニ者難成条普請致間敷候、縦令右高請致候百姓之家分レ、親類た、往古検地之節致高請候百姓之外ハ、向後門塀庇等之

之儀を申立、奉公稼ニ出候者多所持之田畑を荒置候類、近来在方村々之者共耕作を等閑ニ致し、却而困窮等

今井

四二

無之哉否、村役人共相糺、実々無拠子細ニ而奉公ニ出者奉公ニ出候而茂、残人数ニ而耕作者勿論村方之差支有之由相聞不埓之至ニ候、以来村ニ而人別割合何人迄

承届、年季限奉公ニ出候様可致候、若村方之差支も不度旨相願候者有之候ハゝ、右割合之人数迄者村役人共

村役人之可為越度事、

顧奉公ニ出持田畑を荒候儀等有之候ハゝ、当人者勿論

儀ニ付強訴徒党逃散之儀者堅ク停止ニ候所、近年御料一、御料所之国々百姓共御取箇並夫食種貸等、其外願之

訴訟致候儀も有之不届ニ侯、自今以後厳敷吟味之上重所之内ニ茂 右躰之願筋ニ付、御代官陳屋江大勢相集リ

罪科ニ可被行候事

姓寄合、慥ニ為読聞、常々此趣合点仕罷在候様ニ入念可毎年正月、五月、九月、十一月、壱ヶ年ニ四度村中之百右之条々堅可相守此旨若遠背之輩あらは可為曲夏、此帳

候事、

・可被 仰付、為其連判如斯御座候、一告点急度相守可申候、若此旨相背候ハゝ如何様之曲夏二年寄共方ニ写置候而被 仰渡候之旨為読聞、一箇条宛致共迄、此五人組ニ壱人茂除候者無御座候、御箇条書則町前書之御箇条一々奉拝見、町中大小之町人店借借地之者前書之御箇条一々奉拝見、町中大小之町人店借借地之者

「育、『三子二書・書・書を三字字、前御箇条御文面ニ名主或者庄屋年寄村役人と御座

候

但当町之儀者町場ニ付前御箇条之内

、村中之者或ハ当村村方与御座候処者、町中之者或者所者、惣年寄町年寄と相心得罷在候事、

当町方と一統相心得罷在候事

速御断申上、五人組帳ニも宗門帳ニも改候名を相記申申上、其外町人者町年寄江相断可申、名を改候ハゝ早、印判替り候ハゝ惣年寄町年寄町代等者御役所江御断、

一所ニ致年番年寄ゟ御上納可仕事、紙申達候間、取集其上町々取集銀年番年寄方江差出、紙申達候間、取集其上町々取集銀年番年寄方江差出、

寬延三午年正月

申

付者也

但懸り銀及延引候ハゝ早速御役所江御訴申上候、

町年寄五人組致加判、其上惣年寄奥印仕候夏、一、田畑並家屋鋪質物ニ入候ハゝ、拾ヶ年を限質手形ニ

一、跡式之義町年寄並親類立会書附、其上惣年寄奥印仕

候事、

手形通帳:仕渡之押切印判遺候亨、 銀之員数納主之名書附印形為致、町年寄方6金銀受取一、御年貢金銀町年寄江取集候ハゝ、扣帳:納候度:金

一、御年貢米納所之節町年寄ゟ米主江銘々手 形 遣 シ 候

事

一茂可被仰附候、以上、右之通無相違取計可仕候、是又相背候ハゝ如何様之曲事

形仕候、付不埓成儀出来候ハゝ、請人江御懸ヶ可被成候為其判付不埓成儀出来候ハゝ、請人江御懸ヶ可被成候為其判仕、相互ニ吟味之上五人組相究、判形仕借家人之儀ニ仕、相互ニ吟味之上五人組相究、判形仕借家人之機ニ

右御条目並御法度之趣少シ茂相背者有之候ハゝ、早速御

様ニ茂可被仰付候、為其仍而如件、訴可仕候、若隠置候ハゝ当人者不及申、組中請人迄如何

党候儀堅停止候亨、近年御預り所之内ニ茂 右躰之願筋百姓共御取箇並夫食種借等其外願筋之儀ニ付、強訴徒今度従 江戸表被 仰出候御書附、左之通御料所国々

御代官支配百姓共兼々急度可申附置候様可申渡候、候、自今以後厳敷吟味之上、重キ罪科ニ可被行候条、

御代官陣屋江大勢相集リ致訴訟候儀有之不届至極

ŧ

名主宅江張置候様申附置候、五人組帳江茂書載セ年々近辺ハ呼寄申渡シ、隔候所者手代遣シ可申渡候、自今度申渡シ、請書判形取候様可申渡候、陳屋住宅之銘々右御書附之通在府者手代遣シ、村々百姓末々迄入念急

可被申渡旨被仰附候、右之通御代官可被申渡御代官者一統之儀、右之趣不洩様右之通御代官可被申渡御代官者一統之儀、右之趣不洩様為読聞、請書取候様可致候叓、

候様可致候事、別紙御書附之通百姓共末々迄入念、急度申渡シ判形取

今非

地区

右之通於江戸表ニ被仰付候ニ付、 私共被召出委細被仰付

写庄屋宅江張置五人組帳江書載を年々末々迄為読聞候様 承知仕奉畏候、 御書附之趣急度相守可申候、 尤御書附之

可仕候、 仍 而御請書連判差上申候、以上、

年号 天保十亥年五月書写之 二月

高市郡今井町

年預

上田八兵衛

所蔵

O亥年御成箇免定

天保十年十二月

(天図近世文書)

亥年御成箇免定

高市郡 今井町

高四百拾三石五斗壱升九合

`

内

四拾七石弐斗壱升弐合六夕 四石四斗壱升四合 永荒: 川岸荒引 引・おります。まか申堤切床堀土砂入

> 拾弐石九斗五升六合弐夕 五拾九石五斗八升六合八夕

弐拾壱石八升四合

亥一作引去ル申堤切土砂入損地末立帰当

残高弐百六拾八石弐斗六升五合四夕 毛附

当亥木綿作旱損皆無引 当亥稲作早損皆無引

此取米弐百弐石五斗五升六合 毛付七つ五分五厘壱毛内

高七拾壱石八斗七升三合九夕五才 此訳

此取米八石七升三合

田

畑

高百五拾石七斗六升壱合九夕

屋

敷

高四拾五石四升八合五夕五才 此取米百七拾壱石五斗三升七合

太西領

此取米弐拾弐石七斗五升壱合

高壱斗六升

此取米四升八合

高四斗弐升壱合

此取米壱斗四升七合 畑 反別壱反九畝歩

新

新 田

免三つ五分

新開定成

二四四

此取米壱石七斗八升九合

取米合弐百四石三斗四升五合

納訳

弐拾石四斗三升四合

百八拾三石九斗壱升壱合

十分一大豆銀納

九分米銀納

銀拾五匁

酢造冥加銀

銀弐拾八匁

醬油造冥加銀 酒造冥加銀

銀弐匁七厘

米六石壱斗三升 銀弐拾六匁

口 銀 口

米

米六斗八升弐合

外米壱斗四升五合

六尺給

当亥年御免除
高七拾弐石五斗四升三合迄掛り候分

御伝馬宿入用

外米四升四合

米弐斗四合壱夕

右同断

御蔵前入用

銀五拾壱匁壱分四厘八毛

今井地区

外銀拾匁八分八厘

右同断

天保十亥年十二月

皆済可仕者也、

破免御成箇書面之通相極候間、

此免定を以無相違致割合、

当十二月十五日限、 町中幷出作之 者 迄 右者御預所、去戌ゟ来ル辰迄七ヶ年定免之処、

早損ニ付 茂立 急度

 \equiv 好 力

瀬 Ш 尾権兵 衛側

本

七⑪ 助印

村 田丈四 郎卿

村瀬丈左衛門印

右町

町年寄 惣年寄

町 町人

(河合鋭治文書)

O芝藩今井、八木町民等ゟ借用方証文

証文之事

天保十四年九月

銀六拾五貫目也

二四五

今 井 地 区

儀 之利足御引取、 之内百五拾石ツゝ、 実意ヲ以御出銀被下、 右 者来辰年秋ゟ来ル亥年秋迄、 者丹後守勝手向取直仕法為基礎、 残銀御積立置被下候而、 都合千弐百石御渡申候得者、 慥二請取借用申処実正也、 申年八箇年之間年々蔵米 各方被仰合格別之御 翌子年ニ 返済之 至リ元 其年

急度御渡可申候、 茂可有之候間、 取斗候、 向取片付候仕法相貫、 尤返済米時宜ニ寄、 此段村々江申付置候、 誠厚御懇志柄無違失、右年限中ニ諸借 各方御丹誠被下候給相顕候様(ママ) 村方ら直ニ御引取 其節之御都合 御 座候

利皆済御取斗被下候筈及御約定候之上者、年~十月迄二

儀 可 財

而

村役人江被申遣、

御便利之先江御引取被下候義少茂申

分無之候、 天保十四卯年九月 為後日差入申証 文仍 而如件、

山 恒岡治右衛門 本 吉 之 烝 Ô Ã

杉 浦 Œ 衛 (II)

丹 羽 彦 弥 (計紙) 役ニ付無印

四六

賀 又 兵 衛 **(印)**

第 千

+

仲

之

進

(A)

飴 壶 屋 屋 清 八 兵 兵 衛 衛 殿 殿

K

油 屋 小三 郎殿 飴

屋

清

六殿

土橋屋庄九郎殿 倉橋屋孫兵衛 殿

鳥 熊野屋権兵衛 古手屋徳兵衛殿 屋 徳 兵 衛 殿 殿

前書之通相違無之候、 仍而奥印 如

杉 浦 千 右 衛 門 Ø

平 ΤΠ 手 市 郎右 覚 衛門回 馬 (1)

$\overline{}$
小
綱
\smile

〇御殿様御賄金之覚

享和三年

酉年御賄金之覚(拿和三年)

四拾両 四拾五両

三月御賄

四月同右

(小綱区有文書)

壱石壱升

八斗七升弐合弐夕

五斗八升壱合八夕 八斗壱升八合三夕 先年より堤床御引

内

壱斗弐升

申年より堤床御引

戌年より新荒御引

巳年より極楽寺墓地御引 巳年より堀浚添地床之御引 申年より新荒御引

残而

弐斗

弐百参拾五石八斗五升七合七勺

定免九斗五步

一、三拾両 、八十両

> 七月〃〃 五月〃〃

弐拾両

此御取米

弐百弐拾四石六升五合

米壱石九斗壱升九夕

Щ.

明和四亥年より改

御見取

御見取

〇酉年御勘定目録控

右者、前月廿五日江戸着之積ニ御座候、

メ弐百拾五両也

九月〃〃

曲川村 曲川村 小綱村 曲川村 小綱村

文政八年

米壱升五合

御見取御見足年より改

文化六巳年より宗次郎改

御見取

(小綱区有文書)

米九斗六升

米壱升

二四七

今井地区

高弐百三十九石五斗五升

和州小綱村

酉年御勘定目録控(文政八年)

今井地 区

文化元寅年より改勘十郎

米五升

弐百弐拾七石壱斗九升

内

四拾石

八斗七升弐合弐夕

御用捨米二被為下侯、御手百姓困窮二付、

申年より新荒御引

残而、百七拾八石壱斗九夕

六石八斗八合五夕

П 米

小物成

壱石七升六合五夕

夫

代

九石六斗

惣米合弐百四石五斗九升四合

御直段右ニ六拾八匁替ニして

代拾三貫九百拾弐匁三分九厘

〇小綱村五人組改帳 天保十四年九月

(小綱区有文書)

小綱村五人組改帳 天保十四年

卯九月日

御地頭御定法、諸事申合、 御公儀様御法度、 申合堅可奉相守事 急度可相守事

御年貢御上納之儀者、各銀皆済可致候、下作とも同

様可相心得候事

、農荒ハ不及申、落穂等拾せ申間敷事

、奉公人請判之儀者、 立寄申候、仮令何程之念頃合たり共、他人之請ニ相達(悪) 親類之者は組中致披露、 請ニ相

、村内を離れ、

壱里弐里隔て奉公ニ出候もの在之ハ、

申間敷事

L_

当役江届可申事

要用ニ付他国江日を重ね罷出候得者、

申事

是又当役江断可

二四八

致候、尤引請一札取可申事 此已後縁組之儀者、村役人相達役人得心之上熟談可

、他所より入来候者在之候得者、 送り一札ハ不及申候

地請一札請取可申候事

、質物請判無拠ハ組中致披露、 類念頃合たり共、 一分請判仕間敷事 相立可申事、 たとひ親

着類諸道具諸事預り物仕間敷事

出所不知ものハ密之商ひ仕間敷候事

人宿一切仕間敷、 仮令親類たり共、 日をかさね溜り

候得者、村役人江 相断可申候事

組合之内、自然用事出来候得者、 他之付届番等組合

等より致可申事 辺難渋在之候節者、 組合何程之儀 在之 候 共、組合も可為越度可被仰付(マミ) 兼而組內諸事心附可申候、尤一分之儀二付、 本人身躰限、其上足り 不 申 候 御公

博奕致候もの在之候得は、 家親類相掛り可申候、此段急度相心附可申候事 如何様之御咎可 被 仰付

今井地

区

勿論宿仕候得者、是又如何様可被仰付候、 以上

候

右之通毎年組改之節呼寄、 急度可申渡もの也

鴨

公

地

区

〔縄手〕

〇寺尾勤録、 縄手村明細記

高四百拾六石三斗壱升

延享年間

一高

縄手村

荒 引

毛 九ツ壱分 附

残四百拾三石九斗七升弐合

内弐石三斗三升八合 内△壱石六斗五升

此取米三百七拾六石七斗壱升五合

藪年貢 夫 米

 \Box 米

納合米四百三石壱升壱合

除地 一、鎮守 四分村と一所

検地文禄四年但し帳面ニ役人之名無之

年貢地

一、正光寺

向宗八木村西福寺末

同断

(大福・広吉寿彦蔵

_, 西正寺

浄土宗知恩院末寺

但シ境内ニ四拾八坪程除地有之

同断

一、正明寺 净土宗知恩院末寺

右者南八木村源兵衛持庵但境內二廿四坪程除地有之

除地

一、石仏不動堂

守人源次郎

新田畑

無役

、高四石弐斗七升

、米三斗六升

此定取米弐石壱斗三升五合

、米拾弐石四斗八升九合 、米拾壱石三斗壱升弐合

、村池壱ヶ所

地此年貢三石壱斗六升五合 右池床凡壱町弐反之内九反程無年貢、残三反程者年貢

出水壱ヶ所 但し四分村領ニ在之無年貢

庄屋やしき 無年貢

〔醍醐〕

〇四分村領田地へ水取ニ付定申一札写

慶安三年三月十三日

(森村庄逸文書)

上、

相定申一札之事

分四分村へ取申筈ニ相究申処実正也、(極) 事ニ可被仰付候、 方之村へハ何角と申分仕間敷候、 間敷候、若其所ニて死申候共、 ぬすみ取申候を御見合候ハハ、 ても水取不申候定也、 井手三ッ御座候、 村領縄手村領八町余りへ掛り申ニ付、 ハ此一札御差上ヶ被成候而、 へ成共壱ッへ半分へ取申約束ニて、 残り弐ッヘハ少ニ ハ下弐ッハ水取不申筈、 たいこ村出水飛田村領之内御ほり被成候ニ付、 此三ッ井手之内、 一言之恨申間敷候、 自然取不申弐ッノ井手之内、水 以上三ッ之井手之内何之井手 其申上候者如何様ニも曲 右半分の水御入させ在 盗人之義ニて候間、 其時何かと申上候 上壱ッニて取申時 右八町余へ入申 右相定申八町余 分水ヲふせ水半 四分 其

> 迄皆々申きかせ、 可申候、 八町余へ右半分づつ取申水余ニ申候ハゝ、 如何様ニも御せんさく可被成候、 右相定之通違乱申者候ハゝ 庄屋年寄判形仕候、 御公儀様へ被仰 後日之代ノため 為其村中小百姓 其方へ下シ

へハ自今以後夜ル昼共ニ半分づゝ取申約束ニて候、

若

仍支証文状如件 慶安三寅三月十三日

五 兵四分村庄屋 同村年寄 衛 印

助二 郎 即

庄 五. 郎 印

孫 三 郎

印

長 三 郎 印

善右衛門 印

弥右衛門 印

鴨 公 地 区

<u>二</u> 五.

鴨公地

たいと村庄屋 衛

殿

同村年寄

蔵

殿

長 兵 衛 殿

同断

同断

嘉 兵 衛 殿

〇出水ほりニ付相定申一札之事

慶安三年四月十五日

(森村庄文書

相定申一札之事

飛彈領之内醍醐村出水三拾三年以前御蔵所候時、

申候へハ、大庄や佐衛門殿御噯にて、(屋) 迷惑仕候儀、御代門様へ御理り可申上と大庄や迄理り(2)(2) ほり不申候を、当年ほり可申と被申候を聞付、飛弾村 木次郎右衛門と申御下代 御 ほ り 被成拾五年出水出申 候、拾八年以前酉ァ年高水出うまり申候、拾八年之間 御年貢米納舛八

作 兵 衛 印 "

公儀様へ御指上にて如何様共曲事ニ可仰付候、其時(後脱力) にて御座候所実正也、然上ハ毎年ニさらへ被申候とも 水儀ニ付少も申分在ましく候、右之出水其方のしはひ、(変配) させ在間敷候、若御国替御給人替り御座候とも、此出 入申候を御見合候て、右三反之入用筈之田へ永代御入 戸之水ニても掛申田壱歩も無御座候、 之通ニ出水ほり被申候、 極也、其外ニ飛弾領之内ニ右出水にても又ハ醍醐村井 下三而畑田三反有之候、 此田へ永代之間わけにて入申 其上飛弾領之内醍醐村大樋之 右三反之外水盗

後日之仍支証文如件

慶安三年丑四月十五日

言之恨申間敷候、

為其庄屋年寄判形仕相渡し申候、

為

ひた村庄や 茂兵へ

判

同村年寄

宇三 郎 判 五五二

斗ツュ毎年ニ醍醐村ゟ飛弾村へ請取申定ニ相済シ、右

醍醐村中旨

同

善 四 郎 判

〇縄手領つくだ井手へ醍醐村人不法ニ付御訴写 承応三年六月十三日 (平井良朋文書)

乍恐言上

いご村庄や久兵衛ニ預ヶ置申候、今度ぬき申され候杭 所 内記様御知行所大と村お、 町所へ、往古ゟ用水取申井手ニ而御座候、然処ニ本田 之内つく田と申井手御座候、 ヲ散々ニ切落被申候ニ付、 こ、彼井手ニ数年此方ゟ打置申候杭木ヲ悉ぬき、 和州高市郡之内植村右衛門佐様御知行所、 則其砌此方ゟ相埋りぬき被申候杭木三拾本余、 当立毛根付仕候 毎年打添申候杭木ニて御座候、 儀 不罷成、 右四町之田地之内三町程之 新儀二当四月廿四日之夜中 此井手ハなわて村田地四 為不作ニ何共迷惑仕 古キ杭ハ末井手 縄手村領 井関

成候御事、

床ニ御座候御事、

程之田地も及日損候、 参、 迷惑ニ奉存候、 井関ヲ切落シ被申候、 を奉存、 、今月二日之夜河上夕立仕候而、 大勢井手所へ被参、所々に打申候杭木ヲぬきせき申、 と奉存、 其上田地をあらし申儀御公儀様へ被聞召候所もいかか ·付、末根付不仕候三町程之田地、 一揆同前之躰ニて御儀候、 彼井手を大形せき申所ニ、又々候だいご村ゟ 井手筋へ水沢山ニ参候ョ幸と存、 然共 御公儀様ヲ奉憚、 尤三町程之田地ハ尓今根付不罷 か様ニ重過候我儘ヲ被仕、 依之最前根付仕候壱 井手筋へ水大分参候 悉申義迷惑奉存, 其上 多人数被 根付可仕候 何共

、彼つく田井手用水掛リ申四町之田地之内、 上此井手筋ハ四分村なわて村八木村大と村、 井溝ニて、四町之田地へ用水取来候事隠無御座候、其 名をもつく田井手と申而、 壱町之田地ハ、則田之あさなつく田と申候、 往古ゟなわて村支配之井手 尤井手之 右四ケ村 井溝ノ願

二五四

つく田ノ井手ョ、大と村ゟ理不尽ニ杭ョぬき、 へ用水取申候井手筋ニ而御座候、 然処に縄手村へ取申 用水 ヺ

入させ不申候、何共迷惑仕候御事、

ゟ至に今、何之出入も無御座、用水取来り候所ニ、当年 右之通少も偽リ不申上候、なわて村つく田井手ニ付先規

井手ョ立、 被為聞召上、大と村庄や久兵衛百姓中被召出、 ニ、被為仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上 ラ入させ不申ニ付、大分田地及不作迷惑仕候、 用水ヲ取、 以来 つく 田之井手ニ妨不仕候様 右之段 先規之通

承応三年午六月十三日

植村右衛門尉殿御下 なわて村 大 兵 衛 大 屋

惣百姓中(ママ)

御奉行様

(ウラ書)

如此目安上ケ候、

返答被致公事日可被成候様子可相□

待也、

備前

六月十四日

石見

年 庄

かたへ

〇醍醐村証文今庄屋へ相渡申目録

寛文五年十一月十一日

(平井良朋文書)

醍醐村証文同名寄相渡シ申目録

出水飛驒村領へ入申ゑず壱涌

出水ほり申飛驒村証文壱通

、四分村分木ニ而出水わけ申証文壱通

出水縄手村領へ分木ノ外ニ入可申と、 なわて村より

目安御公儀様江上ヶ申候写壱通

、同返答書丼ゑず縄手村領へ分木之外壱畝ニ而も入さ

ゑず弐通有、 せ不申候通、 同なわて村領今井長兵衛方へ小房村治兵 御公儀様へ申上ヶ其通ニ相済申扣、 返答

衛ゟ売申田地候ハ、証文之写壱通

帖此高ニ而当巳ノ御年貢御納所可有候事、 たいご村字六百弐拾石八斗弐升之名寄候ハゝ、 帳壱

たいご村庄屋御免許屋敷ハ、善七居申屋敷ニ而御座

久兵衛庄屋仕候ニ付、久兵衛屋敷高之内、

弐 半 五

候、

升善七屋敷 ゟ 取申候、 庄屋理右衛門殿へ相渡り申上

立申候ハ、 ハ、久兵衛屋敷ハ御検地ノ高成リ善七屋敷ゟ弐斗五升 庄屋理右衛門殿屋敷高之内二而御引可被成

候事、

候時、 御判無御座 被成候へとも、 庄屋理右衛門殿 右之通相渡シ申所実正也、 御讀被成候高畝付御座候御檢地帳与、 候帳見せ申候得者、 我等所ニ無御座候、 へ相渡シ可申帳無御座候、 大庄屋佐右衛門殿ニ符御付置候て、 此外証文何ニ而も我等所ゟ今 理右衛門殿源蔵字兵衛長 新賀村池御ほり被成 御檢地帳御尋 上書有之帳

兵衛我等相談にて、

鴨 公

地

X

成り共、又ハ符付候ハ、帳之高畝ニ成リ共相究申約束 理右衛門へ御預ヶ置被成、 来春相談之上二而名寄之高

寛文五年已ノ十一月十一日

て御座候、

為後日如件、

だいど村右ノ庄屋

同年寄

久兵

衛

印

源

蔵

印

同

宇 兵 衛 即

長

兵

衛

印

同右ノ年寄

村惣代

たいと村庄や

理右衛門殿参

次郎兵衛 即

〇醍醐村御成ケ勘定目録

宝永三年八月

(平井良朋文書)

和州高市郡醍醐村酉御成ヶ御勘定目録

二 五 五.

二五六

、高七百七拾六石弐升五合 元高六百弐拾石八斗弐升

此御取三百八拾六石弐斗五升弐合

米拾壱石五斗八升八合 御口米

納合四百弐拾壱石壱斗壱升壱合

米弐拾三石弐斗八升壱合

夫米

納わけ

三拾八石六斗弐升五合 此銀三貫弐百八拾三匁壱分 十分一大豆銀納

但壱石

百五拾弐石三升弐合 此銀拾弐貫九百弐拾弐 匁七分 但壱石ニ付八拾五匁宛 三分一米銀納

弐百三拾石四斗六升四合 米銀納

御口米入

沢

茂作殿

此銀拾九貫八百拾九匁九分 但壱石ニ付八拾匁宛

銀〆三拾六貫弐拾五匁七分

外

銀百八拾目壱分

入歩箱代

是ハ銀三拾六貫弐拾五匁七分之入歩箱代 但壱貫目ニ付五匁宛

銀合三拾六貫弐百五匁八分

銀百拾六匁九分九厘

入歩箱代

江戸御蔵前御入用

内五分九厘

右之通酉年分御年貢度々上納仕候納手形指上ヶ、御手代 惣銀合三拾六貫三百弐拾弐匁七分九厘

候、若出入出来候ハゝ重而仕直シ指上ヶ可申候以上

衆と出入も無御座、

勿論庄屋百姓と中間ニ出入も無御座

宝永三戌年八月

醍醐村庄屋

助

〔ウラ書〕 如表書酉御年貢金銀納手形を以勘定相究候付、

百姓申分於有之者、 目録ニ致裏書判形遣之候、若相違之儀候歟、 此勘定可為反古者也 亦者庄屋

戌八月十九

沢 茂作

醍醐村庄屋 殿

助

札之事

、飛鳥川筋飛驒村領ニ醍醐村用水井関丼涌洌往古ゟ有

来、 候、

右之水四分村領之内通り候間、

水分木三ヶ所御座

此三つ之分木之内上壱つニ而取申時ハ下弐つ者水

〇四分村、

醍醐村分水規定確認

一札

寬保三年七月

(平井良朋文書)

寛保三年亥ノ七月

四分村庄屋

郎

(1)

同村年寄

五. 郎

助

(1)

右同断

+

郎

(1)

飛驒村庄屋 兵 衛

(A)

同村年寄

嘉 兵 衛

(A)

噯人四条村庄屋

右同断中曽司村庄屋 兵 衛

(A)

(A)

たいと村庄屋

源右衛門

殿

次 郎

鴨 公地区 茂覚へ無之旨申候ニ付、

右之趣高取役所江御届

ケ被成

然ルニ四条村庄屋伊兵衛并中曽司村庄屋利兵衛取

及見候処、少々すれ相見へ候ニ付、遂吟味候処、壱人 之内、中之分木削リ有之候旨之仰越候中へ、早速立会 申定ニ而、

江半分取申約東ニ而候、 残り弐つ江者少シ而も水取不 取不申筈、以来三つ之分木之内何之分木へ成共、壱つ

互ニ相守来リ候処、当六月廿二日右三ヶ所

後互ニ古証文之通違変申間敷候、

為後日之手形仍ァ如

噯ニ罷出、

右分木此度相改伏替申答二仕相済申候,

向

件

同年寄

又

殿

二五七

右同断 喜 八 郎

殿

〇四分郷宮願満出入ニ付願書案 宝曆十二年五月

(平井良朋文書

織田丹後守殿御預り所

乍恐以書付御奉申上候

高市郡醍醐村庄屋、年寄、 組頭

以被仰渡候段承知仕、 御領百姓故土佐御役所様おゐて難被仰付由、 申相済不申候二付、是迄及数度御願申上候処、 郷宮四分ニ有之候、 願満出入之儀木殿村ゟ何角と被 御尤至極二奉存候二付、乍恐左 御書付を 醍醐村

奉言上候、

、右出入京都御役所様へ出訴いたし候様ニ御書付ョ以 御座候へ共、 様へ御頼罷出候儀決而無之候事ニ御座ニ恐多申上事ニ(カ)(ママ) 被仰渡候段奉畏候、 醍醐村加リ居リ候得共、 右一件ニ付醍醐村懸リ京都御奉行 土佐御役所様被

> 召出 儀 を以、是迄之通五ケ村御叔被為成下、 退キ可申候、 四ケ村江被仰付被下候ハ、 様御慈悲之程御願奉申上候、 訴仕事幾重ニも得不仕候間、 仰付候事、相背申事無御座候間、先規之通御慈悲を以 右出入土佐御役所様ニ而四ケ村へ被仰付候通当分 何時ニ而相済申上、 御節柄困窮百姓様之出入京都表出 難有 以上 右之段被為聞召訳御憐愍 可奉存 是迄之通御断申上御 壱所ニ相動申候 候、 醍醐村之

宝曆十二年午五月

喜右衛門 年寄 庄屋 理断 藤 📗 \equiv

郎

介

御奉行様

二五八

〇醍醐村年貢皆済目録

(平井良朋文書)

明和八年三月

高七百七拾六石弐升五合 明和七寅年皆済目録

高市郡

御物成百七拾七石九斗五升六合

拾七石七斗九升六合

十分一大豆銀納

此銀壱貫弐百三拾七匁八分壱厘九毛

石二付六拾九匁五分五厘六毛

内

百六拾石壱斗六升 九分米銀納

此銀拾弐貫目壱分四厘八毛 石二付七拾四匁九分弐厘六毛

外

米壱石五斗五升弐合

六尺給

米四斗六升五合六夕 御伝馬宿入用

銀百拾六匁四分四毛 御蔵米掛

米五石三斗三升九合 口米

囎 公地 X

> 卯三月 芝村役所判

右者去寅御年貢銀納皆済ニ付如件、

納合銀拾三貫九百五匁五分七厘弐毛

此銀五百五拾壱匁弐分壱毛

米七石三斗五升六合六夕

醒 關 惣年庄 村 百寄屋 姓

〇村番夜警務め規定一 札

明和八年十一 月

(平井良朋文書

相定申一札之事

、近年百姓及困窮候ニ付、 三弐人ツ、組合、是迄仕来り候通村番相勤候事、 村中相談之上、為用心一夜

之本入念候様可致事、右之通相定申候上者、毎夜弐人

ツ、無油断村中相廻リ、紛敷者村内江入込不申様可致

候、万一村番之者無情成儀有之候者、為過料壱人前

銭壱貫文ツ、村役人中方江差出シ候筈ニ御座候間、

此

二五九

相勤候事、 趣組頭之銘 依之村中惣代組頭印形いたし置候処如件、 々五人組中間として常々申合、 入念村番可

明和八年卯十一 月

> 醍醐 时組頭 兵

九 兵 衛 **(1)**

衛

1

茂右衛門 (1)

兵 衛 1

次

郎

1

田地ニ付、

親類自他之差掛無御座候、

若妨申者御座候

又 良 **(1)**

善右衛門 源 六 (A) **(1)**

九右衛門 久右衛門 (II) (11)

L_

同村 年庄 寄屋 中

O愛宕講中

田

地売却状

寛政十年十二月

(森川康男文書)

売渡シ申田 地証文之事

字下筋かい西ゟ壱

御高壱石六斗八升七合五夕 二六〇

田地壱ケ所

池高三升弐合弐夕三才

境目四方杭限り

= 付**、** 之田地売渡シ、 右之田地我等先祖ゟ持来リ候得共、 当午年ゟ来ル辰年迄、 則代銀慥ニ請取申拠実正也、 拾ヶ年限ニ代銀壱貫目 御年貢銀ニ差詰 然 ル上者右 _ ŋ 右 申

>我等罷出急度埓明可申候、 尤右年季之内本銀相立候

後々迄講中之御支配可被成候、 ゝ右田地此方江御戻シ可被下約束ニ御座候、 為後日田地売渡シ証文仍 切過候ハゝ

耐 如件

寛政十年午ノ十二月

醍醐村田地売主

善右衛門

(II)

同村世話人

喜 久 治

(EI)

同村年寄

又 治 郎 即

同村庄屋

庄 右衛門 (A)

同村愛宕講中江

〇御仕置五人組帳 文化十年二月

文化十年 御仕置五人組帳

高市郡 醍醐村

酉二月

(米末尾ノミ記入)

文政五年

和州高市郡醍醐村

年寄 庄屋 森左衛門 利 助 **(II**) 1

年預同村 同断 喜 八 郎 **(II**)

庄左衛門 **(1)**

高取御役所

組頭 弥 重 郎 (II)

鴨 公地 区

(森川康男文書)

組頭

善右衛門

(1)

火五人 倒

家出仕候 茂兵衛跡

次

郎

(II)

伊兵衛跡

ŧ λ

安 3 り 源

兵

衛

(1) (I) (印ナシ)

久 九 兵 衛 七 **(II**) (11)

七 印

平

次 郎 **(II**)

宗

グ五人 ®

組頭 清

源 郎 (1)

郎 **(1)**

次 郎 (11)

太 郎 (II)

甚 忠

吉 兵 衛 (II)

/ 五人

(II)

組頭

助

庄 弥 清

兵 市

(1) (II) (II)

伊

 \equiv

郎 衛 郎

(1)

兵

衛

/ 五人

又

/ 四人

組頭 武 兵 衛

(1)

(1)

(11)

組頭

次

弥 又

郎 郎

1 **(II)** (1)

忠 又四郎兵衛 三 郎 (II) (1)

グ五人

善庄五 次 兵 四 衛 郎 (1)

組頭

郎 (ED) 1

七 (EI)

未年ゟ又八家内人 才 **グ五人 卿** 甚

次 郎 (II) (ED)

次 郎

助

源 忠

吉右衛門 蔵

頭

グ五人 ⑪

弥右衛門 四 郎

孫

治 八 (A) (1)

二六二

組頭

助

(1)

源政仙

長兵衛後家 **/**五人 @ た

助 長 次 四 郎 郎

(II) (1)

〇醍醐村と南八木・縄手両村水論済証文

文政八年十月十六日

(平井良朋文書)

奉差上済証文

当御領分

願方

同郷縄手村役人 高市郡南八木村役人

当御預所

字有田与申悪水引通井、近年相畑相手方 同郡醍醐村役人

私被為成下候様、当七月廿二日御領分方御添節を以歎多相掛り難渋ニ茂可相成儀故、当御役所様ニおゐて御いたし候旨醍醐村ゟ申立、京都訴ニ相成候而者諸入用皆、右両村江申越候ニ付、京都訴ニ相成候而者諸入用。おして、京都訴ニ相成候而者諸入用。は、当年、は、当年、は、当年、は、当年、は、

成下候処、双方共不行届之儀茂有之、旁以精々御利解付、双方御召出立会、絵図面等被仰付、重々御糺被為限ニ罷出、御歎之趣口々相違之旨返答書奉 差 上 候 ニ候、依之下方ニ而引合候得共相済不申候ニ付、右御日

子嶋村大庄屋久保市兵衛、同御預所西北窪村年預助左付被下度段奉願上候ニ付、同八月廿六日当御領分下下方差向ひニ而者私談難行届、 何卒余人を以取噯被為仰

之上郷宿対談済仕候様被為御渡、色々引合候得共、

双

難有一 十日ゟ双方丼取嗳人共罷出、 当月九日迄重而連印御日延奉願上、 上納御日限前二相成、 上 有之候ニ付、 折節御検見前ニ付、双方丼取嗳人共帳面取調等差懸リ 衛門御召出、右一件両人取噯隠済為致候様被為仰付、 同廿七日罷出、 同承知奉畏候、 九月廿六日迄一同連印を以御 取嗳書相認双方江相渡し候所、 依之取嗳人立会場所及見候処 猶又右取噯之趣双方勘弁申、 色々引合候得共、 同帰村仕、 日 延奉 兎角穏 去ル 旁 願 御

致

鴨

公地区

+ 御願奉申上候 = 付、双方立会内証 = 而可相済

返答書同廿六日罷出候樣御繾書被為下置恐入奉畏

済難行届、

無拠其段取噯人共ゟ奉言上候ニ付、

昨十

鴨

二六四

双方共屈伏仕、 四日双方御召出、 速ニ 段々厚御利解被為仰聞被下候ニ付、 内済 相 調 候 訳 乍恐左ニ奉申上

候

儀、 十市郡新賀村上品寺村立会御普請所通井筋江流水仕来 村西領之内字上久保同六反田南端江 領内養水ニ候処、 亥年春南八木村ニ新溜池堀リ申候、 リ候儀相違無御座候、 縄手村出水之儀 冬春ニ限リ右水込メ入可申之所、近頃右出水縄手 字大原辻ゟ北字中川筋江向ヶ、 者、 然ル処三十五ヶ年以前、 下飛弾村中ニ往古ゟ有之縄手村 右新溜池へ水入候 向 南八木村領弁 寛政三 醍醐

曖を以右出水縄手村領江取入候儀者、 手村出水之 余 江向ケ水引下シ、 村領字大原辻与申所ニ而、 醍醐村領養水差支候旨同村ゟ申立候ニ付、 IJ 水 南八木村新溜池江水取入候二付、 自然中川 大俵ニ而堰留メ、 筋江水下リ不申ニ 縄手村中 此度取 付而 縄

> 申筈、 外之通井筋江水廻し不申筈之事

一、縄手村之出水字大原辻ゟ北字中川筋エ 八木村新溜池江取入候共、 向雨之節縄手村内ゟ余り水自然与流来リ候ハ 醍醐村ニ故障無之筈 向 ケ、 醍醐 村

`,

敷 西領江前々ゟ流水仕来り候、 木領新溜池江水込メ度節者、 右出水之余リ水縄手村中之通井江横ニ 但 縄手村心儘ニ南八木村江水差遣シ申間敷筈之事、 勿論何れ之通井ニ而茂右出水横ニ引取候而、 養水不用之節者何れ之通井筋ゟ水込メ入候共、 同村西領養水不済内 醍醐村得心之上な 引取 候 儀 らで 仕 南 間

不□致し、西壱長サ吉右衛門取持田地江湿キ候故、(育ラ) 冬春水込入候節、 醍醐村領字六反田南端し通井ゟ、 醍醐村領字六反田之内、 南八木村新溜 東四長サ 池江 湿 者

醍醐村ニ故障無之候叓、

料米五升与相定 来リ候旨、 料米壱斗宛年々南八木村ゟ醍醐村吉右衛門方江 醍醐村より申立候処、 × 毎年南八木村ゟ醍醐村吉右衛門方 此度取曖を以右湿 請

相成候ハ、、

早々中川筋工流水仕醍醐村領

江水下シ可

取候共同村勝手次第二候得共、

縄手村之出水余リ水ニ

何れ之通井ゟ引

相渡シ可申筈之事、

縄手村領字有田与申所北端之通井、

近年取狭

ハメ相埋

五寸与相定メ、年々縄手村江通井浚引受、同村ゟ右場(カ) 申様可仕筈、 所地主

江申付

通井

幅無相

建浚いたし、 候差支ニ相成候趣ニ付、 候ニ付、 醍醐村用悪水之差支、勿論同村西領江水引取 尤醍醐村余ッ水右通井より同村西領工相 此度取嗳を以、 養悪水共差支不 右通井幅弐尺

廻し候節者、 但し右通井、醍醐村領字金詰石橋之辺ニ而者幅広ク、 縄手村迄断を立水引取申筈之事

其外ニ而茂幅広キ所者有来リ通リ取狭メ申間敷筈、

有形通り、此度尺寸双方立会相改候通書記シ置候上 尤右有田東 ゟ 壱番目之長サ 北端通井幅 東端ニ而 七 次二而五尺、其次二而三尺、 西江次第ニ狭リ候

リ通井之上を筧ニ而、 亥垣内養水引取之儀、 此後右尺寸取挟メ申間敷筈、 右戌亥垣内江水引取可申筈之 右有田西之端田地ゟ先規之通 猶又縄手村領字戌

> 候、依之双方幷取嗳人共、 様穏済相調ひ候段、 印を以、 件ニ付、 右之通リ双方得心之上私談内済仕候、 双方江為取替置、 以来互ニ故障申分無御座候、 全以御威光之御蔭故与一同難有奉存 連印を以済証文奉差上候、 重而再論等決而仕間敷候、 則済証文通一同連 然ル上者此済口 ケ

文政八酉年十月十六日

以上、

右之趣御聞届被為成下候ハヽ、一同千万難有 仕 合 奉 存

庄屋 小右衛門 印

年寄 伝 平 印

同断 長左衛門 印

百姓惣代 同断 利 勝 次 郎 助 印 囙

兼帯庄屋 吉 兵 衛

印

年寄 卯 平 治 印

百姓惣代 同断 与 重 助 衛 印 印

鴨 公 地 区 事

醍醐村

庄屋 森左衛門

印

利 助 印

年寄 印

同断 喜 八

郎

百姓惣代 善右衛門 印

同郡下子嶋村 大庄屋 久保市兵衛 印

取嗳人

葛上郡西北窪村

年寄 助 左 衛 闁 印

写壱通共庄屋森左衛門ニ有之候、又

写弐通年寄喜八郎同断利助方:有之候事

同断

御役所様 高取

右之通リ本紙壱通、

〇村方倹約申定帳 文政十年十一月

申

亥十一月 平井利助

村方倹 文政十年 約 醍醐村 帳

定

人江振舞致加だく者者、

重箱物ニ而一統江披露致へく

附リ、振舞之儀、村方一統披露可致者者、村役人丼ニ

婚礼聟取嫁取之儀、分限ゟ軽ヶ祝可致吏、

組頭垣内限リ、其外者重箱物ニ而披露可致事、

尤村役

事

決而無用之事、

但シ、村役人ゟ扇子三本入祝儀遣し候筈、其外祝儀物

、振舞之節、不参之分へ送り膳無用之叓、

附り、

若無拠儀ニ付、不参有之候得者、飯斗リ送ル御

但シ、

焼物者見合事、

二六六

(平井良朋文書)

事

附り、 候ハハ、村役人方江当人より可附出事、 若キ者共心得違、 理不儘ニ樽持参致シ候者有之 若又心得違ニ

而樽持参之品納メ候ハハ、 当人江村役人より申付方有

之候事、

附リ、引取之節、足洗酒是迄之通

但シ、大盃者無用之叓、

、初産之節、 之儀無用、 祝儀取引并二産明振舞無用、 哥賃披露之

、三月五月両節句共哥賃、粽披露無用、(ママ)

附り、 祝儀音物ヶ間敷儀堅無用

、十才以下之者相果候ハハ、

親類之者者格別、近所と

りをいふ共、葬礼ニ立べからす、丼葬礼ニ醤酒堅無用(ママ)

、仏事年廻事随分軽ヶ営可申事

但シ酒一 献限リ、 三十三廻忌、 五十廻忌ニ者酒二献限

鴨

公地区

빗

、神事其外時折随分軽々可仕支、 、三月前節句二月十五日ニ、 村方一統ニ内祝致シ、

互

二重箱物取引堅無用之支、

、五月粽、村方ニおひて、互ニ取引無用之夏、 村内無縁之方呼事

、養子丼嫁呼初之儀、

一家者格別、

堅無用之叓、

、婚礼女中振舞之節、衣類之夏、 村役人者縮緬以下可

差之、其外者紬以下軽キ物ョ可着之、

右ニ付、祝銭物丼部屋見舞等遣シ候儀、

堅無用之夏、

、諸勧化并二花相撲、花芝居、其外会叓、 他所ゟ頼ニ

附リ、勧化筋者銘、旦那寺ニ限之支、 付、取次キ之夏堅無用、 作所幷他宗ゟ之

勧化一切請不申候支、若心得違有之、

村人之内より取

次世話シ候者有之ニおゐて者、村役人ゟ申付方可有之

候叓、

、小作之者共、 跡毛戻シ候地ニ而土取支堅無用之支、

二六八

同戻シ地ニ小麦作無用之叓、

、名替之事、

、元服之事、

右者組合セ三ヶ年目ニ披露可致之夏、

右之節大盃無用之叓、

、棟上之事、

、沽却致シ外へ江損毛相掛ヶ候者者、

羽織着用いたし

候儀、決而不相成候事、

、濃荒シ候者有之候ハゝ、 赤まいだり為致、五人組内(れ)

之者付添、正月礼并五節句村中為相廻可申亨、

四十二賀、

六十一賀、

右ニ付、雑煮限リ、 小附煮目限リ、 大盃無用弁ニ祝儀

無用

右之通、 御座候、 寄会之上諸吏倹約ニ可仕旨申談シ候処、 尤百姓之儀、 朝夕 心掛ヶ耕作 専一ニ相励可申 相違無

叓

此外何事ニよらず軽ゥ取斗イ可申筈ニ御座候、依之

連印如此ニ御座候、 以上

文政十年 亥十一月

醍醐村 惣百姓江

申渡スへく者也、

名前小前不残

幷ニ庄屋年寄

組頭大庄屋共

統ニ印形取置候事

〇高殿、

醍醐両村ゟ田中、

木殿両村へ申状控

(森村庄逸文書

天保四年九月七日

乍恐歎キ御願奉申上候

高殿村

醍醐村

役人并惣百姓共

去辰夏以来ゟ川上田中木殿両村相手取、井手養水之

之儀者、 之高井手故、 仕居候処、 ケ所ニ 田中村井手之儀者往古ゟ壱ヶ所ニ而御座候処、 御上様ニも長々御苦労ニ奉相成候儀奉恐入候、 申聞給り候得共 八木村源三郎殿取嗳被仰付、 双方江引合給り候得とも、 庄屋治郎兵衛殿取嗳被為仰付難有奉存候、 儀 二付御願奉申上候処**、** 元来田中村下井手之儀者、 上両村者致滞水、 右養水旱魃 先年ゟハ井手数多ク相成、 水引取申候二付、 相成候ニ付、 々御糺之上、 東西四五間 昨辰夏田中村弐ヶ所井手ニ而新規成申分い 田中村常水半水余リも川下江洩水在之候 ニおよび難渋之訳、 穏済調兼、 養水旱魃ニおよび、 御宿対談被為仰付難有引合中、 ニ平地之場所ニて、 川下村々者常水絶切、 無拠前書御願仕候 儀 御聞届 穏済難出来候ニ付、 東西拾四五間、 然ル処出入も長引候而、 右両人ゟ双方江段々利解 ヶ被為成下、 其上当時出来上井手 左ニ 奉申 川下村々難渋 聊之洩水も 同 旱魃ニお Ŀ [人ゟ精 六七尺斗 双方御 然ル 又々北 候 当時弐 御 処 大 岩 巫

有御座哉と、 程手詰之場所差扣候ハゝ、 差扣可申様被仰聞候処、 思召被成候哉、 座様奉存候、 村程之本并手待并手水取口上下共数多有之、 一而 村方二数多高井手御座候、 有之村役人共、 候儀者、 為成下候訳ニ相成候処、 殿三ヶ村ゟ御上様江御願奉申上候処、 下井手之洩常水を以、年来百姓相続仕罷居、 百姓相続有之村方ニ御座候処、 よび申候、 も当惑仕罷在、 二而被成候上井手之儀三候得者、 弐三ヶ村も養水引取候村方も御座候得共、 此度上井手出来之儀二付、 然ル処飛鳥川筋ニおゐて、 差扣候儀ニ 幾年来之往古ゟ下井手壱ヶ所ニ而田中 一命之程覚語可致様被仰渡候故、(晉) 夫ゟ村役人共風与心得候儀 高殿三ヶ村役人共御召出 付延引仕候、 左候へハ其節之御奉行様如 押而御願奉申 又々穏ニ 又者川下迚も壱ヶ所之井手 川下村々之儀ハ田中村 御願申上候節も 御上様江御願之儀 聊 早速 田中 御上様二者 右様御奉行様 Ŀ 候 し被成被仰 者、 御 村井手ゟ外 揚方無御 聞 ゝ存寄も 然ル処高 今以 届 何と 田 ヶ被 口 渡 ヶ 村 中

鳵

公

地

召

厚ク御憐愍を以、下井手壱ヶ所ゟ養水引取候様、上両(ママ) 迄百姓相続仕候様、 御座候得者、 村江御利解被仰付被下候樣御願被下度候、右御聞済無 取在之候得者、川下村々歎ヶ舗奉存候ニ付、御上様之 知無御座様乍恐奉存候、然れ共当時弐ヶ所ニて養水引 貴大様之御勘弁を以、川上川下互ニ後々(含) 御上様江御願申上被下 度奉 願上

右之趣御聞届ヶ被成下候ハゝ、千万恭奉存候、 高殿村 以上、 候

天保四年 巳九月七日

醍醐村 惣百姓代

印印印

年寄

庄左ヱ門様

大庄屋

〇醍醐村愛宕講御年貢銀請取通

天保八年九月

(森川康男文書)

九月

天保八酉年

御年貢銀請取通

庄 屋 庄 \equiv 郎

(II)

愛宕講

高壱石六斗九升九合九夕六才 御免五つ三分七りん

取米九斗壱升四合四夕

内

三斗四合八夕 百三匁替

六斗九合六夕 代銀三拾壱匁三分九厘 二方米

弐升七合四夕

口 米

夫 米

五升壱石

蔵納

二七〇

O諸秤御改員数控帳

嘉永五年四月

諸秤御改員数扣帳 子四月 嘉永五年

高市郡 郡

覚

五挺

〇醍醐村人別御改帳

安政五年三月

外ニ紛失ニ付壱挺買求度候千木弐拾三貫

一、千木三貫五百目

千木弐貫目

千木六貫目

八挺

綿干木

千木壱貫目

千木壱貫玉皿秤

鴨公地区

拾五挺

戊午三月

高市郡 配酬村

安政五年 人別御

改

帳

五挺 壱挺 五挺

壱挺

(平井良朋文書)

右之通当村内致所持候、尤裏借屋ニ至迄改、洩壱挺茂無

グ五拾三挺

高市郡醍醐村

庄屋 庄左衛門 (印ナシ)

利

善四郎殿

(平井良朋文書)

、人数四人 内 女男

定定 人人

八乙女職

吉 **(1)**

之差出シ申候、以上 嘉永五歳四月 神

二七二

鴨

同 六人 弐四 人人

四人

`

同

同

四人

内 女男 内 女男 定定 人人 定定 人人 喜 八 郎 百姓作間油屋職

与 与 兵 衛 百姓作間綿打職 桶屋職

1

(1)

七 **(1)**

百 姓

九 拾 八 人

同弐百拾八人内男

右之通人別帳相違 / 弐百三拾六人 内 女男 無御座候、以上 百六人人

安政五年 戊午三月

程 群 寄 村

政右衛門 (

同断 同断 利 喜 八 郎 八 (II) (II)

庄 \equiv 郎 (FI)

御見分被為成下度御歎キ奉

願上候処、

右願面御利解之

宗門御改奉行 村 田 正之進殿 覚馬 殿

付作柄御嘆願

〇降雹被害大ニ

安政五年九月

(平井良朋文書)

乍恐臨時追御歎奉願上候

北八木村 木村 村

法華寺村 别 高 所 殿 村 村

同大悦ニ奉存罷在候処、存不寄当月廿一日夜不時ニ大冰 二生立候ニ付、肥等も多分仕込、立毛生立相応之処、一 右村々之儀者是迄御平均御定免之処、当夏已来稲作直悪

降候ニ付、稲作籾多分打落シ相減候故、 キ御願申上呉候様頻ニ申出候ニ付、 今月廿二日書附を以 小前百姓共ゟ歎

上、大庄屋森村庄左衛門殿江御下ケニ相成、 大冰降候儀者当御領下之内ニも多分降候村方、 段々利解申聞給り、 其由村方江利解申聞せ候へ共、 村役人共江 又ハ 聊降 此度

ケ村者大冰降候之筋ニ当り候故歟、 候村方、少もふり不申村方、右之通りも御座候内、 格別之大 荒 極 当六 難 渋

二七二

仕、百姓共一同溢籾はキ取罷居候へ共、しづき地丼かわ(マーン)

小前百姓共ゟ歎キ御願申上呉候様頻ニ申出候ニ付、大庄 き地□キ割等江落入、半通りもはキ取兼難儀仕候ニ付、

被申聞候へ共、実々大荒之歎儀仕候ニ付、 御時節柄恐多 何卒格別之御

屋森村庄左衛門殿江願出候処、此儀差扣可申様段々利解

憐愍を以、厚ヶ御用捨御引方被為成下度、 ク奉存候へ共、不得止事追御歎奉願上候、 乍恐一疏連印

を以追御歎奉願上候、

右之趣御聞届ヶ被為成下候ハヽ、一同広大之御慈悲と千

安政五年午九月

万難有奉存候、以上、

八木村百姓惣代 権

組頭惣代

兵

衛

(1)

藤

八 **(1)**

年寄

吉右衛門

同断

源 助 (A)

鴨 公 地 区

北八木村

同断

河合庄太郎

(A)

兼帯庄屋

平沼徳右衛門

(1)

組頭惣代

清兵

衛

(11)

小右衛門 (1)

年寄

弥

重

郎

(1)

河合庄九郎 **(II)**

平沼徳右衛門

(11)

醍醐村百姓惣代

組頭惣代

善右衛門

(A)

弥右衛門

(A)

政右衛門

(11)

年寄

同断

喜 郎 (A)

法花寺村百姓惣代 庄屋 利 八 (11) **(1)**

七

組頭惣代

高取御役所様

伊 助 (II)

長 兵 衛 (II)

年寄

治郎兵衛 (11)

庄屋

高殿村百姓惣代 清 Ŧ. 郎 **(1)**

市 郎 (I)

組頭惣代

弥

年寄

藤 八郎兵衛 兵 衛 (I) **(1)**

同断

庄屋

別所村百姓惣代

弥 助

藤 八 郎 **(II**)

組頭惣代 善 次 郎 **(1)**

O 当 庄 屋 へ 村 証 文 引 継 目 録

御定書 役附目録

壱冊

_ 名寄帳

領分反別帳

御拝借銀返納通 今高小前と高帳

壱本 壱冊 壱冊 壱冊

同小入用割賦帳 亥ノ小入用帳 拾ケ年返納相済候ニ付壱本ニ相成候但シ先庄屋森村庄三郎殿ゟ受取候節ハ弐本有之候得共

壱冊 壱冊

元治元年八月

(平井良朋文書)

衛

武

兵

年寄

藤

次

郎

二七四

庄屋

鴨公地区	一、ほら貝 但シ肝煎相渡シ置候	一、 廻状 籍 (紐カ)、右者肝煎江相渡置候 一、 廻状 籍 (紐カ) - 壱		一、郷蔵錠鍵	一、釣懸斗桝	一、郷蔵斗桝外ニ桝かき共	一、小幟	一、的挑燈	一、算盤	一、硯箱石共	一、鎖	一、箱	一、綿千木	一、御囲籾割賦幷貸附帳	一、番人集物割賦帳	一、子宗旨帳面不残
	壱ツ	渡置候ツ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		壱挺	壱挺	壱本	壱張	弐 面		壱筋	弐ツ	壱挺	壱冊	壱冊	
	一、絵図面	一、規定書	一、水鉄鉋		村持ニ而村高ゟ出銀之亨但シ名前分有之候得共	一、新御講受取通	森村庄三郎様江返納仕候	了之重三重共省产门销费一、再御講方受取通	一、土砂留証文	一、かけや	一、水打羽	一、しよれん	一、金詰板	一、水籠	一、同断算用帳	一、諸秤御改員数帳
七五五	壱通	壱通	弐丁	政右衛門	右名前庄三郎	三通	を行うと		壱通		弐本	亭		十五	壱冊	壱冊

、水論書物之儀ハ先代庄右衛門江預ヶ置候、 尤御入用

之節ハ取調差出シ可申答、

右者庄屋引渡シニ付、

諸帳面目録之通相渡シ可申候、

以

上

元治元年子八月

当庄屋

平井利介殿

醍醐村年寄 森川喜八郎

(1)

庄屋 庄右衛門 **(1)**

〇醍醐村小入用帳

文久元年十二月

文久元年

酉ノ小入用帳

十二月日

八木組 醍醐村

(平井良朋文書)

内

、三百七石三斗四升五合

拾三石八斗五升三合

拾八石五斗五升

弐拾弐石

八拾九石 百弐拾石

置米

二七六

、高七百七拾六石弐升五合 内拾七石七斗七合 醍醐村 池床引

残ァ七百五拾八石三斗壱升八合

此取米四百七石七斗四升八合

、拾弐石弐斗三升三合 、弐拾三石弐斗八升壱合

口米 夫米

此内訳

御上納辻四百四拾三石弐斗六升壱合

一、百三拾五石九斗壱升六合 代拾九貫五百七拾壱匁九分壱厘 三分一銀納

二方米

御春屋米 御用捨米

御扶持米

御蔵払米

九斗四升弐合

四拾三石

十二月銀納

戌六月延米

リ、庄屋年寄組頭惣百姓立会相改、相違無御座候依而 右被為下置候御免定拝見之上、御年貢御上 辻 書 之 通

醍醐村百姓惣代

如件、

組頭 善右衛門 弥右衛門 郎

又 次 郎

助

兵 郎

孫 九右ヱ門 四

森村庄左衛門伜 庄

年寄

郎

御役所様

米三石三斗三升三合三夕 当酉ノ小入用

一、米壱石三斗三升三合六夕壱才

四ケ月分 八ケ月 分 上屋 経 米

肝煎給米

一、米弐石

、米六石八升三合五夕 一、米八斗

、米壱斗七升五合三夕

御蔵屋敷年貫(賃)

提通井敷〆高

床年貢

、米弐斗八升七合三夕

、七匁五分 / 拾四石壱升弐合七夕壱才 代壱貫九百三拾三匁七分五厘

拾匁

番人屋敷年貫とも(質) 屋敷幷

宗旨帳面認メ

薬師堂心附とも春日御供米幷 年中浪人被為取斗

六拾弐匁五分六厘

庄右衛門

利

二七七

二七八

一、拾八匁	一、六拾五匁五分	一、百弐拾五匁	一、百弐拾五匁	一、九拾三匁	一、百五拾五匁五分	一、弐百五拾五匁五分	れでタヨケ	当合害 は		一、写合马及三子三里	一、七拾七匁三厘		一、五百六拾三匁九分五	一、弐拾三匁五分	一、六拾目
去ル申残水原末徳払	代払	縄代払	縄代払高力工門江	払の存屋米駄ちん	代払村清兵衛石箭	1 /	青八郎亢	村 茂	夏 庄屋江	去申大川掛り	たが、こち重要と可じ 九斗五升七合、夫米五斗三升八合 屋敷高弐斗五升、弐ログ拾七石	他末拾七石七斗七合幷主室諸入用割合掛り	四分即言族 等青·厘	造用心附とも是信寺年中寄合	年中筆墨紙代
一、拾五匁	一、九拾五匁	一、弐匁	一、三匁	一、弐拾七匁壱分	一、恰弐匁	一、四拾八匁八分	一、四拾目六分七厘	一、六拾四匁四分	一、八拾五匁	一、百八拾五匁八分	一、三匁五分	一、三拾八匁	一、弐拾五匁	一、拾匁五分	一、拾四匁壱分五厘
じよれん手間賃払 縄手村かじ屋	今 井丸市払	今井大谷屋払	八木大忠払	八木辰源払	小房目の半	ム郎 江	□善右ヱ門渡ス飼葉代	米弐斗八升代出水堀リ之節	亀吉江渡ス農番給銀	酒代払の屋権手備	トラッド トラッド トラッド	死去ニ付与内渡ス縄手領ニ而非人	諸勧進取斗	座頭取斗七月分	八木箱寅払

鴨公地区	一、八匁五分六厘	一、拾八匁五分八厘	一、拾五匁		目 3 五 才 分 ブ	式 章 指 至 五	i. 匁 i.	拾五	一、八拾目	一、六拾八匁四分	一、四匁弐分	一、拾匁	一、三拾壱匁八分	一、三拾八匁八分	一、八匁五分
	八木菊平払	同村醍六払	同村上庄払	木油吉払	池ノ川弥宗払材木代	小房木徳払	八木辰巳屋源助大吉喜兵衛払	松木代字兵衛払村方諸橋掛ケ	作料造用とも払石原田村大工嘉七	弐斗九升代佐七江渡ス清水番賃米	八木箱寅	平兵衛払	飼葉代木忠	土佐小間平酒代	私 香久山屋宇兵衛
	一、三拾八匁六分弐厘	一、百八拾目	一、百拾三匁四分	一、三匁八分	一、弐拾弐匁	一、三拾三匁	一、六拾八匁	一、百拾壱匁四分九厘	一、弐拾五匁	一、弐拾四匁八分	一、拾匁	一、四百四匁三分壱厘	一、三匁五分	一、弐拾三匁七分	一、三匁五分
二七九	拾九イ三百九匁弐分七厘掛料申年分上納筋三分一銀	百弐拾石駄ちん銀郷蔵払米	第一章 三百六拾本代 報蔵米L代	『 放く 』 と かせ源払	デザー デリー デリー デリー デリー デリー ディー アイト かいりょう アイ・アイ アイ・アイ・アイ アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・アイ・ア	生佐伊 独 本 市	飯代払 間平	亀吉給銀共渡ス年間之間番人	八九払年中蠟燭代八木	今井針忠針代	農番賃亀吉渡ス	西冬組割掛ケ	八木はり甚	池ノ川弥宗払	私 香久山屋宇兵衛

三拾八匁六分弐厘 三ケー入用

拾六匁五厘

拾六匁五厘

置米入用

六月六日掛料一式拾五匁

弐拾四匁壱分三厘 掛払と納拾弐〆六拾匁

弐拾七匁壱分 ハタ代目□米壱斗壱升五合

弐拾匁壱分八厘 延米入目

森村庄左衛門忰

孫 九右衛門 兵

郎

庄三郎

年寄

郎

七百弐拾七匁五分七厘 諸仕替物利足とも (アキママ) 村方小前夫人足同役ととも(ヵ)

五百七拾弐匁四分七厘 六日上下出作定掛ケ

八貫九百四拾八匁壱分弐厘 六匁六分四厘□ 拾壱匁八分掛ケ本作幷出作平垣

醍醐村百姓惣代 組頭

無御座候、

依而連印仕帳面奉差上候、以上、

右者当酉ノ小入用、

庄屋年寄惣百姓立合割掛仕候処相

違

差引

善右衛門 弥右衛門

高取 御役所様

[高殿・別所・法華寺]

O高殿庄雑掌愁状案

曆応三年七月三日

大和国高殿庄相伝次第

二八〇

 \equiv

次

郎 郎

助

郎 衛

利 庄右衛門

助

(天理保井文書)

新大納言局 蓮身 弁誉

譲進故 院等御領内之間。無本家之号、 右当庄者故 女院之間 室町院御乳母民部卿局之私領也、 更非根本 依御心安新大納言局給別 式乾門院幷六条院歓喜光 彼局始被

勅裁畢、 三年九月十三日任彼御讓新大納言局 今更不可費私言、爰去正安二年五月三日 然間蓮身弁誉等相伝領掌無依違之処、 伏見院御代重預平出なるべし (アトフデ) 女院崩御、 去正和五 同 相伝之御譲状者也、

其子細具被載、

和字御遺状之上者、

道師中納言家传実卿の奉行被仰下或以内と女房 処 於理訴之段者被聞食被畢、(ママ) 急可被返付之由、 或為入 0 御 奉書

年無故被召放之条、

難堪之次第也、

就之連 ~ 歎申入之

事如之哉、 雖被仰下之、于今不預勅裁之条、 高卑雖異、 **添带震筆御譲、** 不便之次第也、 何至下可被奇相 愁吟何

女院御井矣 哉 早任相伝之道理、 就中 女院御卉勤行絶而送年序畢、(菩提) 被返付者、 弥仰有道之貴、 歎而有余者也, 倍欲奉営

奥書のをくに女房の御ほうし ょ

鴨

公

地

X

あんをかきくわへとるべき事

〇寺尾勤録、 高殿村明細

延享年間

、大福・広吉寿彦蔵

~惣高八百六拾四石六斗三升なり

、高七百八拾四石三斗三升壱升四合 高殿村

内△三石弐斗壱升 〇三拾四石八斗七升壱合

大工高

高

但し出村方

三斗九升八合

内 但し出村方 拾弐石五斗七合 内三升八合六夕

新池床甲辰 別所方 売引

残七百七拾壱石四斗九合 此取米六百三拾弐石五斗五升五合

毛附 ハツ弐分

此取米壱升七合
高弐斗壱升四合

五ツ 無役

新田

米七斗五合

但し別所方

藪年貢

但し六斗壱合六夕 別所方

米弐拾弐石四斗八升三合

夫 \Box

米 米

米拾八石九斗九升八合

納合米六百七拾四石八斗四升八合

右高之内百弐拾八石壱斗壱升四合

己未十一月ニ別所村江分る

検地文禄四年

石田杢頭 池田兵右衛門 楽馬 三十郎

村高之内八拾石三斗壱升六合、慶安元戊子年法花寺

村江分る

一、鎮守 四分村と一緒

一、常楽寺年貢地 一、大宮

除地

禅宗無本寺

一、村池弐ヶ所内別所法花寺共 北道場常願寺

但し社無之松林斗

同断 南道場 向宗

一向宗南山村浄福寺末寺向宗 飯貝 本善寺 末十向宗 飯賃 本善寺 末十 溜池無年貢新池者高引ニなる 末寺

一、大井手壱ヶ所川原田中ノ表

法花寺別所江も懸る

庄屋やしき無年貢

御制札 切支丹

元文四年高殿村之高ゟ分る同頭

別所村

一除 **、**地

鎮守

春日大明神、

但し高殿法花寺共

一**、**弁才天社 年貢地 高殿村弥兵衛守之

一除 **、**地 、高八拾石三斗壱升六合 観音堂 净土宗南浦法村然寺末

高殿村高之内

残七拾九石九斗七升五合 此取米四拾七石五斗八升五合 内三斗四升壱合 荒引 毛附 五ツ九分五厘

米弐石四斗九合 夫

米 米

一、地蔵堂年貢地 検地高殿村と一緒、 米壱石四斗弐升八合 但し慶安元壬子年分る

浄土宗十市郡吉備村 蓮台寺末寺

<u>___</u>

二 八 二

〇高殿村竈数覚 明治四年九月 (醍醐・森村庄逸文書) 戸長 森村庄市郎様 別所村 上屋 武 八 (11)

O法華寺村竈数書上帳

明治四年九月

右の通取調候処、無御座候(相違脱カ)

明治四辛未九月

竈数 七拾六軒

庄屋 松井清八郎高殿村

(I)

竈

法華寺村 配蘭組

(醍醐・森村庄逸文書)

〇別所村竈数覚

戸長

森村庄市郎様

明治四年九月

覚

長 平

源 茂 八 \equiv 郎 郎

喜 伊 郎 六

右之通相違無御座候

明治四年未九月

鴨

公地

X

竈数弐拾弐軒

別所村

[別所村竈数]

覚

義 甚 平

庄 平 七

藤

長 (J 五 郎 ま 七 (長帳)

明治四年辛未九月日 数 書上 帳

(醍醐・森村庄逸文書)

八

孫

地蔵堂 来

誉

良

吉

/ 拾四軒

電数請書依而如件

右之通少し茂相違無御座、

明治四年辛未九月日

藤本茂八郎

(1)

関本長平 **(1)**

《 森村庄市郎 (殿脱力)

戸長

<u>__</u>

(飛驒)

〇比太庄検田帳

「比太庄検田帳(端裏書)

嘉応元年十月十八日

注進 嘉応元年飛駄御庄田畠内検帳事

貞延八段百歩内田三反小得 | 反三百卅歩所当五斗五升

道元六段卅歩内田三反百廿歩得二反 島四反 三百 歩内 定島四段百六十歩

定則七段六十歩内田三反才一反所当六斗 畠三反半内定畠二反半

則国七段大内田三反小得 反三百步 所当五斗五升 島四段内定島一反小

島四段小内田一反小

則定六段三百歩内田三反百五十歩得二反 六斗

弐則八段三百歩内三反小得 反大所当五斗 畠三反半田二反(ママ)

畠五段半 定島二反半

(尊勝院文書)

包久六段六十歩内田三反小得一反大所当五斗 畠二反三百歩内田三百歩

本家御油佃一丁五反

下司畠七段

下司給免三反

池内六段 荒

定田弐町三反小内才一丁三反所当三石九斗内三斗神祭料 都合捌町参段肆拾歩内

島三町五段百歩内定島二丁四反六十歩 100円

除畠三反内

反寺敷 一反神祭料 反庄屋敷

定島二町一反百六十歩

右、注進如件、

十月十八日

(上飛驒)

O上飛驒村御成箇免状

安政五年十二月

(山本宗治文書)

午年御成箇免状

高百六拾七石

鴨公地区

高市郡

内

四拾石壱斗九升八合七石 床掘引 床掘引

残高百弐拾六石八斗壱合三夕

此取米六拾三石弐斗六升弐合

毛付四ツ九分八厘九毛余高三ツ七分八厘八毛余

此訳

高百五石五斗四合

田方

此取米五拾三石九斗六升七合 免五ツ壱分壱厘五毛余

高弐拾壱石弐斗九升七合三夕 此取米九石弐斗九升五合 免四ツ三分六厘四毛余

畑方

取米合六拾三石七斗壱升弐合 米四斗五升 見取

納訳

六石三斗七升壱合

五拾七石三斗四升壱合 九分米銀納

十分一大豆銀納

米壱石九斗壱升壱合

米三斗三升四合

六尺給 口米

米壱斗

銀弐拾五匁五厘

二八五

御蔵前入用 御伝馬宿入用

納合 銀 弐拾五匁五厘

限、急度皆済可仕者也

者迄茂立会、此免定を以無相違致割合、当十二月十五日 右之通御預所当午御成箇相極候、村中大小之百姓出作之

安政五午年十二月

不 瀬 尾

(1)

為 隼忠 見 **(1)**

柳田彦市郎 三好伝左衛門 築山甚五左衛門 **(II**) **(1)** (II)

右 庄村 屋

惣百姓 年寄

L_

二八六

香久山地区

(出合)

〇出合村御成箇免定

享保五年十一月

子年御成箇免定

(蘆村雅光文書)

高弐百七拾壱石三斗五升四合 大和国十市郡

增高無地引

川成堤下引

八石九斗七升壱合 当早損枯引

内

四石九斗五合 五拾三石弐斗九升

小以六拾七石壱斗六升六合

残弐百四石壱斗八升八合

此取百八石三斗七升

三拾六石壱斗弐升三合 拾石八斗三升七合

毛付七ツ三分七厘 十分一大豆銀納

六拾壱石四斗壱升 三分一銀納

香久山地区

内

、米八石壱斗四升壱合

但高壱石ニ付三升宛

右之通当子御成箇相究上者、村中大小之百姓并出作之者 納合米百拾六石五斗壱升壱合

迄不残立会、無高下致免割、極月廿日限、急度可皆済者

也

享保五年子十一月

間宮三郎左衛門印

右村庄屋

惣百姓

〇出合村高寄帳

寬保三年八月

(天図近世文書)

大和国十市郡出合村高寄帳

(帳)

大和国十市郡出合村

、高弐百七拾壱石三斗六升九合

此反別拾四町五反八畝十分 内高弐石壱斗九升六合 堤敷

此反別壱反三畝十一分

此訳

上田拾壱町九畝十三分

高弐百十七石三斗三升八合 壱石九斗五升九合代

中田壱町七反弐畝九分

内壱反壱畝分 堤敷

高弐拾九石六斗三升六合

壱石七斗弐升代

下田壱反六畝三分

内弐畝十一分 堤敷

高弐石六升六合 壱石弐斗八升三合代

上畑壱町八畝弐拾四分 高拾五石壱斗壱升弐合

壱石三斗八升九合代

中畑八畝六分

下畑六畝廿一分

高壱石弐升七合

壱石弐斗五升弐合代

二八八

高六斗七升

壱石代

屋敷三反六畝廿四分

高五石五斗弐升升 壱石五斗代(ママ)

右者今度大和国十市郡出合村為来増高を以村方相改ニ付

寬保三年亥八月

位石盛書面之通相極者也

御勘定 奥 谷 半 四 郞

同

菅

沼

久

治

郎

即 印

同 吉 田 源 之 助印

同 遠藤七郎左衛門印

神山三郎左衛門印 野 庄 助印

土 井 重 四 郎 印

同 同 同

神 尾 若 狭 守印

削字壱ケ所) (紙数五枚表紙共 右之通相極者也

〇出合村卯歳諸入用帳

天保三年三月

(天図近世文書)

天保三年

卯歳村諸入用帳

和州十市郡

(帳)

辰三月日

出合村

銀弐拾九匁六分

是ハ膳夫氏神為御祈禱料同村庄屋門治郎相渡シ

銀四拾六匁

是ハ内宮両社御祈禱料当村惣堂浄念僧相渡し

銀弐拾五匁

是ハ伊勢大神宮為御祈禱料田中河井太夫へ相渡し

銀四拾壱匁

是ハ伊勢大神宮為日参世話人三輪油屋新右衛門相渡

香久山地区

銀拾八匁

銀拾匁九分九厘

是ハ南都春日金剛山吉野山三ヶ所代参リ者へ相渡し

是ハ長屋入用取次新賀村庄屋佐右衛門相渡シ

銀弐拾三匁三分弐厘

是ハ南都若宮御祭礼入用取次新賀村佐右衛門相渡し

銀八拾五匁

是ハ川普請松杭百七拾本外山村源四郎相渡し

弐匁壱分 是ハ内住所入用銀取次新賀村庄屋佐右衛門相渡し

銀百八拾壱匁三分

銀三百弐匁三厘

是ハ租割弐歩半村割新賀村庄屋佐右衛門相渡し

銀百七拾八匁八厘

是ハ組会高割新賀村佐右衛門相渡し

是ハ溜池年貢弐石六斗三升弐合南浦庄屋九兵衛相渡

二八九

銀百三拾月

是ハ兼帯庄屋給米弐石新賀村佐右衛門相渡し

是ハ年寄給米壱石四斗源助工相渡

シ

` 銀拾三匁

是ハ用水掛樋添桜井大屋清右衛門相渡し

`

銀四拾六匁八分

是ハ馬場米七斗弐升膳夫庄屋門治郎相渡し

銀三拾目

是ハ野番賃非人番村吉兵衛相渡し

是ハ管□料村伊八郎工相渡し

銀弐拾八匁

銀拾弐匁

銀拾六匁弐分五厘 是ハ加役年寄給米五斗宗助江 銀三拾弐匁五分 銀九拾壱匁

是ハ組頭給米三人へ相渡し 日相渡し

村高弐百七拾壱石三斗六升九合 惣/銀壱/四百七拾六匁弐分弐厘 (?)

弐拾壱石八斗七升九合 四石四斗四升八合 村弁高 川成堤敷引

二九〇

銀弐拾弐匁五分

是ハ年分紙代新賀村佐右衛門両人相渡し

是 ハ年中御用向 二付参会拾

五.

西堂木原屋熊右衛門相渡し北八木辻嘉右衛門相渡し

是ハ御年貢□代大坂掛ヶ所平野屋甚右衛門相渡 銀弐拾五匁三分五厘

壱匁九分

是ハ鉄鉋合薬入用庄屋佐右衛門相渡し

銀八拾四匁五分

是ハ定使給壱石三斗村藤助江相渡し

四拾九石三斗八升六合

弐割半増引

残而役高

百九拾五石六斗五升六合

高石ニ付

七匁三厘三毛九

候、 右者去卯年正月 ゟ 十二月迄、 当村 諸入用書面之通御座 此外入用相掛候儀者無御座候、尤庄屋年寄惣百姓立

リ少シ茂一同連印仕帳面奉差上候、以上、(文章競力)

会熟談之上、得心之割賦高非分之儀無之ようニ、後日至

十市郡出合村 兼帯庄屋 佐右衛門 倒

百姓代 宗 源 助⑩ 助郵

同

壱匁

壱歩三朱

同

壱 匁 弐 歩

組頭 庄 九 郎

同 同

弐拾四匁壱歩弐朱

組頭 又 助卿

(他二十名連署連印)

木村惣左衛門様 御役所

香久山地区

〇古金銀取調覚書

天保十三年九月

(蘆村雅光文書)

出合村

壱朱銀 三朱

三朱

兵

衛側 助郵

同 同

三匁三分弐朱

壱匁

同 同

壱歩

孫 弥 源 平 源

 \equiv

市 次

治 兵

衛印 郎 郎 郎

市 兵 衛回

要 助⑩

助(印ナシ)

宗

三拾弐匁三歩壱朱

樣被仰渡候二付、当村壱人別二取調候処、書面之通相 右此度古金銀幷壱朱銀取持之者、村々取調奉書上ヶ候

右之外聊隠置候古金銀幷壱朱銀等 無 御座

違無御座、

九

右之趣御聞届被成下候ハゝ、 尤書面之金子御差図次第、 難在奉存候、 何時成共差出可申候

天保十三年寅九月

十市郡出合村

年寄 宗 助 (印ナシ)

源 助印

庄屋

高取

御役所

〇出合村百姓余業品書帳

高取御役所様

天保十四年九月

天保十四年

十市郡

出 合村

卯九月

百姓余業品書帳

男女稼労耕作之間ニ糸稼木綿織稼仕候

於当村男女之內百歲以上之者無御座候

乍恐言上書

(天図近世文書)

〇村方難渋ニ付銀子村借り御願

文政三年二月二十八日

(天図近世文書

乍恐以書付奉願上候

和州十市郡出合村

之百姓共有之、且人家も三拾軒余御座候処、 当村方御高弐百七拾壱石余御座候而、 先年迄ハ相応 段々困窮

困窮弥増之上、必至ト差詰リ一同難渋罷在候上、 右潰人御未進弁納其外他借等村引請ニ相成、 去ル 近年

座

仕潰百姓出来、

人家も相減シ当時弐拾軒ならてハ無御

二九二

右之通御座候間、 同孝行寄持之者無御座候 乍恐書付を以奉申上候、

天保十四年 卯九月

十市郡出合村 百姓代 伊

兵 衛即 以上、

年寄 惣 助⑩

源 助側

庄屋

内米打切ニ而、 池床出入有之、 丑年ゟ南都御番所ニ而、 永々多人数相詰、 銀五百匁南浦村へ相渡、 同郡南浦村ゟ膳夫村へ相手取 右雜費并池床年々余 右入用銀私村

方膳夫村分郷ニ而御座候故、

九七百八拾目 余も

相 掛

尚又去卯年二月当村義助義家出仕候処、

仕、 年立毛不作仕、 其上米穀下直ニ而百姓一同行詰り、既 屋名目銀壱〆六百九拾弐匁取込有之候故、 右一件ニ付諸入用多分相掛り極々難渋之処、 無拠村引請 、去卯

故出銀之方も無之、誠ニ以十方ニ暮罷在候間、 ニ相掛リ居候得とも、国中一体之不作殊ニ困窮村之義 配仕、是迄他借仕候方ハ勿論、其外手筋相頼銀子借用 去卯御年貢御上納取詰等も難相成、村役人とも種々心 何卒御

仕候間、 ト生々世々惣百姓一 御憐愍を以此段御聞届被成候ハゝ、 同難有可奉在候、以上、

村御救

奏願上候、尤返納之義者御上様御差図通り急度返納可

救ト被思召上、

御銀壱貫五百目御拝借被仰付被下候様

香 久山地区 文政三年辰二月廿八日

和州十市郡出合村

百姓代 半 治 郎

助⑩

年寄

伊

郎側

同村庄屋 源

木村宗右衛門様 所

南都塩問

O 大和国大 絵図 変更無 之請合書

奉差上御請書之事

天保八年

(天図近世文書

、此度大和国御絵図御取調ニ付、元禄十五午年御改御

付、元禄度之御改御絵図之通、 字替へ、又者出郷出来候敷、 絵図写、 道筋隣国江之里数其外新田村之変地有之 候 哉 当郡限御下ヶ被成下奉拝見候処、 川筋道筋相変候歟、 聊変地無御座候付、 其後村名文 御 国境 糺 村

天保八丁酉年

役人連印を以、

御請一札奉差上候、以上、

香久山地区

松平甲斐守様御内 岡野祖右衛門殿

設楽到殿 渡部内蔵元殿

志村藤七殿

鈴木為右衛門殿

宮川兵左衛門殿

植村伊勢守様御内

脇坂儀兵衛殿

田塩市左衛門殿

〇御糺ニ付書上帳

天保十四年正月

御糺ニ付書上帳

卯正月

十市郡 出合村

天保十四年

(蘆村雅光文書)

覚

検地帳御改

神尾若狭守

無御座候

無反別

弐町六反五畝拾歩 無石盛 村惣作地御座候 無御座候

御普請所 九ヶ所御座候

降溜池 百姓持山

御座候 無御座候

是ハ同郡南浦村江年々米弐石六斗三升弐合相納

川除

用悪水樋

永荒川成

、御普請所

、壱反三畝九歩

堤敷引御座候

壱ヶ所

右ハ御糺ニ付、書上仕候処、 是ハ年々米七斗弐升同郡膳夫村江相納候

御聞届被為成下候ハハ千万難在奉存候、以上 相違無御座候、 何卒御慈悲

を 以**、**

二九四

天保十四年 不保十四年

百姓代 半代

- 、三/五百

弐挺

、弐/五百

壱挺

五挺

平

年 寄 宗

助

庄屋

助

御役所様 高取

嘉永元年四月廿一日

嘉永元年

申四月

座候、以上、

右之通改残り之秤差出シ、此外ニ改残之儀ハ壱挺も無御

十市郡出合村

年寄 惣

助

源 助印

庄屋

(天図近世文書)

秤座御役所

一、壱〆目 、弐拾三〆

壱挺 弐挺 藤孫 惣 三 助郎 助

助

弐挺

平兵衛事

、弐/五百目 一、壱〆目

市治 竹 兵兵

衛衛 吉

、三/五百目 、壱〆目

弐挺

同 同

二九五

一、弐拾三〆秤

壱挺

香久山地区

覚

申四月廿一日 諸秤員数帳 嘉永元年

和州十市郡

九 挺

候 右 後秤役所工差出し申候、 同 = 差出 申 候前々ゟ早速ニ ハ秤改残之儀差出、 <u>#</u> 聞 シ セ 日 南都江差出し、 此度之秤之儀秤座ゟ見廻り先封印付 秤八挺差出 御座 前々 候 Ų 尤四月廿一日八ッ時頃ニ而 人足賃右名前之もの江 是 御触も有之候処、 ハ年預方ゟ南都江組合 段 = Þ 相 頔 ·村方一 御座 掛 同 ヶ 其

O諸勧人取締定書達

嘉永四年

申

(蘆村雅光文書)

不申候也

定

配札助成之筋多分ニ相 合候故、 在方村役ニ而真偽相わかち候儀者偖置、 柄ヶ間敷勧物之多少を論強、 を 申 御免勧化之儀者格別之事、 又者寺社之向々る達状を品能相認メ、 今般申合、 自今村方ニ而取計等一切致し申間 成 御免と称し諸家様方御称号 又無躰之儀有之候、 其外近来無縁にして勧化 雑務司祭混し 帯刀人権 素ゟ

> 成之向茂、 遠慮断可申由ニ候得共、 敷規定候、 人彼是故障被申候ハハ、 都而 尤其筋 南都取計所江御振向可被成候、 々江窺賦候処、 致出張可及相対候、 聊勘弁之上従来入来候配 先前触面之趣 以上 若 ファ以無 札 勧 助 걘

九九六

嘉永四亥年

南都井之上町ニ而諸勧化取計惣代

箱本所 即

右之通取極候上者、 御免之外無賃之案内人足休泊等差出

O巳年木綿反別及位付覚

覚

一、反別五町五反五畝弐歩高百七石四斗七合弐夕

四反五畝歩四反五畝少

上

吹

高

(天図近世文書)

弘

化二年九月

壱町六反六畝弐拾七高三拾弐石四斗九升六合 步

中 吹

三町四反三畝五歩 高六拾六石壱斗壱升六合九夕

下吹

高反別幷上中下位付書面之通相違無御座候、 右ハ当巳木綿作、庄屋年寄組頭百姓代立会下見仕候処、 弘化弐年九月日 十市郡出合村 以上、

百姓代 伊 兵

組 頭 源 次 衛 郎⑩

寄 惣 助郵

年

庄 屋 源 助印

高取 御役所様

〇出合村余業取調書上帳

安政四年一月

(天図近世文書)

御預御役所

余業取調書上帳

安政四年

巳正月

十市郡 出合村

香久山地区

(帳)

O申年木綿作反別幷位付覚

万延元年八月

(天図近世文書)

覚

農鍛冶

治 兵

衛

銀壱貫目

但し凡壱ヶ年ニ稼銀高

色染市 兵 衛側

銀三百目

但し凡壱ヶ年ニ稼銀高

違無御座候、外ニ産物産用之品売買仕候者ハ無御座候、 前書之通村方取調候処、農業誘問之分取調候処、

少茂相

以上、

安政四年

巳正月

出合村

百姓代 源 治 郎即

寄 惣 助印

屋 源 助印

庄 年

覚

二九七

一、反別三町弐反九畝九分高六拾三石五斗四升五合壱夕

出合村

七反廿七分 高拾三石八斗五升五合九夕八才

上吹

考反八畝廿九分 高五石六斗六升九夕四才 五反五畝廿七分

雑毛

壱町弐反九畝拾八分 高弐拾五石七升五合五夕弐才

下吹

中吹

下々 吹

高六石五斗 弐石五斗 弐田 二 八夕 六反四畝廿五分高十弐石四斗弐升七合八夕七才

皆無

高反別并上中下位付書面之通相違無御座候、

以上

右者当申木綿作庄屋年寄組頭百姓惣代地主立会下見仕候

処

万延元申年八月日

十市郡出合村 百姓代 宗 次

郎

成下候通り、

組頭惣代 年寄 宗 孫 郎印 助⑪

庄屋

源

助 Ã

二納迄ハ上納仕来リ候得共、

最早三納皆済之義

高取御預御役所 〇旱損ニ付御上納延期願

文久二年十二月四日

(天図近世文書)

乍恐歎御願奉申上 候

当御支配所

十市郡五 一ヶ村

高市郡壱ヶ村 ア六ヶ村役人共

百姓取続兼居候上、近年御免も年々ニ 相進べ、村方一

同迷惑仕罷り居候所、当年之儀者猶以、村々所々格別

、右六ヶ村之義ハ、近年不作打続村方一同困窮弥増、

之早損ニ合、 誠ニ稀成凶作、 御検見之節ニも御見分被

大半五夕毛与見立候程之凶作二付、

御年

リ二納迄ハ、作物不残為売払、余ハ村役人共精々取替 貢御上納仕方無御座候得共、 御上納之義三付、 初 納 Ξ

二九八

諸色稀成高直相成、 難渋人とも日々取凌兼候

旨 付 御太切之御年貢恐入候得共、 村々一同歎出候得共、村役人ともも何とも致し方 御上納之手段無御座

座 無御座候、 左様仕候而者村方一同百姓相続相成不申、 此上ハ村方一同 居宅家財売払候 ゟ 外無御 此段歎

仕 月裏作取入候迄御延納被成下度、 ヶ敷候ニ付恐多義ニ御座候得共、当年皆済之義、 急度上納可仕候間、 何卒皆済来五月迄御延納ニ奉 裏作取入次第不納不 来五

可奉存候、 文久弐戌年十二月四日 以上、

預り度奉願上候、

右之趣御聞届ヶ被成下候ハゝ、

難有

十市郡出合村

年 百姓代 宗 寄 宗 次 助印 郎

庄 屋 源 助⑪

同郡下八釣 村

百姓代 源 兵 衛回

年 寄 庄 五. 郎 (A)

香 久

Ш

地 区

高取御預御役所

同郡石原田 村

庄

屋

甚

太

郎

(1)

百姓代 新 次 郎 1

寄

佐

兵

(II)

庄 屋 忠 兵

> 衛剛 衛

同郡膳夫村 百姓代 儀 兵

衛

(1)

断 七 兵 衛 **(1)**

寄

善

次

郎

庄 同 郎

同郡 出垣内 屋 善 村 七

百姓代 寄 孫 与 郎

(II)

助印

庄 屋 伝 兵 衛即

高市郡上飛驒村 百姓代 五 兵 衛回

徳 兵 衛即

屋 喜 兵 衛

庄

二九九

O稽古相撲ニ付願奉申上状

元治元年八月二十日

(天図近世文書)

出合村

1100

乍恐追御願奉申上候

十市郡出合村役人

而降雨有之候旁、願満として来ル廿八日角力仕度段、 当夏旱抜ニ付氏神荒神へ雨乞立願いたし、御利益ニ

去ル廿一日奉願上、御糺之上御聞届被為成下難有奉存 然ル処同郡膳夫村兵七儀兼而角力相□□居候

罷有候、

付而者、 為致呉候様相頼ニ付、 右願満角力致し候跡ニ而、 村方申談申候処、 門弟相招稽古角力 何ニ差支筋も

御願奉申上候、 無御座候故、頼之通リ為致申度奉存候間、 何卒御隣愍右同限ニ願満角力相済候跡 乍恐此段追

二而 縋而奉願上候、 兵七門弟共稽古角力為致候儀、 右之趣御聞届被為成下候ハゝ、千 御赦免被為成下

元治元子年八月廿日日

万難有奉存候、以上、

高取御預御役所

(出垣内)

〇出垣内村免定事

寛政十一年十一月

未年免定

辰ゟ申迄五ケ年定免之内当未破免 高百四拾三石弐斗九升五合

大和国十市郡

内

高五石八斗四升九合 外高三石八斗六升八合

池床引

高百拾六石三斗壱升三合 小以高百弐拾弐石壱斗六升弐合

当末旱損皆無引

連々引ゟ当未起返

(天図近世文書

庄屋

助 (A) 同断

三 五.

郎 郎田

庄 源 源

残高弐拾壱石壱斗三升三合 毛附 高下割合之、来ル極月十日限、

此取米七石六斗五合

此訳

高拾七石弐斗六升五合

本田畑

免四ツ三分六厘余

当未芝地成起返

外高百拾六石三斗壱升三合 懸高弐拾六石九斗八升弐合

田方五分以上損毛当未壱ケ年

御伝馬宿入用

、米壱升六合 懸高外高右同断

御蔵前入用

納合 米七石六斗七升五合

銀四匁五厘

相極候条、村中大小之百姓、入作之もの迄不残立会、 右去辰ゟ申迄五ヶ年定免之内、当未破免御取箇書面の通 無

寛政十一未年十一月

急度可令皆済もの也

人儀病死ニ付、自分方ゟ相渡もの也

前書之通当未御取箇之儀、

宗右衛門方ニて相極候処、

同

木村宗右衛門

未十二月

河尻甚五郎

右 百 庄村 姓 屋

惣百姓

〇簀井手水論下方和談済シ取替 二札

文化四年七月五日

(天図近世文書

為取替一札

、七ッ井川筋大福村領字クノキ田地、 手有之候処ゟ、同川筋壱町下大福村弁出垣 内 ニ、作人簀井手ヲ掛テ水かへ上候ニ付、 養水引取候箱井 去々丑年出垣 村領境

内村ゟ大福曽我方村役人工欠合ニ相成、

当夏直談相詰

香久山地区

高三石八斗六升八合 此取米七石五斗弐拾八合

此取米七升七合

免弐分取

六尺給米

米五升四合

懸高外高右同断

、銀四匁五厘

調候様致度候得共、所全直対談ニ而難行届候故、双方ニ御公辺江奉懸御苦労候段恐入、 何卒下方ニ而和談相ニ既ニ御出訴ニも相成可申処、双方共時節柄之儀、殊

二方ゟ申立候者大福村曽我方字クノキ右地所者、元来上双方申分之趣意御聞被下候ニ付、出垣内村幷膳夫村相頼取噯被下候様申入候処、御承知被下候而、参会之

勿論、

簀井手を掛ヶ申間敷事、但シ其上池水取下シ日

曽我方村役人相揃、

山之坊村勇次郎殿、大福村仙助殿

申談出垣内村地所入組、膳夫村御料私領役人幷大福村

ケ水人かへ候故、出垣内村ゟ簀井手取払村方へ持帰り(スカ) (スカ) の、去々丑年旱魃ニ付、右川筋作人長次郎簀井手ヲ掛の、去々丑年旱魃ニ付、右川筋作人長次郎簀井手ヲ掛へ相譲り、又五年以前右源助ゟ笠神長次良へ相譲り候出垣内村甚右衛門方ニ年久敷致所持、其後同村源介方

者水持悪敷□之古来ゟ川田与唱、猶又右箱井手ゟ川下之儀与申之、且大福村曽我方ゟ申之候者、右地所之儀

置、直様大福村曽我方庄屋へ及欠引候程之儀、

全新規

者先規ゟかへ水仕来候由申之候ニ付、双方村役人案内壱町分ハ例年大福村ゟ川浚等いたし候得者、旱水之節

人江貰取済方御談被下候訳左之通、

ニ而御両人論場御見及被下候上、 新規古規之申分ハ嗳

節者、朝六ッ時ゟ翌日朝六ッ時迄、一日壱夜かへ水者御田地江水かへ可申筈、尤出垣内村溜池用水取下シ之数相改、弐拾間川下簀井手ヲ掛ケ、旱水之節者大福村数相の、弐拾間川下簀井手ヲ掛ケ、旱水之節者大福村

続仕、右一件ニ付重而御嗳人中江聊御役界掛ケ申間敷、以後右約束通り無忘却、急度相守、互ニ中睦敷、百姓相聞セ被下候ニ付、双方共得心之上下済仕候、然上者自今間と被下候ニ付、双方共得心之上下済仕候、然上者自今

文化四卯年七月五日

仍之双方連印を以為取替一

札仍

如件

大福村庄屋

-寄 熊 次 郎 邸

藤八郎剛

同村年寄藤・

同村同断 作印

百姓惣代 又

内村与者居村同様之儀ニ付、

双方共陸敷不仕候而者不

尚又膳夫村与出

柄殊ニ困窮之百姓難儀可仕儀ニ付、

清 次 郎 (EII)

取嗳人山之坊村 Ш 勇 次 郎

同断大福村

助郵

則取嗳二而和談內済仕候所左之通、

出垣内村立会溜池

候ニ付、取嗳人江相任セ□□申□び者取嗳人ハ申請′ 相治、村為不宜義二付、私談仕候様ニ精々利解被申聞

仙

年寄 庄屋 中

惣百姓

出垣内村

膳夫村溜池縣水二付取替一札

〇出垣内村、

文政六年七月

(天図近世文書)

為取替一札之事

哎 出垣内村立会溜池浚 諸入用二附、 出垣内村ゟ茂故障申立遅々申争ひ、 膳夫村 ゟ 彼是申 既御役所様之

入ニ相成リ候而ハ日間取諸費相懸リ候而者、 御苦労ニ可相成候処、 新賀村佐右衛門之趣取噯、右出 当年之年

内

六町八反八畝拾壱歩

出垣内村

此分米弐百拾弐石壱斗五升五合

此水掛リ拾町八反八畝拾壱歩

四町 分米百三拾三石九舛五合

膳夫村 御料所 膳夫村 御料所

分米七拾八石七斗六舛

四反九畝□拾六歩

分米九石五斗七升七合五夕

二口/七拾壱石六斗五升八合七夕 差引七石四斗壱合三夕 浮高也

香 久山地区

三〇四

同郡新賀村

取嗳人

佐右衛門倒

内高三石 膳夫村御料所御私領引請高也

残高四石□ |斗壱合三夕 出垣内村江引請高也

米四斗五舛 毎年相渡ス可申約束也、右同断膳夫村御私領ゟ出垣内村江 垣内村江毎年相渡ス可申約束也、溜池例年世話料膳夫村御料所ゟ出

一、米壱斗八合

双方其村為ヲ存可申候、 す談し之儀者高掛リニ而、 右之通り諸入用銀高懸リニ而熟談仕候上者、 右溜池之儀三付、向後少茂申分 双方立会我意不申立、 何方ニよら 睦敷仕

文政六年未七月

不仕候間、

為後証為取替証文一札仍而如件

十市郡膳夫村 百姓代

七

兵

衛即

年 同 断 寄 五. 門 郎兵衛回 次 郎

庄 屋 善 t

郎

(A)

同村御私領方

百姓代 佐 七個

庄 屋 彦 藤 兀 郎 六倒

同郡出垣内村

御役人中

O出垣内村御年貢皆済目録

午御年貢皆済目録

天保六年三月

(天図近世文書

和州十市郡出

l垣内村

本途

高百四拾三石弐斗九升五合 、米弐拾六石四斗八升

此訳

米弐石六斗四升八合

拾分大豆銀納(二脱力)

此銀百六拾目八厘

米弐拾三合八斗三升二合

但米壱石ニ付 九分米銀納

此銀壱貫八百六匁壱厘

米七斗九升四合

口米

相渡置候小手形引替、一紙目録遣候者也、 O春日社造営料受取覚 右者去午御年貢銀本途小物成、其外共令皆済二付、 天保十四年十一月二十七日 納合銀弐貫百拾七匁四分 、銀弐拾壱匁四分九厘 、米弐斗八升七合 、米八升六合 此銀四拾壱匁三分八厘 此銀弐拾壱匁七分五厘 此銀六匁五分弐厘 此銀六拾目壱分七厘 米五斗四升六合 天保六未年三月 当午ゟ戌迄五ケ年賦 木惣左衛門 御蔵前入用 夫食置米返納 御伝馬宿入用 但右同直段 但九分米同直段 但前同直段 但前同直段 (天図近世文書) 惣百姓 年 庄寄 屋 度々 右ハ春日御造営料米代銀納量所受取書慥請取申候、以上、 O春日社造営料受取覚 一、米壱石九斗 一、米壱石九斗 一、米弐石九斗 右ハ春日御造営料米代銀納量所受取書慥請取候、以上、 天保十五年二月十五日 此銀弐百弐拾三匁五厘 此銀百四拾六匁壱分四厘 此銀百四拾六匁壱分四厘 天保十五年 天保十四卯年十一月廿七日 覚 十市郡出垣内村御役人中 神殿村納惣代年預 西代村同断 冬渡し分 秋渡し分 嘉平 又 (天図近世文書) 兵 衛側 次便

香久山地区

三〇五

Ž
1
ļ
ł
1

辰二月十五日

納惣代年預

同断

平 次回

清 五 郎郎

十市郡出垣内村

御役人中

O出垣内村小前高反別名寄帳

安政五年正月

安政五年午正月

(天図近世文書)

小前高反別名寄帳 十市郡 出垣内村

(各人の集計を示す)

一、高拾六石六斗五升六合三夕

高九石七斗四升七合三夕 高拾七石六斗九升

善 甚 太 兵 衛側 郎郎 伝

兵

衛印

高拾石四斗七升七合五夕

与

市

栄 政

次

郎 七倒 郎

助⑪

高拾三石五斗七升六合八夕

高四石九斗四升弐合 高拾弐石五斗壱升壱合

高弐石四斗四合三夕

喜 弥

兵

高弐斗四升六合

高壱石弐斗七升七合弐夕

佐 仙

吉印 助倒 衛側

源右衛門即 兵 支

衛田 配

高五斗弐升四合

高壱石四升五合

高三斗九升

村 字

高八斗五升

高六斗弐升九合

寺

地蔵講田 伊勢講田

高壱石四斗六升弐合

高壱石七斗五升三合三夕

高六斗九升四合

藤 寺

> 地 地

キヒ治 兵 衛 七

キヒ要 助

高壱石三斗五升五合

高壱石弐斗五升五合

三〇六

高七斗三升弐合 西宮平 兵

衛

十市郡出垣内村

年寄 庄屋 甚

善

兵 太

(印ナシ)」

郎 衛 (A)

高三斗四升五合

高弐石四升弐合

西宮庄 七

高弐石弐斗三升九合五夕 笠神宗

西宮四郎兵衛

高三斗 高弐石六斗八升六合

石原田善右衛門

村 支配

惣高反別合

名寄帳之儀者宝曆拾三未歲芝村御役所江御願奉申上候 而御差図帳を以相認、右名寄帳反別之儀者池床上田弐 当村名寄帳面相見不申候二付、 村方一流相談申合、

持六分三厘引かハし、 ニ付、六歩三厘ヲ加江候様ニ相見申候ニ付、 反九畝拾四歩、又上畑壱反八畝七歩者川成永荒御座候 七町四反九畝壱歩也、此上銘々 銘々反別

共譲り替候得共、六歩三厘を以前書之通反別譲り替仕

自今以後迄茂可相心得候、

依之承知一流印形仕

以上、

安政五年午正月 香 久山地区

〇出垣内村御取箇掛札

(天図近世文書)

酉御取箇掛札

一、米四拾六石壱斗九升四合毛附高百三拾七石四斗四升六合

免三ツ三分六厘壱毛内 出垣内村

十市郡

此 訳

方 免三つ壱分七厘弐毛内

芝地成 免弐つ 畑 田

方

免七つ五分弐厘内

九分米直段

十分一大豆直段 銀百拾五匁四分弐厘七毛

銀百拾九匁八分八厘弐毛

小物成とも

右之通可相心得者也

三〇七

戌六月 御預役所 高取

(*背面に貼布の跡あり)

〔膳夫〕

〇西山草山取戻 件申渡

安永九年九月

(膳夫区有文書)

申

和州十市郡南浦村庄屋年寄赤井越前守知行所

山取戻度出入

織田豊前守御預り所藤堂和泉守領分 入組

同州同郡膳夫村庄屋年寄山持百姓共

し候処、 草山九町六反八畝弐拾歩者、 右南浦村庄屋年寄共訴出候者、 先年五藤次より南浦村百姓善左衛門祖父縁組仕 南山村百姓五藤次所持いた 南浦村領之内字西山与 由

候砌、

右草山を善左衛門江引手物ニ貰請、其以来善左衛

門方ニ所持いたし罷在、 の共江貸置候処、いつとなく立木残置林同前ニ仕、 り刈採亦者南浦百姓共江茂貸置、 南浦村向寄之場所者善左衛門よ 其余者相手膳夫村之も 田 畑

日陰ニ相成、其上猪鹿鳥類多相集田畑を荒難儀仕候付、

願候儀も恐入差控罷在候、 候処、 电 右立木伐払候様善左衛門より膳夫村エ申聞候得共取致不(含か) 寅年十月裁許有之、其砌相願度候得共、 宝暦拾壱巳年、善左衛門より膳夫村之もの共相手取願出 剩右西山膳夫村之持山杯与申之候付右山取戻申度旨 段々吟味之上善左衛門持山之儀者難立旨、 併元来西山之儀者南山村小物 裁許間茂なく相 明和七

より膳夫村江譲り受候与申証拠茂無之、 成場ニ而、 南浦村領ニ相違無御座候、 五藤次以来いつれ 無謂膳夫村所持

茂無之処、膳夫より立木残置林同前ニいたし、 与有之、元来草山ニ相違無之候故、 ニ相成候而者地元之南浦村一同歎ヶ敷、 谷間之田畑何之差支 検地帳ニ茂草山 甚生茂田

百姓年貢上納等差支、此末及潰候外無之候間、 地日陰ニ相成、 作物生立不申年々夥敷損毛二付、 五藤次以 困窮之

三〇八

訳相立、 可相成道理無之候間、 来いつれより膳夫村 其上谷間之田地差障り候立木之分伐払候様被仰 江 早々地元之南浦村江山相戻地元之 西 山譲り請候哉、 無謂膳-夫村持ニ

付被下度旨申之候

門江 、膳夫村之もの去暮以来南浦領之内西山与申草山 座候、 浦村 南浦村善左衛門江相 付、 村善左衛門より 膳夫村山所持之 も 山年貢年々相納来候、 等山年貢取集、 浦村善左衛門方江相 より無滞膳夫村彦四郎方江年貢相納、 古より所持仕来、 六反八畝弐拾歩、 お相 相 弐拾人吟味之上、古来より右山年貢者膳夫村 納 右字西山与申者南山村小物成山之内膳夫村二 願 候儀難得其意候、 永違背仕間敷旨申渡有之候処、 右善左衛門より橋本村七郎右衛門方江 右山年貢入別帳等有之、凡百年以前 南浦村領与申立候得共甚相違ニ 渡 渡 右山論之儀宝曆拾壱巳年、 善左衛門より橋本村七郎 南浦村ニ所持いたし、 南浦村領字西山与申草山 0) 右彦四郎より南 相手取願出 亦候此度南 小 右衛 により 候 前 南 九町 而 往 徊

在候、 候処、 木林等有之候処、 申候由承伝候、 村小物成場檢地帳字香久山池田 Ų 电 与申立候得共草山 も無御座候、 有之、寛文三年之比より立木山ニ相違無御座候、 山地所持仕居候処、 を善左衛門方江引手物ニ貰請候与申儀、 九町六反八畝弐拾歩者、 々立木薪ニ伐採売払候故、 相成候旨申立候儀甚難得其意候、尤猪鹿鳥類寄 質物二差入候質入証文二松木壱本茂伐採問 凡百十八年以前、 字西山与申所南山村御小物成場ニ而 先年五藤次より善左衛門祖父縁組之節、 膳夫村之儀者困窮之百姓ニ而年貢等ニ差詰 右西山之内南浦村所持之山地二者夥敷古 既二西山之儀南浦村之内二茂所持仕罷 膳夫村所持山立木斗南浦村田畑日陰 二而者 無之哉、 同村六兵衛より銀五拾目借用 寛文三年膳夫村彦助与申も 南山村五藤次所持いたし罷 立木与申者格別之古木二 Ш 西山東谷惣名草山 古来ゟ立木 御座候、 相違ニ 有之候 右草 敷 而御 南 旨 いた の右 草山 ŋ 年 而 与 Ш 恝 座 山 有

=

田畑立毛荒し候与申立候儀、

偽りニ御座候、

字西

被下度旨申之候 儀相違無之候間、重而右体之儀御願不申上候様被仰付 西山之内を往古ゟ膳夫村銘々所持仕、年々年貢納来候 南浦村地元ニ限リ候儀者無御座、南山村領小物成場字

之三付、 村江 茂り田地日陰ニ相成、 支茂無之処、 之もの共、 之分伐払度旨南浦村申立候得者、 窮之百姓年貢等差支及潰候外無之候間、 二茂草山与有之、 村所持ニ 6) 成場三而南浦村領ニ相違無之、 而 右出入双方召合遂吟味候処、元来西山之儀者南山村小 難 つれより膳夫村江譲リ受候与申証拠茂無之、 相 山相戻、 知旨申之上者、 相成候 山取戻度旨申立候儀者難立候、 右西山百年余も所持い 膳夫村より立木残置林同前ニいたし、 地元之訳相立其上谷間之田地江差障候立木 に而者、 草山:相違無之候故谷間之田地何之差 膳夫村より山戻候様可申 作物生立不申年々夥損毛二付、 地元之南浦村一 南山村先庄屋五 たし候哉、 如何様之訳ニ而膳夫村 同歎ヶ敷旨検地 早々地元之南浦 膳夫村より 年古 付 無謂膳夫 藤次以 証 牛 甚生 者 儀 拠 西 無 困 帳 来 物

急度証拠茂無之儀ニ候者、

右山を此度是非取

民度与

申

付 得共、 畑日陰ニ 候与申訳相立、 場ニ而 所持山与申立候儀難相立上者、 地元与申立候而も、 之、其上南山村ゟも南浦村地元与申候得者、 浦村ゟも膳夫村右山前々より所持仕来候趣ニ而 而茂申分無之、 吟味候処、 ニ茂無之、 将又年々立木薪ニ伐採売払候故、 又者売主一 申渡候通南山村南浦村役印茂無之、 山小物成場往古より持来候由 地元之儀者 明和七寅年出入之節茂差出候証文等ニ 南山村、 相 田地江差構不申候旨膳夫村申之候付、 成候立木之分者、 右西山之儀者検地帳ニも南山村小物成場与有 判之 証文或者無印等三而 是迄之通いたし候儀ニ候ハゝ、 南浦村与 勿論 南浦村右両村之内い 膳夫村ニ証拠書物等も無之儀 右西山者南浦村領内ニ有 相 心得、 三而 伐払可申旨膳 西山之儀者南山村小物成 立木与申者格別之古木 前々ゟ膳夫村所持仕来 殊ニ検地以前之証 証 為証拠証文等差出 つれ 拠 次ニ者 夫村 地 難 ार्ग् 元 旁以南浦 Ż 申之、 南浦 取 = 候 南浦村 相 段々遂 用候 其節 村 儀 成候 付 南 田 村 文 茂 候

存念茂無之、 木之分膳夫村より伐払候上者、 内ェ有之候儀故、 右山者南山村小物成場二候得共、 南浦村地元与相立、 外三相願候節聊無之旨申 田畑日陰ニ成候立 南浦村領

陰ニ成候立木之分、南浦村役人共ニ案内いたさせ、 之候、然ル上者双方村役人立会、 村より不残伐採、 以来 右場所二者立木 不生立候様可致 南浦村田畑江差障リ日 膳夫

処、先年庄屋五藤次与申者近辺之山々検地相願、 畝弐拾歩之所、 尤右西山弐百四拾弐間壱尺、百弐拾間、九町六反八 猶又南山村を茂呼出、 地元之 訳相尋候 南山 村

様申之、 元之旨、 南山村之者共より茂申立、南浦村之者共儀茂同 勿論明和七寅年之裁許書文言之內:茂南浦村地

小物成場与檢地帳ニ茂認有之候得共、

右西山者南浦村地

村地元ニ 元二而、 南山村小物成場与有之候得者、 無紛儀与相聞候間、 地元之儀者南浦村与可相 旁右西山者南浦 心

得候、 者、 相違相聞候間、 明和七寅年裁許之通相心得、 乍然前々ゟ右山を膳夫村之者共所持仕来候ニ者無 此以後とも是迄之通、 以来双方共新規之儀不 小物成年貢等之儀

否

久 山

地区

致 重而申分無之様可

右之通令裁許為後証、

双方江書付下置之条、

向後相守永

不可違失もの 安永九庚子年 也

九月

越 前

伊

予⑪

(A)

和州十市郡南浦村

庄屋

年寄

同国同郡膳夫村

庄屋

百姓共 山持 年寄

(見門・

河合正義文書

〇膳夫村百姓作間稼商内者覚 慶応三年九月

香久山地区

慶応三年

百姓作間稼商内仕候者覚

卯九月

十市郡 村

善 忠 庄 清 同 新 善 与 七 利右衛門 和 同 兵 次 兵 兵 兵 平 四 郎 郎 六 衛 衛 治 衛 衛 助

> 同 同 同 同

同

織屋稼商売 織屋稼商売

> 質株持 質株持 白米屋 豆腐屋 豆腐屋 同 同

紺屋株

綿打稼 焼酎屋 焼酎屋 荒物商売 荒物商売

湯

屋

紺屋株 屋

> 兵 作 庄 与 庄 清 弥 善 惣 又 七 八 \equiv 兵 平 次 五 兵 次 五. 衛 郎 郎 衛 八 ζ 助 七 治 郎 郎 郎 郎 七 八

大工稼

紺屋稼商売 織屋稼商売 大工稼

 Ξ

(池尻)

○南山村枝郷と吉備村、 膳夫村水論裁許覚

享保九年七月

(東池尻区有文書)

和州十市郡南山村枝郷橋本村池尻村、

儀裁許申候覚 同郡吉備村与同郡膳夫村、 用水論遂詮

来候処、 弐拾四ヶ所在之、 池尻村、吉備村申候者、 膳夫村ゟ新法企、 前々ゟ何ヶ所も簀提塗立ニ而水上入 簣提者悉切落、水下ヶ候与 高家川馬場井堤当村水入口

、膳夫村答候者、高家川馬場之井提ハ池尻村、 年数ヶ所一 致来リ水入口に一ヶ所宛提上ヶ、段々水入候処、去卯 其入用者池尻ゟ取集メ、人夫膳夫村ゟ指出、 膳夫三ヶ村水入れ候、 度ニ提上ヶ井出下江水少も下ヶ不申候、迷 田地高割を以竹木縄俵等出之、 井手普請

惑之由申之、

右遂詮儀候処、

双方無証拠、

然ル上者馬

香

久山地区

候 夜与一時可取之候膳夫村江水取候ハ拾三時過、 口ふさき、本簣打詰、幅壱尺切下ヶ、吉備村田地三畝(町か) 村江右之通可取、右水取之内ハ其村ゟ提番人遣可付置 さき、本簀打詰幅壱尺下ヶ膳夫村田地三町八反ニ一昼 三反五畝江一昼夜取之、其次ノ日吉備村田地之水口ふ 三反江昼五ッ夜六ッ時取之、其次之日池尻村田地之水 取候而者、異論不可相止候、 場堤取之人夫膳夫村ゟ出シ、 一ヶ所宛塗立、膳夫村迄之水溜候上、池尻村田地弐町 為後証書付全印形双方江相渡条、 池尻村池尻村吉備村簣提(ママ) 殊二地広二候、 急度相守永不可 右之通水 又池尻

違背者也 享保九年辰七月

豊後印

筑 前印

文政十二年六月

O馬場井手他修覆銀ニ付取替一札

東池尻区有文書

X

取為替一札之事

馬場井手近年及大破、多ヶ入用相掛リ候故、 其御村方江出銀被下度様、 其御村御領分当村方ニ所持来リ候、 段々相頼候処、 御田地 御 右入用銀 用水堰字 承 知 被

Ę ル上ハ右銀子者当村方江預リ置、 銀百七拾匁御遣シ被下、 慎二受取申処実正也、(慥力) 永代利足を以馬場井 然

手者勿論、 外堰用水溜池懸り共右銀子之利足ョ以、 大

破入用ョ足シ合ニ可仕筈ニ御座候、 若又ほら水猶又到

衆中
る御出訴之上御歎キ被下、 御地頭表江右普請入用銀御下ヶ被下度段、 而高水二而右井手并御田地杯大荒出来候得者、 其御下リ銀々分当村作 其御村役人 其御村

人江御遣シ 其御村御領分当村御領内江入変ニ相出候御田(聲) 可被下約定二御座候

銀 掛 山り二付、 五者井掛 り高 水論等出来候得者其御村方も相談之上入用 江割合相懸リ可被下筈ニ 御座 候

候得者、 右談シニ付、 其儘出入致候共、 利筋相立候儀 入用割合違背無之様相懸り可 ヲ其御村ニ身勝手ニ申立被成

> 被下約定ニ御座候、 右論如何様ニ成行候共、 入用違背無

四

立会之上割方可致筈ニ御座候、

之出銀可被下約定也、

且右論一

件諸入用算用之節

御

為後日之、為取替仍而如件、

文政十二丑年六月日

出作惣代池尻村

兵

衛

即

庄 年 寄 屋

孫 七 喜

兵

衛

右衛門

南山村御役人中

O池尻村勘定帳

嘉永四年

I地用水

嘉永四

亥年 定

勘

帳

和

池州十市郡

(飯道勇夫文書)

__

御高弐百六拾石四升六合五夕

`

残而百八拾六石八斗九合壱夕内七石壱斗七升八合四夕 御定免之内御用捨 米合百九拾三石九斗八升七合五夕	一、弐石壱斗七升五合	一、拾弐石四斗八升六合壱夕	一、五石壱斗九升五合三夕	一、百七拾三石壱斗七升六合八夕	御物成米	御免七ッ壱厘	残而弐百四拾七石四升弐合五夕	合拾三石四合	同弐石三斗七升	同五斗五升九合	同八斗八升	内九石壱斗九升四合
	荒 莚 附 貫	駄賃	口米						地蔵谷池高引	庄屋屋敷高引	八幡谷池高引	御毛見高引
一、八拾 <u>双五分</u> 1、八拾弐 <u>双三分</u> 1、十二日 2、十二日 2、十二日 3、十二日 3、1十二日 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	八、八合三以六十八八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十	植村様御入札落札左之通	残而百七拾四石八斗五升七合六夕		八斗弐升六合五夕	壱石弐升五合	五石	壱石弐斗五升	弐斗五升	壱石	五斗	内米払
通 八木小村屋 利兵/衛落札 根山村 衛門落札 松山村 衛門落札 根 大郎 落札		合六夕		常右衛門地不足	川普請飯米ニ五ケ年之間御用捨	右三ケ所江御用捨大谷倉笠間面舗谷	庄屋給米	御蔵屋敷年貢	高田貰水入用	高田水米		

香久山地区

三五

三六

一、八拾壱匁四分十月二日 1、八拾壱 匁壱分 一、八拾匁四分 、十二日 一、八拾弐匁六分 一、八拾匁八分十七日 一、七拾九匁八分 、八拾三匁弐分 、八拾壱匁六分 、八拾 外壱分 、八拾匁弐分十一月二日 、八拾匁五分 、八拾壱 匁八分 计七日 八拾弐匁五分御式礼 伊之助落札御所町角田屋 平兵衛落札八木兼屋(ママ) 文 助 落 札 茂兵衛落札土佐町 善兵衛落札 利右衛門落札阿部山村 喜右衛門落札平田村 利右衛門落札阿部山村 藤右衛門落札御所町嶋屋 利右衛門落札阿部山村 伊右衛門落札松山村 利右衛門落札同村

> 一、同壱貫五百六拾匁亥正月十二日(4) 一、同六百弐拾匁五分〃三月廿六日 一、同弐貫三百七拾九匁三分、二月五日 銀七百弐拾壱匁五分五 此り百九拾八匁弐分七厘 此り百四拾弐匁九分九リ 此り七拾弐匁壱分五リ 平均御直段七拾六匁弐分 右ニ付八拾壱匁六分九厘 代拾三貫三百弐拾四匁壱分五厘 内五匁五分下ケ 厘 金拾両代金相場六十二匁弐分五リ 金相場六十壱匁八分 金相場六拾弐匁四 凡金拾壱両弐分代去戌年過上銀 御先納仕候 御先納仕候 御先納仕候

分

利〆五百弐匁四分

元銀〆五貫九百八匁三分五厘

此り四拾壱匁六分六厘

一、同六百弐拾五匁〃四月三日

金相場六拾弐匁五分

御先納仕候

御先納仕候

此り四拾六匁六分八リ

. 壱貫三百七匁壱分

拾六割

元利〆六貫四百拾匁八分

内銀三貫百六拾匁亥九月十日 差引六貫九百拾四匁三分五厘 金相場六十三匁三分 御上納仕候 同六拾三匁 亥五月 葛三箱代宇陀山之坊屋 亥五月十六日相渡り侯 重兵衛払

、同三貫百六拾五匁

金相場六十三匁三分

御上納仕候

金相場六拾三匁六分

、同百九拾匁八分

御上納仕候

差引三百九拾八匁五分五リ

又百六拾五匁四分九厘

御拝借銀御返納仕候

内九拾五匁弐分九厘 ✓五百六拾三匁四厘 壱石弐斗五升代取締ニ付増給

同百五拾匁 杭竹代

同四拾壱匁八分四厘 同弐匁弐分九厘 本福寺ニ相納申候先君様仏供米三升代 大阪銭屋清右衛門払

同七拾五匁八分 同五匁弐分五厘 八木辰巳屋久助払

香久山地

区

大阪尾張屋惣右衛門払

同四拾七匁参分壱厘

今井籠屋六治郎払

〆四百八拾目七分八厘

内八拾六匁九分

差引八拾弐匁九分六厘

金壱両壱歩弐朱代金相場六十三匁弐分

過 上

御上納仕候

残而三匁九分四厘

前書之通御年貢皆済仕勘定帳面奉差上候、以上、

年寄 七右衛門

善右衛門 (II)

同断

松 本 孫 兵

山本多郎右衛門様

一、銀壱貫五百九拾目亥十一月十六日 一、同壱貫五百九拾匁〃十三日 一、同壱貫五百九拾目〃十二月六日

同弐拾五両代 右同断 同弐拾五両代金相場同断 金弐拾五両代金相場六拾三匁六分

三七

一、同壱貫弐百六拾六匁〃十八日

右之通子年御先納奉差上候、以上、

(*右勘定帳少シク計算違い有り)

〇和州十市郡池尻村田畑名寄帳

安政三年正月

(飯道勇夫文書)

安正三辰年

和州十市郡池尻村田畑名寄帳

正月吉祥日

(末尾集計ノミ)

惣高弐百六拾石四升六合五夕

此反畝拾九町五反壱畝弐拾四分三厘八毛

世、

天平五年帰朝、

朝廷登庸爵位累進、

七年之春此地

荒年貢弐石壱斗七升五合

〇御厨子山妙法寺記

(醍醐・平井良朋文書)

御厨子山妙法寺記

北室院

御厨子山妙法寺記

采邑,以報,神恩,矣、在唐始終十八年博通,経史,才名鳴、 冥祐、且心誓曰我学業功成而帰! 本土 則必当営! 霊廟於 公年二十四入唐受学、 其解纜之日遙拝: 八幡大神:懇祈: 賜」,姓吉備、其履歷詳載,国史,此不、繁焉、相伝霊亀二年 公名真備、 大和州十市郡御厨子山妙法寺者右大臣吉備公之所創也、 本姓 下道右衛士少尉 国勝之子也、 高野皇帝

額做、 誦 自後英俊踵、跡逐為二修練之場、 慧解秀発、 素有:隱逸之操、 愛:|此幽問:日事禅:| 称:律師:以為:開山

乎元興寺善覚律師来而駐錫、

律師者吉備公之子也、天資

創」神祠 |以償」|夙志 | 焉、又側構 | 精舎 | 名日 | 妙法寺 | 於是

三八

由山二処俱為二吉備公之艸創」故也

山、三処俱為二吉備公之艸創」故也

山、三処俱為二吉備公之艸創」故也

山、三処俱為二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上始祖「寺有二十一面観世音像、初吉備公入唐也、唐人為上

(下八釣)

〇百貫川水送り約定の事写

元禄十五年八月廿七日

(天図近世文書)

村奥山村雷村三ヶ村、水論度々僉議之上、此度為検使西和州十市郡木之本村下八釣村弐ヶ村与、同国高市郡飛鳥

香久山地区

請等一式三ヶ所おいたし候附、三ヶ村田地紅水入渡り、 吉等一式三ヶ所おいたし候附、三ヶ村田地紅水入渡り、 京本院門手代田中孫平次、久下作左衛門手代柿沼新五 大衛門指遣之糺明之上、木之本下八釣之者申趣者弐ヶ村 大塚健処、余水請之様ニ申椋、剰百貫川之溝口を関留候 大塚に近、京本語の百拾石余之田地及旱損之由申之、飛鳥奥 大塚に近、京本語の百拾石余之田地及旱損之由申之、飛鳥奥 大海水落入候故、をのつから養水ニ用来候、木葉井手普 大河水落入候故、をのつから養水ニ用来候、木葉井手普 大河水落入候故、をのつから養水ニ用来候、木葉井手普 大河水落入候故、をのつから養水ニ用来候、木葉井手普 大河水落入候故、をのつから養水ニカー大石渡り、

へハ、余水斗ニ而者用水可為不足候条、此度見分の趣ョニも有之、第一木之本下八釣迄百貫川之外水掛り無之候候段無紛候、井関普請不立会候而も、水わけ取候例近在申候、然上ハ百貫川之水を以、木之本下八釣之用地養ひ之、小山村江も関取候故、全木之本下八釣之用水とハ難

山之用水ニ取其末とらの井ニ而候を在南浦南山両村五関余水なうてハ難遣し由候雖申之、三千坊川者還而飛鳥奥

以相究候、 勿論飛鳥奥山雷土三ヶ村迄、 四日四夜取之、

五日目ニー昼夜百貫川溝口を明、木之本下八釣迄茂用水

勿論其節三ヶ村溝口者関留可申候事

右之通双方堅相守、不可違背者也

可遣之候、

元禄十五年午八月廿七日

延享元年四月

〇下八釣村村明細帳

(下八釣区有文書)

子四月 延享元年 村 明 十市 細 下郡 帳 -八釣村

御上へ差上申候下帳也、但し御巡見様へ上ケ申候

人数百拾八人

内六才以下女

壱三 人人

(女男 カ) 六五 拾三 人 人

家数弐拾壱軒

内

尼僧

本家

四壱 人人

牛

四疋

馬

無御座候

入用ヲ以川除御普請宛仰付候、 百貫川筋当村領内五百拾間西川東川共、 去ル亥年定式御入用銀 是 ハ 前べゟ

宛下候 水上高宛山ゟ飛鳥川江出、飛鳥川ハ枝百貫川当村与飛

鳥川木葉井関迄凡三拾五町、 川下へ同郡出合村領米川

へ落合申候、 凡九町

一、蛇籠関字百貫川筋

私領木之本村七分 壱ヶ所 立会 かい 立会

壱ヶ所

右同断

六ヶ所長

延拾弐間

長壱間半ゟ壱間弐尺迄八ヶ所内法壱尺四方

一、分水同川筋

、当村領之内井関同川筋

一、伏樋

山林野原并秣場地元入会

小物成納

、他村江納候小物成、

11

無御座候

他村ゟ取立納候小物成 11

溜池

牢屋

郷蔵

田木綿作リ三分

小作直段 早損場ニ而

以上

延享元年

子四月

田木 綿 五四 分分 半半

差入申誤リー札之叓

11 11 11

御座候

右之通此度役人共立会吟味之上書上申所、 畑反ニ付壱石六斗ゟ壱石壱斗迄田方反ニ付壱石六斗ゟ弐石壱斗迄 相違 無御座

仕、

五人組中間相除 + 候筈之相談村方一統 決 着

処

□札ニ私シ共、

両人各当テ之差札数

多

在

之候

仕候

大和国十市郡

下八釣村 庄 屋 藤 兵

衛

(1)

年 寄 新 兵 衛 (A)

同

断

惣

助

1

組 頭 惣 兵 衛 **(1)**

百姓代 惣右衛門 (II)

芝村 御役所様

香

久山地区

L__

〇長兵衛、 弥八郎不埒詫入一札

天明七年三月

(下八釣区有文書)

村方五人組御改メ替之砌リ、 近年野荒、小盗之類多ク徘徊致シ候趣意ニ而、 平生之不宜シ 者 ハ 差札 此度

趣 翌朝被申聞重々申訳無之後悔至極ニ奉存候、 尤是

迄之儀ハ私とも無何心当規出来心之不埓ニ御座候間、 此度当村兵次殿善七殿右両人を以、是迄之儀ハ幾重ニ

合入、御村方江、宜敷御申入被下度相詫入候処、 も奉誤入候間、 向後者急度相嗜、不埓成儀仕間敷と請 御納

方御定書之通り急度相守、 然ル上者自今以後ハ此度村 向後不埓成儀決 īfti 仕 間敷

得被下、千万難在奉存候、

件

依之挨拶人加判を以、

誤り一

札差入申候処仍而

如

天明七年未三月

十市郡下八釣村

挨拶人 兵 次 **(1)**

本人長 兵 衛 **(1)**

挨拶人 善 七 (1)

本 弥 郎 1

村役人中

O村方風儀取締請合一札

天明七年五月

(下八釣区有文書)

差入申一札

直ニ付テ諸方在町之ものとも、夫々最寄致シ家等をつ 去午歳当未年五月も両作不作相続キ候ニ付、 諸色高

ぶし、 頭様御触書を以御下知被為極候者、若右躰之儀を企テ 或者悪事を致し候儀、粗有之ニ付、此度従御地

決而参ル間敷候旨、堅ク被為仰附候、御下知之趣急度 身同類いたし、亦ハ右之場所へ見物等ニ名ぞらへ、

とも、最寄一身同類見物等ニも決而参ル間敷候、 残急度相慎、右躰之儀村内ハ勿論、隣在地所々有之候 万

奉畏候、然ル上者本人者勿論、子供下人ニ至ル迄、不

心得違相背キ、不埓成儀仕出し候亨相聞候ハヽ、 人中御計らい御地頭様へ被申上、 いヶ様之越度ニ茂被 村役

統連判仕一札差入申処、 仍而如件

仰付可被下候、其時少シも申方無御座候、 為其村中一

天明七年未五月

村役人中

O下八釣村村明細帳

長 兵衛

(他十六人連印、略) (II)

(下八釣区有文書)

文化十年六月 文化十年

明 細 帳

村

大和国十市郡

丙六月

下八釣村 下八釣村 土砂留場 肥者油脂干 脂

高弐百六拾四石四斗五升六合

此

反別拾四町壱反壱畝弐分

田高田別 拾三町四反四畝廿歩 台 下田壱石弐斗六升弐合代少 上田壱石七斗壱升壱合代少 上田壱石九斗四升六合代の 石ニ付

畑屋敷田別 此分米拾石五斗三升三合 家数弐拾軒 此分米弐百五拾三石九斗弐升三合 六反六畝拾弐歩 屋舖壱石五斗七升八合代上畑壱石六斗壱升代

人数百弐人 僧女男 壱四五 人拾中七 人人

延享元年 家数弐拾壱軒

人数百拾八人男女合

天明七年 家数弐拾壱軒 人数九拾八人男女合 馬無御座候 牛壱疋

仕候 御座候

用水川掛 小物成置上場 歩取取下ヶ場

IJ

農業之間糸挊

香 久 Ш

地

X

11 無御座候

大川筋

無御座

自普請無し

内心御普請所拾五

ケ所

無御座候

無御座候

御林領内 常永場 =

`

百姓持山

無御座候

無御座候

米の津出 ī 場

御朱印地 皆銀納可仕候

夫食米七石七斗壱升五合 領内名前古名

御囲籾

困倉銀当村

九十年以上之者

無御座

候

右之通相違無御座候、 以上、

無御座候 用意仕候

無 無御座 御 座 候 候

無御座 無 **海座候** 候

大和国十市郡下八釣村京小堀中務様御代官所

庄 屋 伝二 郎

庄 兵

年

(下八釣区有文書)

〇下八釣村寅年免定之事

文政元年十一月

下八釣村

高弐百六拾四石四斗五升六合

寅年免定

当寅年揖七月皆無也 毛付

此取米百弐拾五石 出取米百弐拾五石 毛付五ツ三分弐厘八毛余高四ツ七分三厘六毛内 残高弐百三拾五石四升四合

弐拾九石四斗壱升弐合

拾弐石五斗弐升 拾分一大豆銀納

百拾弐石七斗壱升五合 九分米銀納

O下八釣村御年貢銀皆済目録

文久三年四月

戍歳御年貢銀皆済目録之事

、米百三拾八石六斗

此納訳

拾三石八斗六升

此銀弐貫三百六拾五匁弐分壱厘 十分一大豆銀納 米壱斗五升九合

米五斗弐升九合

六尺給米

御伝馬宿入用

三二四

銀三拾九匁六分七厘 御蔵前入用

右之通庄屋年寄惣百姓出作之もの迄立会、披見之上無高

下致免割、来ル極月五日以前急度可皆済者也、 文政元寅年十一月

小堀中務倒

百年庄 姓寄屋 中

(下八釣区有文書)

下八釣村

但壱石二付 銀百七拾目六分五厘

百弐拾四石七斗四升 九分米銀納

此銀拾八貫六百七拾六匁五分七厘 但壱石ニ付 銀百四拾九匁七分弐厘八毛

米四石壱斗五升八合

米五斗弐升九合

六尺給 口米

、銀三拾九匁六分七厘

御蔵前入用 御伝馬宿入用

、米壱斗五升九合

外米~四石八斗四升六合

此銀七百弐拾五匁五分六厘 但

九分米同値段

右者去戌年本途幷小物成品之金皆済ニ付 度々相納候請取 納合銀弐拾壱貫八百七匁壱厘

通ひ与引替加判候、重而手形類差出候とも可為反古者也 文久三亥年四月 村田丈四郎即

右村庄屋

(木之本)

O木之本村文禄御検地帳

文禄二年九月六日

(天図近世文書)

大和国十市郡木之本村御検地之帳 文禄二年2末

九月六日 東玉

(末尾集計ノミ)

上田 拾壱町二畝廿六歩

下田 中田 八反廿四步 壱町五反九畝廿七歩

中畠 上畠 壱町九反三畝廿七歩 壱反四畝九歩

下畠 壱反四畝廿四歩

屋敷

弐反五畝十二歩

分米廿三石二斗六升四合

分米九斗七升六合 分米廿壱石九斗二升 分米百七拾壱石八升七合

分米壱石一斗八升六合 分米壱石四斗二升八合

分米三石四斗九合

香久山地区

三五

惣都合弐百廿六石八斗八升

町数合拾五町三反七畝九歩

O 木之 本村 段 取 帳

明治二年

(天図近世文書)

「明治二年大和十市郡之内段取帳 大福組」

木之本村

本高弐百弐拾六石八斗八升

内

荒無地高 五石八斗四升八合八夕

毛附高 弐百拾六石弐斗壱合八夕

御取米百三拾石弐合去辰年

屋敷高

四石八斗弐升九合四夕

惣畝数拾五町五反壱畝拾九歩

分米弐百拾六石弐斗壱合八夕

高石ニ五ッ七分三厘

分米弐百拾石七斗

拾五町六畝弐拾五歩

田方 三二六

四反四畝弐拾四歩

畑方

分米五石五斗壱合八夕

但田畑共上中下之差別相分り不申候

同弐石四升 同弐石三斗壱升

米壱斗六升

山手米

同弐石五斗

同壱石三斗 小使給

庄屋給

千石夫米 御種貸米利

人数百九拾弐人 家数三拾壱軒 銀弐拾八匁四分壱厘 内一軒寺 隔年納伐竹代

内 女男 九 拾 四 人

弐疋 七人

牛数 組頭

西 岡 源之進

一代限無足人格 小山清右衛門 北吉与兵衛

同断 無足人格

苗字帯刀御免 北吉五郎兵衛

候時者、

御奉行たび < こといして可仕候、為後日一筆(マ3)

則水出シ、又池之御普請仕

ニ膳夫村へ申付納所可仕候、

社

氏神

八幡太神

净土宗

当村人家中ゟ東之方隣村南浦村出屋敷迄凡弐町、 西

之方別所村迄凡壱町半、 南之方小山村迄凡四丁余、 北

之方下八釣村迄凡弐町

〔南浦〕

O南浦池水膳夫村へ下すニ付覚書

慶長七年八月八日

申処ニ被成御同心、 南浦之池之儀ニ付而石原田源内方南山五藤次両人以御理 膳夫村へ水可被下由恭存候、然上者

池米之儀南浦之水帳之高九石三斗弐合ニ、毎年四ツ物成

如此候、仍如件、 慶長七年 秋山内 土屋彦太郎

八月八日

|花押

同

橋和田八兵衛

久正花押

赤井 (カ) 郎 兵衛様御内

和田二兵衛殿

由良新左衛門殿

同

O 南浦池拡張同心ニ付覚書

(南浦町区有文書)

寛永九年二月二十四日

(南浦町区有文書)

南浦池ひろげ申度由、 八木正左衛門殿

以御理申候処、

被成御同心忝存候、

三七

香久山地区

、右御年貢無□□毎年御皆済可申候、 、先年ゟ之池とと水帳之表、畝高六段八畝九分、此分(*) 、□池之畝高五段四畝廿分、 仕候時、御奉行といにて可仕候、 立合、定木をうち相究申候、然者先年ゟ如定其池普請 米九石三斗弐合、此物成三石七斗弐升一合、必定毎年 其時一言子細申間敷候、 申候、右段々以来相意之儀候ハ、池を御破可被成候、 □□御奉行とい候て出し可申候、うを取候時立合取可 合、此物成七石、但仮米共 上申候、此外仮米有 寛永九年申二月廿四日 南浦甚七郎殿旨 為後日証文如件、 同 同 此分米七石七斗九升弐 久 孫 太郎右衛門尉 右 五. 同水を出し候儀も□ 衛 郎 則□池ニ仕候分(後ヵ) 門 (筆印) 尉 (筆印) (花押) 右者当未年小物成米竹、 無相違致割付、極月廿日限急度可皆済者也 O南浦村小物成割付覚 一、小竹三束 正徳五年十二月 高七升五合 此取壱升壱合 正徳五年未十二月 藪役 高壱つ四分六厘(破) 出合

三八

助二郎 (1)

彦 六 (筆印)

甚 五. 郎 (筆印)

(南浦村区有文書)

和州十市郡南浦村未年小物成割付

如斯村申所持之百姓不残立会

辻弥五左衛門

南浦村

(藤堂和泉カ)

助

郎 郎

(花押) (筆印)

同

源

七

O 新池拡幅 願上書

文化十一年六月十一日

(南浦区有文書)

乍恐書付を以奉願上候

、当村領字新池与申、先年ゟ御上様池床御赦免之溜池 得共、 ニ而御座候処、池幅狭く候而年へ致繕ひ十分ニ水込候 本池せまく御座候へ者、天気相続候節切出し候

へ共 末末迄池水行届不申候而、年~旱魃仕致、稲作

不作、

得共、 是迄差押置申候、 此度亦と歎出候得者、 池続栄

自然池懸リ之百姓困窮仕候而、村役人江歎出候

切添、 三郎屋敷明地ニ相成候ニ付、何卒ハ件之屋敷を右池ニ 池幅広め之義御願申上被下度義、 池掛リ百姓由

之甚歎出候三付、乍恐此段奉言上候、

、右新池懸リ百姓池水込リ薄候故、 迄水行届不申候ニ付、自然百姓困窮仕候而、是迄度と 池幅広め候様ニ願出候得共、村役人中より差押置申候 池掛り田地江末へ

又々役人江願出、

甚く難き申候、

依之恐多候得共

香久山地区

申間敷候、此段御聞済被為 地無難渋生立出精仕度、何卒へ切添両様とも御赦免被 四合御座候、右池地ニ切添池幅広め候得者、 畝弐拾壱分切添江候義奉 誠ニ困窮之百姓気之毒ニ存候ニ付、此度栄三郎屋敷三 下成候者、池堀人足入用之儀者御上様へ御願申上 御願申上候、御高四斗四升 下成候ハ者、広大之御慈 池掛り田

為

南浦村御知行所

悲之難有仕合ニ奉存候、以上、

文化十一年 戌六月十一日

百姓惣代

与. 源 + 八 郎 郎 **(11)**

年寄

利 助 印

庄屋代 利 兵 衛 (A)

御地頭所

御役人中様

O 南浦村控帳

文政二年正月~嘉永七年

(南浦区有文書)

香久山地区

己文政□□□ 南浦村控 帳

卯正月吉日

歳々諸事印書有之候

山論公事書物 ならひニ御さいはんかき 同上田方有之 上田方ニ有之

同上田方有之

ならひことりかわせしよもん 上田方有之

口掛

壱桝

汽十大

右之通当村裏借家ニ至迄家別ニ不残様ニ相糺候処、右

北池之書物

覚

木地 壱弐五壱 合合升 勺 合九丁

之外一切所持之者無御座候、若隠置候者有之候得者、 如何様共御取斗被下候、為後日之仍而如件、

文政元年

京都

三輪竹田屋

寅九月十八日

甚七方ニ御改被成候

此桝ニ付諸入用拾五匁相懸リ 御用御桝座

外二人足夫代懸リ申候

、金壱両 道つくり御酒料 卯八月ヨリ初之文政二年

施主藤兵衛

代六拾目

但し利足年壱割定

此銀当村利兵衛頂リ

巳八月□庄屋渡し

一、銀三百目北池之銀子(利兵衛殿かし卵十二月十六日) おやしき

此銀者奥出し

卯八月十二日

南都春日若宮御殿木

中木弐拾本

但シ壱本ニ付 但シ壱本ニ付代七匁三分宛 田原本村大納屋

社之雨之復(覆)

和州十市郡南浦村 氏神香久山大明神

中飯 弥 市 郎

四分弐リ七毛宛掛リ

浅古村

但シ壱本ニ付

四分九リ六毛宛掛リ

政右衛門

御泊

奉行

中条太郎右衛門様

文政三辰六月改

分銅改 同年七月改 弐□二 三 三 三 三 面 利源上 兵十田 衛郎

六四六四壱九 挺挺挺挺挺挺 并銀秤

(中略)

御窺奉申上候

香久山地区

壱銀三六十弐 グ秤グググ十 目 五目目三 百 グ

秤座改

村千木

右同断 拝殿

梁行弐間

給損無座候(御脱カ) 屋祢瓦葺 桁行三間半

給損無座候(御脱力) 梁行壱間半 屋祢藁葺 桁行弐間半

右雨覆拝殿共朱引之通朽損候、 無山木屋称地等取替建之 御窺奉申上候

儘有来リ之通屋祢葺替修覆ニ御座候、 右修覆之儀南浦村 細工

之趣御聞届被成下候ハ、難有奉存候、

之儀私江被相頼候二付細工仕度、

此段御伺奉申上候、

右

瑞籬

和州十市郡南浦村

赤井宗五郎殿知行所

文化七午年四月廿九日 受負大工 久 四 郎印

藤堂和泉守殿領分

同末社

梁行壱尺四寸

竜王社

同州同郡谷村之内二王堂

多武峯組

組頭 平 八印

中井藤三郎様

御役所

表絵図朱引書付之通細工可仕者也

文化七午年八月

中藤三郎印

和州十市郡南浦村

氏神大神宮

(瑞籬ノ絵略ス) 高サ三尺

入口高サ六尺 惣長サ四間

屋根一躰二瓦葺

給損無座候(御脱力)

割印 向拝八寸

屋根箱棟板葺

(図略) 割印

同末社

同社

右同断

(図略) 桁行壱尺四寸

千木勝尾木有之

絵損無御座候

表一尺五寸 大神助治 飛鳥土佐守 下ノ御前社 伊弉冉命 裏大和国十市郡 香久山南浦村 候、 通扉新木ヲ以取替建之儘有来リ之通修覆ニ御座候、 右瑞籬丼竜王社壱社此度取崩、 竜王社伊弉諾社伊弉冉社弁才天社、 新木ヲ以如元建替ニ御座 右四社ハ朱引之

同末社

伊弉諾社 (図略) 割印

右同断

大神助治 大神助治 表一尺五寸 下ノ御前社 伊弉冉命

香久山南浦村 裏大和国十市郡

同末社

伊弉冉社 (図略) 右同断

割印

同末社

(図略) 右同断

相済、

細工之儀私江被相頼候付、

細工仕度此段御伺奉申

右建替并修復之儀、地頭表届之上、南都御番所様表御願

上候、 右之趣御聞届被成下候ハ、難有奉存候、以上、

文政四巳年八月廿一日

赤井宗五郎殿知行所

和州十市郡南浦村

請負大工 久 四 郎即

多武峯下同州同郡八井内町

大工惣代 治 兵 衛印

中井岡次郎様

御役所

表絵図墨引朱引書付之通細工可仕者也、

文政四巳年十二月

中岡次郎印

割印

横

(図略) 凡六寸

(図略) 凡六寸神霊榊

幣

(図略) 凡六寸神霊榊

幣

(図略)

凡六寸

横

弁才天社

香久 山地区

香 久

(中略)

嘉永弐年酉十一月廿七日ニ御殿様五郎作様と奉申、 則御

死去被為成候二付、 知行所ゟ金子壱両、 先格相知レ不申候得共、 猶又法然寺金百疋、日向寺同五十 御香奠御

同庄屋孫兵衛ゟ百疋、南浦村庄屋喜右衛門ゟ百疋、宮

御厨子北室院ゟ五十疋、池尻村本福寺ゟ五十疋、

之森村庄屋佐平次ゟ五十疋、右之通之申ニ候、且又御

疋

法号者慶雲院殿善応宗積居士奉申也

嘉永三年戌正月

(中略) 嘉永七年寅三月日

御印桝改員数帳 上紙書付

十市郡南浦村

覚

同 □掛壱斗桝 壱斗桝 壱挺 壱挺 池尻村郷持 喜右衛門 長

五.

同断 同 利 兵 衛 孫

同

兵

衛 郎

> 同 同断

同 善

七

三四

宇右衛門

庄左衛門

壱挺 五. 郎

兵

次

五合桝

久

兵 助

若隠置候もの有之候得者、 家別二不洩様相糺候処、右之

如

南浦村

庄屋 喜右衛門

即

年寄 利 兵 衛 印

三冊

四冊

藤

兵

衛

外一切所持之者無御座候、 右之通当村裏借家ニ至迄、 為後日仍而如件、

寅三月十六日

何様共御取斗被下候、

(中略)

御桝座

取附帳 小入用帳

一、膳夫村ゟ山論ニ付御裁許書	一、春日御殿木役人休泊書付十市郡為取替	一、煙亡源四郎ゟ村方へ差入	一、南山村ゟ小物成年貢ニ付山分済証文	一、南山村ゟ竜王社ニ付為取替	一、南山村ゟ山年貢差入	一、虚無僧留場印書	一、煙亡屋敷規書	一、脇井手絵図	一、村絵図	一、毛見帳	一、租税預五ケ年平場帳	一、高反別帳	一、トク下ヶ帳	一、高トク帳	一、夫代割帳	一、打物帳
壱通	壱冊	壱通	壱通	壱通	壱通	壱通	壱通	壱面	壱面	壱冊	壱冊	壱冊	壱冊	壱冊	三曲	四冊
一、村方へ申渡し書	一、番人四郎三郎ゟ村方へ請書	一、村甚内ゟ村方へ差入	一、御印桝改員数帳	一、分銅御改帳	一、御小物成小竹御免状	一、御殿木一条明細書	一、東江土出し場村弥三郎ゟ差入書	一、膳夫村江預ヶ山ニ付為取替	一、枩田地元~預□ニ付膳夫村ゟ差入	一、枩田地:付水論:付済証文	一、枩田地ニ附膳夫村ゟ魚取ニ付差入	一、枩田地ニ付膳夫村ゟ為取替	一、米川新井戸ニ付池之内村より為取替	一、先山庄屋宇右衛門より為取替	へ請書	一、先山庄屋弥右衛門より非人小屋ニ付村方
壱通	壱冊	壱通	壱冊	壱冊	壱通	壱冊	壱通	壱通	弐	壱通	壱通	壱通	壱通	壱通	壱通	

香久山地区

三五五

、村方名寄帳

(後略)

壱冊

O指山拝領定

文政五年十一月

(上田貞三文書)

定

一、指山

壱ヶ所

右者其方儀積年無懈怠出精相勤候二付、 此度指

勝手次第永々支配可被致候

山拝領被仰付候間、

右兔状仍而如件 文政五壬午歳十一月

芦田 長八卿

上田文右衛門殿

、上田文右衛門父子

下候叓、

御用向ニ而向後御呼出之節者、

出府為入用玄米五石被

内 弐石五斗

御上ゟ被下 三ケ村ゟ可差出

、村役之者若向後御呼出之節者出府為入用玄米三石被 但 村方願筋ニ而出府之節者三ケ村ニ而可差出且代替り其外 始而御目見等ニ而出府之節者当人村方半分ツ、差出事

下候支、

内 壱石五斗 御上ゟ被下

三ケ村ゟ可差出

但 村方願筋ニ而出府之節者前同断逗留中町宿被仰付候叓

右之通向後御定候間可被得其意候

天保十二丑年四月

赤井五郎作内 角倉右左衛門印

上田文右衛門殿 三ケ村役人中

定

天保十二年四月

(上田貞三文書)

三三六

大庄屋出府費支出方定

〇南浦村、 膳夫村道造二付取替一札

嘉永七年八月

為取替一札之事

(南浦区有文書)

、今般南浦村出やしき垣内より道作ニ付、彼是双方行

互ニ有之、新ニ改可被下様掛ヶ合ニ付入縋、此度取曖 違ニ付、此度膳夫村持山林之義、先年五間通り為取替

今一応改ニ相成双方立会之上為取替左之通り御座候、 人膳夫村善七郎南浦村与平治久五郎、右三人江任相則

、山林持主之義ハ先年五間通り相違無之候得共向後之

候ハ、山支配人江一応御答被下候、若霜月迄捨置候 義者唯今改通り年く秋彼岸限リ苅取可申候、尤打捨置

、勝手ニ苅取可被下候事、

、山下田畑持主之儀者、縁かかり之儀者是迄通り、 山□出来候時者山持主へ相答双方見立之上及懇談、(哉ク) 重 若

頭ケ間鋪義者決而致間敷候事

田畑年~縁リ切立候儀者鍬鋤ニ而茂 向後残間敷約束(ママン

香久山地区

ニ御座候事、

通ひ道之義者先規之通り持主ゟ苅取可申候事、

付為取替一札依而如件、 右之通リ双方立会内済相懸候上者、

双方違心無之候ニ

嘉永七年

寅八月日

植村出羽守様御預所

庄屋代年寄 ・

和州十市郡膳夫村

衛

(A)

同断

庄 次 郎

山持惣代

衛

(EI)

(II)

取嗳人善七

郎

藤堂和泉守様御領分

庄屋代年寄

同州同郡同村

七 (A)

四 郎 (11)

三三七

赤井隣之助様御知行所

同州同郡南浦村

庄屋 喜右衛門

年寄

同断 勘 利 兵 四 衛 郎

取嗳人

同断 平 五. 治

郎

○南浦村可納租税之事

明治二年十二月

(南浦区有文書)

巳年可納租税之事

和州十市郡

田高三百拾五石七斗八升七合八夕 高三百九拾八石三斗七升三合 無地高

此訳

内二百九拾四石三斗弐升六合 巳皆無引

内二百拾石三斗六夕

此取米九拾五石六斗七升弐合

残高

弐百弐拾壱石四斗六升壱合八夕

三三八

内訳

本免

高拾六石四斗四升五合五夕

此取米七石六斗九升六合

畑高七拾弐石弐斗八升四合六夕

高壱石三斗九升五合八夕

高六斗三升七合

小以高弐石三升弐合八夕

此取米弐拾八石九斗六升

残高

七拾石弐斗五升壱合八夕

内訳

此取米弐拾六石四合

高六拾四石八斗四升七合三夕

本畑

屋鋪

高弐百五石壱升六合三夕 此取米八拾七石九斗七升六合

池床弁高

煙亡屋敷高引

宮谷池床引

高五石四斗四合五夕

此取米弐石九斗五升六合

取米合百弐拾四石六斗三升弐合

米四石八斗七升

米納

内

米百拾九石七斗六升弐合

此永千拾壱貫四百六拾壱文九分

石代金納

荒年貢

此永五貫九百九拾六文四分

一、米七斗壱升

一、米三石七斗六升

口米

此永三拾壱貫七百五拾五文五分

御伝馬宿入用

此永弐貫拾八文五分

一、米弐斗三升九合

一、米七斗九升七合

六尺給米

此永六貫七百三拾壱文壱分

、永九百九拾五文九分

御蔵前入用

米四石八斗七升

納合

香久山地区

奈良県

紙遣之もの也、

作之者迄不残立会無甲乙令割賦致皆済ニ付小手形引替 右者当巳御年貢其外共書面之通相極条村中大小之百姓入

永千五拾八貫九百五拾九文三分

明治二已年十二月 御役所回

(戒外)

O 村方 古 様 御 尋 二 付 返 答 書 上

安政七年三月

乍恐以書附御返答奉申上候

、此度従御上様五拾ヶ年以前夏有無之儀、 村古来ゟ無高之百性ニ而、(姓) 被仰付奉畏り候、村方一統之者申候儀者、 永々預り百姓致罷居候処 寺地頭戒外 可書出候様

三三九

庄屋年寄儀者村方ニおゐて、 右用等之儀者、夫代二而相勤申候、 諸式掛り物之儀者、 御上様ニ而御末始被成下、(始末カ) 年々格別廻り庄屋役ニ御 右先年之夏有来之

儀左ニ奉申上候

宗旨有無之儀御断

登津川大原村、親西尾丈助忰治兵衛ト申者、(+) (小力) 、登免内養子治兵衛儀者、五条御大官所支配、(代) □寺檀那善宗ニ紛無御座候、(禪カ) 此段御断奉申上候、 同郡同村 吉野郡

、与八郎召遣之儀、宇陀郡菅生村親善兵衛忰佐七ト申 者、萩原宗躰寺旦那と紛無之候、(はカ)(ニカ) 村清兵衛娘、 同村上宮寺浄土宗ニ紛無之候、 女之儀者高市郡上居 御断奉申

、なる養子皆名喜八郎儀者、(飛ヵ) 而彼是申立延引二相成、 村孫兵衛忰利介ト申者、 ニ紛無御座候、 是迄早々人別引取度候得共、 早と引合人別引取之旨、 宗旨者今井町正然寺門路旦那(称念力)(徒力) 高取御預リ所高市郡雲梯 旦那寺ニ 此段

御断奉申上候

両度秋道造り之支

、此儀者古来ゟ御定之道造一 升づゝ御下被下、諸式入用共御上様ニ可被成候、 所様御巡行三而道造有之候、 切無御座候、 人足夫代壱人前二而米弐 南都御奉行 近年

者人足御取被下候共、飯料トして米壱升づゝ御下ヶ被

下、百姓一統之者甚々及難儀候、古来を 京南都御触数之叓

触書触留リ諸入用相掛り、 毎年触数凡四五拾本余り、賃銭弐百文程相掛り、 先年者御上様ニ而諸勧化共 御

米 近年不作相続、 壱人前ニ壱斗宛被下、 当村ニおいて、五拾年以前者、 御僧被下励申候、 米穀高直ニ相成候ゆへ、投用小用定数(材力) 此段次ゟ御知らべ奉申上候、 近年村用小用等相増申候、 相励罷居候、 村中廻り役ニ而給米 近年庄屋年寄之給

相分リ不申候、

地正ニ而式役有無之儀

、庄屋年寄肝煎村用小入役申定之亨

御上様ニ未始可被成候、

地正之儀ニ付、 式役相掛リ候叓者、 寺地頭戒外村 || 者無

高之百姓ニ而相掛リ不申候 京南都触、 村内ニ支配致 居 IJ 候ハハ、 是村割ニ相

成 都御番所様より御目附役人度~御申被越候ニ付、 **幷触留リ諸勧化入用共、凡十六匁程相掛リ、** ケ

度ニ入用銀七八匁位ノ相掛リ、 土砂御奉行所御廻リ被成候儀、 是村割相成申候、 村役人者勿論人足共

之中五米五升被下、

泊り午飯可有之候

二日づく、 相 動き候て、壱人前ニ夫代米弐升づゝ御下ヶ被下、 南都御奉行所様御巡行之道造之人足、垣内砂持人足 村中不残罷出、 此夫米弐斗被下、外へ人足

リ壱人前ニ米五升づゝ被下、 南都春御おんぼくニ付、(吸木) 村役人罷出候ハハ御定之通 請入用之儀者御上様ニ可

被成候

代米五升被下、 京南都御触賃銭紙代、 諸入用之儀者御上様ニ被成候、 諸勧化丼ニ触泊リ、 南都行夫 近年者

□堂巡在料肝煎給米ニ而村方差引

庄屋年寄給米丼番給共〆米九斗弐升、

村高無御座候

ゆ 格別ニ割い相成申候

御氏神様御日待入用、 村方格別ニ 割掛り、

、村方宗旨長面、紙代盆料共、庄屋給米之内 = (要) (ママ) 相成申

、近年御上様より諸人足多分ニ御取被成候、 者、 無御座候処、 内与助殿方へ数度願出候得共、御上様ゟ何之御沙汰 者、 トして、米壱升づゝ御下ヶ被下、 段へ願出候儀ニ付、 無高百姓ニ而、日々持之者共及難儀、 何卒諸人足之儀者、 人足夫代御増被下候様ト、 御寺領地 先例之通り被成下候 村方一統之 頭 夫代飯料 戒 外村 山

、、村方一統之者難有奉存候、

五拾ヶ年以前有無之儀

ハ

式入用之儀者、御上様ニ末始被成下ヶ被下候処、(始末力) 庄屋年寄之給米壱人前ニ壱斗づゝ御下 ケ被下、 相励申候儀

地頭

久山地区

香

ニ相成申候

三四二

村役ニ罷出候て、御夫代壱人前ニ米五升づゝ御下ヶ被 右役用ニ罷出候て、御定之夫代御下ヶ可被成候、

五拾ヶ年以前者、 諸人足御上様ゟ御取被下候ハ、一

日ニ御上雑用ニ而、

壱匁三分づゝ御下ヶ被下、近年人

ニ相成申候、

足多分ニ相働キ候得者、 ヶ被下、右人足之儀者、夫代御下ヶ被下候て村方一統 飯料トして、米壱升づゝ御下

難有奉存候

済之儀者、 者、 御上様ニ御上納御取立被成候、先年御寺領直段之儀 天領ゟ弐匁下ケニ而御取立被可被成候、(御料) 毎年十二月十五日 二相納、 皆済仕候得と 御上納皆

、乍恐先規之夏、人足山西戒外出入者、四人して壺坂 行人足相働、山年貢弐升六合、壱人前毎年正月七日

先例之通リ御願奉申上候

上、つなかけ致し相済候て、わら代四人之内へ壱匁可 づゝ持参ニ而、 西大川ニつなかけ、 右四人者共御上ニ而午飯致し 文殊堂ニ而仕立、此外入用て御上寺ゟ 右四人して各とニ而わら壱束 |後へ御励候

被下候、

、御上様ゟ宮講中江、 待料トして、 山壱ヶ所、 先||院御取上被成候 御供物田トして、 此儀者書下も有之処、 田地壱枚、日 御取上

前文之通り違無御座候、 先規有来之夏書出し可申候、右

躰之百姓致居候処、

地正ニ付式役掛リ候支、

村高 無之

近年諸入用段と相増候ハハ甚と難義ニ御座候、 右等之入用高江割出し高下無之候、百性為方ニ相成候、(姓) 処、多分ニ相掛リ候共、格別ニ割掛ケ、村高有之候て、 何卒人

御上様御見札之上、百性相続可相成様、 (賢系ヵ) (姓) 願奉申上候、 御取斗之段、 御

御年預所様

成候上ニ而、 候て、若年之者ゆへ先規有無之義、及聞□□ニ御咄し被 右六ヶ条之儀書出し、乍恐村方寄合致候て一統之者呼寄 書取有平之亨書出し申候、丼余分之亨迄書(キック)

此段断奉申上候、

上

庄屋

年寄

組頭

文まて奉申上候儀者、古来之事相別り兼候様、乍恐連印(タゥク) 右六ヶ条之趣、逸々奉申上候、 猶恐多奉存候得とも、

を以て奉申上候、已上、

安政七申三月

庄屋郵

年寄館

組頭印

惣代邸

御年預所

〇戒外村年貢仮免定

仮免定

明治初年?

田畑米合拾四石四斗八合

香久山地区

(戒外区有文書)

十市郡戒外村

(合印) 米六升

米壱升八合

六尺給米 伝馬宿入用

永七拾五文

蔵前入用 当県納 口米

O元地頭支配不帰依願上書

明治三年十月三日

(戒外区有文書)

乍恐御猶予奉願上候

、当村方之義者、元地頭所支配ニ而者百姓一 々御当所ニおゐて懸ヶ合仕居候得ども、迚も私共斗ニ 及懸ヶ合、不行届之上ハ可願出旨茂仰渡恐入奉畏、精 段昨日書附ョ以奉願上候処、 之儀ニ付、此上ハ御当県様之御支配ニ被成下度旨、其 左候ハ、一応先地頭所江 同不帰依

三四三

日ゟ来ル十日迄御猶予被成下度、 談之上、否可奉申上様仕度奉存候間、

左候ハ、翌十一日ニ 帰村談し申、今 而ハ行届不申候付、依之帰村仕小前一同末へニ至迄相

三四四

ハ罷出、 無相違否可奉申上候、

右之趣御聞届被成下候ハ、、難在奉存候、

以上、

弐斗

五斗

壱石五斗

明治三午年十月三日

十市郡戒外村 百姓代 与 庄屋 清

兵 衛 郎 (無印) **(1)**

諸役入用之義者其時々御下ケニ相成申候、

卯年分

差引残弐拾六石八斗

グ三石弐斗

引之 御免 肝煎給米 年寄給米

納米

、御高三拾石

O戒外村拾箇年平均取調帳

奈良県租税御役所様

明治四年十一月

壱石

(戒外区有文書)

五.

浅半

肝煎給米 年寄給米 庄屋給米

グ壱石七斗

酉年ゟ午年迄拾ケ年平均取調帳

十市郡御料所戒外村

明治四未年十一月

諸役入用之義前同断 差引残弐拾八石三斗

> 納米 引之

、御高三拾石

辰年分

内

壱石

壱石

庄屋給米

内

御高三拾石

寅年分

庄屋給米

老升八合 拾四石四斗八合	一、御高三拾石四斗七合四斗七合	外ニ 外ニ 外ニ 外ニ	一、卸高三合石諸役入用之義者前同断差引残弐拾四石三斗	グ五石七斗	弐 五 斗 斗
伝馬宿入用	午納上駅口米納納諸八用	E4 9	已 平 分 納 米	御免引之	肝煎給米
付、無拠此段御断奉申上候、調奉差上候、前五ケ年之処帳処、漸々寅年ゟ午年迄五ヶ年	分欠之趣ニ而借下ケ無之候ニ付、 無拠村玉(紛失り) 住ニ付、早速旧地預所ゟ借用ニ罷出候処、左候ハ、旧地預ニ而借用致、 早々認メて思立義ハ旧地預所ニ有之候故、村方ニ無之ら	候処、是迄旧地預所迄村役人罷出一、此度酉年ゟ午年迄拾ケ年、上納下恐書附ヲ以奉申上候	百八石三斗四升		永七拾五文
候、以上、処帳面通等も相分り不申候ニ処帳面通等も相分り不申候ニ	た相添候間、明細ニ 無拠村方通面取調 悪地 けん 道面取調 で	人罷出取立居候二付、帳面、上納取立帳取調趣被仰出		和 米 米	蔵米入用

香久山地区

三四五

右之通相違無御座候、

十市郡御料所戒外村

庄屋 清 平

年寄 弥 \equiv 郎

奈良県租税

御役所様

(戒外区有文書)

〇戒外村々方取調帳 明治五年四月

戒外村役人 十市郡

明治五申年 村 方取 調

帳

乍恐取調帳奉差上候

十市郡戒外村百姓

当村戸数拾三軒 人数男女合五拾八人

当村 氏神

皇大神宮社

除地

同

春日社

八満大神社

神職之義者古来ゟ高市郡飛驒村権守等申者兼帯仕居 此境内 壱反歩

候

、興善寺本尊文殊菩薩京都御室末真言宗

此本堂四間四面

御供所 壱ケ所

梁桁 行行 三間四面 弐三 間間 半

大師堂 壱ケ所

合此境内壱反三畝分

右文殊菩薩之義者明治弐巳年中、別当宝寿院元ゟ仏法

辺郡前戴村久平忰ニ八ケ年以来ゟ文殊別当所ニ迄罷出(繋が) 出、社人ト相成高橋采女ト改名仕居候、右之者出生山 之処、御一新ニ付文殊菩薩之縁離当村氏神迄復飾ヲ願

座候処、去午年ゟ元法縁者、 居候、猶又忰穂積道義ト申者、元高市郡岡寺僧分ニ御 右別当所迄罷出、 高橋采

三四六

女ト親子之縁結、 当時名前人二相成居候、 右ニ付文殊

菩薩之義者去巳年ゟ御当県様ニ而御キソク相立迄、 支配被仰付每年法絵相勤、(会)

境内掃除バンタン仕居候、

役人江御預ケニ相成、

寺跡除地場所

、宝寿院屋舗京都御室末真言宗

六畝分

遍照院屋舗 弐畝分

最初院跡 三畝分

正明院跡

弐畝五分

宝積院跡 三畝分

字観堂山 壱ヶ所

堂山 壱ヶ所

文殊裏手山 壱 ラケ所

矢取山 壱ヶ所

,四ヶ所 凡三反三畝分

右之通取調相違無御座候、以上、

明治五申年

香久山地 区

四月廿七日

十市郡戒外村

庄屋 清 平 **(1)**

年寄 弥 =郎 (FD)

幷ニ

御役所様

〇文殊堂等古来通り差置御願書

明治五年八月二十四日

(戒外区有文書)

乍恐書附を以奉願上候

等香久山神社之社地ニ混淆いたし候而、 去巳年中神仏混淆不相成二付、 当所文殊堂幷大師堂 右仏堂の類

取払被仰付、村方一統当惑仕、 直樣御当県迄罷出歎願

仕候次第ハ、当文殊菩薩之儀者古来ゟ長ゥ崇敬罷有候

間 御取払ニ相成候而者甚歎ヶ敷、 何卒右文殊堂幷大

以奉申上候処、 師堂之弐ヶ所丈ヶ、 格別之御憐惑ヲ以て仏地社地之境界御(慇タ) 在来通其儘御差置被成下度段書付

迄御預ケニ相成、 取別ヶ相成、 進而御規則相立候迄右堂宇弐ヶ所村役人 有椽之者守護可致旨被仰渡、 是迄香

三四七

花供養仕居候、 然ルニ今般現在境内御取箇相成候ニ付

而ハ、 仰付、右地所之儀別紙図面之通、相応之直段ヲ以御払 前願之始末被為聞見分在来之儘村方迄御預ヶ被

当酉租税上納割賦帳

三四八

大和国十市郡

村

下ヶ相成候様、 一同伏而奉懇願候、 以上

明治五壬申年八月廿四日

十市郡戒外村 副戸長 弥

三

郎

即

戸 長 清 平

印

前書之通り相違無御座候

即

第拾小区木之本村 戸長世話取扱 西 岡 逸 平

奈良県 御役所様

O戒外村租税上納割賦帳

明治六年十二月

(戒外区有文書)

一**、**反別弐町九反三畝拾三分 検見

此訳

田反別壱町弐反廿三分 此反別五畝拾五分

当酉早損皆無引

残反別壱町壱反五畝八分 此貢米八石五升七合

外米四升四合

検見減

畑反別壱町七反弐畝廿分

此貢米五石八斗六升五合

去申同

内訳

反別壱町三反弐畝六分 本免

十市郡 科村

反別四反拾四分 此貢米四石弐斗八升壱合 屋敷 免三ツ八分 高三拾石 、米拾三石九斗弐升弐合 正租

免四ツ五分 高弐石三斗九升弐合

元大津山

、米七斗八升 、米弐斗八升七合

山税

山税

掛米拾四石九斗八升九合

来ル二月限急度上納可致もの也、

酉十二月 明治六年

右村

奈良県 奈良県

右者酉租税書面之通候条、惣百姓立会無甲乙割賦致決算

外米四升四合

去申減

納合米拾三石九斗弐升弐合

此貢米壱石五斗八升四合

納合米拾五石四斗三升九合

、米四斗五升

口米

右者、去酉租税金書面之通収納令皆済もの也、 此金六拾八円拾五銭九厘伐金四円四拾式銭七厘七毛一糸替

回成三月 奈良県回

副戸長 惣百姓

惣百姓

副戸長

戸長

(戒外区有文書)

O博奕禁止規定書

明治十一年二月六日

O戒外村年貢皆済状

明治七年三月

戌年年貢皆済状

· 一戒外村

(戒外区有文書)

香久山地区

三四九

規 定

此度県□ヨリ法善寺博エキ致候者御差留ニ相成、 (喃奕) 第三大区三小区 十市郡戒外村

之申訳無御座候、 至迄博エキ致し申間敷候、 右名前者承知之上、一統連ヲ以奉請 見咎メニ相成候得者、 子供 一言

以上、

明治十一年寅二月六日

戒外村中

池田弥三郎

長

玉井太兵衛即 竹森藤平

(ナシ)

弥平即 平即 山本清平即 山下源治郎

田 崎

玉井又四郎(ナシ)森 本 徳 松(ナシ)

森又平卿 奥田 平七郎 穂 積 道 義 (ナシ)

尾 利 平側 上田又市郎邸 惣代吉梅与八郎@

西 竹 西 西

堺県令税所篤殿

O村名香久山村復旧 御願

村名旧復御願

明治十二年三月

(戒外区有文書)

大和国三大区三小区十市郡

三五〇

、弊村之儀者、往昔村落之生セシ始ヨリ、香久山村与 砌、 シテ、 其頃戒壇前モ甚シク折柄、右山号ニ差閊候趣を 唱来候処、凡八拾ヶ年已前、元西京御室御所御配下之 居村ニ天香久山與善寺ァリ、 是則三拾石御朱印ニ

世と普通セサル故兎角交済之文章、 ス、倡へ忌スルニ至テ、改号ヲ惑イ、一時之用便ヲ妨 動モスレハ忌セ

以、香久山村ョ廃シ、戒外村与改称相成候得共、其称

ケ、或ハ新号之真偽ヲ怪シミ、商法上ニ差支、旁以難

者、不容易与懸念仕、兼而村民歎息ヲ抱キ宜敷今日迄 渋之次第間 < 在之候得共、一旦被廃候 村号旧復仕儀

知ルモノ寡シ、因テ此儘維持スルキハ、 皆熟知スル与雖モ、未だ遠隔ニ至テハ、戒外村之名称 尚既往□弊障

経過候共、香久山之村号ナル者博ク古籍ニ出テ、無人(テクク)

生シ、 去ラス、夫カ為商業上者勿論、 殆与便益ョ 失シ、 到底一村之 衰微ヲ重ネ候ニ(脱カ) 交際上ニ於テモ紛義ヲ

近年村落合併之向、

村名 改称之分茂 在之哉と承

リ 然者当村之如キ、 総テ旧書類、 又者所持之表具、

洞察ノ上、日新改良之域ニ際シ、更ニ香久山村之旧称 ニ復シ候儀、 迄、香久山之名称消滅セサル儀ニ付、 物品等ノ記名、石牌、 御許容被成下度、村中一統連署を以此段 位牌及社寺寄附物等之彫刻ニ至 何卒敷顕俗否御

明治十弐年三月

奉願上候、

御採用被成下候ハハ難在奉存候、已上

右戒外村

吉梅与八 郎即

(外十四人連印略)

前書出願之事情相違無之、依而奥印仕候也

副戸長

谷

唯

八

即

即

L___

長 本 邨 直 業

戸

堺県令税所篤殿

御願

〇興善寺跡復旧

明治十二年三月

寺跡復旧御願

香久

八山地

X

(戒外区有文書)

大和国三大区三小区十市郡戒外村

真言宗 旧興善寺

右寺儀ハ明治九年中無住無檀ノ故ヲ以廃寺相成候処、往

依ニ仍リテハ新寺建立ヲ始メ廃跡復旧御許容可相成、 古ヨリ村内挙ァ帰依崇敬罷在候ニテ、大ニ帰嚮ヲ失シ、 統歎息之至ニ不堪、今日迄其儘ニテ打過候処、方今帰

附シ、本堂庫裏ヲ築造致シ、別紙之通相続方法相立、 ニ本寺ニ真言宗新儀派総本山長谷寺相定メ、 興善寺再興 更 運ニ再会仕候ニ付テハ、我等申合せ、 旧興善寺敷地ヲ寄

願候也

仕度候条、

事情御賢察之上願旨御充可被成下度、

此安奉

右願人 十市郡戒外村大和国三大区三小区

敷地寄附主 山下源治郎

大坂府下日本橋一丁目 滝川

弥助

十市郡戒外村右遠隔二付代理

西田弥十 郎側

同大区同小区池尻村

五五

北室 完住卿

戒外村惣代

事務所與印

堺県令税所篤殿宛 事務所宛

長谷寺宛

(南山)

O井手水出入済状之事

寬永十三年八月五日

(南山区有文書)

一、南山村領之内□之井水儀者、池之内村与 出 入 御 座(召4)

候、互ニ申分済不申候処ニ、此者共罷出相済申事

、俄水出て井手押候者、二日めの七ッ迄かきやふ n

水、池之内村領あまり候者、下御も御入可有筈相究申 但シ二日めの七ッゟ如先年之水しめョたし、三日

めの七日迄南山領江水入可申筈相究事(シック)

元組合寺 妙法寺住職

吉梅与八郎回

寛永十三年子八月五日

相済可申候、為後日所々庄や嘉判仕候、為是状如件(姉ク) 一札相渡候と申、水出入之儀候者、何村も此者共罷出(タク

大福九太夫印 谷□左衛門印

同 与左衛門印

山田源蔵印

雲□善七郎印

庄屋 甚右衛門印

O南山村年貢納銀之事

文化七年十二月

午年納銀之事

(南山区有文書)

五五二

、此外日照申候得者廿日めニ札ョ立、廿一日ニ壱日一 夜かきやふり之由ニ候、何連も左様之事ニ嗳申与して

五藤治殿

百姓中

高七石弐升五合 高弐ッ五分

十市郡 村

米壱石七斗五升六合

、米弐石九斗 柴山年貢

米合四石六斗五升六合

此銀弐百八拾六匁弐分弐厘

、米壱斗四升 口米

此銀九匁三分壱厘

合銀弐百九拾五匁五分三厘

右銀請取申所如件

文化七午年十二月

小堀中務御役所

井 久 平即

武嶋又左衛門即

浜 常右衛門倒

右村庄屋年寄中

O南山村年貢納銀之事 (欠年) 十二月二十一日

香久山地区

(南山区有文書)

午年納銀之事

松平甲斐守殿領分

大和国十市郡

高七石弐升五合 高弐ッ五分

一、米壱石七斗五升六合 一、米弐石九斗 柴山年貢

小以四石六斗五升六合

此銀三百九拾四匁九分三厘六毛

、米壱斗四升 口米

此銀拾弐匁五分七厘五毛

合銀四百七匁五分壱厘壱毛

右小物成銀上納二付受取候、以上、

午十二月廿一日

都築金三郎手代

山下平八郎 名和伴六個

香取松三郎即 喜多村運平倒

三五三